Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

目次

- 改訂情報
- テナント管理者について
- テナント管理者としてログインする
- 基本設定
  - 認可を設定する
    - 画面項目の説明
    - 権限設定を変更する
    - 対象者条件を追加する
    - リソースを追加する
    - リソースを閉塞する
    - 認可設定をインポート・エクスポートする
    - ジョブパラメータに設定する part-id を取得する
  - メニューを設定する
    - メニューグループを設定する
    - メニューアイテムを設定する
    - メニューの認可設定をする
    - 外部サイトのメニューリンクを登録する
    - メニューを移動・コピーする
    - メニューをエクスポートする
    - メニューのキャッシュ情報を削除する
  - ユーザ毎にメニューの認可設定をする
    - ユーザ毎のメニューの認可設定を確認する
    - ユーザ毎にメニューの認可設定をする
    - メニューのキャッシュ情報を削除する
  - ロールを設定する
    - ロールを登録する
    - 複数のユーザに対してロールを一括付与・剥奪する
  - カレンダーをメンテナンスする
    - カレンダーを設定する
    - 日付情報セットを設定する
    - 日付情報を設定する
    - カレンダーをマージする
  - カレンダー情報を設定する
  - タイムゾーンを設定する
  - 日付と時刻の形式を設定する
  - テーマを変更する
    - PC版テーマの変更
    - スマートフォン版テーマの変更
  - アカウントライセンス一覧を使用する
    - アカウントライセンスの登録
    - アカウントライセンスの削除
  - アカウントロックを設定する
  - アプリケーションライセンス一覧を使用する
    - アプリケーションライセンスの登録
    - アプリケーションライセンスの削除

- ホームURLを設定する
- メールアドレスを設定する
- アナウンスを設定する
- メニュー表示を設定する
  - グローバルナビ最大表示件数を設定する
  - ユーザ名表示エリアの最大幅を設定する
- ジョブを設定する
  - ジョブネットを設定する
  - ジョブネットの実行結果を確認する
- パスワードリマインダを設定する
  - 基本設定を設定する
  - メールテンプレートを設定する
- ファイル操作を使用する
- データベース操作を使用する
- ログインセッションを無効化する
  - 二重ログイン防止機能
  - セッションの無効化の操作
- ヘルプドロップダウンを表示する
- セーフURLを設定する
  - セーフURLを登録する
- 数値形式を設定する
- ログイン画面の表示を切り替える
- 多要素認証を設定する
  - すべてのユーザに多要素認証を強制する
  - 一般ユーザが多要素認証を任意に有効化できるようにする
  - 多要素認証機能を無効化する
  - 特定のユーザを一時的に多要素認証の対象外にする
  - ユーザの多要素認証を初期化する

改訂情報

変更年月日	変更内容
2012-10-01	初版
2012-12-21	第2版 下記を追加・変更しました ■ 「*認可を設定する* 」を変更 ■ 「*メニューを設定する* 」を変更 ■ 「*パスワードリマインダを設定する* 」を変更
2013-04-01	第3版 下記を追加・変更しました ■ 「*メニューを設定する* 」にコラムを追加 ■ 「*ジョブを設定する* 」にコラムを追加 ■ 「*ロールを設定する* 」にロール別のユーザ登録について追加
2013-07-01	第4版 下記を追加・変更しました ■ 「*認可を設定する* 」にリソース削除時のバックアップ動作について、および、リソースの閉塞についてを追加 ■ 「*メニューを設定する* 」にURLの認可設定について追加
2013-10-01	第5版 下記を追加・変更しました ■ 「*メニューを設定する* 」に外部メニューリンクとドラッグアンドドロップ操作について説明を追加
2014-01-01	第6版 下記を追加・変更しました ■ 「*認可を設定する* 」に対象者条件設定時の基準日と、アクション単位の閉塞について説明を追加 ■ 「*アナウンスを設定する* 」を追加
2014-04-01	第7版 下記を追加しました ■ 「*ファイル操作を使用する* 」を追加 ■ 「*データベース操作を使用する* 」を追加
2014-08-01	第8版 下記を追加しました ■ 「*ログインセッションを無効化する* 」を追加 ■ 「*テナント管理者としてログインする* 」を追加 ■ 「*メニューグループの認可設定をする* 」にメニューグループの認可アクションについて説明を追加 ■ 「*認可を設定する* 」に、Excel（xlsx）形式のインポート・エクスポートについて説明を追加
2014-12-01	第9版 下記を追加しました ■ 「*メニュー表示を設定する* 」を追加 ■ 「*ヘルプドロップダウンを表示する* 」を追加

変更年月日	変更内容
2015-04-01	第10版 下記を追加・変更しました ■ 「*アカウントライセンス一覧を使用する* 」にアカウントライセンスの削除についての説明を追加 ■ 「*アプリケーションライセンス一覧を使用する* 」に注意を追加し、アプリケーションライセンスの削除についての説明を追加 ■ 「*セーフURLを設定する* 」を追加 ■ 「*ジョブネットの実行結果を確認する* 」の画面キャプチャを変更 ■ 「*ヘルプドロップダウンを表示する*」を別ドキュメント サイトツアー仕様書 に移動 ■ 「*認可を設定する* 」の「*対象者一覧* 」に、対象者条件で扱う組織はデフォルト組織セットに属するもののみである旨を追記
2015-08-01	第11版 下記を追加・変更しました ■ 「 *メニューを設定する* 」にメニューインポート・エクスポート仕様書へのリンクを追加 ■ 「 *パスワードリマインダを設定する* 」に置換文字列を追加
2015-12-01	第12版 下記を追加・変更しました ■ 「 *パスワードリマインダを設定する* 」を変更 ■ 「*メニュー表示を設定する* 」を画面変更に伴いキャプチャの差し替えと、ユーザ名表示エリア設定を追加
2016-04-01	第13版 下記を追加しました ■ 「 *メニューを設定する* 」に個人設定についての説明を追加 ■ 「*日付と時刻の形式を設定する* 」に日時の入力形式に対する警告を追加
2016-12-01	第14版 下記を追加しました ■ 「*数値形式を設定する* 」を追加
2017-12-01	第15版 下記を追加しました ■ 「*ログイン画面の表示を切り替える* 」を追加
2018-04-01	第16版 下記を追加・変更しました ■ 「*メニューを設定する* 」の画面キャプチャを変更 ■ 「*多要素認証を設定する* 」を追加
2018-08-01	第17版 下記を追加・変更しました ■ 「*多要素認証を設定する* 」の画面キャプチャの変更と、無効化と初期化に対する注意事項を追加 ■ 「*ユーザ毎にメニューの認可設定をする* 」を追加 ■ 「*テーマを変更する* 」に 「*スマートフォン版テーマの変更* 」 を追加

テナント管理者について

テナントの管理をおこなうアクターです。
テナント管理者アカウントは複数作成することが可能です。

テナント管理者としてログインする

- Webブラウザより 以下のURLへアクセスします。

  テナント管理者ログイン画面： *http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/login*

  > **注意**
  >
  > このURLは、一般ユーザが利用するログイン画面へのURLと同じURLです。
  > ログインするユーザが持つロール「テナント管理者」によって、 **テナント管理者** としてログインする事ができます。
  > ロールについては、 「*ロールを設定する* 」を参照してください。

  > **コラム**
  >
  > 下記構築例の場合、テナント管理者へのログイン画面へのURLは次の通りです。
  > テナント管理者ログイン画面： *http://localhost:8080/imart/login*
  >
  > | 項目 | 例 |
  > |---|---|
  > | <HOST> | 「ローカル環境（localhost）」 |
  > | <PORT> | 「8080」ポート |
  > | <CONTEXT_PATH> | 「imart」 |

  構築された環境によってログイン画面へのURLは異なります。詳細については、システム管理者にお問合せください。

基本設定

認可を設定する

「誰が」「何を」「どうする」といった組み合わせでアクセス権限を設定し、機能ごとに利用範囲を制御することができます。
「認可仕様書 - 認可設定画面 」も合わせて参照してください。

目次

- 画面項目の説明
- 権限設定を変更する
- 対象者条件を追加する
  - 対象者一覧
- リソースを追加する
- リソースを閉塞する
- 認可設定をインポート・エクスポートする
  - 認可設定をXML形式でエクスポートする
  - 認可設定をExcel（xlsx）形式でエクスポートする
  - 認可設定をExcel（xlsx）形式でインポートする
- ジョブパラメータに設定する part-id を取得する

画面項目の説明

- 対象者条件（誰が）

  権限の実行主体です。

- リソース（何を）

  権限の影響範囲・設定対象です。

- アクション（どうする）

  権限で制限する行為です。
  リソースの種類が画面・処理の場合は「実行」、会社一覧などのデータやマスタの場合は、「参照」や「登録・更新」です。

- ポリシー

  対象者条件とリソースの交差するセルをクリックし、状態を変更します。

アイコン	状態	説明
	未設定	許可/禁止が設定されていない状態です。 該当のリソースの親リソースグループの値を継承しています。 親リソースグループも未設定の場合は、最上位（禁止）の値として設定されます。
	許可	該当のリソース・アクションに対する権限が付与されている状態です。
	禁止	該当のリソース・アクションに対する権限が剥奪されている状態です。

注意

最新表示による設定内容の反映に関する注意事項

対象者条件を追加して権限設定を行っても、その対象者条件に含まれるユーザがすでにログイン中の場合、該当ユーザがログインしなおすまで最新の権限設定が反映されません。

注意

キャッシュクリアに失敗した場合

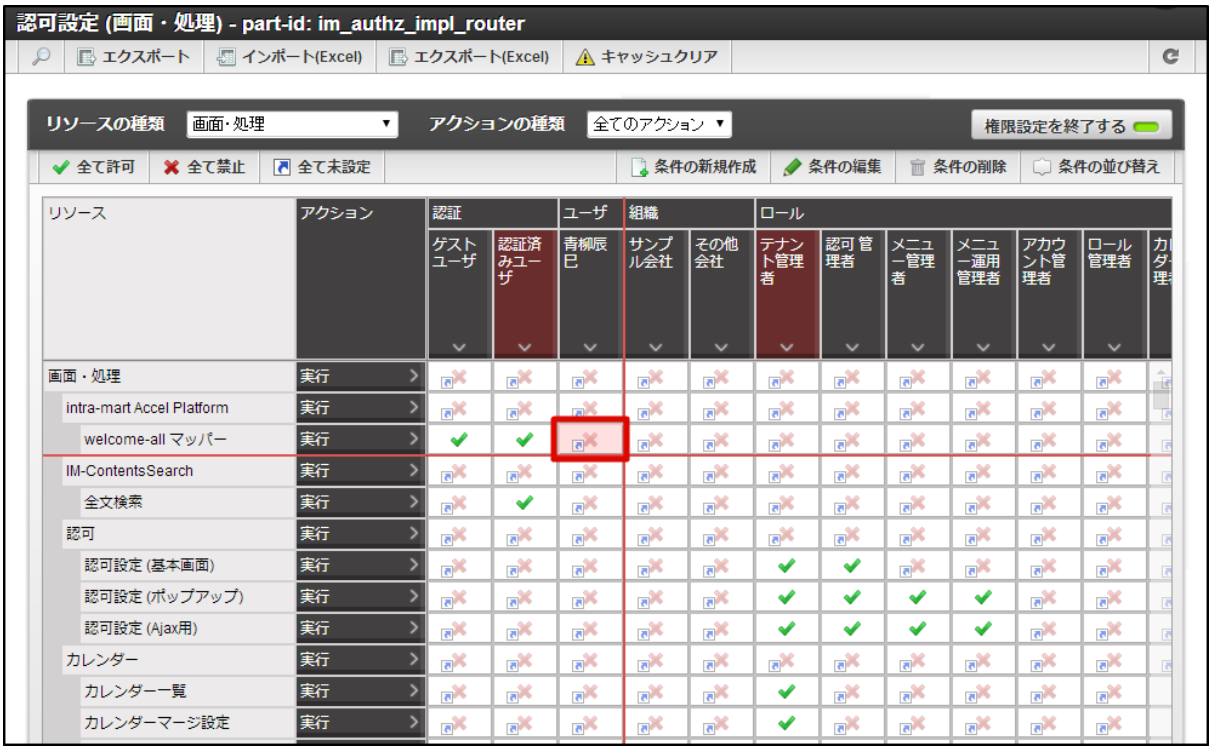
認可設定変更時に「認可設定のキャッシュクリアができませんでした。」と表示された場合は、画面左上の「キャッシュクリア」から認可設定のキャッシュクリアを実行してください。

キャッシュクリア操作を行ってもキャッシュクリアが行えない場合、サーバで障害が発生している可能性があります。システム管理者にお問い合わせください。

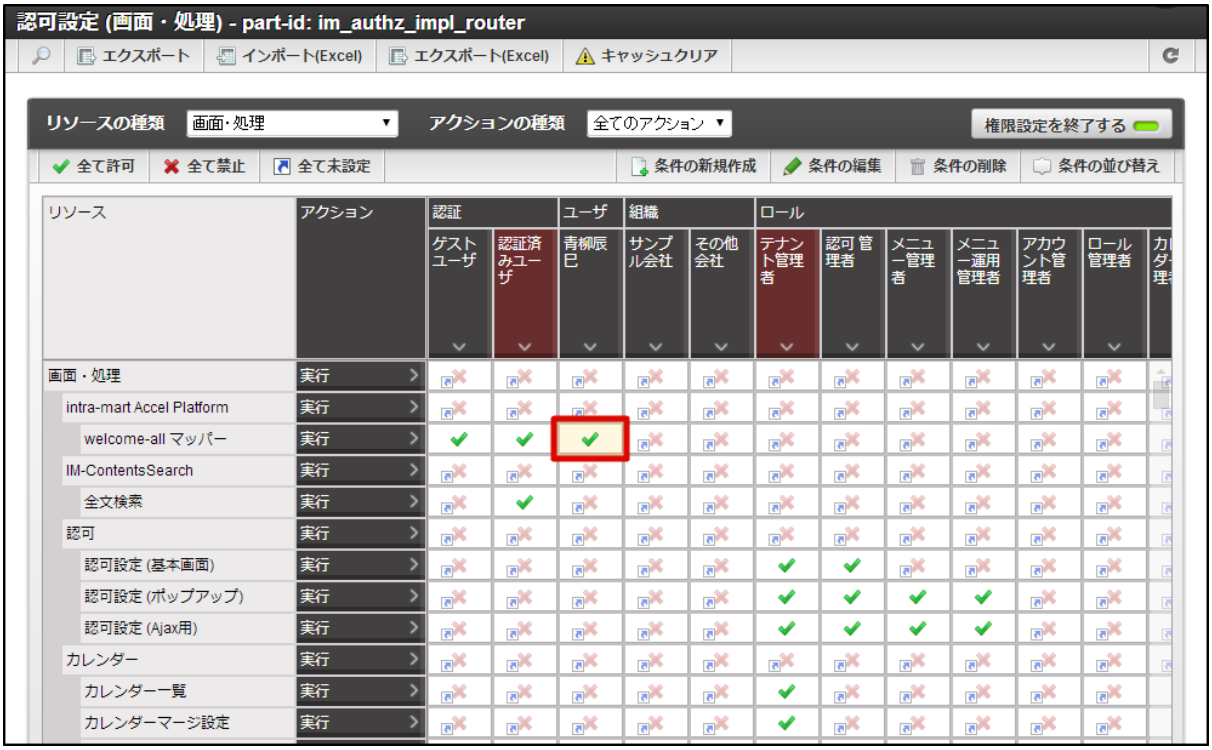
権限設定を変更する

ポリシーの変更は認可設定画面のグリッド上で行うことができます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。
2. 「権限設定を開始する」をクリックします。
3. グリッド上で、ポリシーを変更したいセルをクリックします。



4. ポリシーを変更することができました。

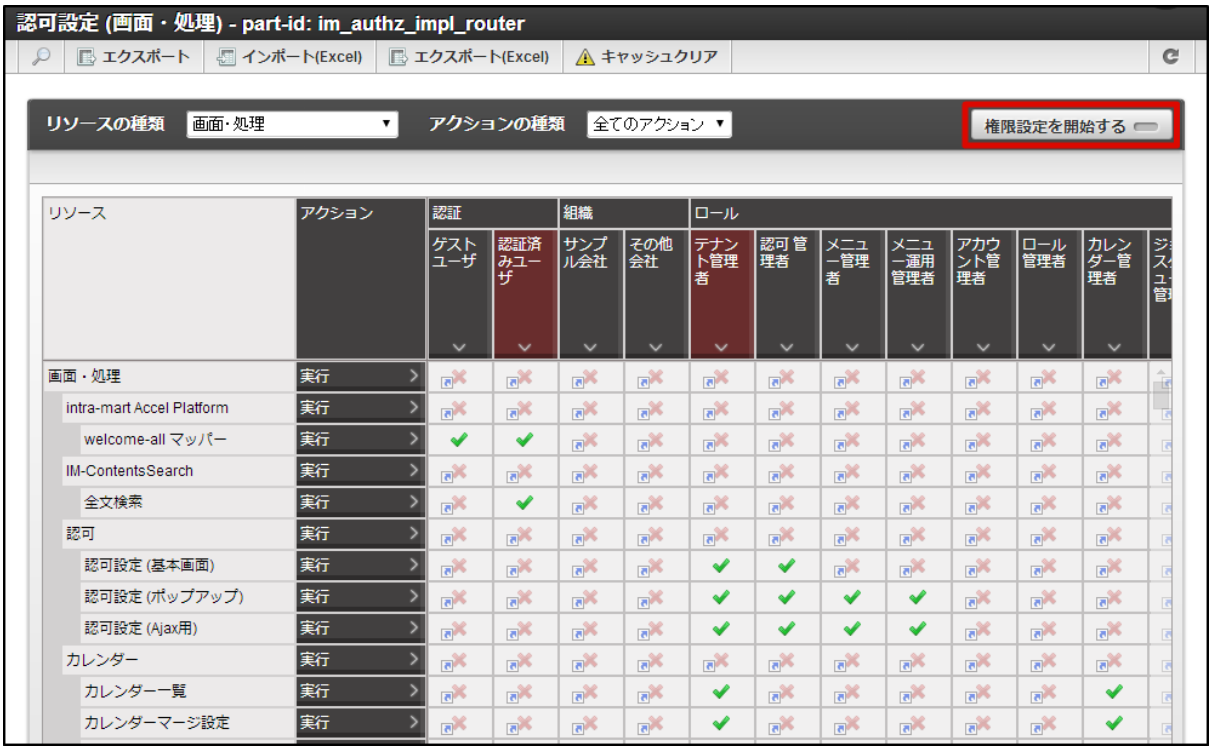


> **注意**
>
> 1つでも許可マークがある行のリソースは、「許可」と判断されます。

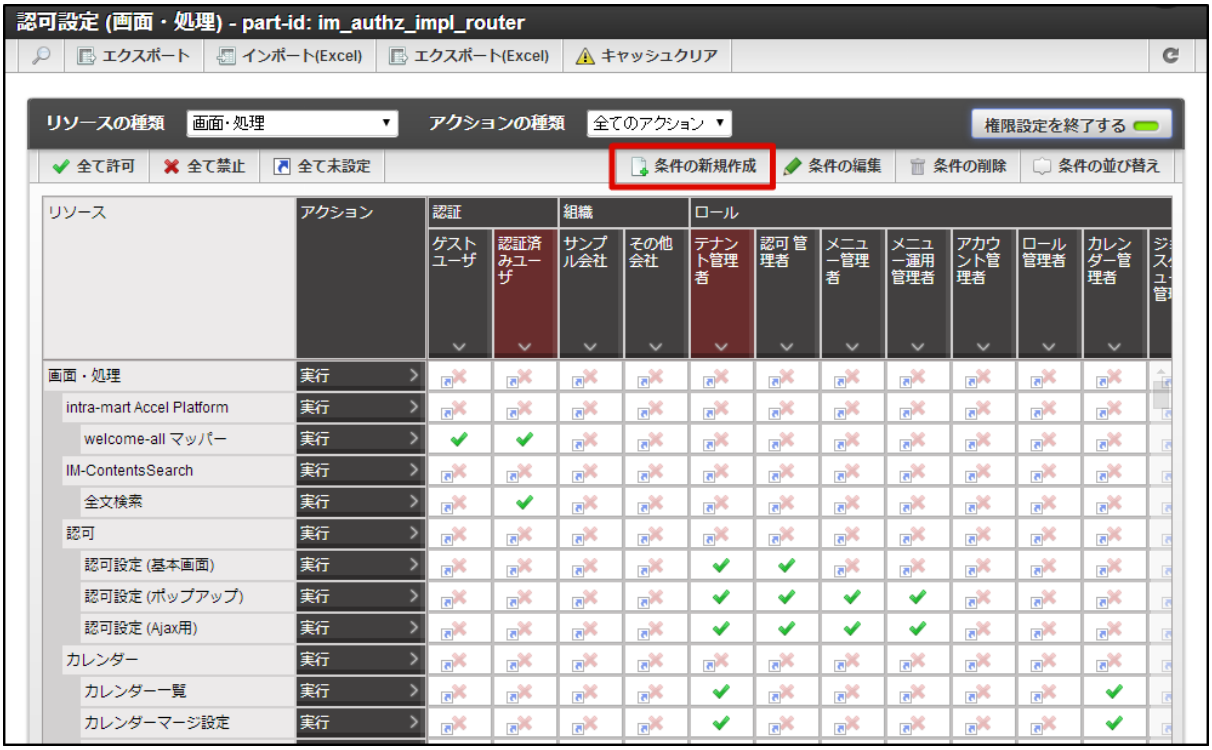
対象者条件を追加する

ポリシーを設定したい対象者条件がない場合、対象者条件を追加することができます。

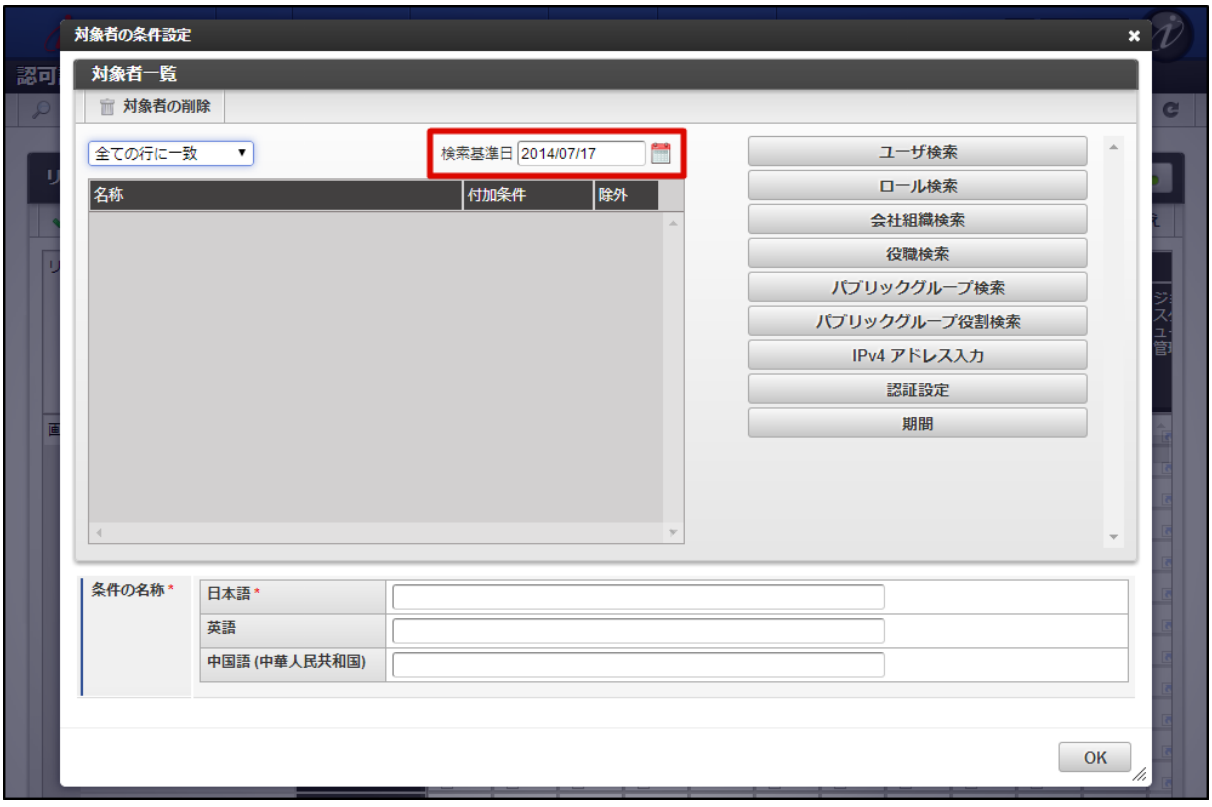
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。
2. 「権限設定を開始する」をクリックします。



3. 「条件の新規作成」をクリックします。



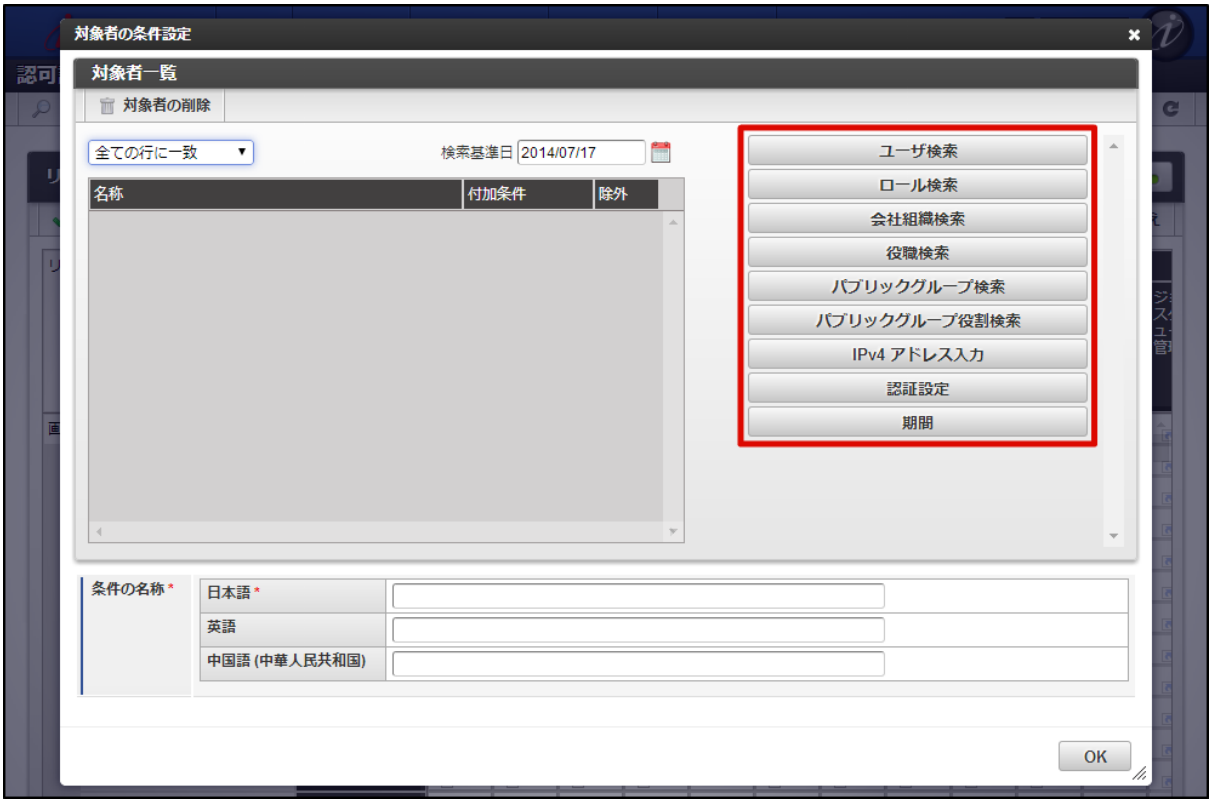
4. 「検索基準日」を確認して、必要であれば変更します。



> **コラム**
>
> 初期状態では、テナントタイムゾーンでの当日が自動的に指定されます。
> 「検索基準日」に未来の日付を指定することで、未来日から有効になるユーザ、組織等が選択できます。

> **注意**
>
> この画面での「検索基準日」は、対象者の検索を行うため、かつ、指定した基準日での名称を表示するためのものです。
> したがって、指定した「検索基準日」から有効になる条件ではありません。

5. 追加したい対象者を、各種検索ボタンを利用して追加します。
   追加可能な対象者の一覧は「*対象者一覧*」を参照してください。



6. 内容を入力します。
   - 複合条件

     対象者を複数選択し、１つの対象者条件として扱えるようにします。
     複数の対象者に対して、AND条件（全ての条件に合致）、OR条件（いずれかの条件に合致）を設定します。

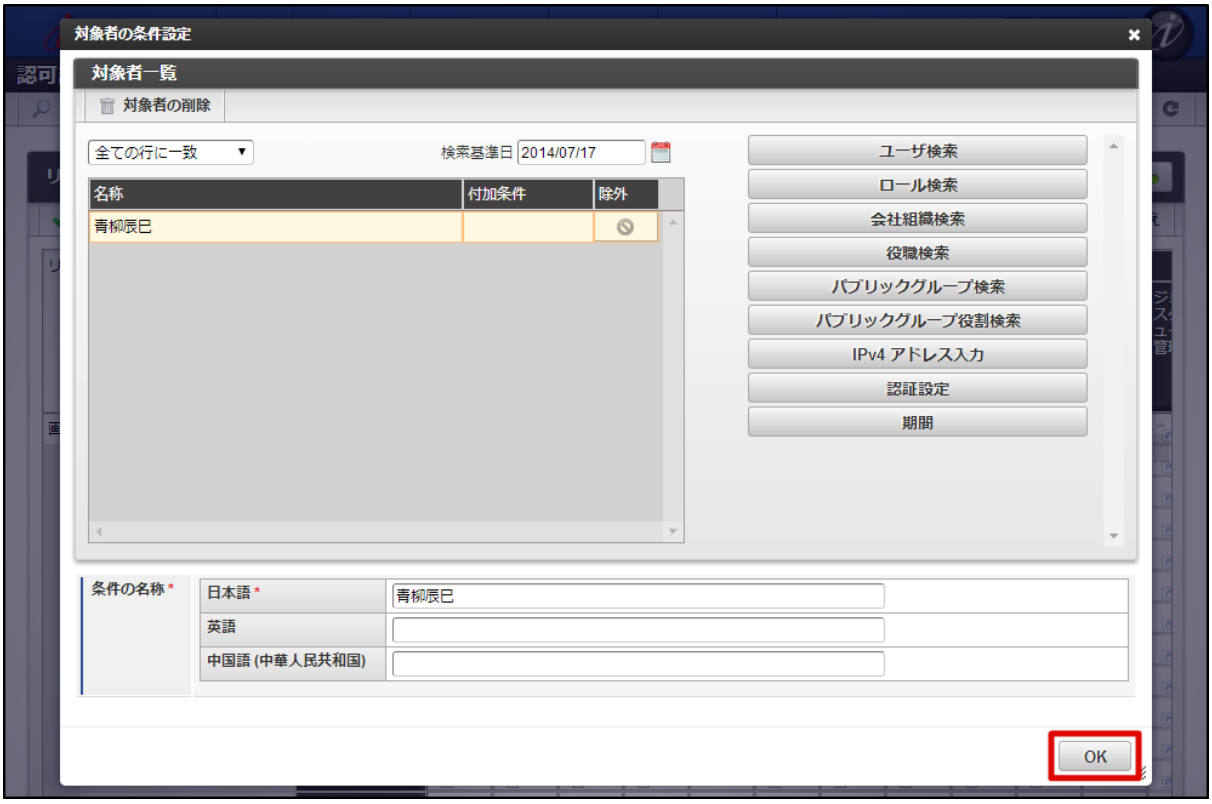
   - 付加条件

     階層を持つ対象者を設定した場合、上位や下位などの追加条件を設定します。
     例）会社を対象者とし、会社配下の組織全てを含む場合は「一致/下位」を設定します。

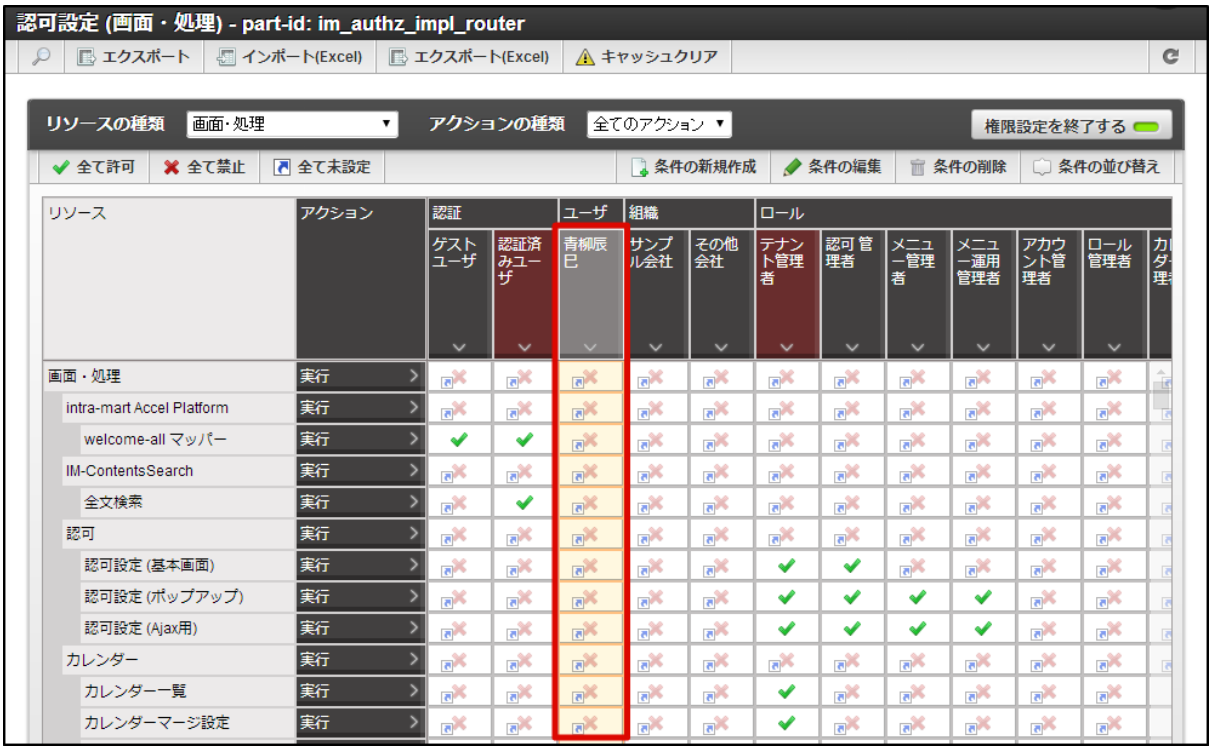
   - 除外

     設定した対象者を含まない場合に設定します。

7. 「OK」をクリックします。



8. 対象者条件が登録できました。



コラム

編集する場合

1. 対象となる対象者条件をクリックします。
2. 「条件の編集」をクリックします。

コラム

削除する場合

「条件の削除」をクリックします。

コラム

対象者条件の名称について

対象者条件の利用範囲が分かりやすくなるように、接頭辞に「メニュー」など識別しやすい言葉を付加すると管理しやすくなります。

また、対象者条件の名称に特定の言葉を付加することで、条件検索で絞り込みやすくなります。

注意

条件の名称は、ユーザ名や組織名が変更されても変わりません。

必要な場合は、手動で変更してください。

対象者一覧

検索ボタン名	説明	導入モジュール	導入バージョン
ユーザ検索	指定した「検索基準日」の時点で有効なユーザを検索して追加します。 追加したユーザが対象者です。	IM-共通マスタ認可連携モジュール	2012 Autumn
ロール検索	登録されているロールを検索して追加します。 追加したロールが付与されているユーザが対象者です。	IM-共通マスタ認可連携モジュール	2012 Autumn
会社組織検索	指定した「検索基準日」の時点で有効な会社・組織を検索して追加します。 追加した会社・組織に所属しているユーザが対象者です。	IM-共通マスタ認可連携モジュール	2012 Autumn
役職検索	指定した「検索基準日」の時点で有効な役職を検索して追加します。 追加した会社・組織の役職が付与されているユーザが対象者です。	IM-共通マスタ認可連携モジュール	2012 Autumn
パブリックグループ検索	指定した「検索基準日」の時点で有効なパブリックグループを検索して追加します。 追加したパブリックグループに所属しているユーザが対象者です。	IM-共通マスタ認可連携モジュール	2012 Autumn
パブリックグループ役割検索	指定した「検索基準日」の時点で有効な役割を検索して追加します。 追加したパブリックグループの役割が付与されているユーザが対象者です。	IM-共通マスタ認可連携モジュール	2012 Autumn
IPv4 アドレス入力	アクセス元の IPv4 アドレスを入力して追加します。 追加したアドレスからアクセスしているユーザが対象者です。	テナント管理機能	2013 Spring
認証設定	「認証済みユーザ」「ゲストユーザ」を追加します。	テナント管理機能	2013 Spring
期間	開始日と終了日を指定して期間を追加します。 利用者のタイムゾーンにて期間内である場合、対象者に該当します。	テナント管理機能	2013 Winter

> **注意**
>
> 以下の検索を利用した場合に設定可能な対象者条件は、デフォルト組織セットの情報のみです。
>
> - ユーザ検索（組織検索の場合）
> - 会社組織検索
> - 役職検索

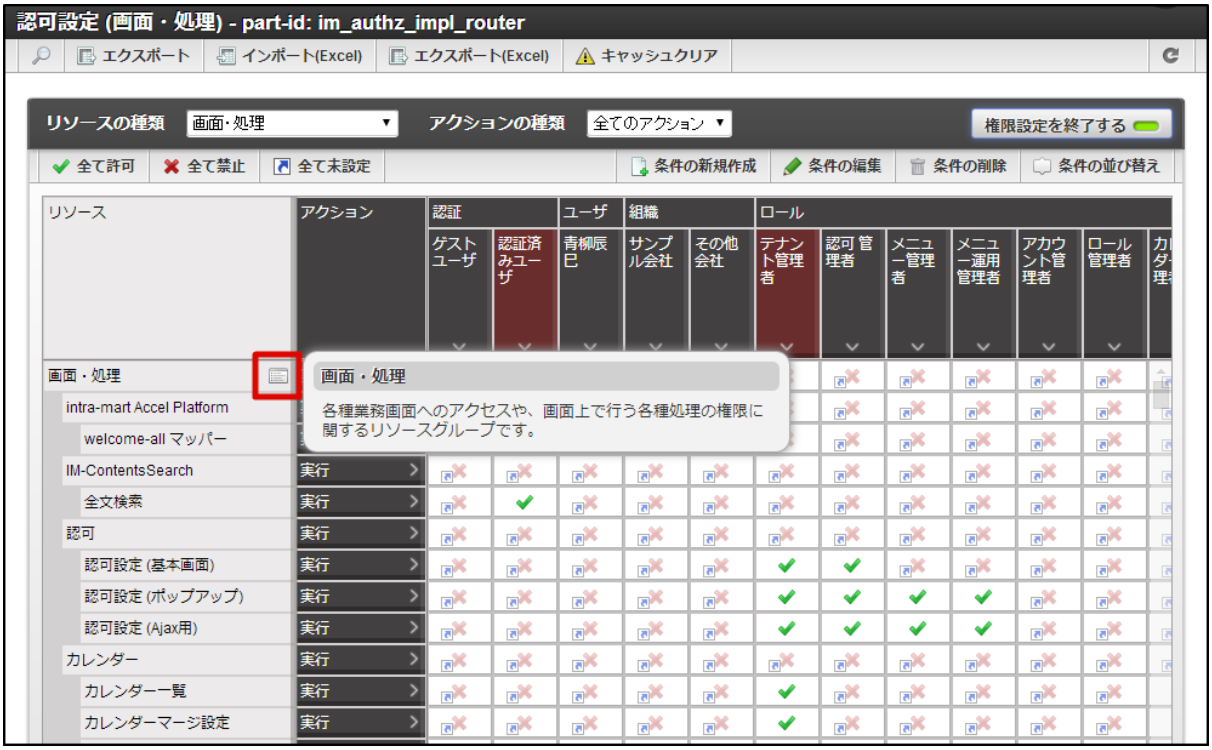
リソースを追加する

画面、サービス、データなどを追加して認可で権限管理を行わせるためにはリソースを追加する必要があります。

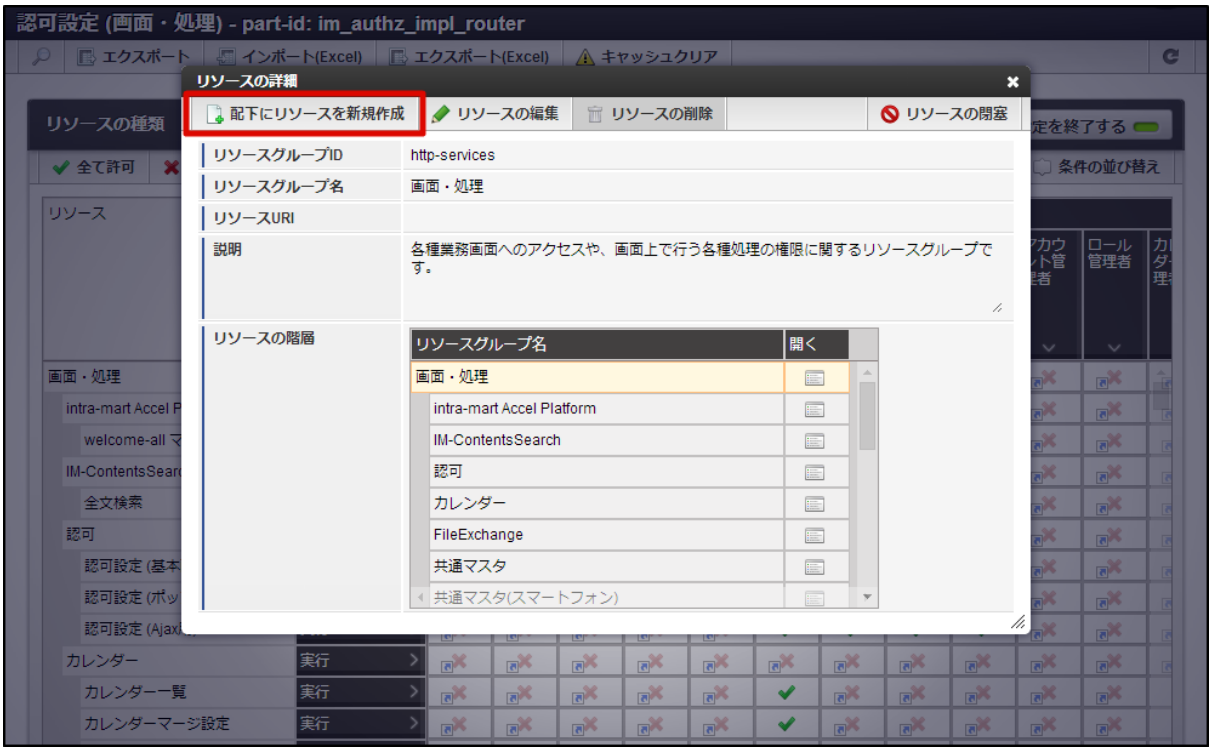
通常は認可で権限制御を行う機能側が自動的にリソースを登録しますが、手動で追加することもできます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。
2. 「権限設定を開始する」をクリックします。

3. リソースを追加する親リソースにマウスカーソルを合わせると右側にアイコンが表示されますので、アイコンをクリックします。



4. 「リソースの詳細」ダイアログの「配下にリソースを新規作成」をクリックします。



5. 内容を入力します。

- リソースグループID

  追加するリソースが所属するグループのIDを設定します。
  システムで一意の文字列を指定する必要があります。

- リソースグループ名

  認可設定画面で表示するリソースの名称を設定します。

- リソースURI

  リソースURIを指定した場合、ルータなどの認可への権限問い合わせに使用するキーとして利用することができます。

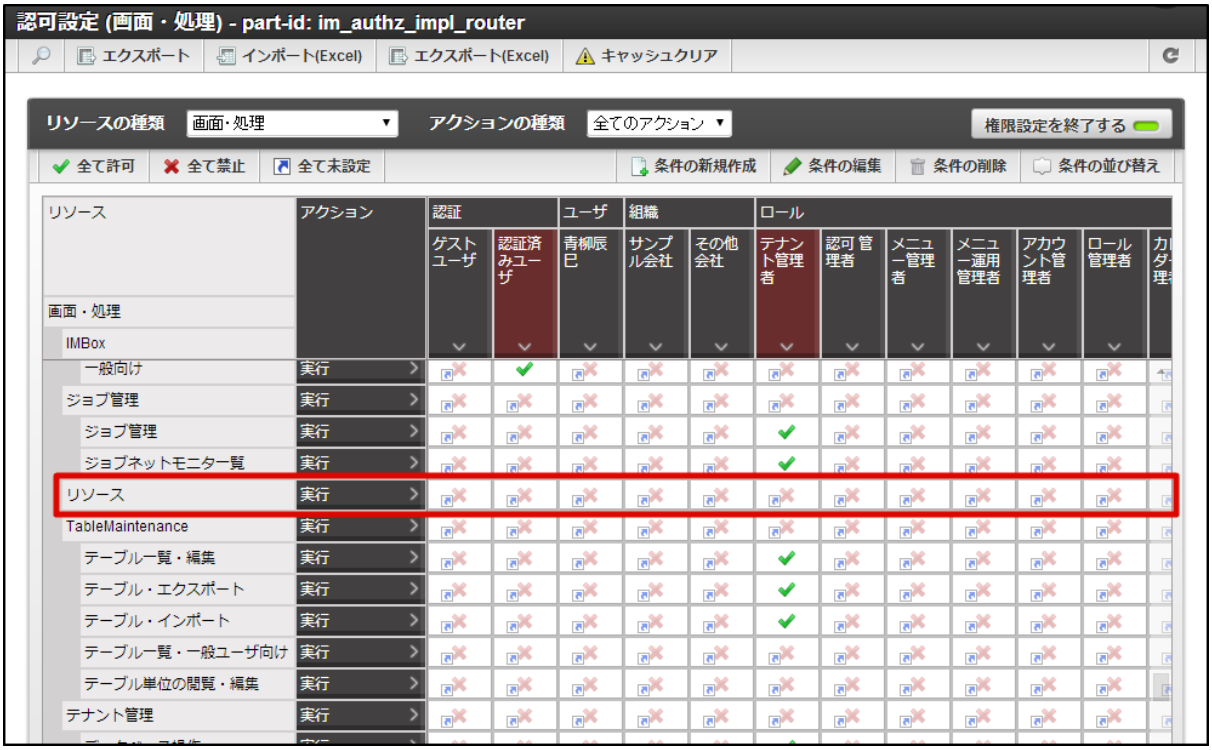
省略した場合は、単なるリソースをまとめるグループとして機能します。

- 説明

  認可設定画面でリソースにマウスカーソルを合わせた際に表示するリソースの説明を設定します。

6. 「OK」をクリックします。

7. リソースが登録できました。



コラム

編集する場合

1. 対象のリソースにマウスカーソルを合わせ、右側に表示されるアイコンをクリックします。
2. 「リソースの編集」をクリックします。

コラム

削除する場合

1. 対象のリソースにマウスカーソルを合わせ、右側に表示されるアイコンをクリックします。
2. 「リソースの削除」をクリックします。

リソースを削除した場合は、削除したリソースグループ、リソースに関係する認可設定情報が自動的にバックアップされ、画面上にバックアップ先のファイルパスが表示されます。

リソースを削除したことで想定外の動作を引き起こしてしまった場合、バックアップされたファイルをジョブネット経由で復元することで、リソースを削除前の状態に戻すことができます。
詳細については、「認可仕様書」の「リソース削除時のバックアップ」章を参照してください。

注意

削除する場合の注意点

- 最も上の階層に登録されているリソースを削除することはできません。
- リソースは原則としてプログラムの必要に応じて追加されるため、削除するとプログラムの想定外の動作を引き起こす可能性があります。
  テナント環境セットアップで登録されたり、システムが自動的に追加したリソースは原則削除しないようにしてください。
  削除する際は本当に必要のないリソースであることを確認してから実施してください。

コラム

リソースの説明について

画面・処理などシステム固有のリソースについてどのような画面・処理を対象としているか、また、他のリソースとの関係を付加すると管理しやすくなります。

注意

リソースURIを省略して登録した場合はリソースをまとめるグループが登録されますが、グループの配下にリソースURIが設定されたリソースが登録されていない場合、認可設定のリソース一覧には表示されません。
「リソースの詳細」ダイアログの「リソースの階層」には表示されますので、表中の「開く」アイコンをクリックして選択状態にすることで、編集・削除などの操作が行えます。

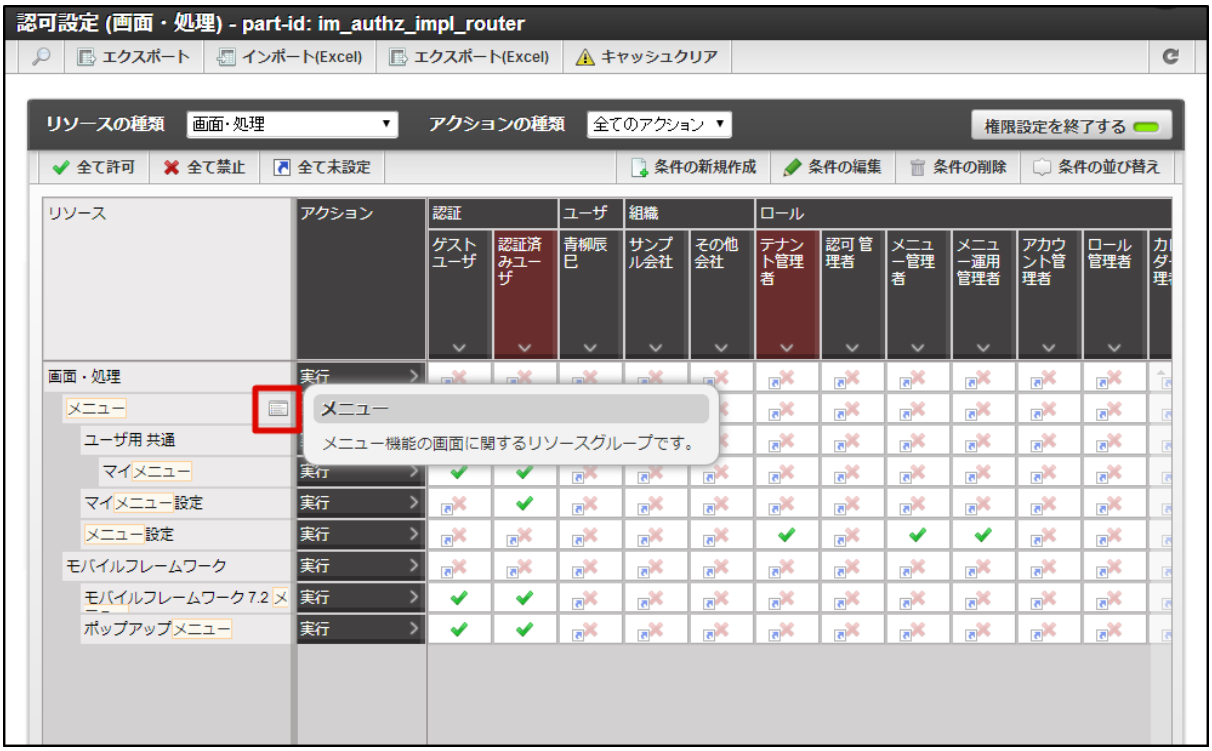
リソースを閉塞する

リソースを閉塞状態にすると、設定されている権限状態にかかわらず機能が利用できない状態にすることができます。

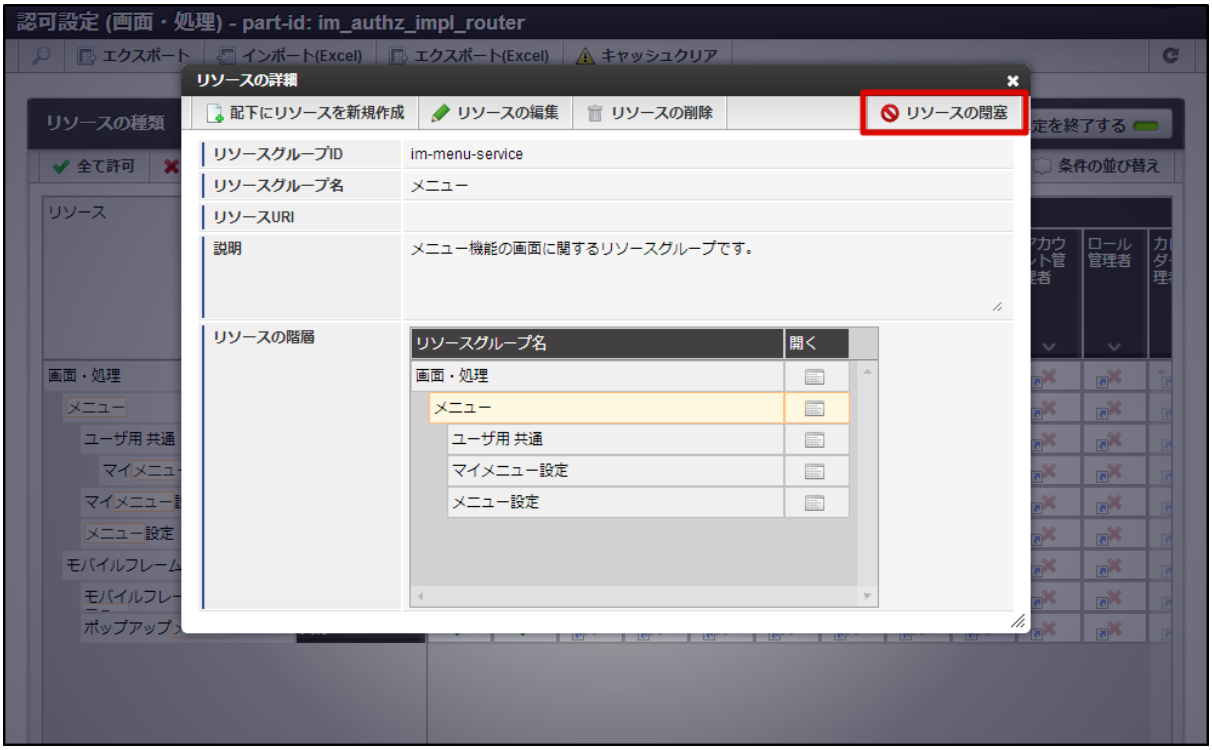
ここでは、例としてメニュー機能を閉塞する手順について説明します。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。
2. 「権限設定を開始する」をクリックします。

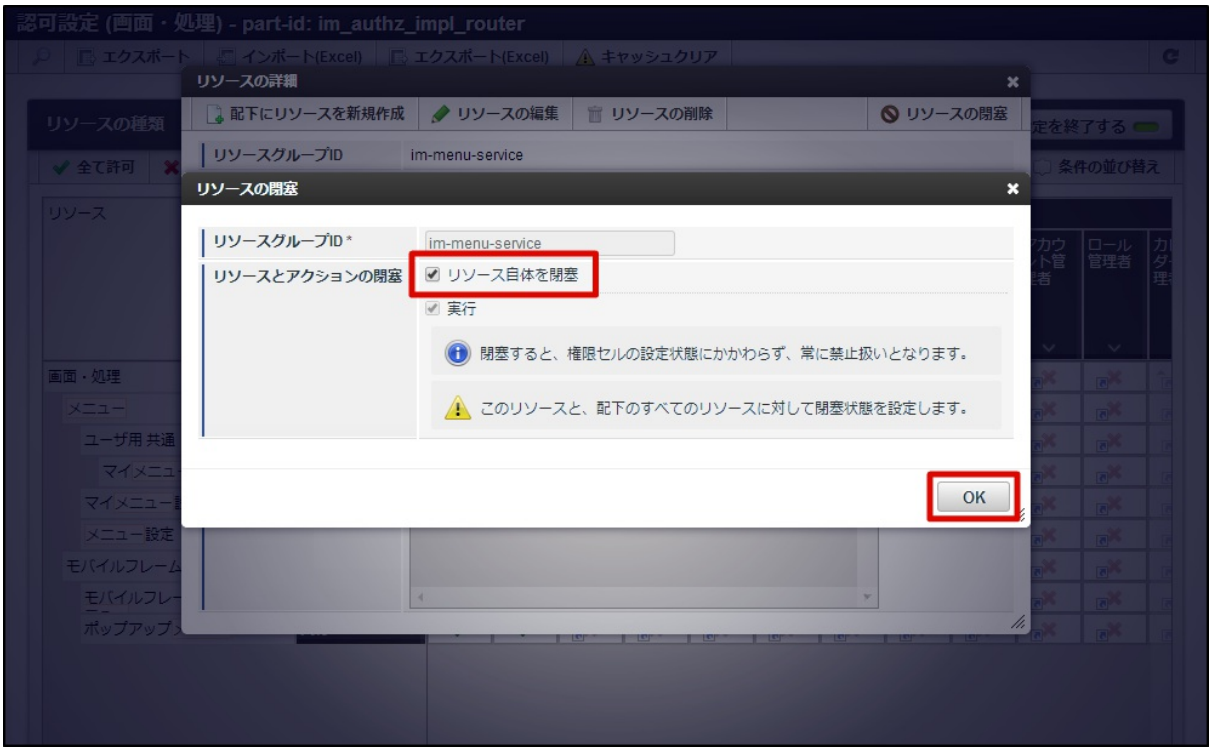
3. 左上の「検索」をクリックして、「リソース（縦軸）の絞込」に「メニュー」を入力して、「検索」をクリックします。
4. 閉塞するリソースにマウスカーソルを合わせると右側にアイコンが表示されますので、アイコンをクリックします。



5. 「リソースの詳細」ダイアログの「リソースの閉塞」をクリックします。



6. 「リソース自体を閉塞」のチェックボックスをオンにして、「OK」をクリックします。



7. リソースが閉塞できました。

コラム

閉塞状態のリソースは、グリッド上で赤文字で表示され、リソースの詳細に「閉塞中」と表示されます。
閉塞中でも、権限の設定変更ができます。

閉塞したリソースの配下に子リソースが登録されている場合、子リソースにも同じ閉塞設定が適用されます。

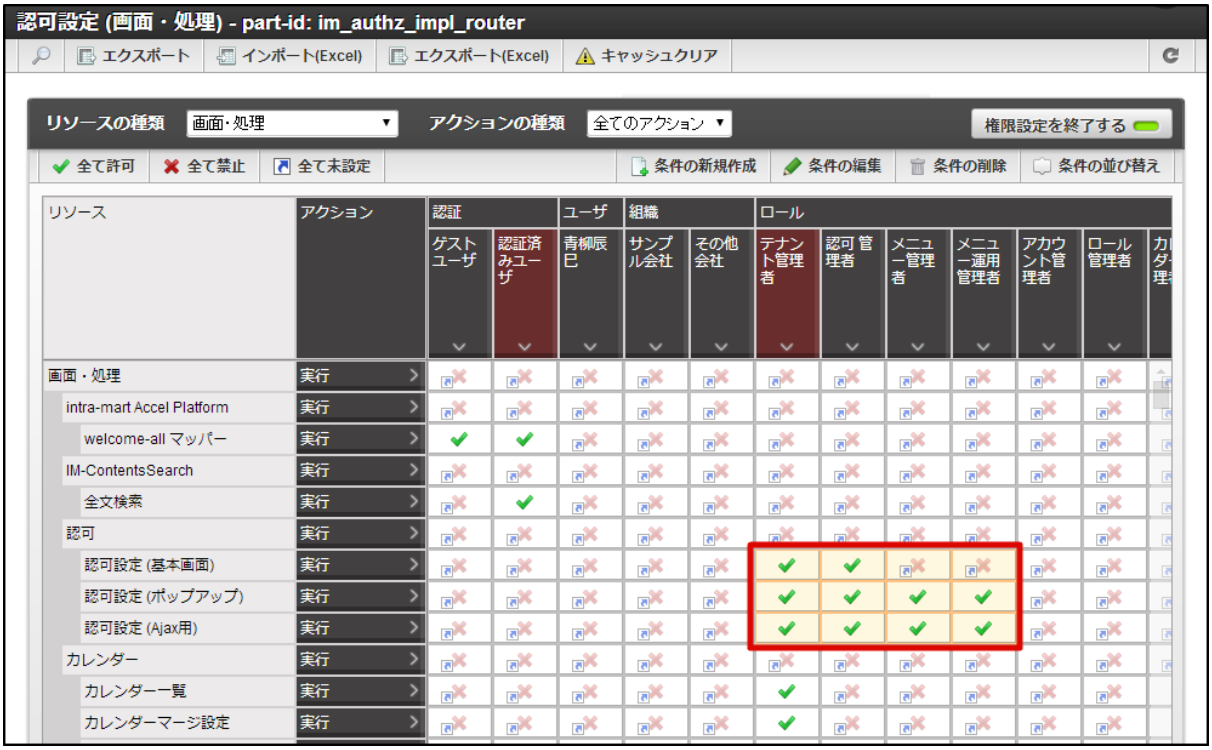
リソース自体ではなく、リソースが持つアクション単位で閉塞することもできます。
アクション単位で閉塞する場合は、「リソース自体を閉塞」のチェックボックスをオフにして、その下に表示されるアクション名のチェックボックスをオンにしてください。

認可設定をインポート・エクスポートする

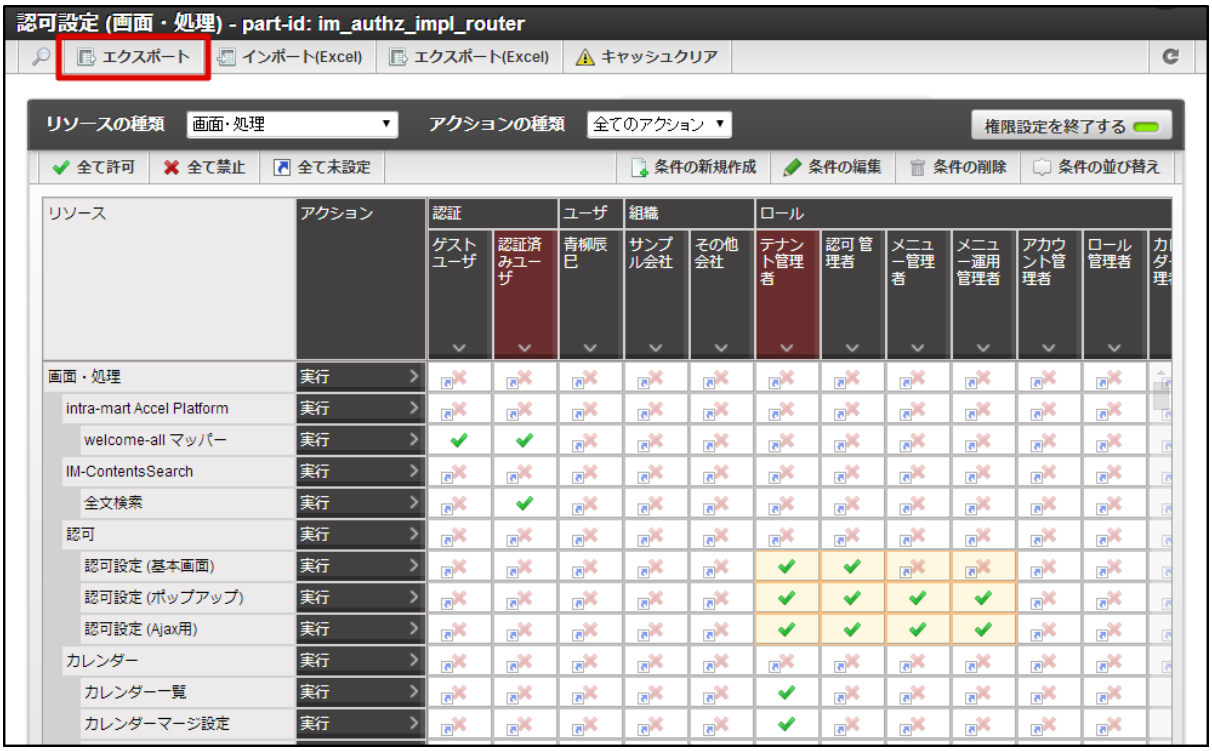
認可設定をXML形式でエクスポートする

認可設定のXML形式によるエクスポートはジョブネットから実行することもできますが、認可設定画面上から操作すると、指定した範囲の部分だけエクスポートすることができます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。
2. エクスポートする認可設定を選択します。



3. 「エクスポート」をクリックします。



4. エクスポートする情報を設定します。
   - リソースグループ設定のファイルパス

     選択した認可設定に関連するリソースグループの情報の、エクスポートするファイル名を指定します。
     リソースグループの情報をエクスポートしない場合は、「出力する」のチェックボックスをオフにしてください。

   - リソース設定のファイルパス

     選択した認可設定に関連するリソースの情報の、エクスポートするファイル名を指定します。
     リソースの情報をエクスポートしない場合は、「出力する」のチェックボックスをオフにしてください。

   - 対象者条件設定のファイルパス

選択した認可設定に関連する対象者条件の情報の、エクスポートするファイル名を指定します。
対象者条件の情報をエクスポートしない場合は、「出力する」のチェックボックスをオフにしてください。

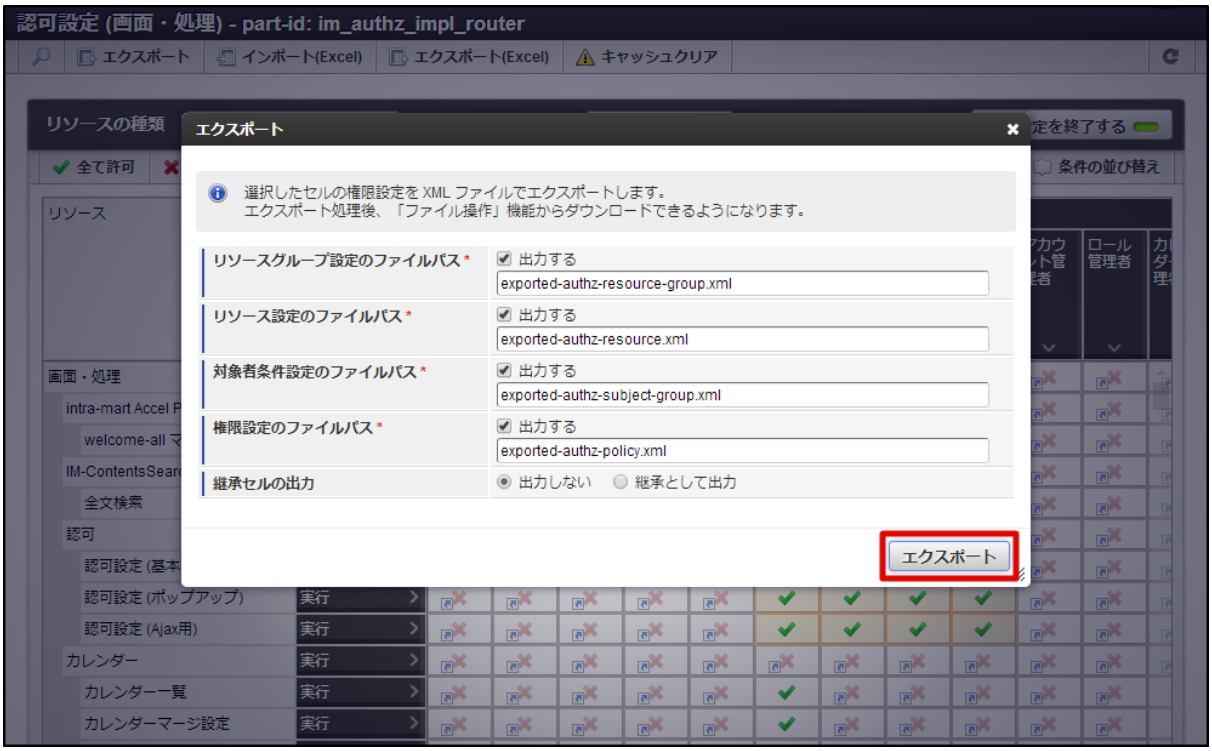
- 認可設定のファイルパス

  認可設定の、エクスポートするファイル名を指定します。
  認可設定をエクスポートしない場合は、「出力する」のチェックボックスをオフにしてください。

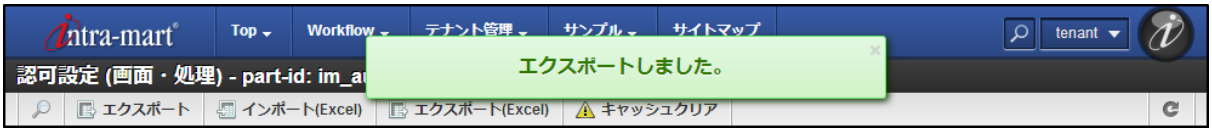
- 継承セルの出力

  認可設定が未設定である状態を出力するかを指定します。
  「出力しない」を選択すると状態が許可／禁止である認可設定のみ出力します。
  「継承として出力」を選択すると状態が許可／禁止である認可設定、および、未設定である認可設定を出力します。

5. 「エクスポート」をクリックします。



6. パブリックストレージの直下に認可設定がエクスポートされます。



> **注意**
>
> リソースの閉塞状態はエクスポートされません。

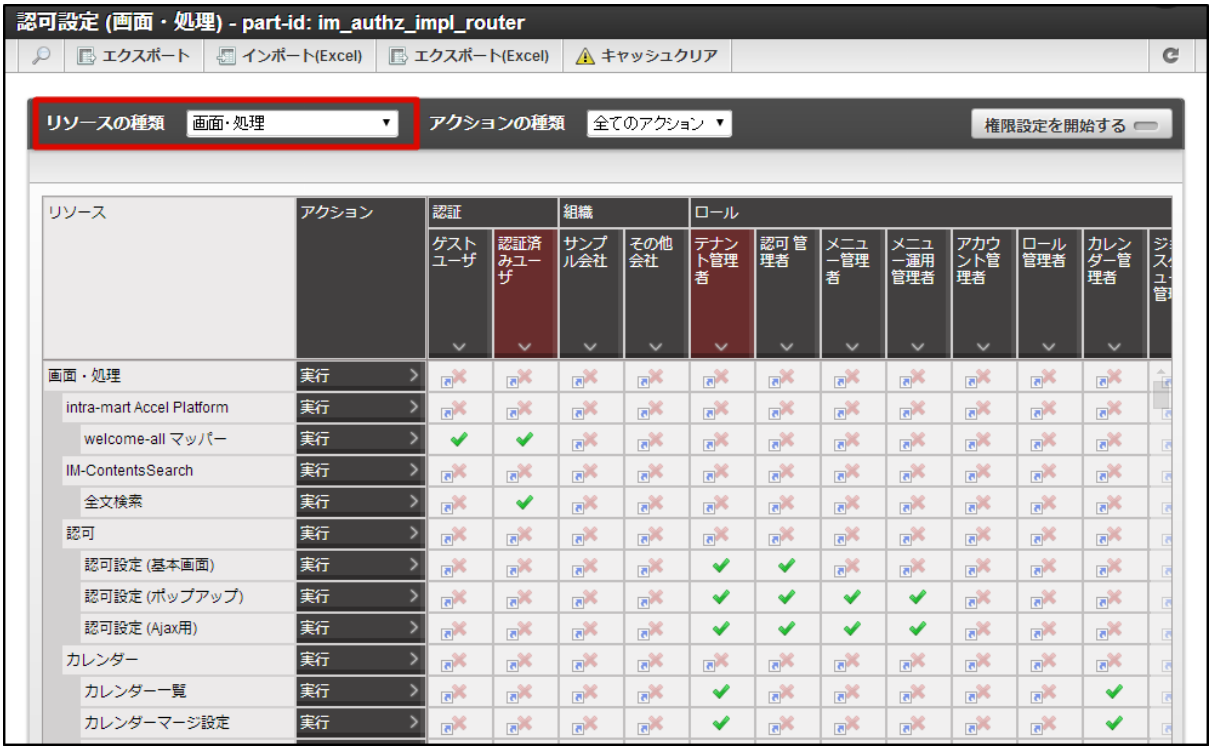
認可設定をExcel（xlsx）形式でエクスポートする

認可設定のExcel（xlsx）形式によるエクスポートはジョブネットから実行することもできますが、認可設定画面上から実行することもできます。

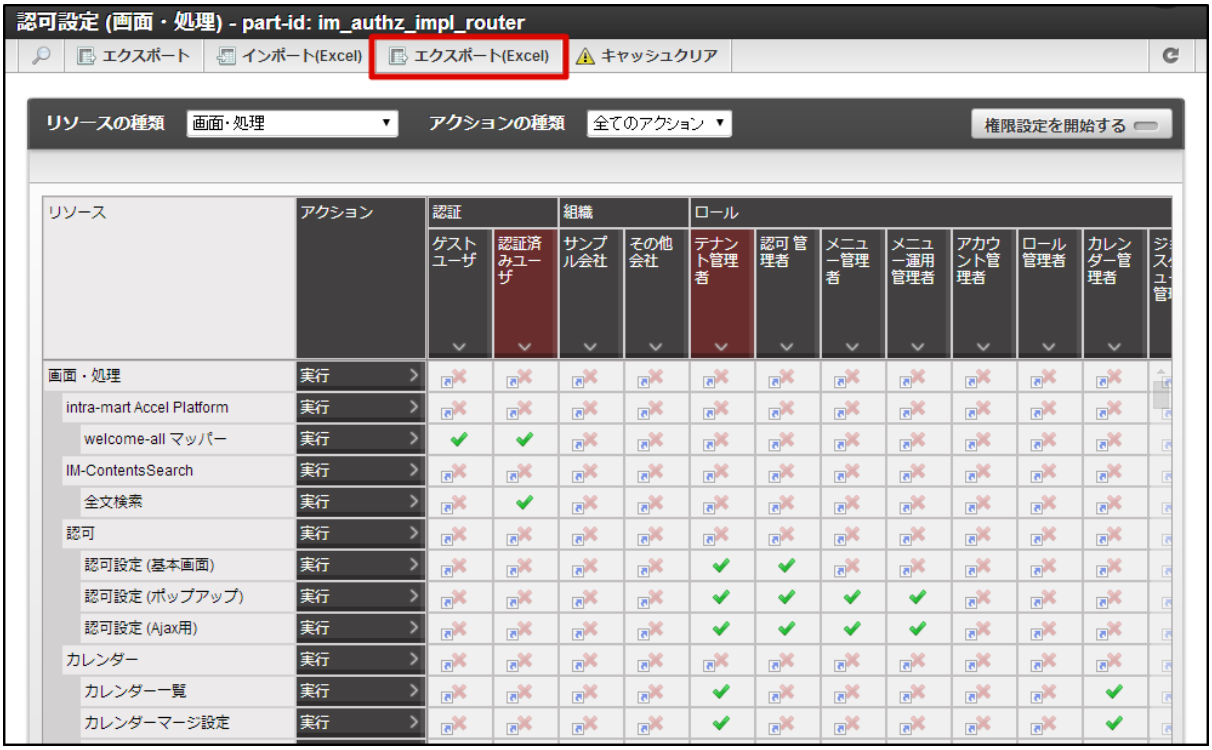
> **注意**
>
> Excel（xlsx）フォーマットのエクスポート機能を使用するためには、「IM-Authz（認可）Excelインポート・エクスポート」モジュールがインストールされている必要があります。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。

2. エクスポートする「リソースの種類」を選択します。
   なお、全ての「リソースの種類」をエクスポートする場合は、この操作は不要です。



3. 「エクスポート（Excel）」をクリックします。



4. エクスポートする情報を設定します。
   - テンプレートファイル

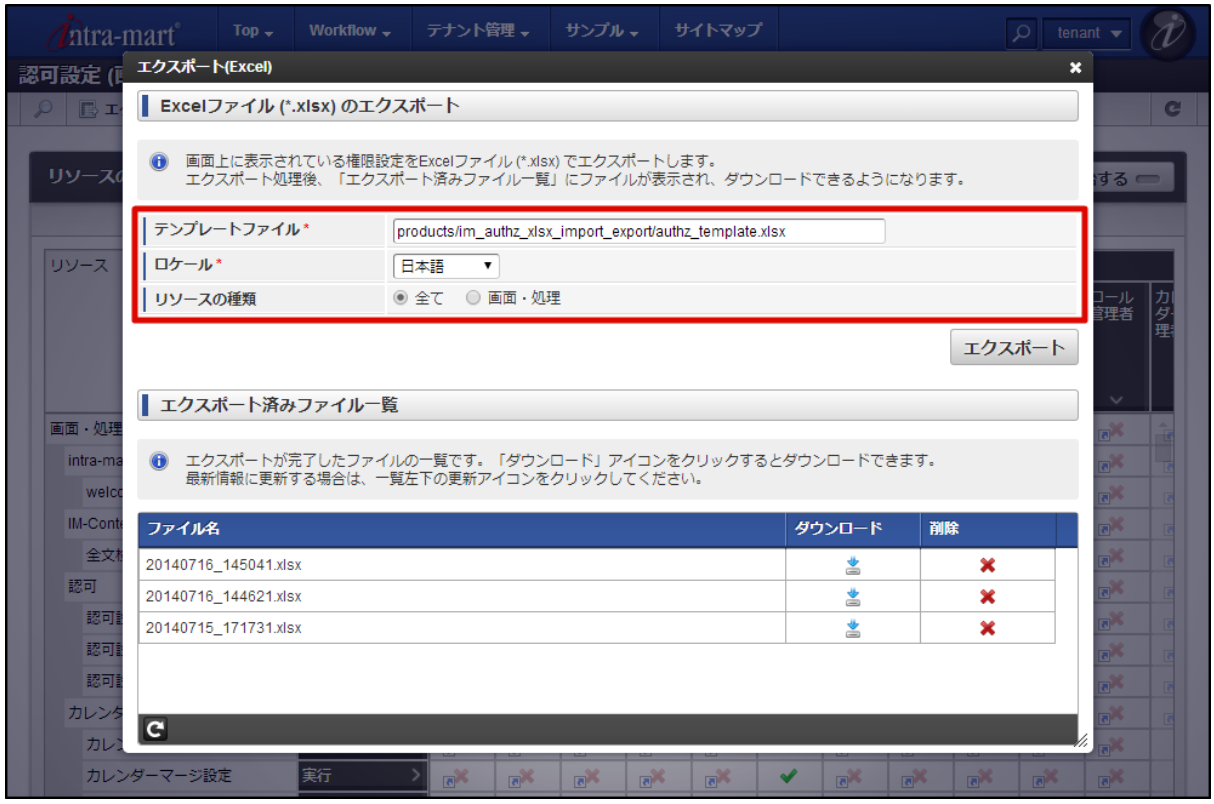
     Excel（xlsx）形式のファイルを作成する元となるテンプレートのファイル名を指定します。
     変更されたテンプレートを使用しない限り、デフォルトのまま変更する必要はありません。

   - ロケール

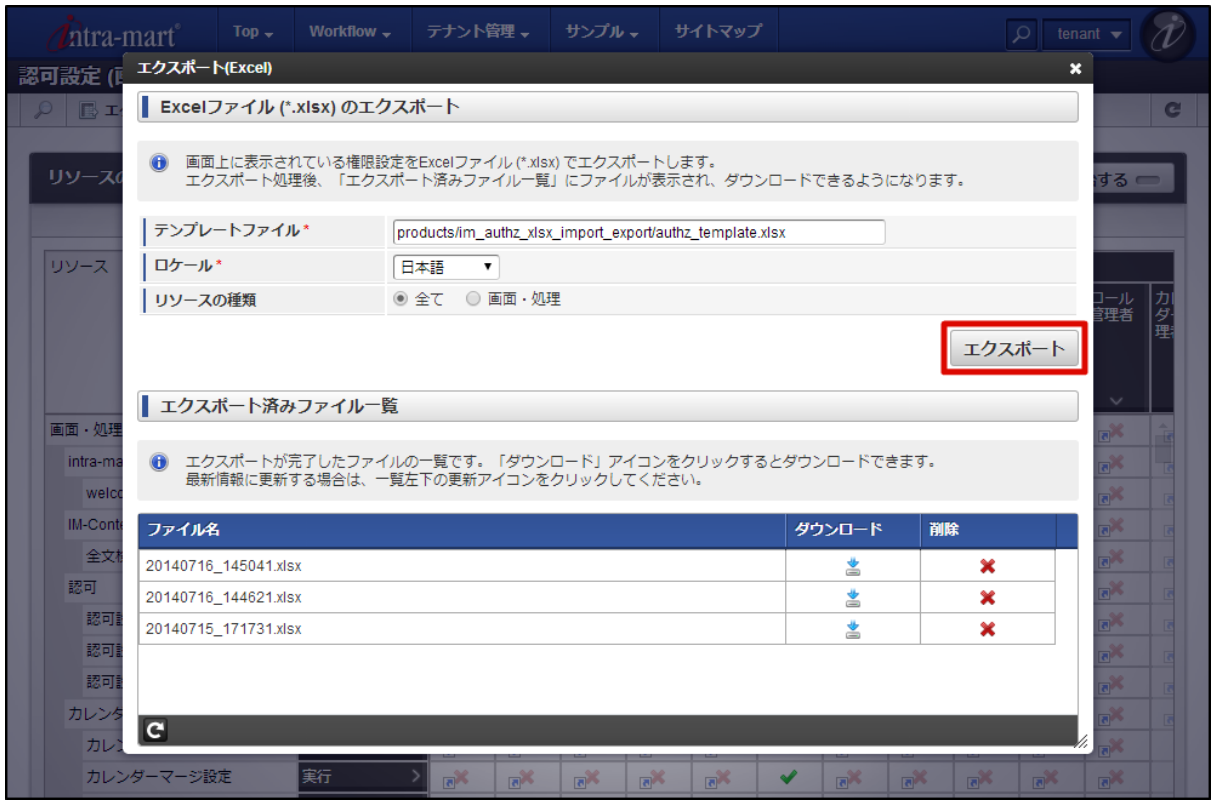
     リソースグループ、対象者条件の名称のロケールを指定します。

   - リソースの種類

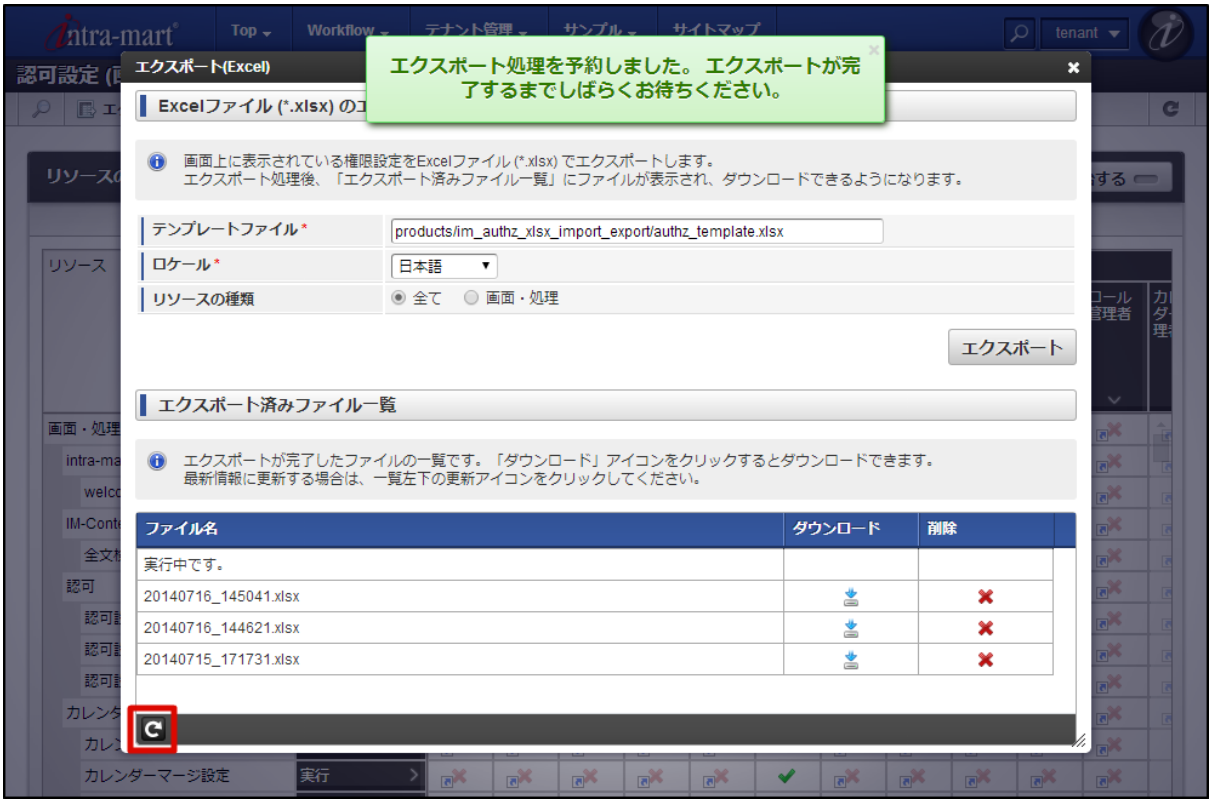
     エクスポートする「リソースの種類」を指定します。
     「全て」を選択した場合、認可設定画面で選択可能な全ての「リソースの種類」がシート別に出力されます。



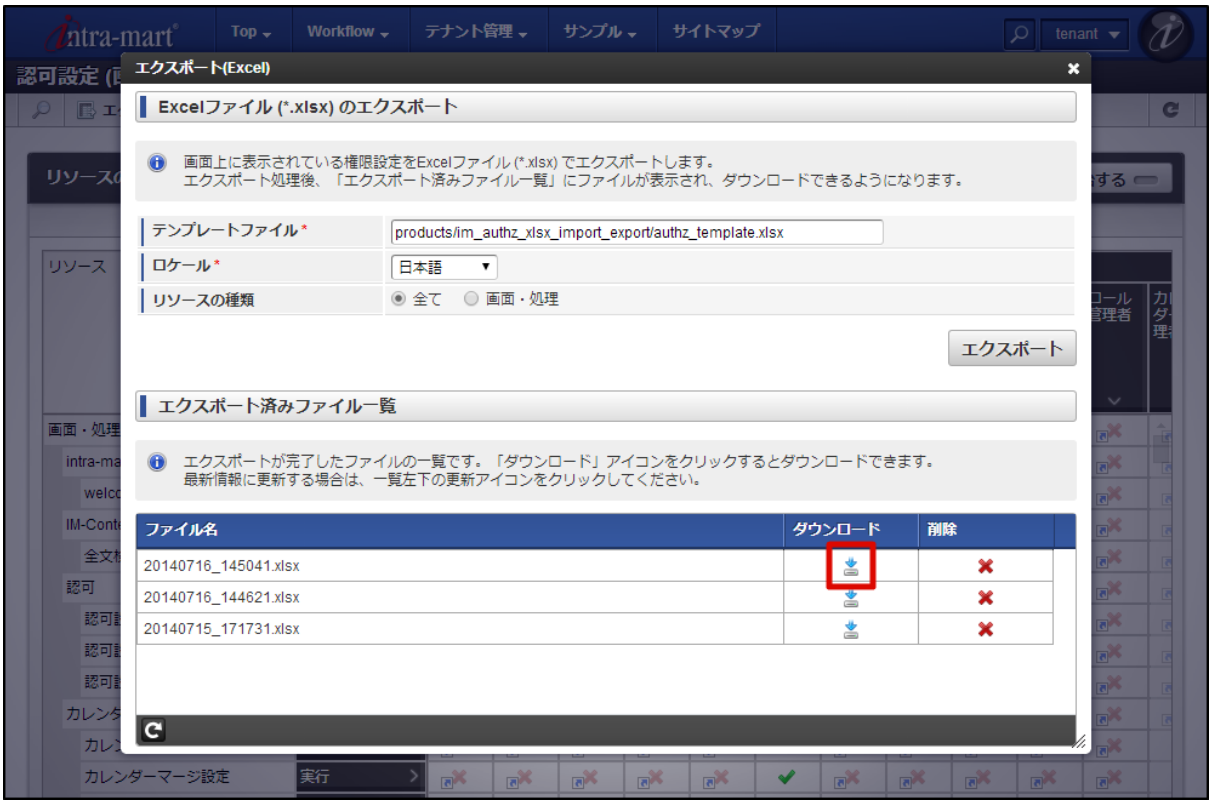
5. 「エクスポート」をクリックします。



6. エクスポート処理が開始されます。処理は非同期で実行されるため、完了するまで時間がかかります。
「エクスポート済みファイル一覧」の左下にある更新アイコンをクリックすると、最新情報が確認できます。



7. エクスポート処理が終了すると、「エクスポート済みファイル一覧」に「ダウンロード」アイコンが表示され、ダウンロードできます。



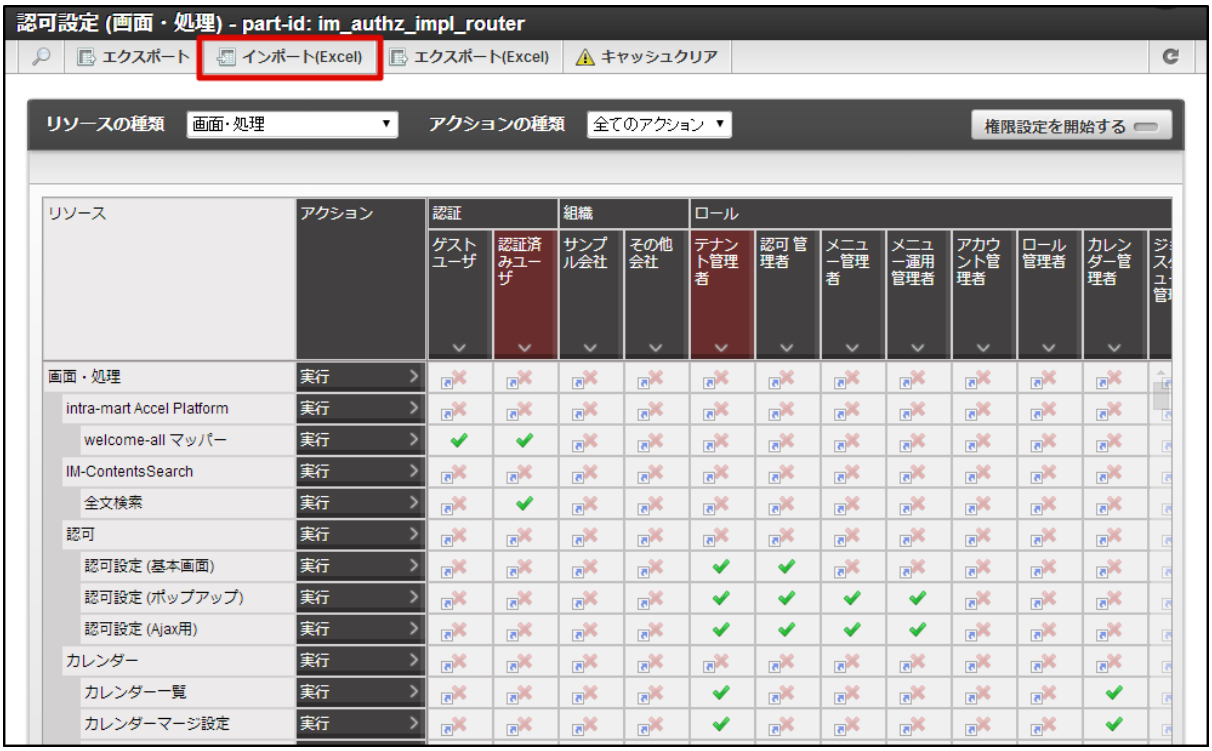
> **注意**
>
> リソースの閉塞状態はエクスポートされません。

認可設定をExcel（xlsx）形式でインポートする

認可設定のExcel（xlsx）形式によるインポートはジョブネットから実行することもできますが、認可設定画面上から実行することもできます。

> **注意**
>
> Excel（xlsx）フォーマットのインポート機能を使用するためには、「IM-Authz（認可）Excelインポート・エクスポート」モジュールがインストールされている必要があります。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。
2. 「インポート（Excel）」をクリックします。



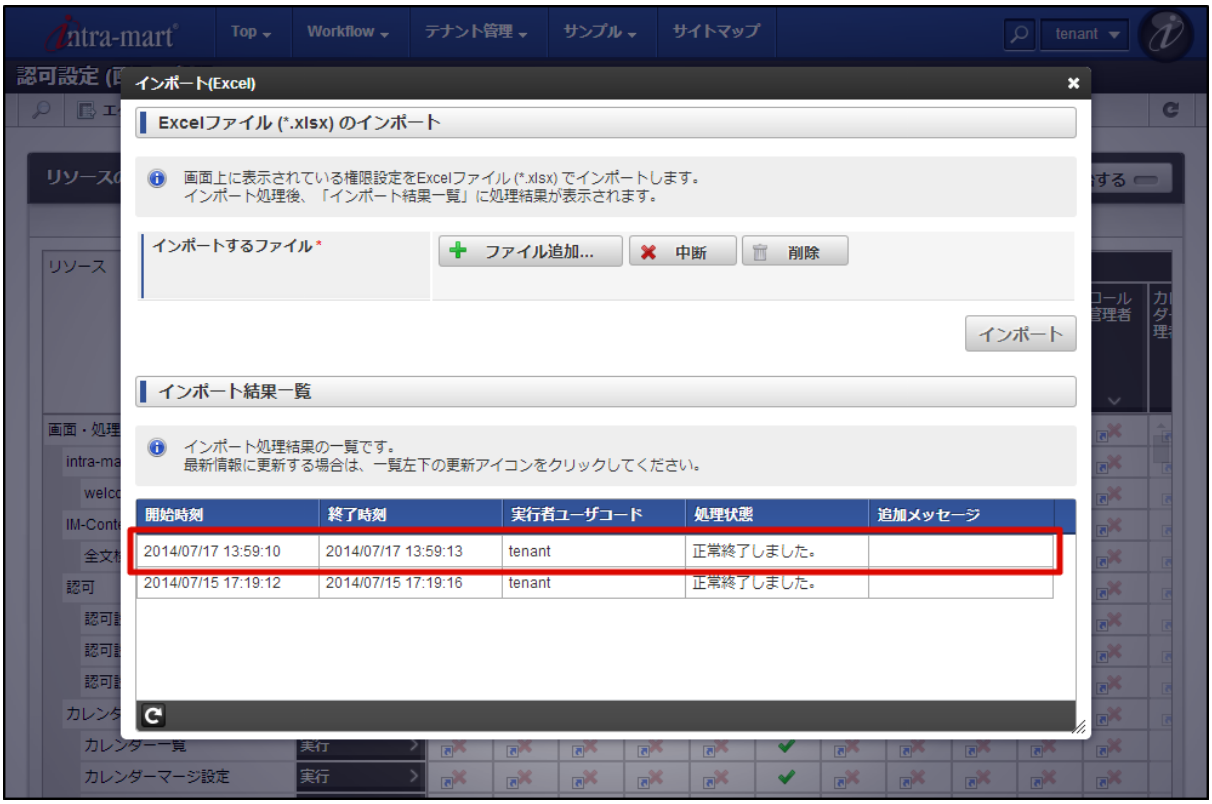
3. インポートする情報を設定します。
   - インポートするファイル

     インポートする対象のExcel（xlsx）形式のファイルをアップロードします。
     アップロードできるファイルは、同時に 1 つのみです。

4. 「インポート」をクリックします。

5. インポート処理が開始されます。処理は非同期で実行されるため、完了するまで時間がかかります。
「インポート結果一覧」の左下にある更新アイコンをクリックすると、最新情報が確認できます。

6. インポート処理が終了すると、「インポート結果一覧」にインポート結果が表示されます。
   インポート処理が失敗した場合は、「追加メッセージ」欄にエラー内容が表示されます。



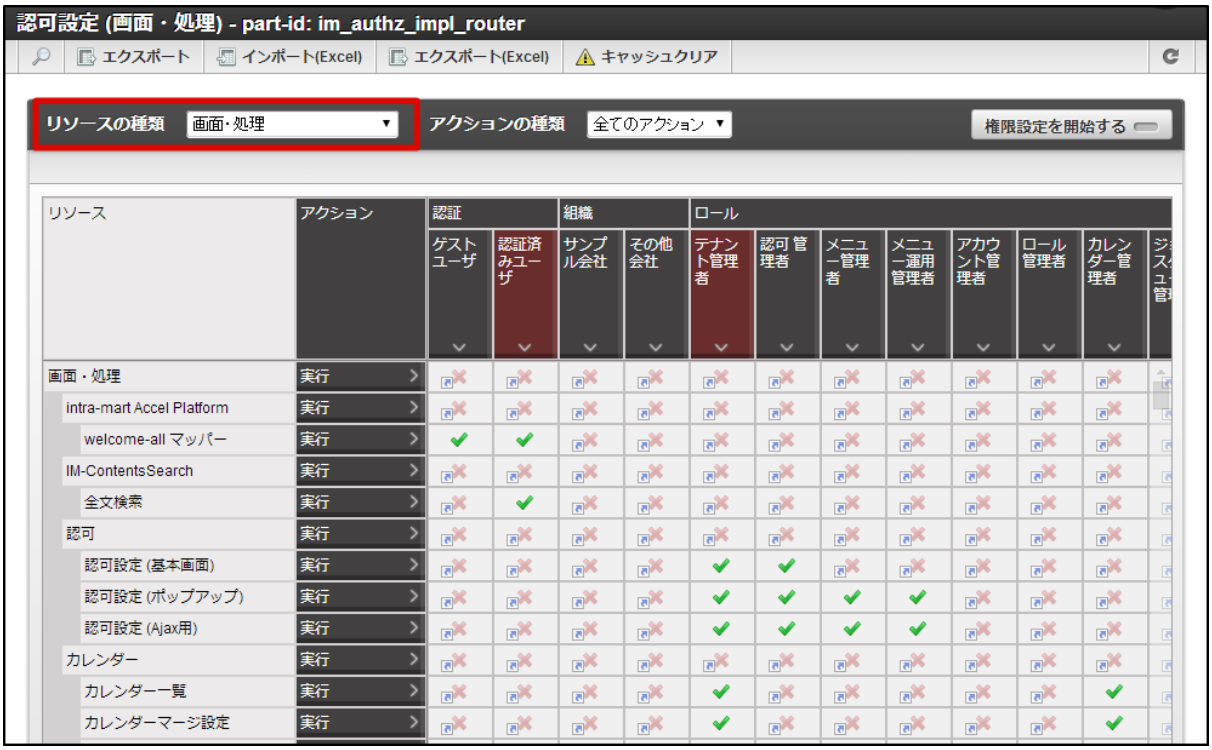
> **注意**
>
> Excel（xlsx）形式のインポートでは、ポリシー情報のみインポートされます。

ジョブパラメータに設定する part-id を取得する

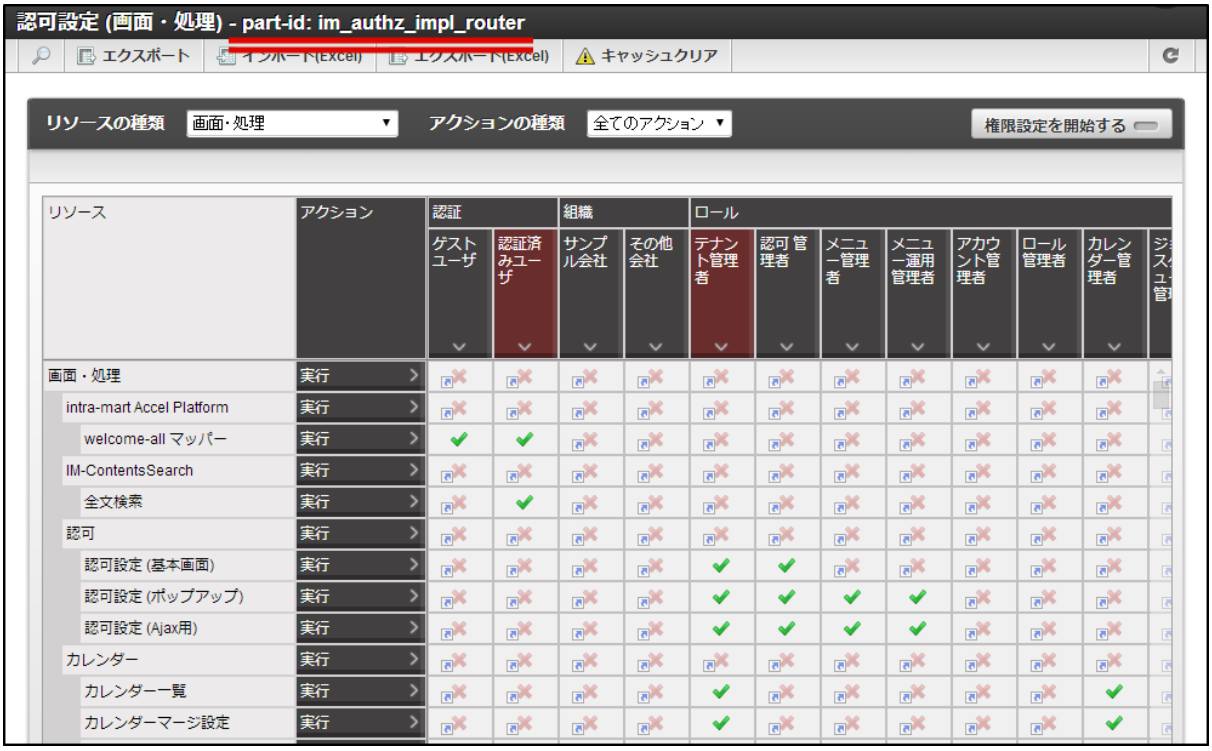
認可設定のExcel（xlsx）形式によるエクスポートをジョブネットから実行する際に、出力対象の「リソースの種類」をジョブパラメータ（`part-id` オプション）で指定することができます。

ジョブパラメータに指定する値を、認可設定画面上で調べることができます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「認可」をクリックします。
2. エクスポートする「リソースの種類」を選択します。



3. 画面のタイトル部分を確認します。
   「part-id：」の後に表示されている文字が part-id に指定可能なオプション値です。



メニューを設定する

メニューは以下の種類があります。

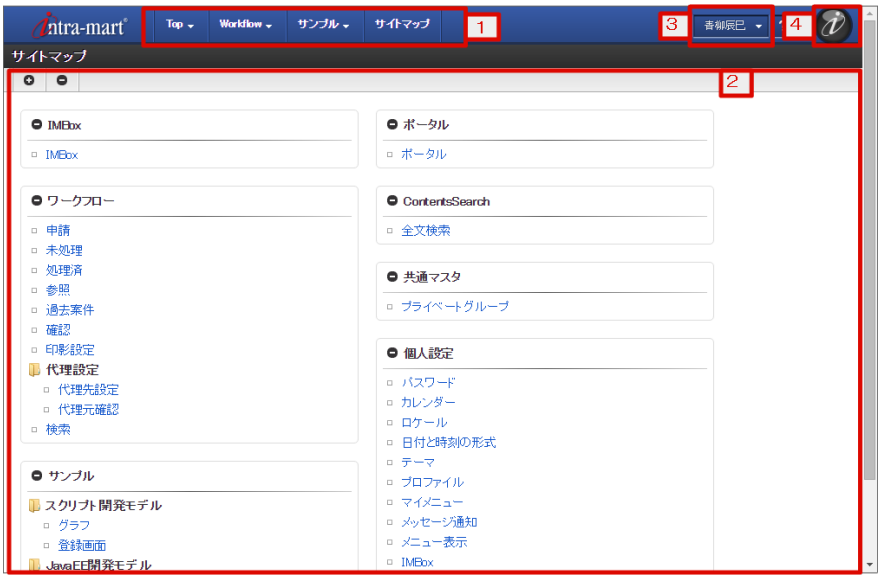
1. グローバルナビ
   一般ユーザが普段よく使うであろうメニューを画面上部に登録する機能です。

画面上部のメニューエリアに表示され、目的のページに素早くアクセスが可能です。
また、認可を設定することで公開範囲を制限することができます。

2. サイトマップ
   グローバルナビから参照できる機能です。
   一般ユーザが利用できる全てのサービスが一覧表示されます。

3. 個人設定
   個人設定に関するメニューをユーティリティメニューから参照できる機能です。
   intra-mart Accel Platform 2016 Spring(Maxima) 以降でメニューグループカテゴリから選択することができます。

4. マイメニュー
   ログインユーザごとにオリジナルメニューを作成できる機能です。
   ログインユーザ自身でサービスの登録を行います。



この手順ではグローバルナビについて説明します。グローバルナビは以下の単位でメニュー構成を管理します。

- メニューグループ
  メニューの集合体を管理する事ができます。
  具体的には、 **メニューフォルダ、メニューアイテム、外部メニューリンク** をまとめて管理することができます。
- メニューフォルダ
  同一メニューグループ内でメニューアイテムを階層管理することができます。
- メニューアイテム
  業務画面の入り口へアクセスするためのリンクを構成するものです。
- 外部メニューリンク
  外部サイトから取得したメニュー（以下、「外部メニュー」）を表示するためのリンクを管理することができます。
  外部サイトのメニューは、実際にグローバルナビとして表示されるときに最新のメニューが取得・表示されます。

> **コラム**
> メニューに関する詳細な仕様は「 メニュー インポート・エクスポート仕様書 」-「 メニュー機能 」を参照してください。

> **注意**
>
> 外部サイトのメニューは、「外部メニュー連携」モジュールをインストールしている場合のみ正しく表示することができます。
> また、外部サイトにはメニュー情報を送信するための「外部メニュー連携 Webサービス」モジュールをインストールする必要があります。
> 外部メニュー連携について、詳しくは「セットアップガイドの外部メニュー連携の章 」を参照してください。

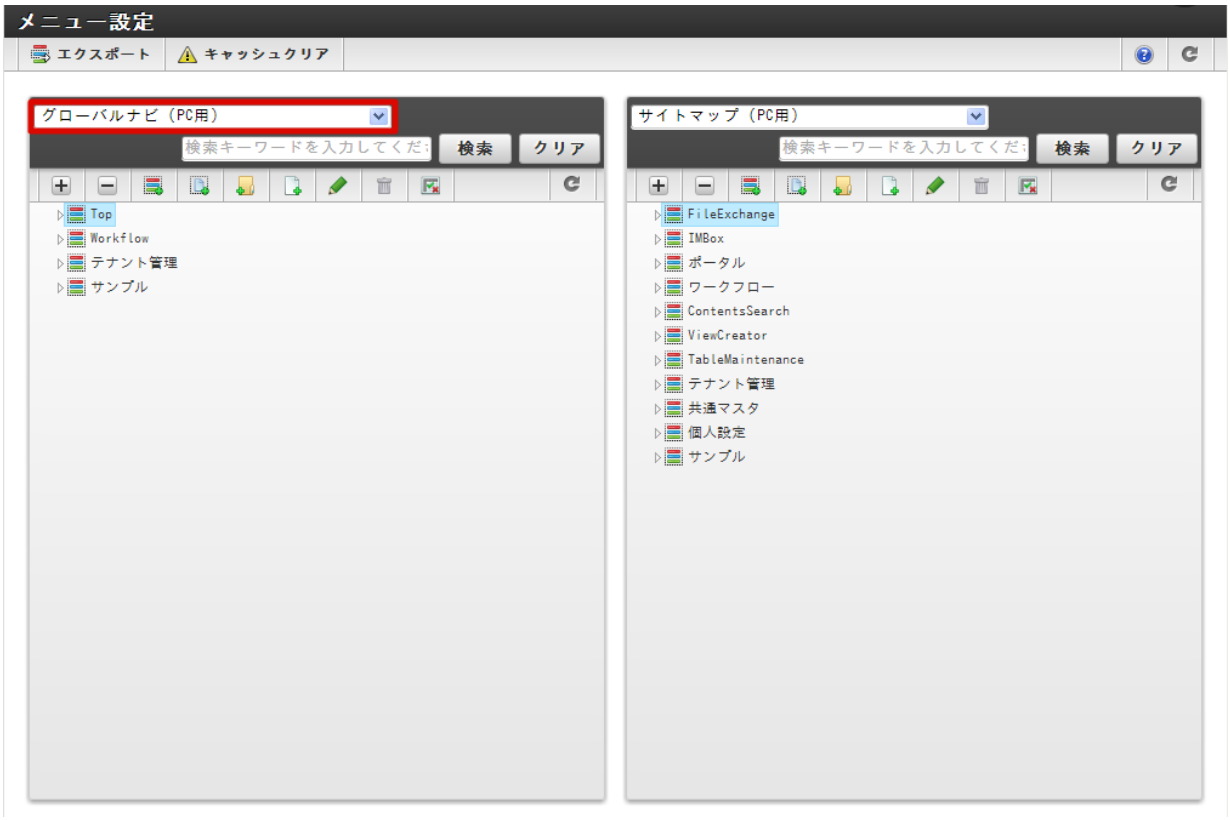
目次

- メニューグループを設定する
- メニューアイテムを設定する
- メニューの認可設定をする
  - メニューグループの認可設定をする
  - URLの認可設定をする
- 外部サイトのメニューリンクを登録する
- メニューを移動・コピーする
  - 同じツリーで移動する
  - 異なるツリーからコピーする
- メニューをエクスポートする
- メニューのキャッシュ情報を削除する

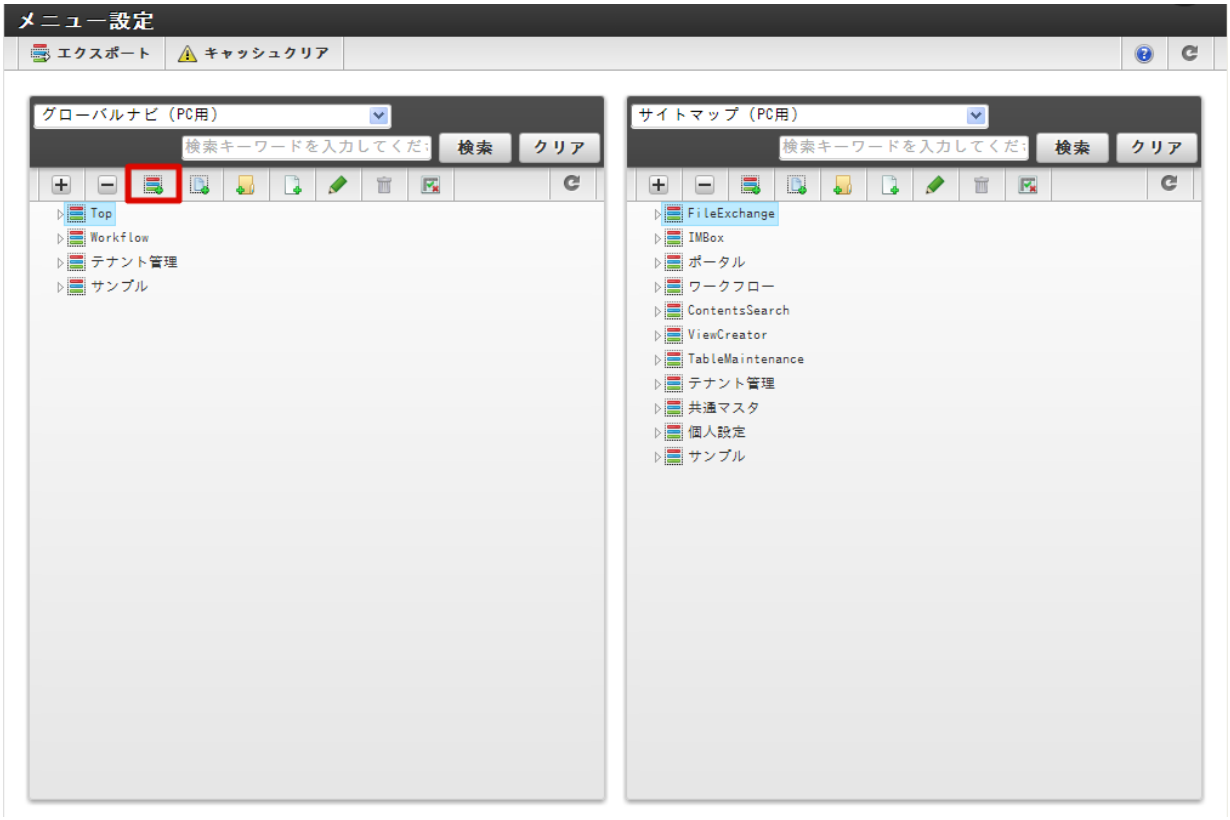
メニューグループを設定する

PC用のグローバルナビに新しいメニューグループを作成し、その中にサイトマップに登録しているメニューアイテムを登録します。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. 左のメニューのメニューグループカテゴリより「グローバルナビ（PC用）」を選択します。

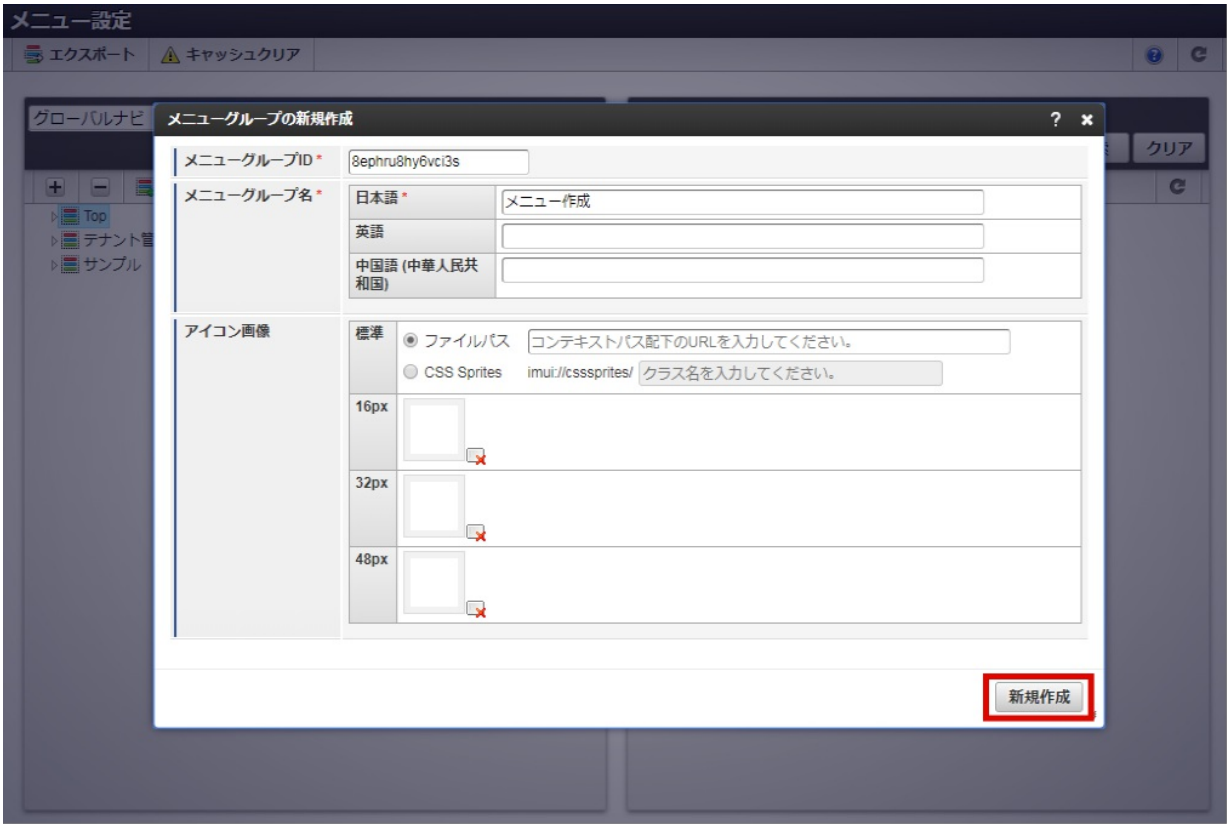


3. ツールバーの「トップ階層にメニューグループを新規作成」アイコンをクリックします。

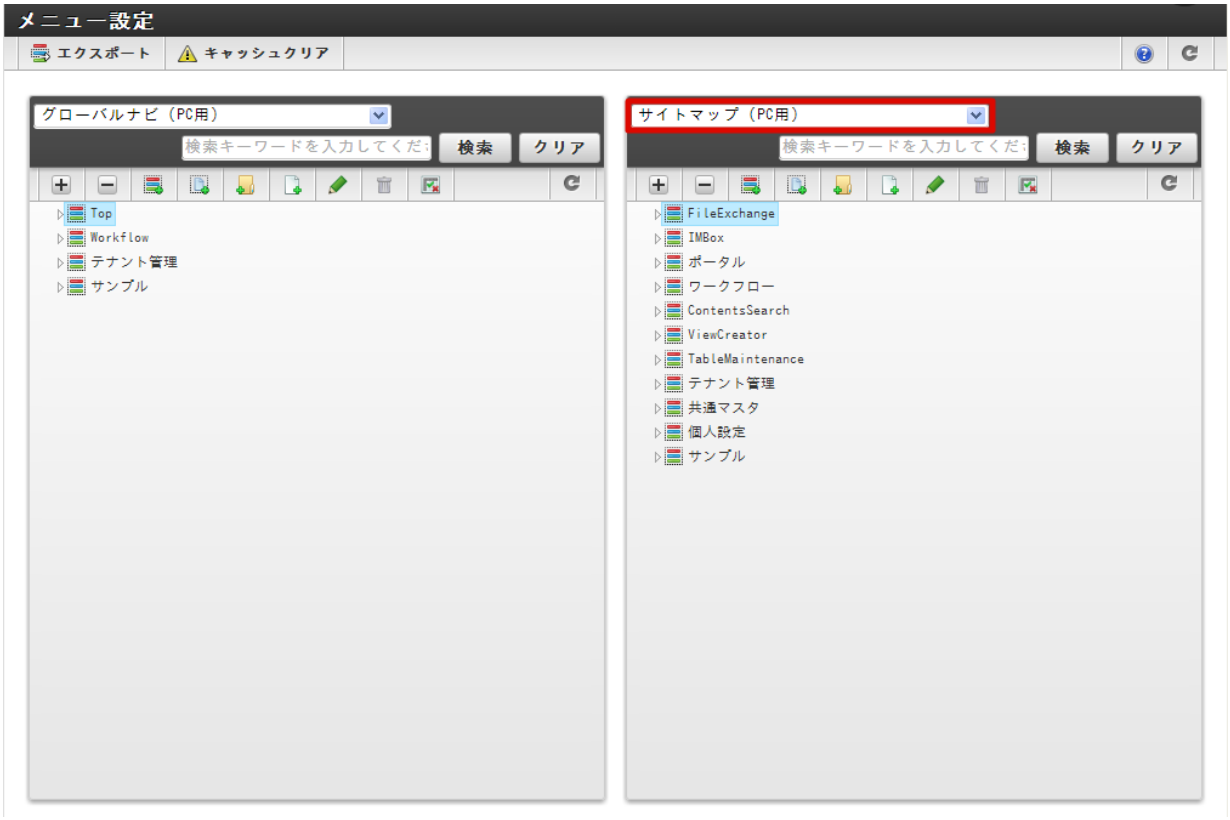


4. 内容を入力します。

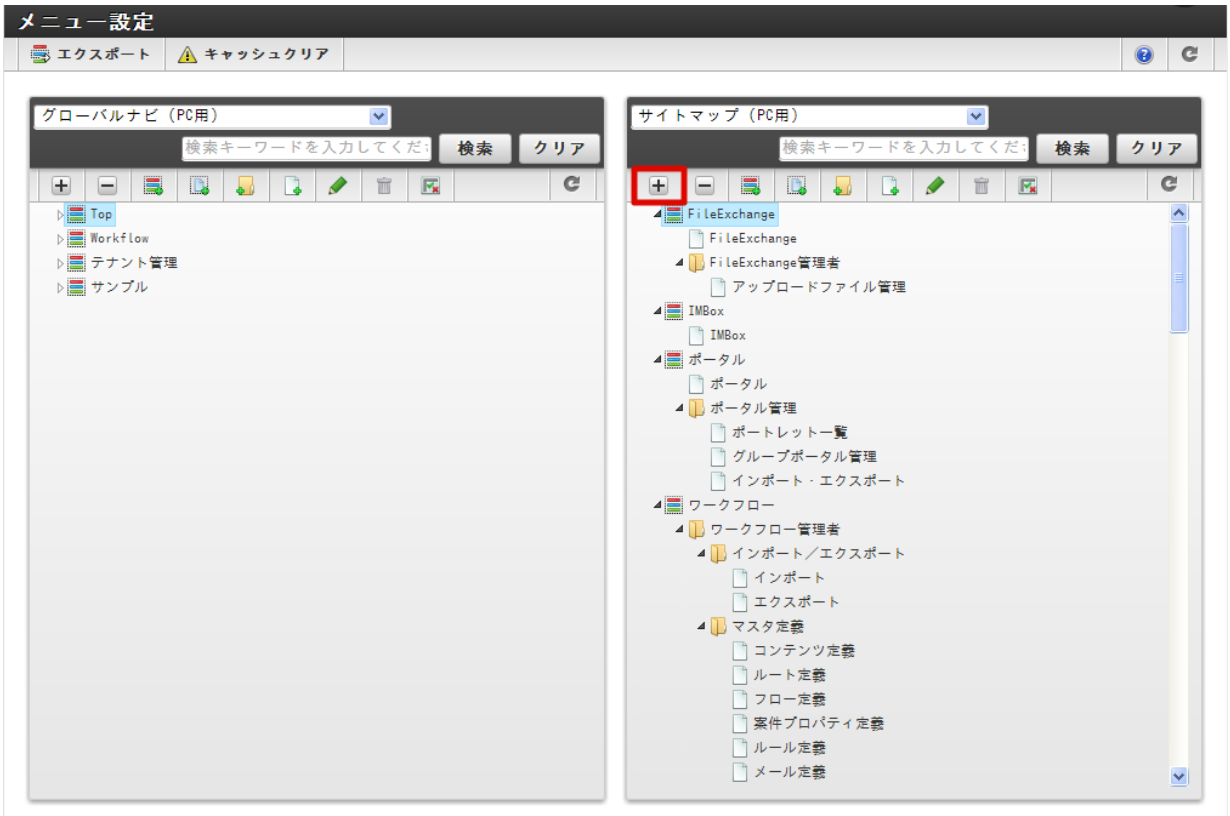
5. 「新規作成」をクリックします。



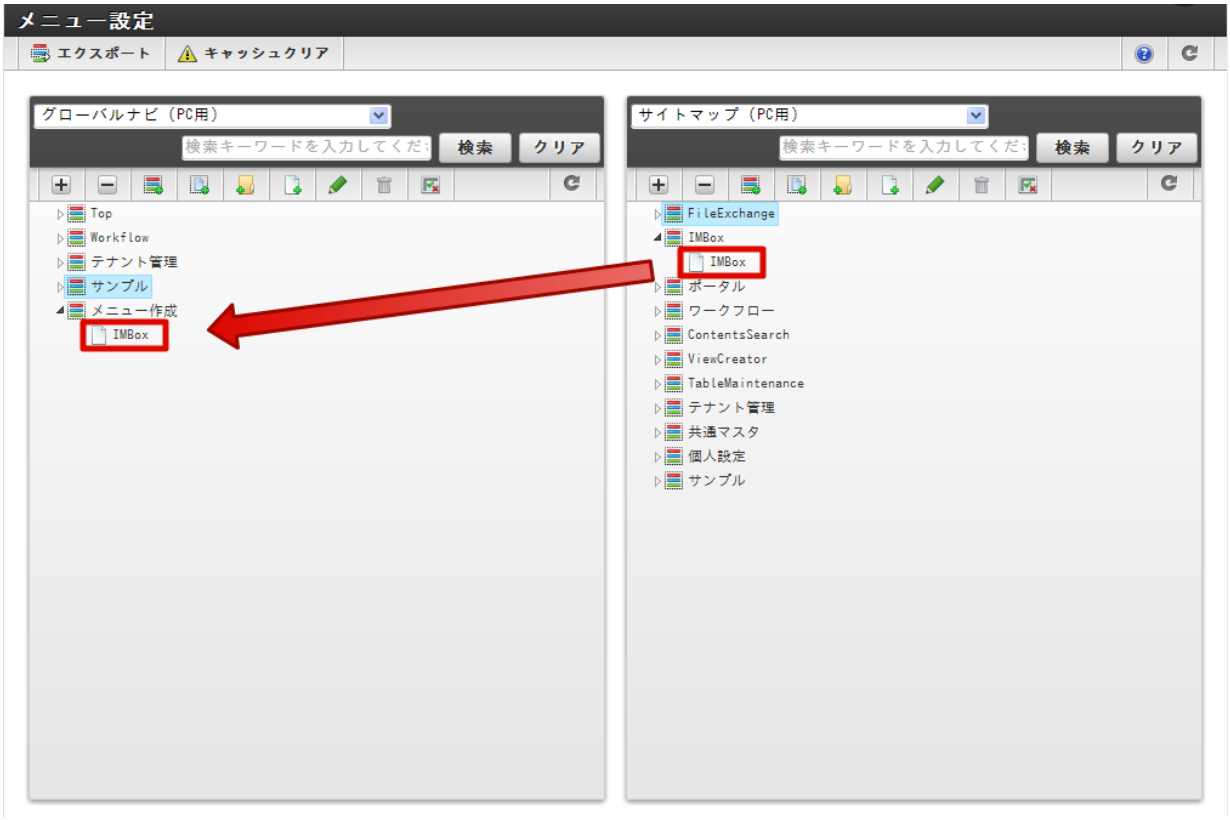
6. 左のメニューにグループが追加されました。
   次に、右のメニューグループカテゴリより「サイトマップ（PC用）」を選択します。



7. アイコンをクリックし、ツリーを展開します。



8. 登録したいメニューアイテムをドラッグアンドドロップします。



9. メニューの設定ができました。

コラム

メニューフォルダを作成する場合

1. 対象のメニューグループをクリックします。
2. アイコンをクリックします。
3. 内容を入力し、登録します。

コラム

編集する場合

1. 編集対象をクリックします。
2. アイコンをクリックします。
3. 編集画面が表示されるので、内容を編集します。

コラム

削除する場合

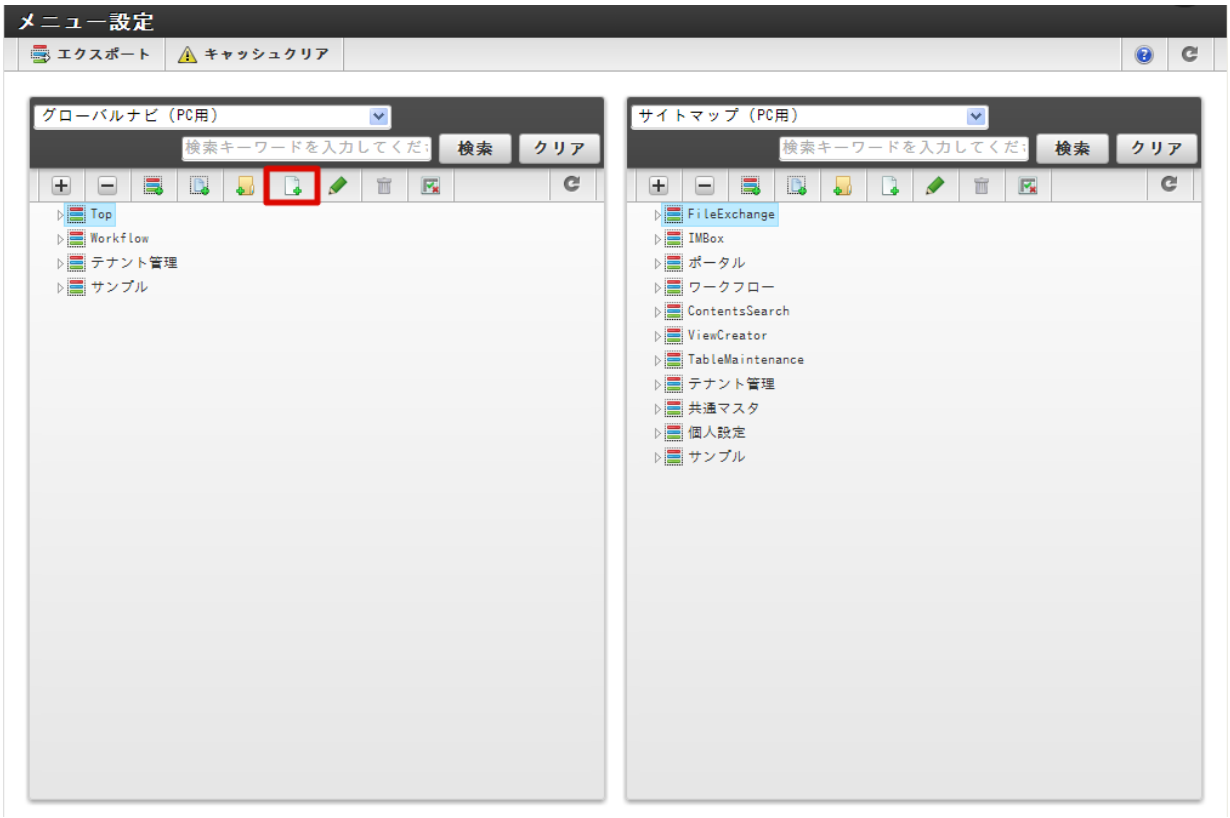
1. 削除対象をクリックします。
2. アイコンをクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

> **注意**
>
> 個人設定のメニュー編集は操作が制限されています。
> 以下に注意してください。
>
> 1. ユーティリティメニューに表示されるメニューグループはひとつのみです。
>   認可で許可されたメニューグループが複数存在する場合、一番上のメニューグループが表示されます。
> 2. 「アイコン画像」は設定しても反映されません。

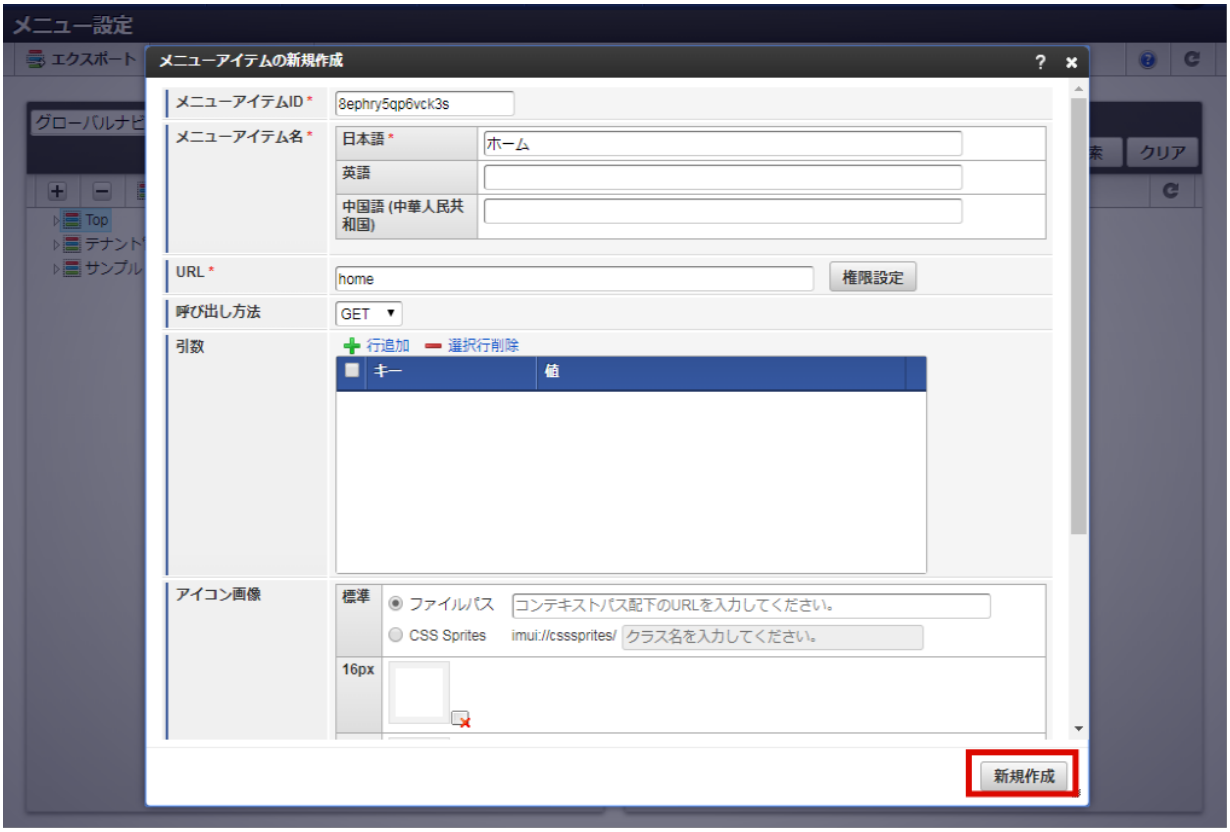
メニューアイテムを設定する

メニューグループの中にメニューアイテムを新規登録します。

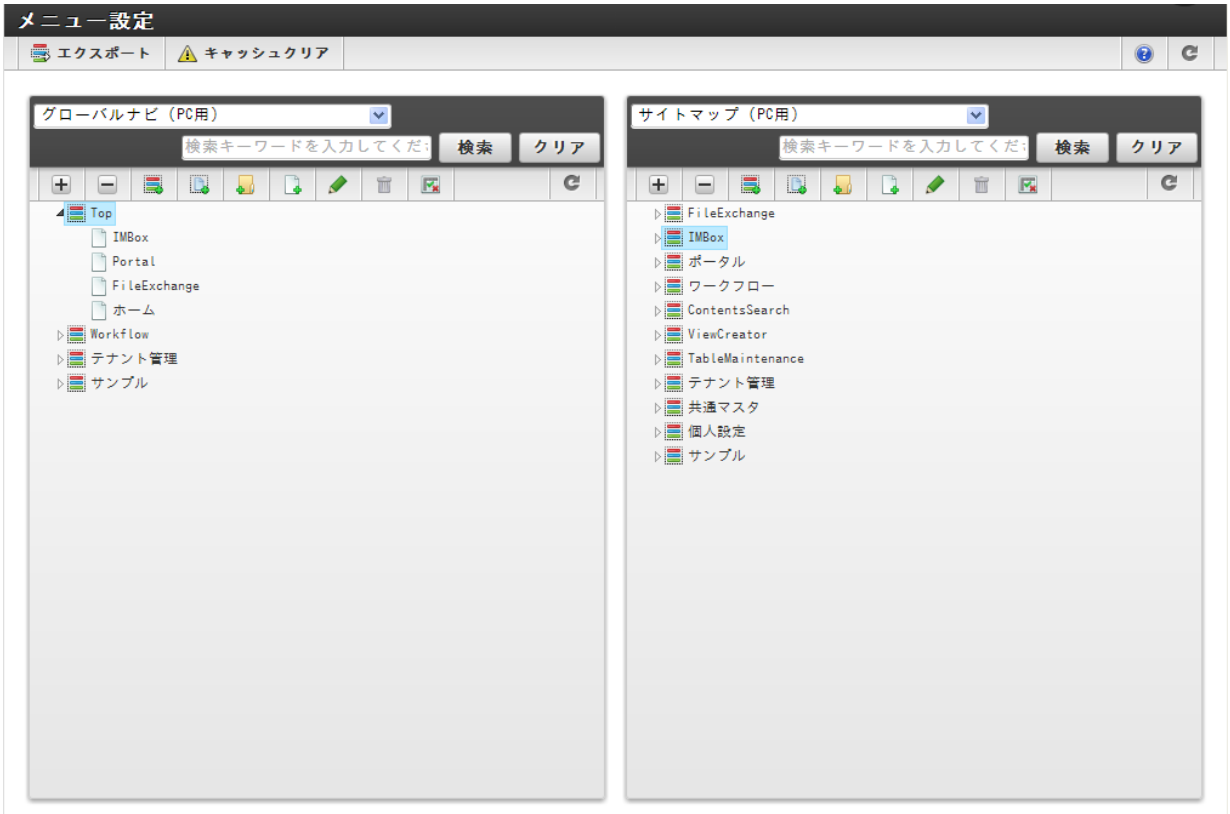
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. メニューアイテムを含めるメニューグループをクリックします。
3. ツールバーの「配下にメニューアイテムを新規作成」アイコンをクリックします。



4. 内容を入力します。
5. 「新規作成」をクリックします。



6. 左のメニューにアイテムが追加されました。



コラム

トップ階層にメニューアイテムを作成する場合

1. アイコンをクリックします。
2. 内容を入力し、登録します。

> **注意**
> トップ階層に追加したメニューアイテムをフォルダ配下に移動することはできません。

> **注意**
> フォルダ配下に追加したメニューアイテムをトップ階層に移動することはできません。

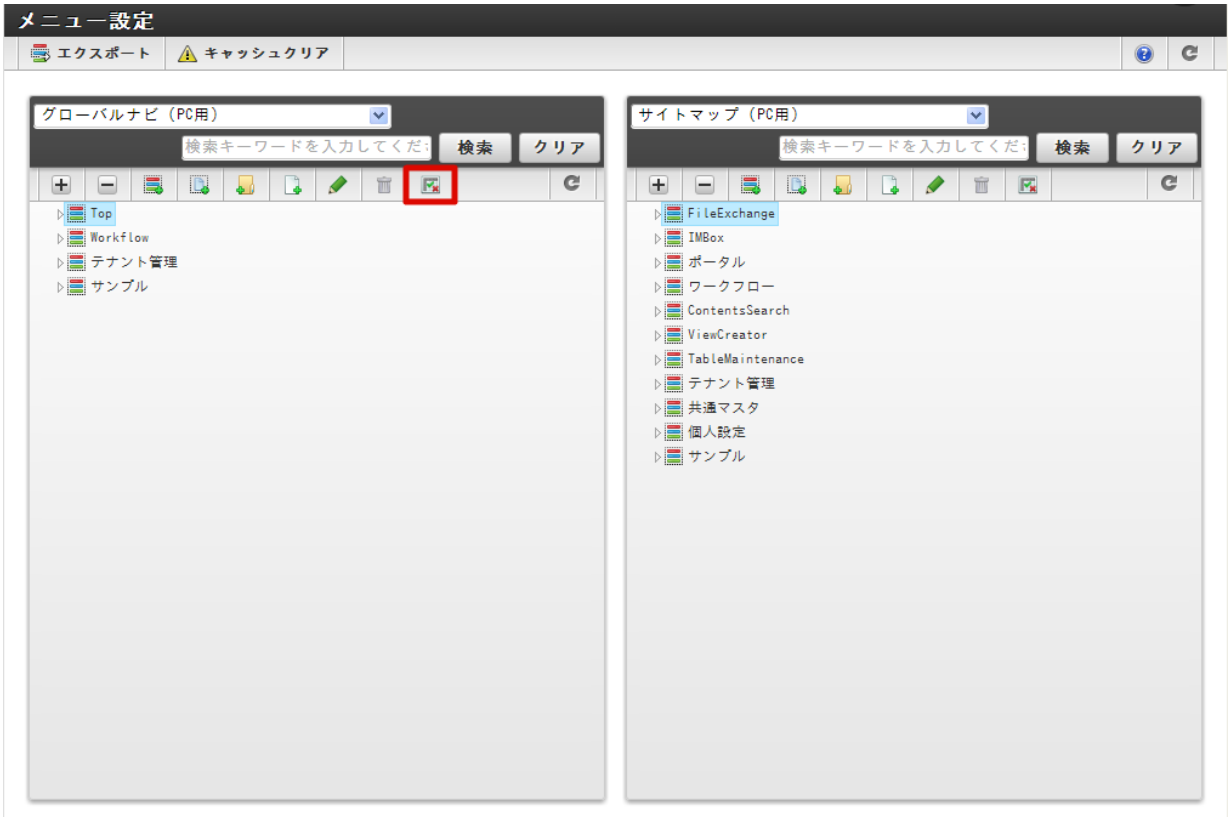
メニューの認可設定をする

認可設定を行うことで一般ユーザが参照できるメニューを管理します。
メニューの認可設定は、メニューグループとメニューアイテムのリンク先のURLに行えます。

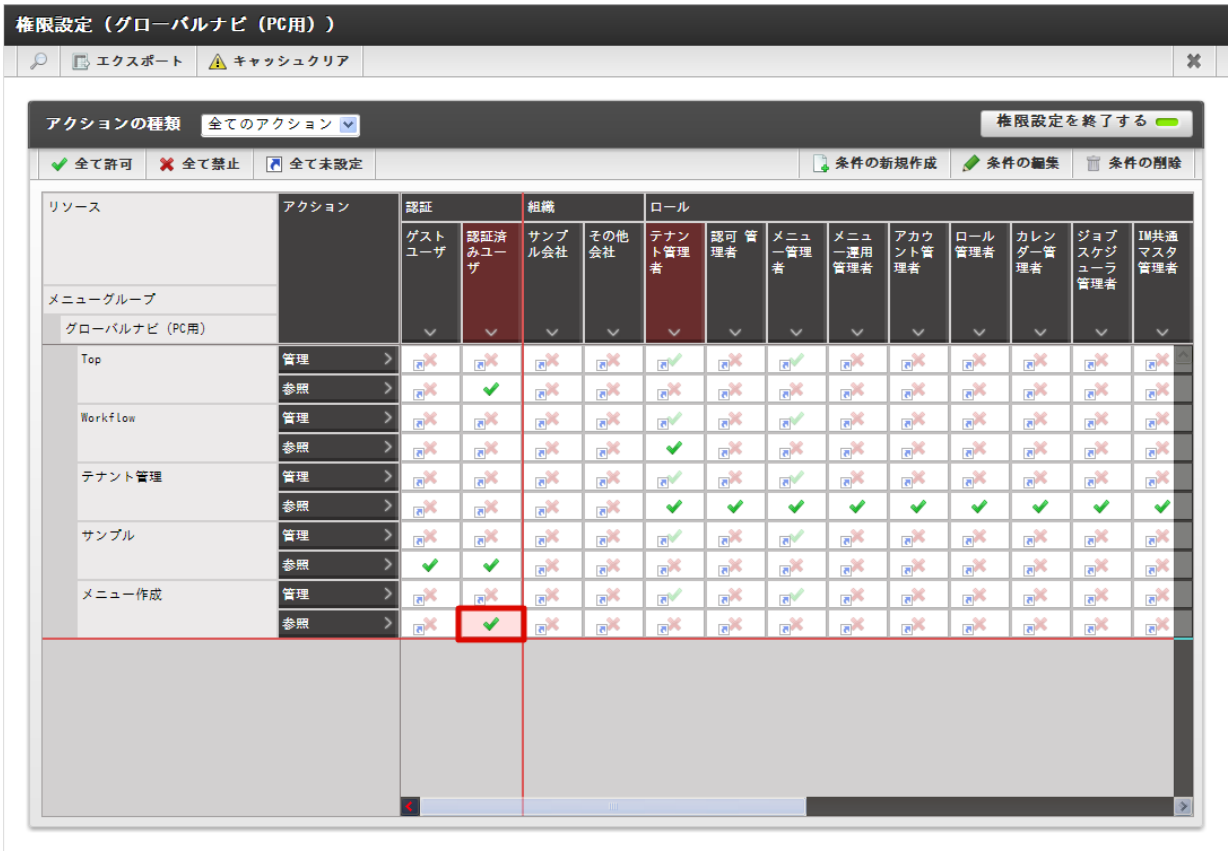
メニューグループの認可設定をする

作成したメニューグループに認可設定を行います。

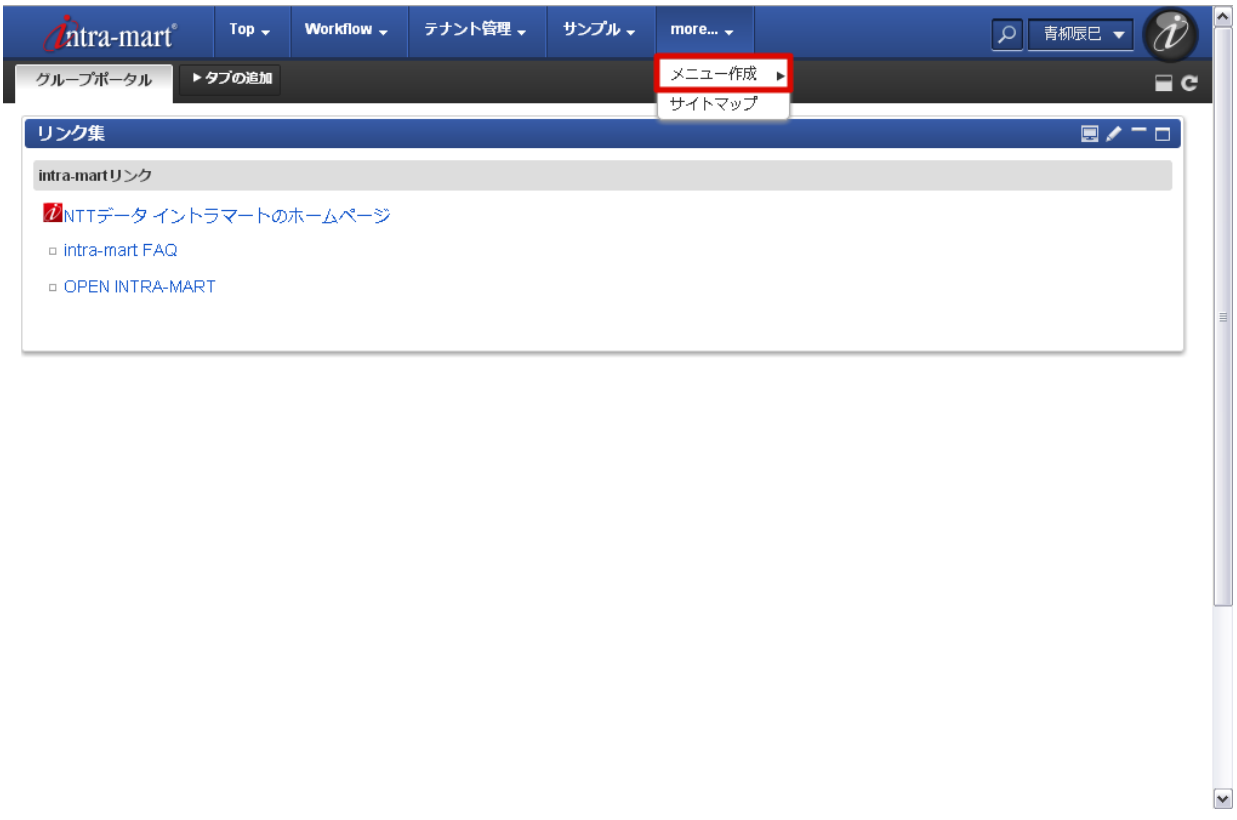
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. ツールバーの「権限設定」をクリックします。



3. 作成したメニューグループがリソースとして表示されるので、認可を設定します。
   設定方法については「*認可を設定する*」を参照してください。



4. サイトマップやグローバルナビから、作成したメニューグループが利用できます。



各メニューグループにおいて、認可では２つのアクションを持ちます。
各アクションの用途は以下の通りです。

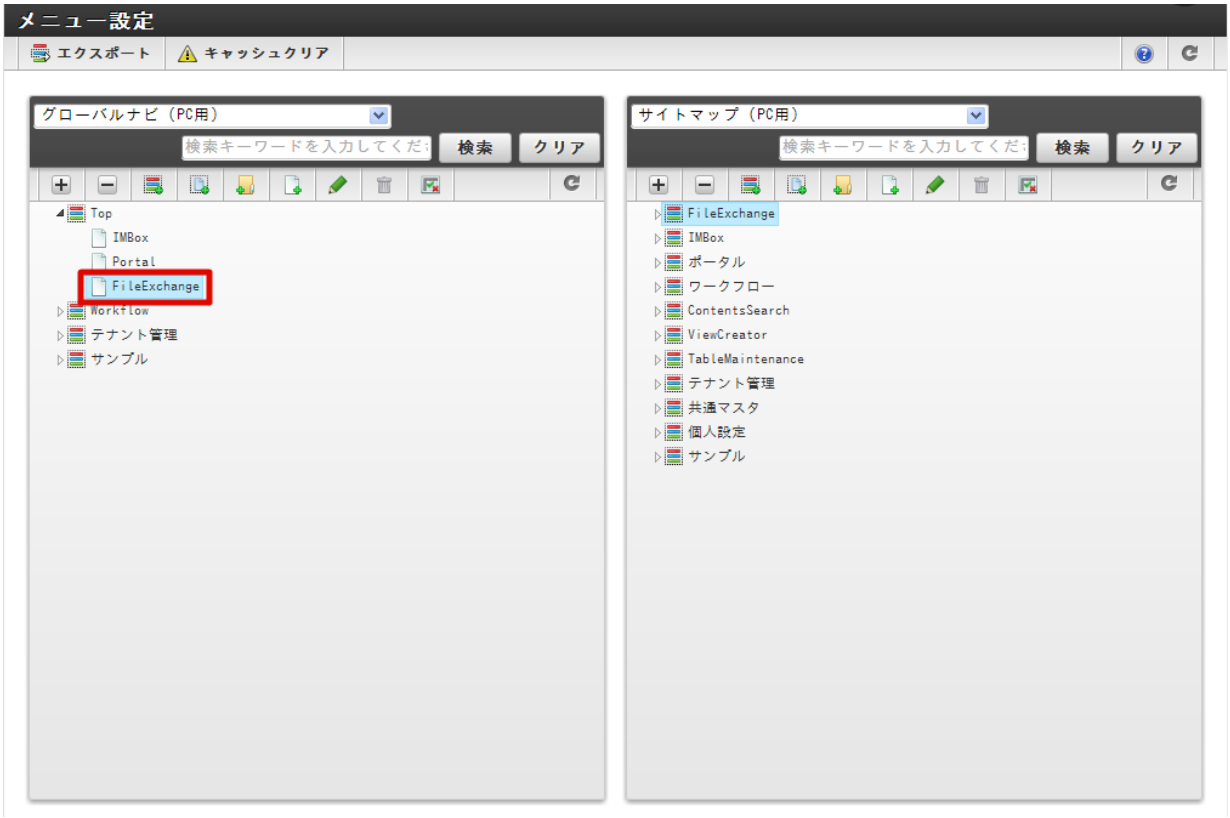
アクション	説明

アクション	説明
管理	メニューグループを管理できる権限です。 この権限が与えられたユーザは、メニューグループの更新・削除、および、メニューグループ内のメニューフォルダ・アイテムの追加・更新・削除が行えます。
参照	メニューグループをグローバルナビ・サイトマップから参照できる権限です。 この権限が与えられたユーザは、グローバルナビ・サイトマップで、メニューグループと配下のメニューフォルダ・アイテムが表示されます。 **注意** メニューグループの参照権限がない場合、メニューグループは表示されなくなりますが、メニューアイテムに設定されているURLで直接アクセスすることはできます。 URLによる直接アクセスも禁止する場合は、「*URLの認可設定をする*」を参照してください。

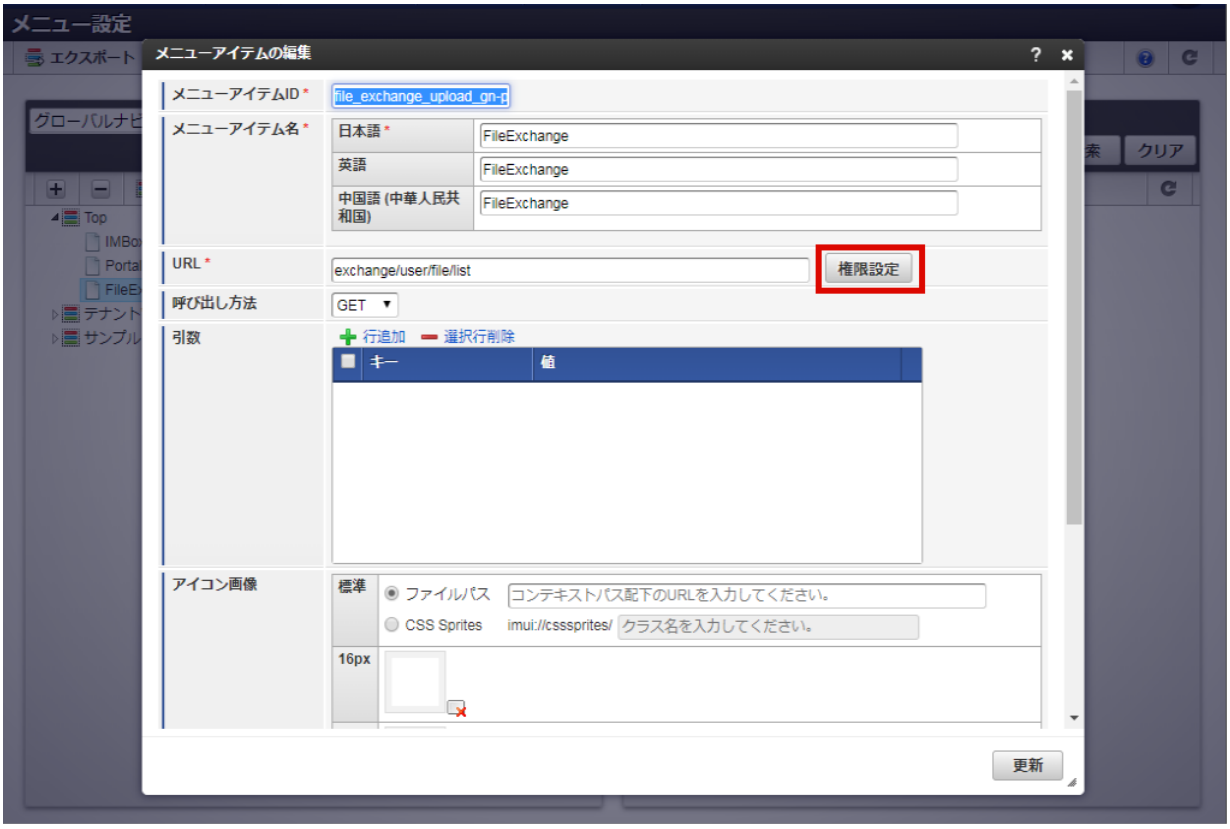
URLの認可設定をする

作成したメニューアイテムのリンク先のURLに認可設定を行います。

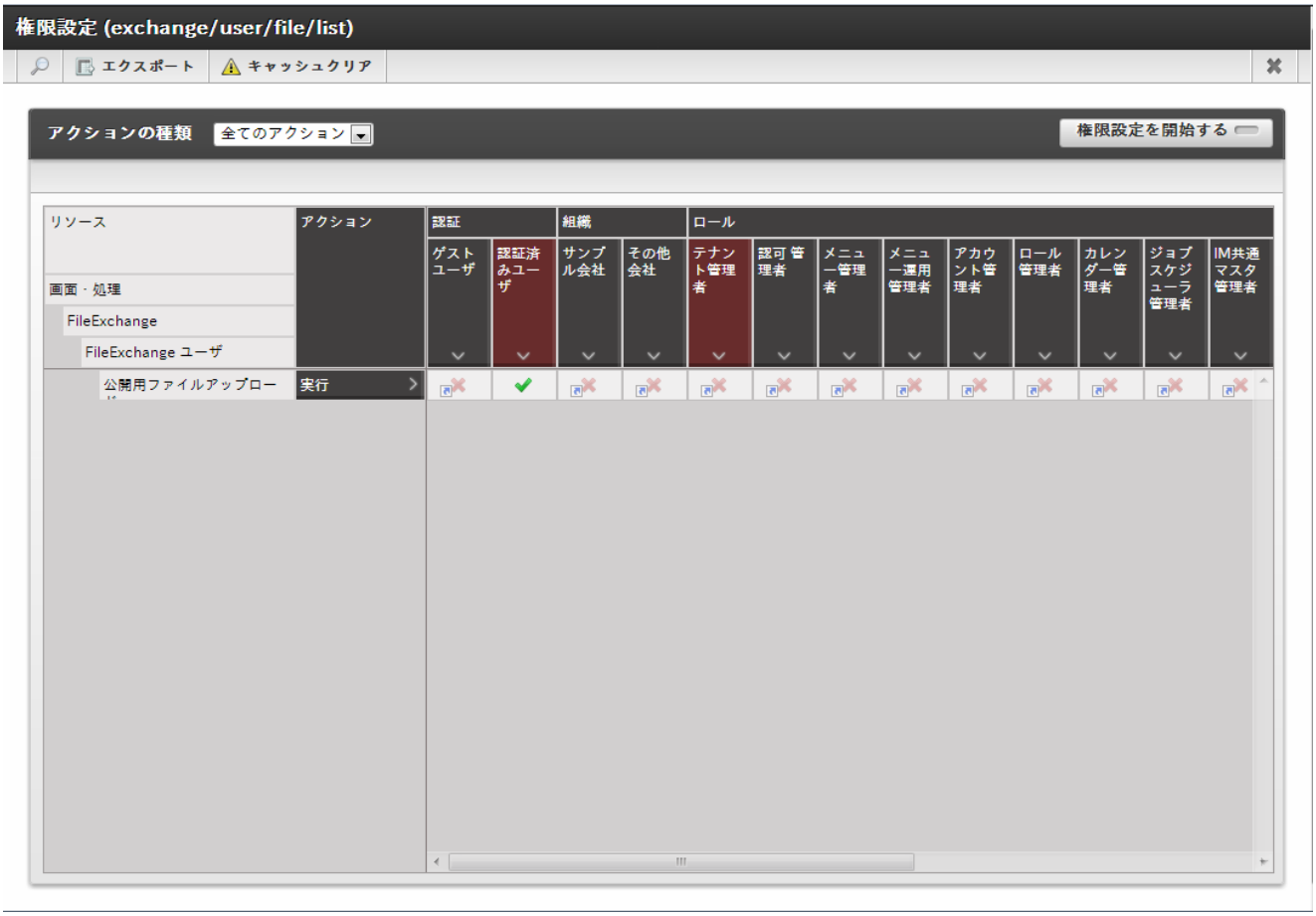
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. 認可設定を行うURLをもつメニューアイテムを選択します。



3. ツールバーの「選択したメニューを編集」をクリックします。
4. URL欄右側の「権限設定」をクリックします。



5. URLが持つ画面が表すリソースとして表示されるので、認可を設定します。
   設定方法については「*認可を設定する*」を参照してください。

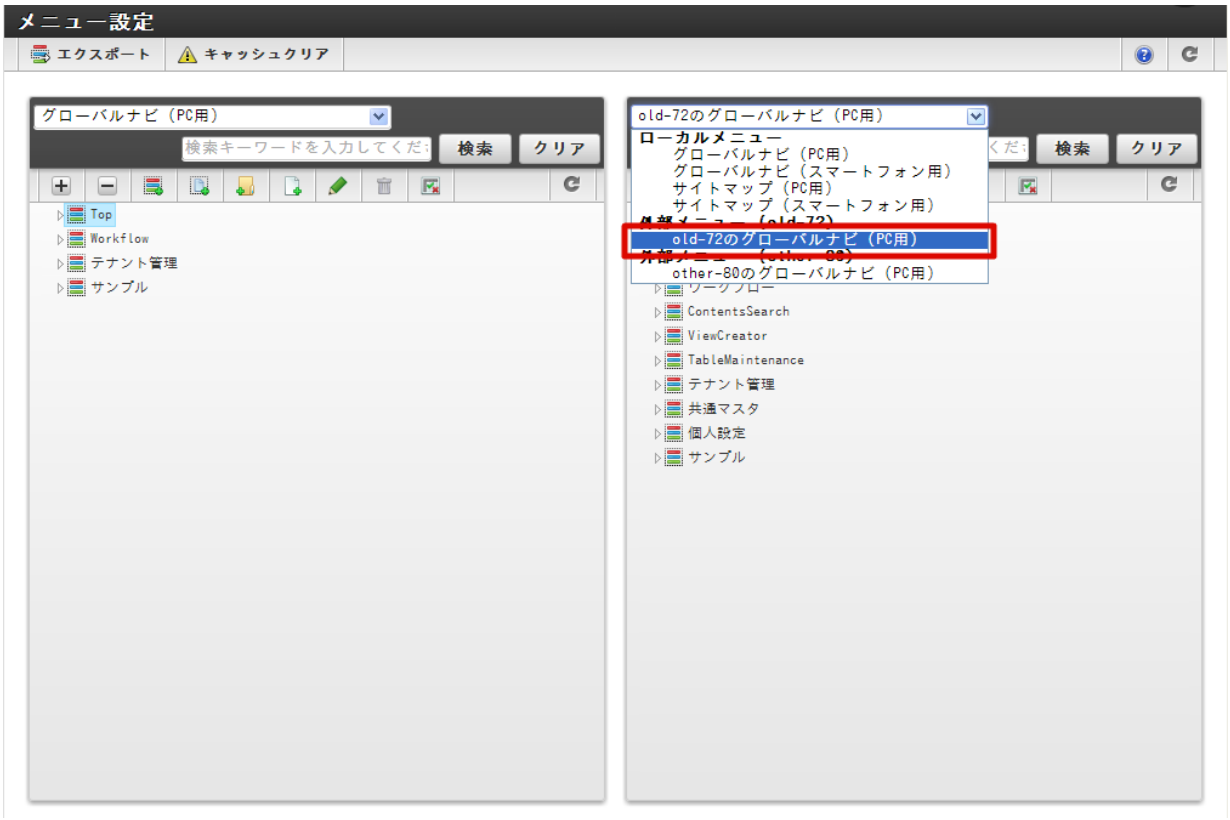


外部サイトのメニューリンクを登録する

> **コラム**
>
> 外部サイトのメニューリンクを登録するためには、「外部メニュー連携」モジュールの追加と「editable」オプションの設定が必要です。
>
> 設定方法については、以下を参照してください。
>
> - 外部メニュー連携の概要と環境構築手順 ・・・ 「セットアップガイド」の「外部メニュー連携」
> - 「editable」オプションの設定方法 ・・・ 「設定ファイルリファレンス」の「外部メニュー連携接続先設定」

他サイトのメニューリンクを登録するためには、外部サイトのメニューツリーからローカルのメニューツリーにコピーします。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. コピーしたい外部メニューが登録されている外部サイトのメニューグループカテゴリを選択します。

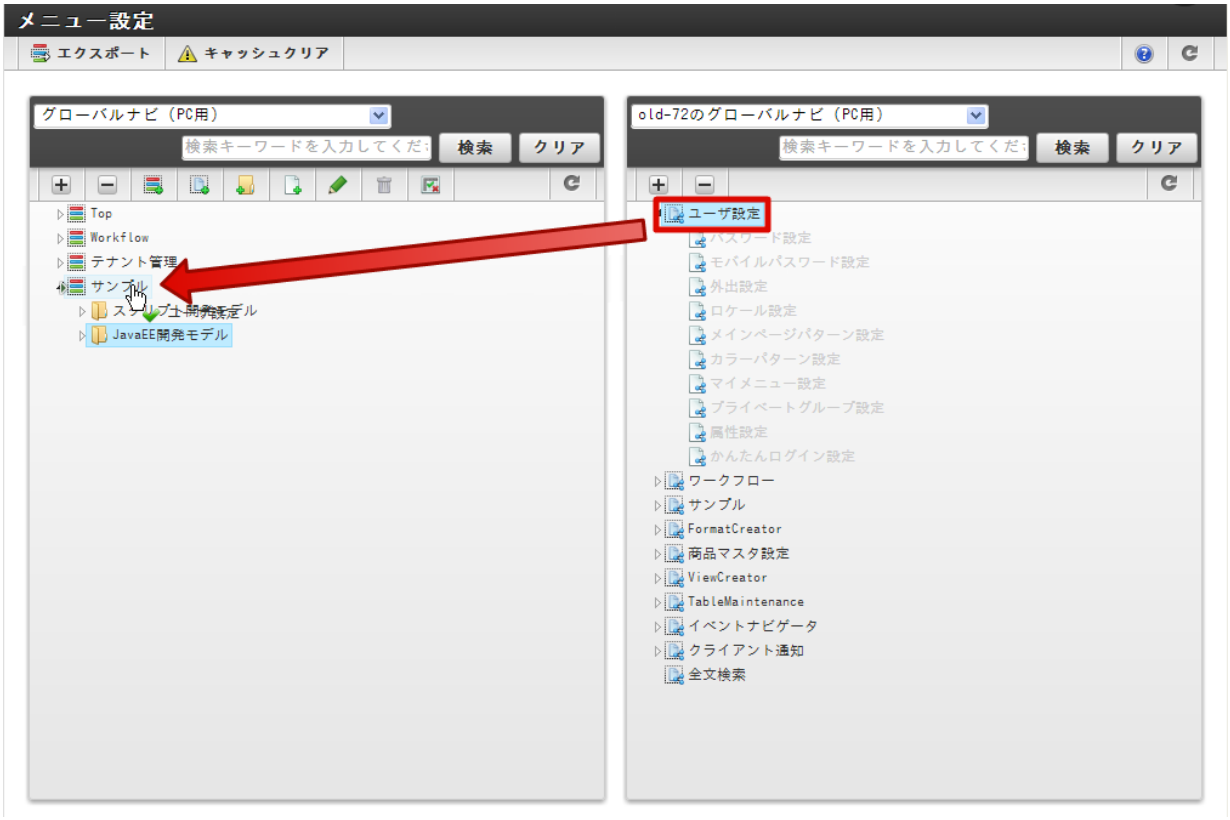


> **コラム**
>
> このとき、もう片方のメニューでは、ローカルメニューの「グローバルナビ（PC用）」メニューグループカテゴリが自動的に選択されます。

> **注意**
>
> 外部メニューのメニューグループカテゴリは「グローバルナビ（PC用）」のみ提供しています。
> メニューが取得可能な外部サイトが見つからない場合、外部サイトのメニューグループカテゴリを選択できません。

> **コラム**
>
> 外部サイトのメニューツリーの表示ロケールは、外部サイトのロケールに基づいています。
> そのため、ローカルツリーとは異なるロケールで表示される場合があります。

3. コピーしたい外部メニューをもう片方のツリーにドラッグアンドドロップします。



> **注意**
>
> 外部サイト側のメニューツリーで、２階層目以降はプレビューのため、ドラッグできません。
> そのため、２階層目以降は灰色で表示しています。

> **注意**
>
> 外部メニューは、ローカルメニューの「グローバルナビ（PC用）」メニューグループカテゴリにのみコピーできます。

4. ローカルメニューのグローバルナビに外部メニューリンクが登録できました。

> **コラム**
> コピーが行われるのは外部サイトのトップ階層に登録されている外部メニューのみですが、２階層目以降はグローバルナビとして表示されるときに再取得されます。

> **コラム**
> 外部サイトのメニューはローカルのメニュー設定画面では編集できません。
> 外部サイトのメニューを編集する場合は、外部サイトのメニュー設定画面などで編集を行ってください。

メニューを移動・コピーする

メニュー設定画面に表示される左右２つのメニューツリーを利用して、メニューグループ・メニューフォルダ・メニューアイテム・外部メニューリンクを移動・コピーします。

注意

移動・コピーの注意点

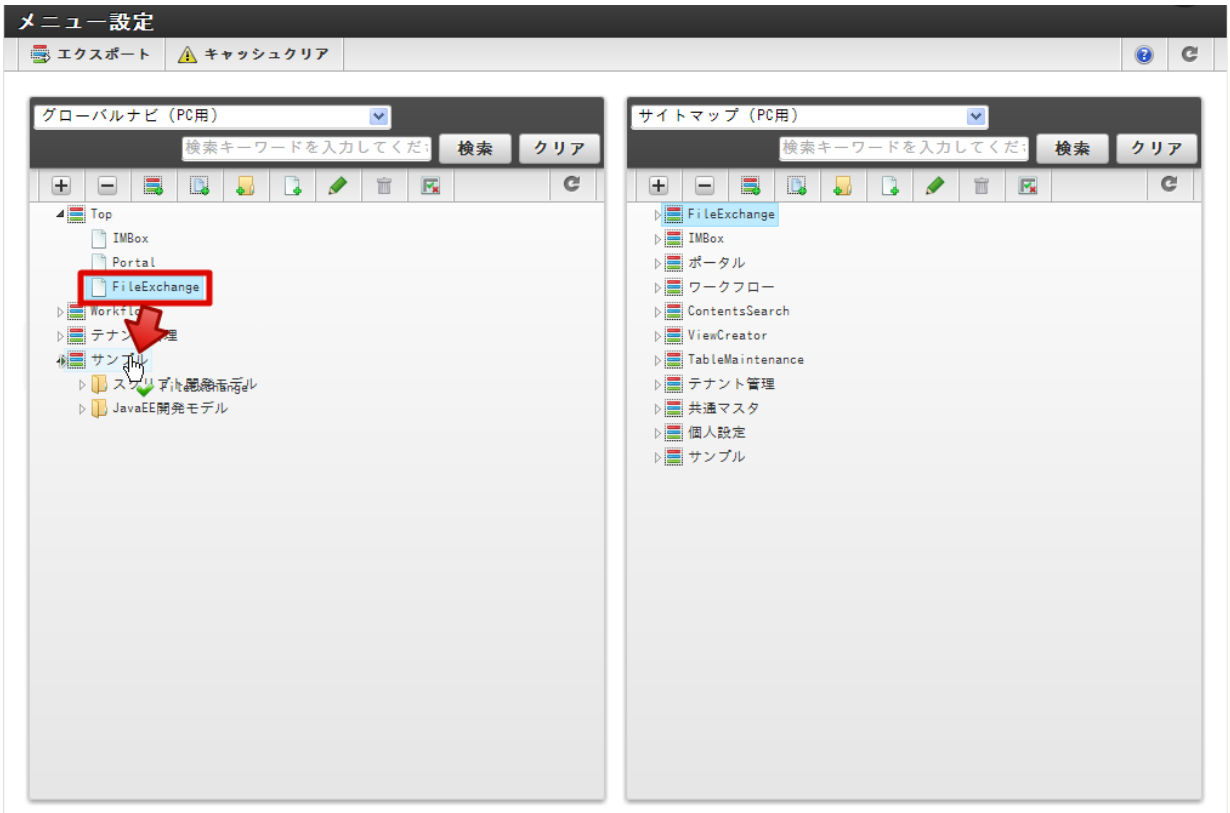
メニューグループ・メニューフォルダ・メニューアイテム・外部メニューリンクは、それぞれ移動・コピー可能な位置が異なります。
移動・コピー可能な位置は下記の通りです。

種類	移動・コピー可能先
メニューグループ	トップ階層のみ
メニューフォルダ	２階層目以降のみ
トップ階層のメニューアイテム	トップ階層のみ
２階層目以降のメニューアイテム	２階層目以降のみ
トップ階層の外部メニューリンク	同じメニューグループカテゴリのトップ階層のみ
２階層目以降の外部メニューリンク	同じメニューグループカテゴリの２階層目以降のみ

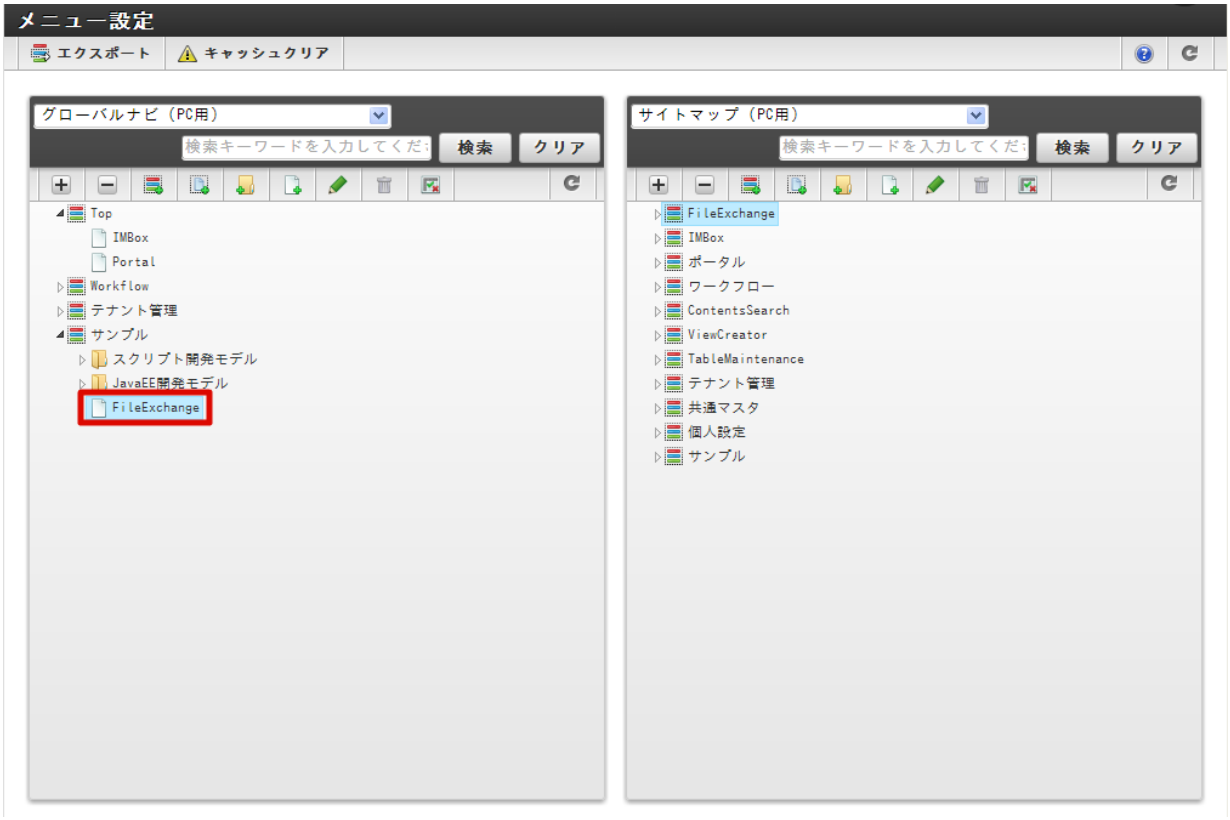
同じツリーで移動する

どちらか片方のツリー内で登録されているメニューをドラッグアンドドロップすることで、メニューを移動することができます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. 移動したいメニューアイテムを同じツリー内にドラッグアンドドロップします。



3. メニューアイテムの移動ができました。

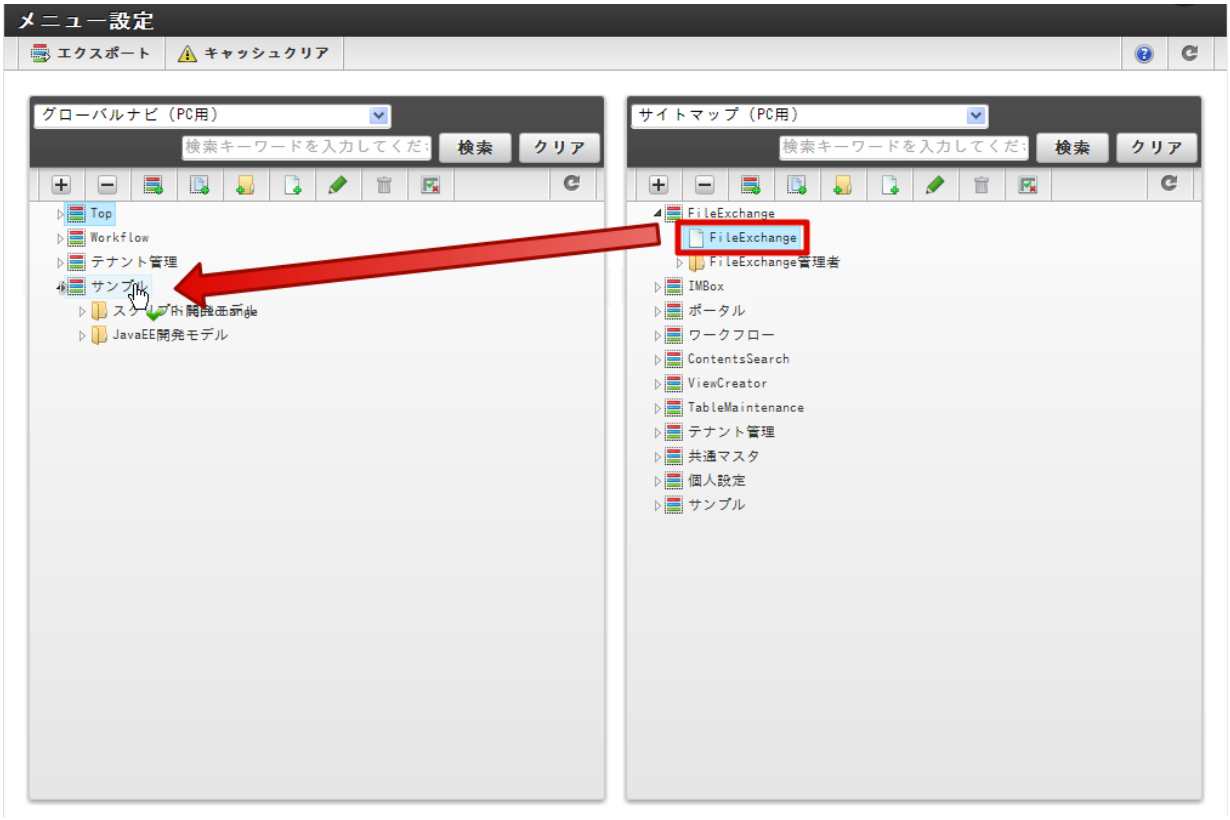


> **コラム**
> Ctrl キーを押しながらドラッグアンドドロップ操作を行うと、コピーすることができます。

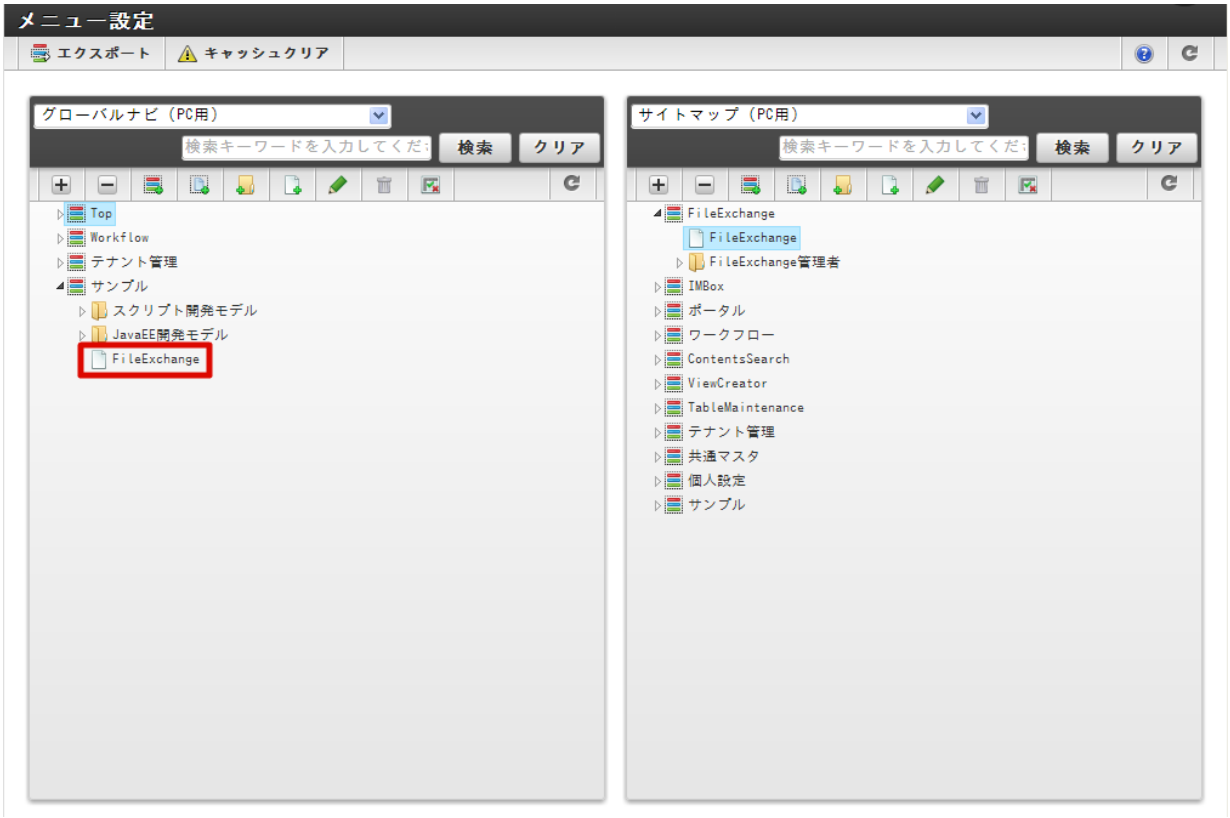
> **コラム**
> 同様の操作で、メニューグループ・メニューフォルダ・外部メニューリンクも移動・コピーすることができます。

異なるツリーからコピーする

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. コピーしたいメニューアイテムをもう片方のツリーにドラッグアンドドロップします。



3. メニューアイテムのコピーができました。

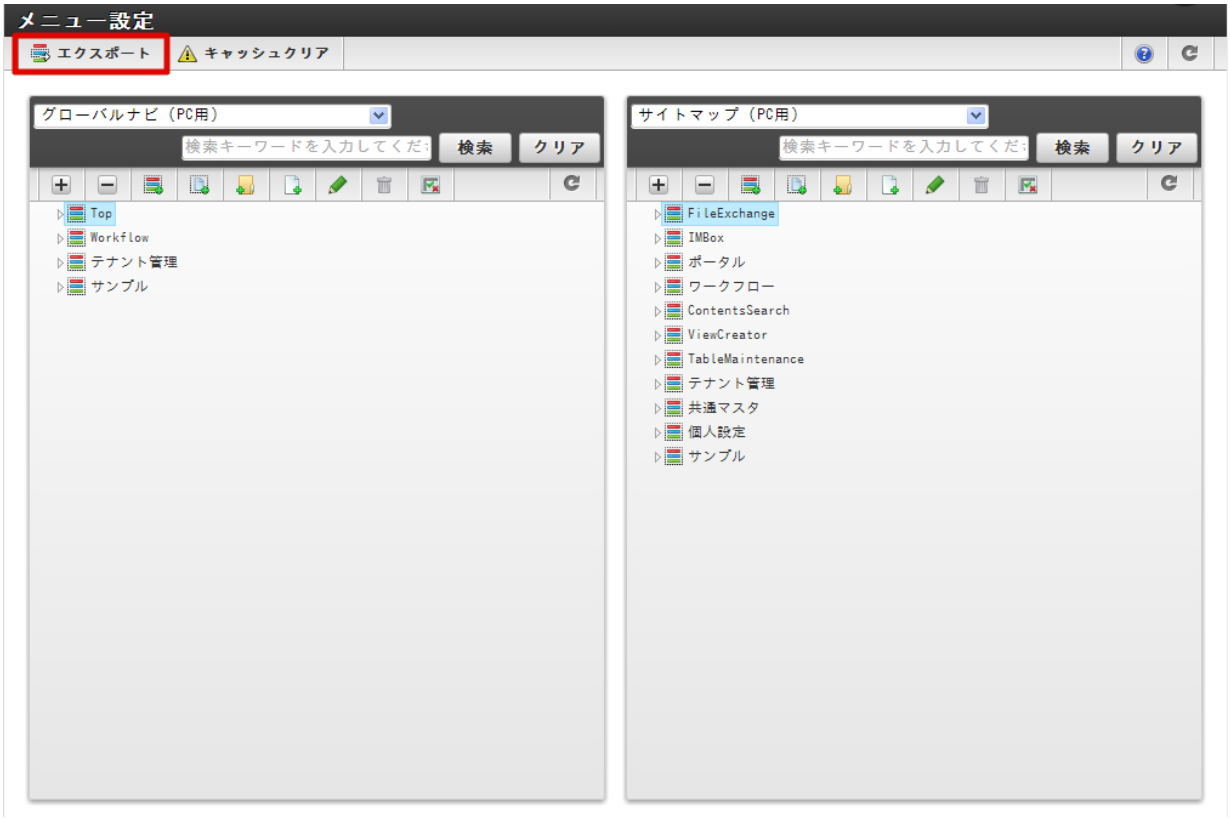


> **コラム**
> 他のツリーからドラッグアンドドロップした場合は、移動ではなく常にコピー操作として実行されます。

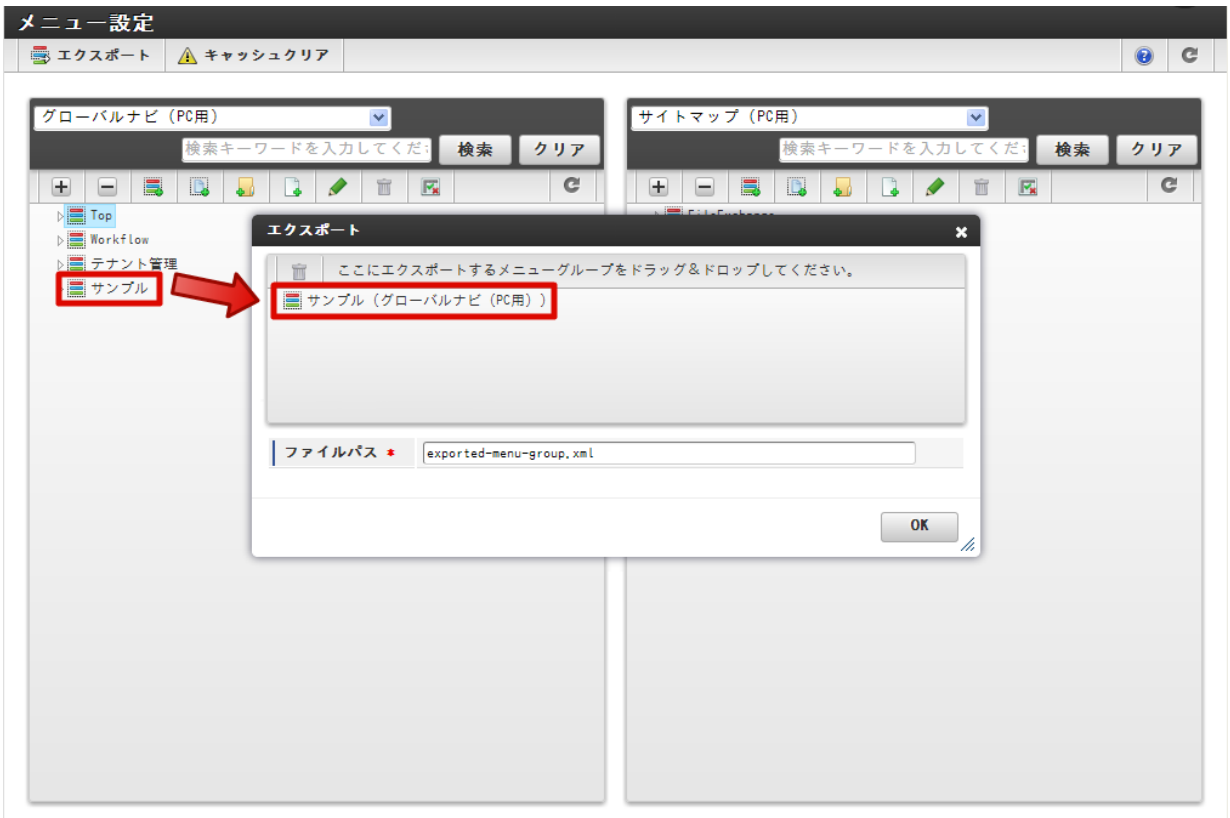
> **コラム**
> 同様の操作で、メニューグループ・メニューフォルダ・外部メニューリンクも移動・コピーすることができます。

メニューをエクスポートする

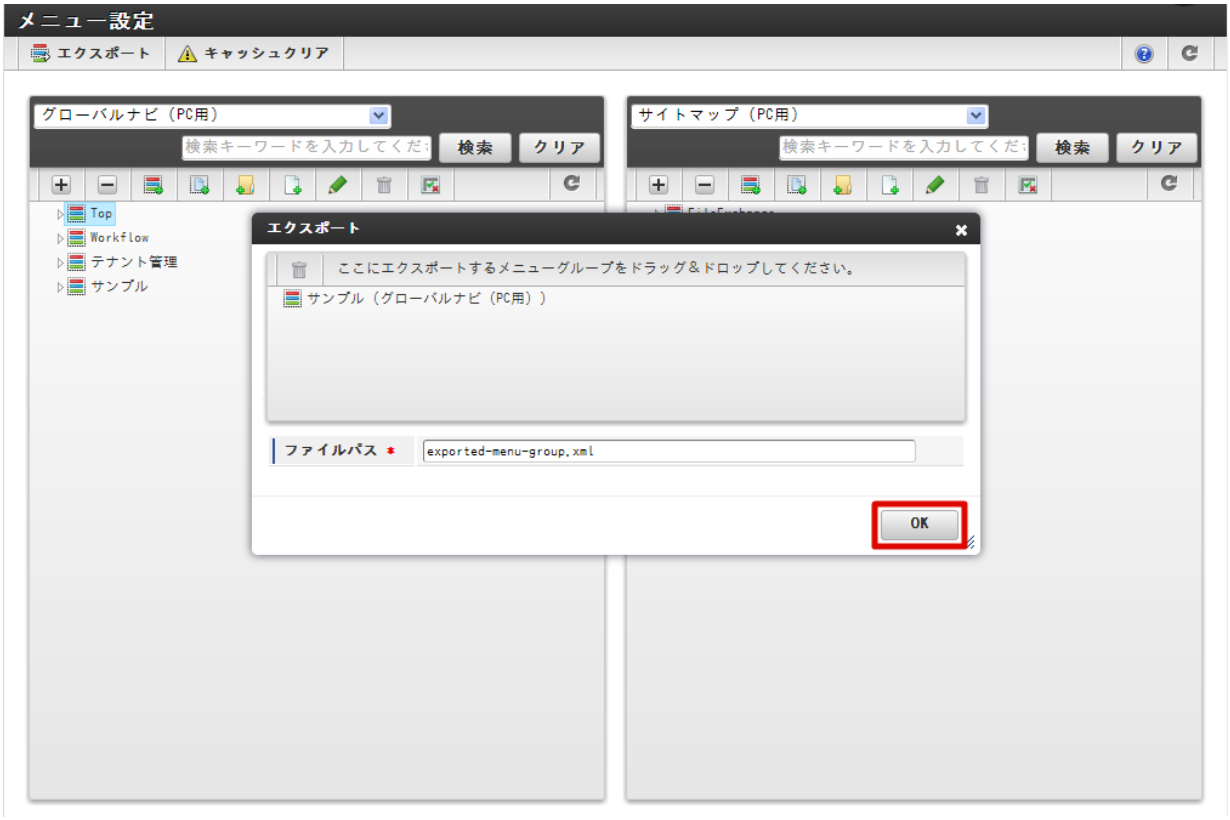
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。
2. 「エクスポート」をクリックします。



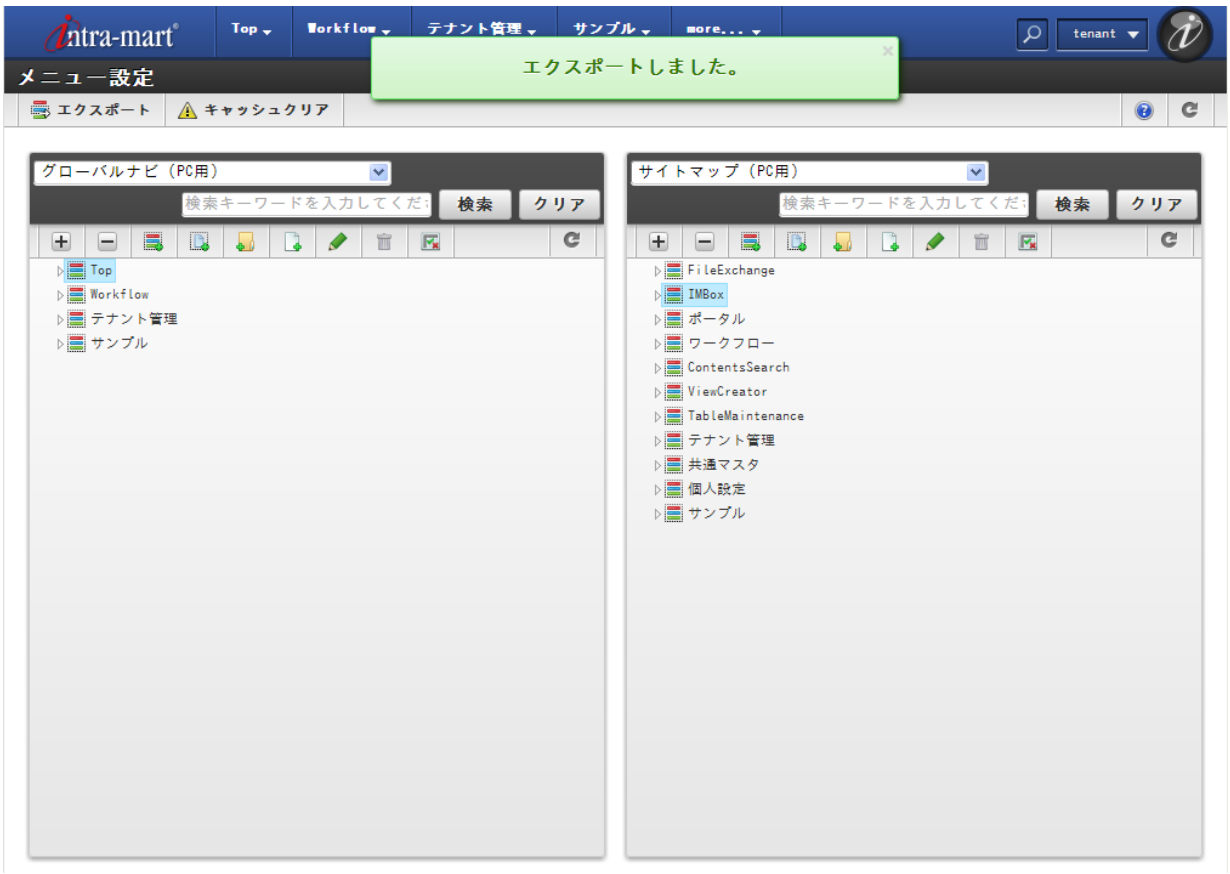
3. エクスポートしたいメニューグループをダイアログ背面のメニュー設定画面からドラッグアンドドロップします。



4. ドラッグアンドドロップしたメニューの情報を、エクスポートするファイル名を指定します。
5. 「OK」をクリックします。



6. パブリックストレージ直下にメニューがエクスポートされます。

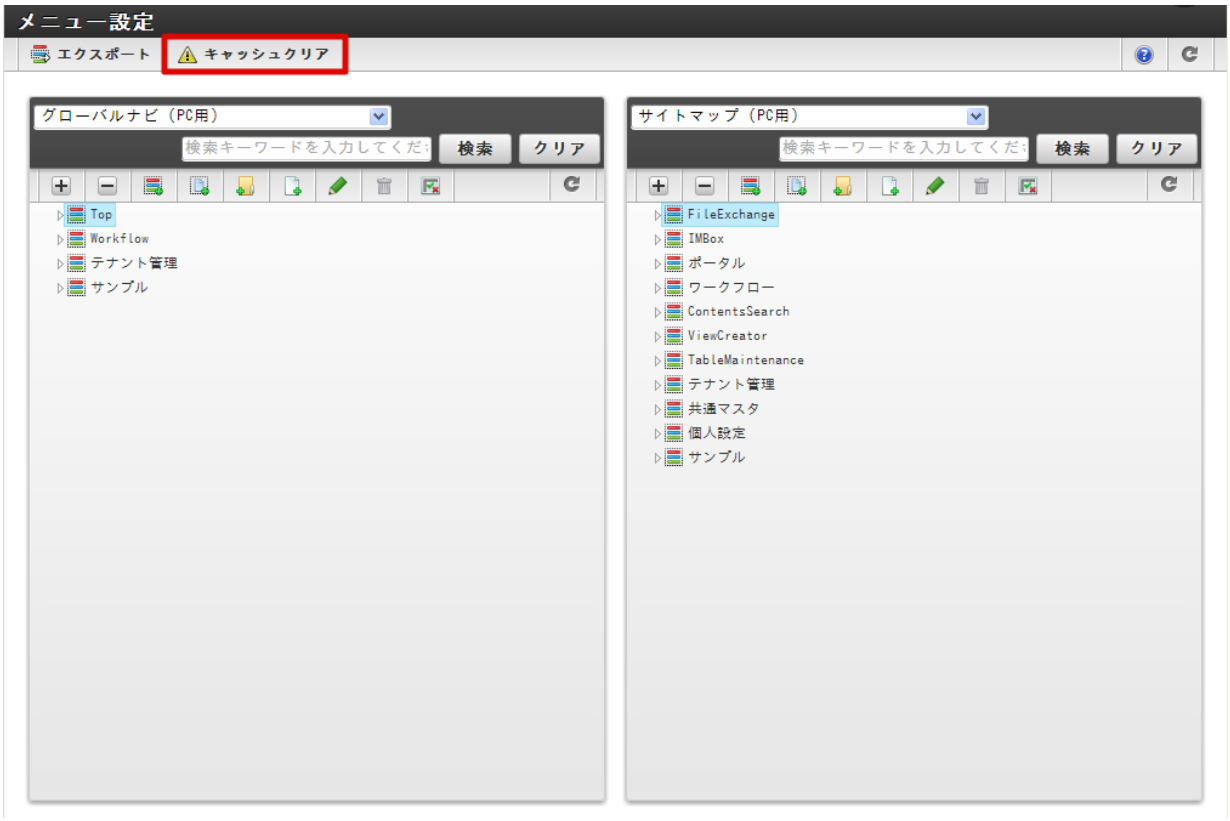


メニューのキャッシュ情報を削除する

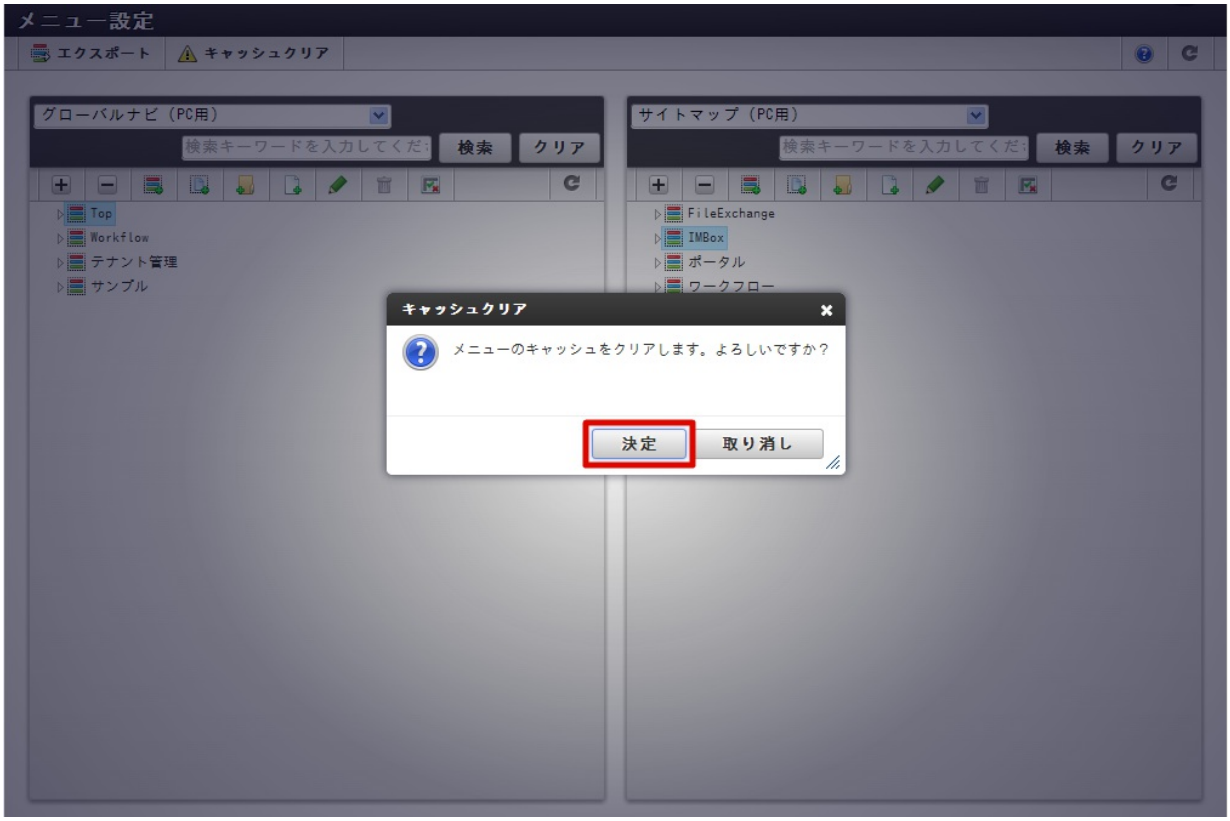
一部のメニューは表示を高速化するために情報をキャッシュしています。
「外部メニュー連携」機能利用時は運用中に連携先サーバのメニューを変更した際にキャッシュによって最新のメニューが表示されない可能性があります。
連携先サーバのメニューに変更があった場合、メニューのキャッシュ情報を削除してください。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「メニュー」をクリックします。

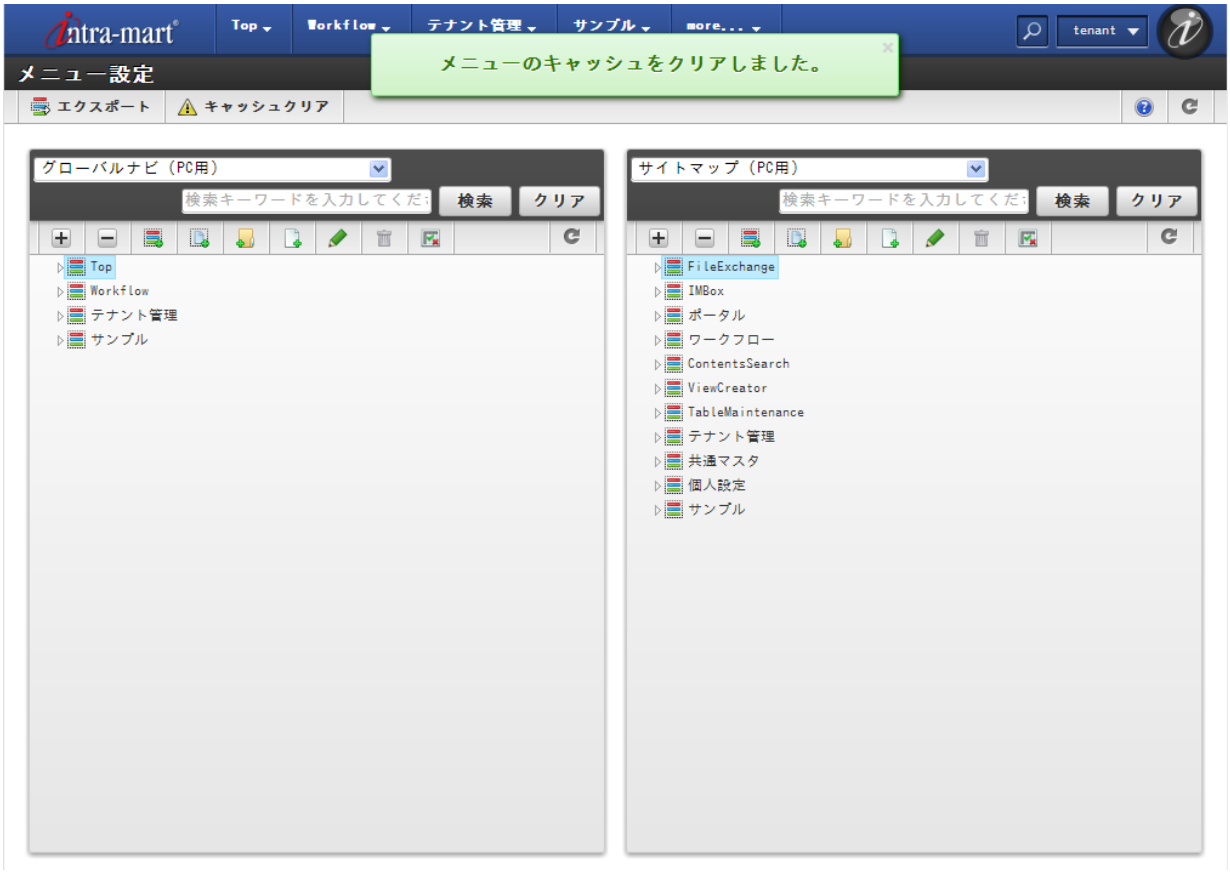
2. 「キャッシュクリア」をクリックします。



3. 「決定」をクリックします。



4. メニューのキャッシュが削除されます。



ユーザ毎にメニューの認可設定をする

ユーザ毎にメニューの認可設定をします。
ユーザ別メニュー権限設定では、「ユーザ毎のメニューの認可設定の確認」 と「メニューの認可設定」ができます。
メニューの種類の詳細に関しては、「*メニューを設定する*」を参照してください。

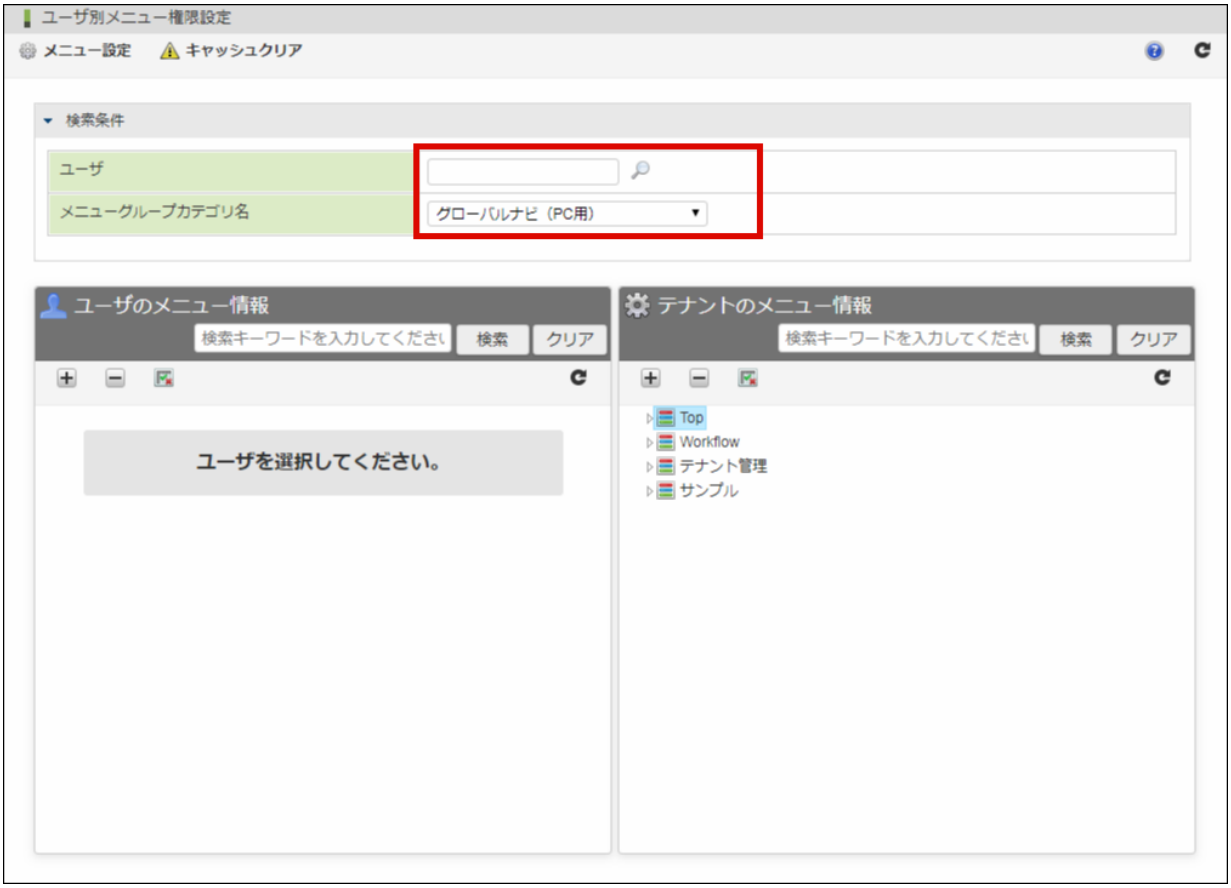
目次

- ユーザ毎のメニューの認可設定を確認する
- ユーザ毎にメニューの認可設定をする
  - メニューグループの認可設定をする
  - URL の認可設定をする
- メニューのキャッシュ情報を削除する

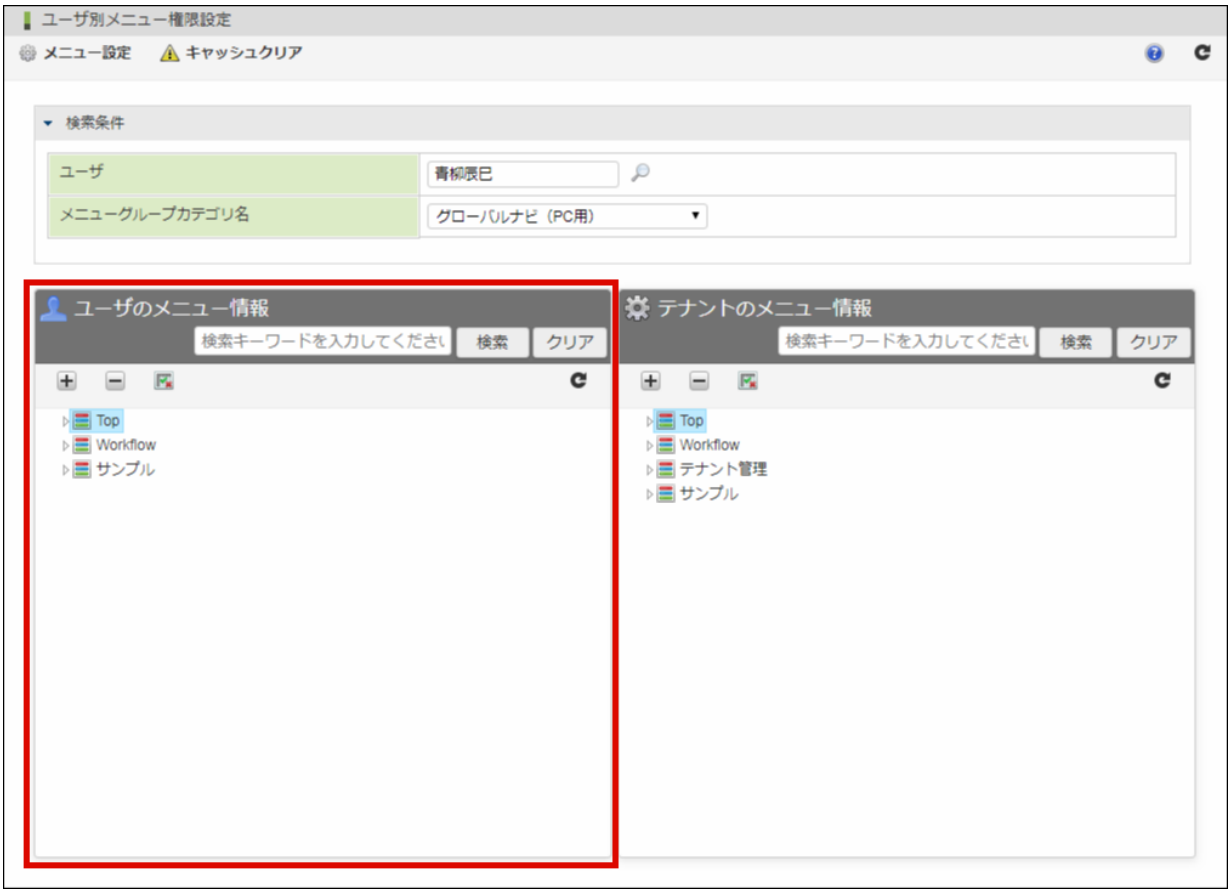
ユーザ毎のメニューの認可設定を確認する

ユーザ毎に参照できるメニューの確認をします。
メニューに設定されている認可設定に基づいて、「ユーザが参照できるメニュー」と「管理者が管理できるメニュー」を確認できます。

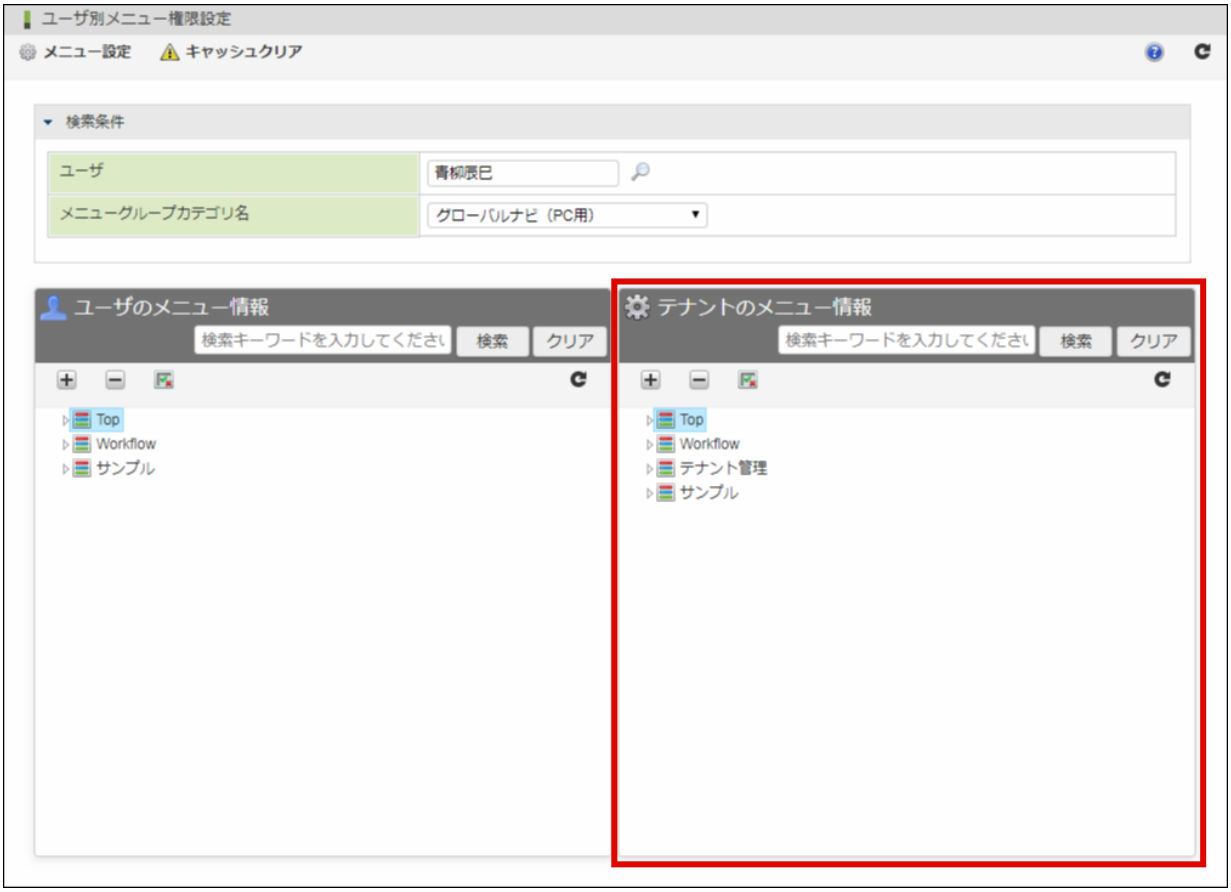
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ユーザ別メニュー権限」をクリックします。
2. ユーザと、メニューグループカテゴリ名を指定します。



3. 設定されている認可設定に基づいて、指定したユーザが参照できるメニューが表示されます。



4. 設定されている認可設定に基づいて、管理者が管理できるメニューが表示されます。



ユーザ毎にメニューの認可設定をする

ユーザ毎に以下のメニューの認可を設定できます。

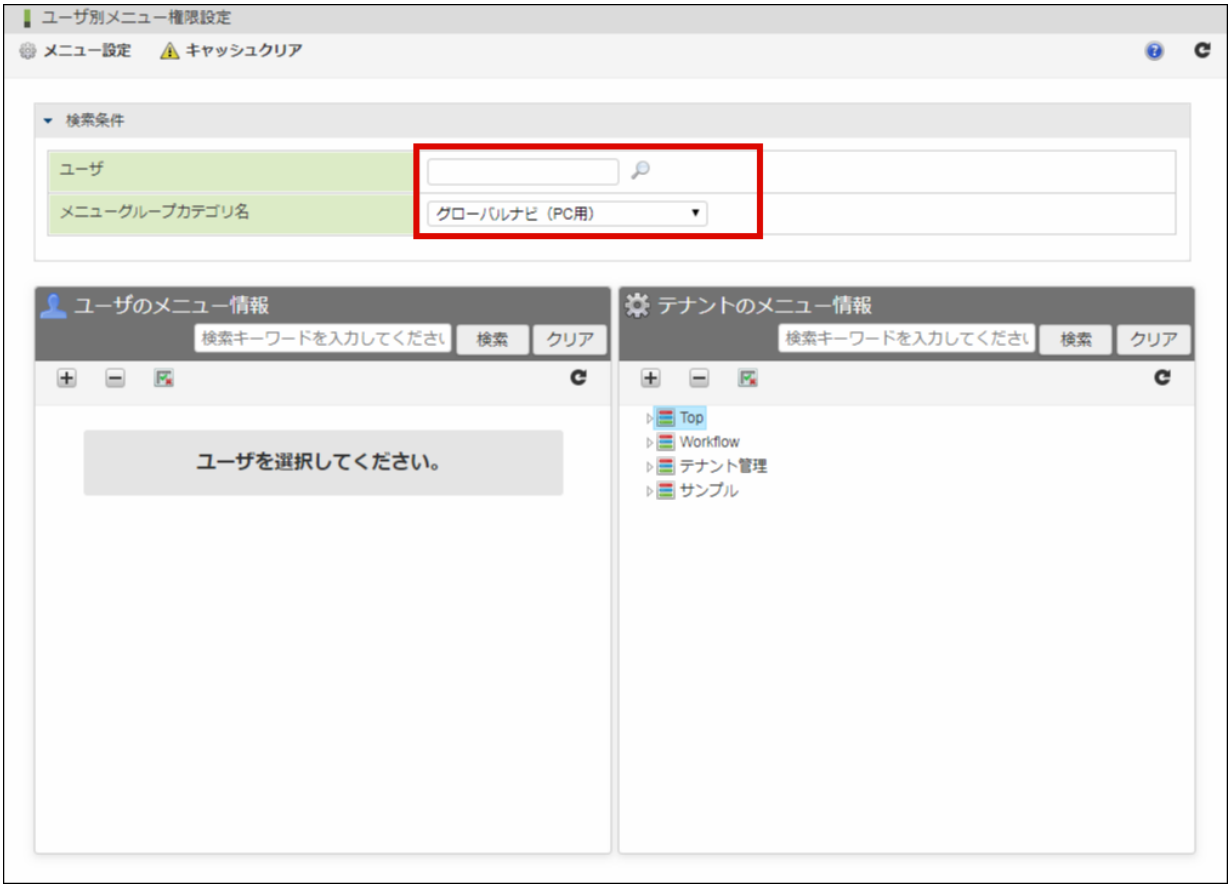
- メニューグループ
- メニューアイテムに設定された URL

> **注意**
>
> それぞれの認可の設定手順は後述しますが、以下のように認可設定画面を開く方法が異なります。
>
> - メニューグループの認可設定
>   - ツールバーにある**「権限設定」アイコンをクリック**する。
> - メニューアイテムに設定された URL の認可設定
>   - ツリー上の**「メニューアイテム」をダブルクリック**する。

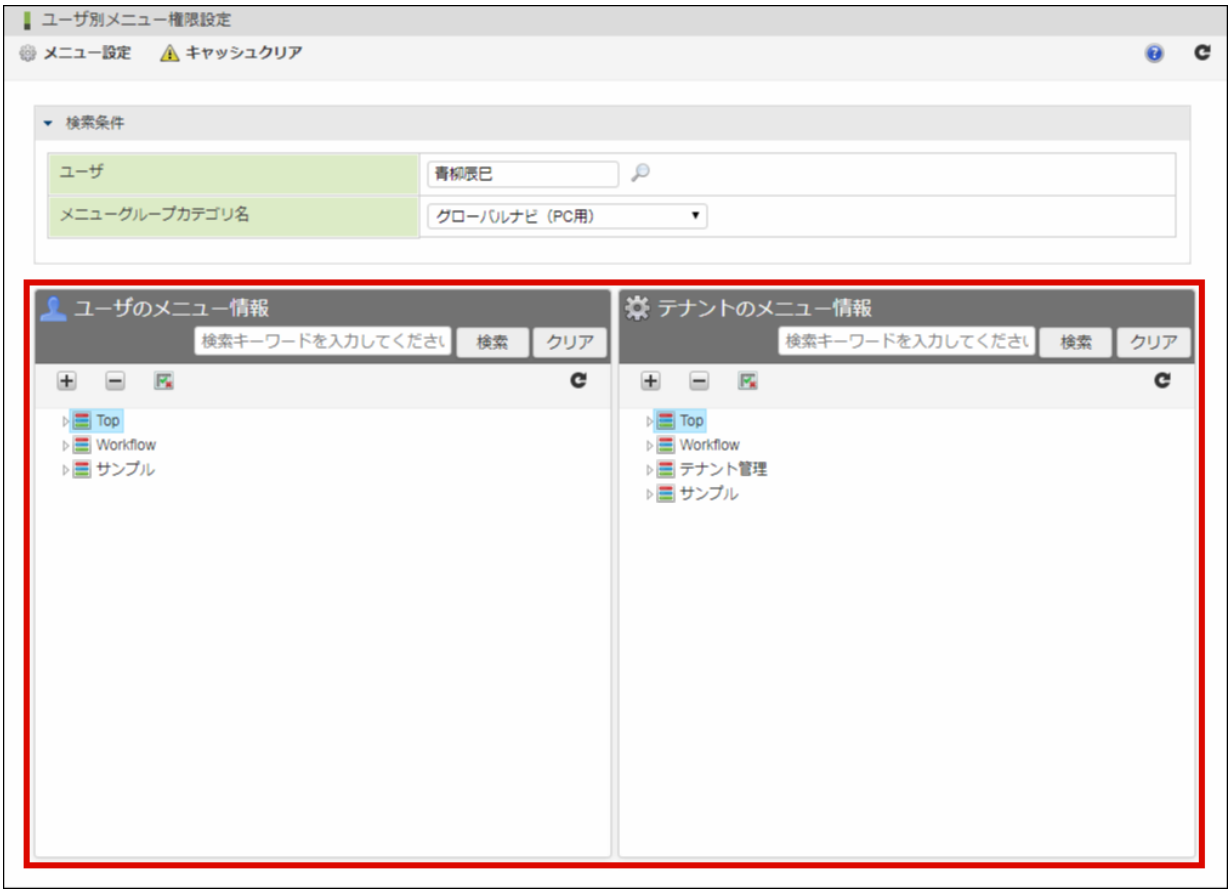
メニューグループの認可設定をする

ユーザ毎にメニューグループの認可設定を行います。

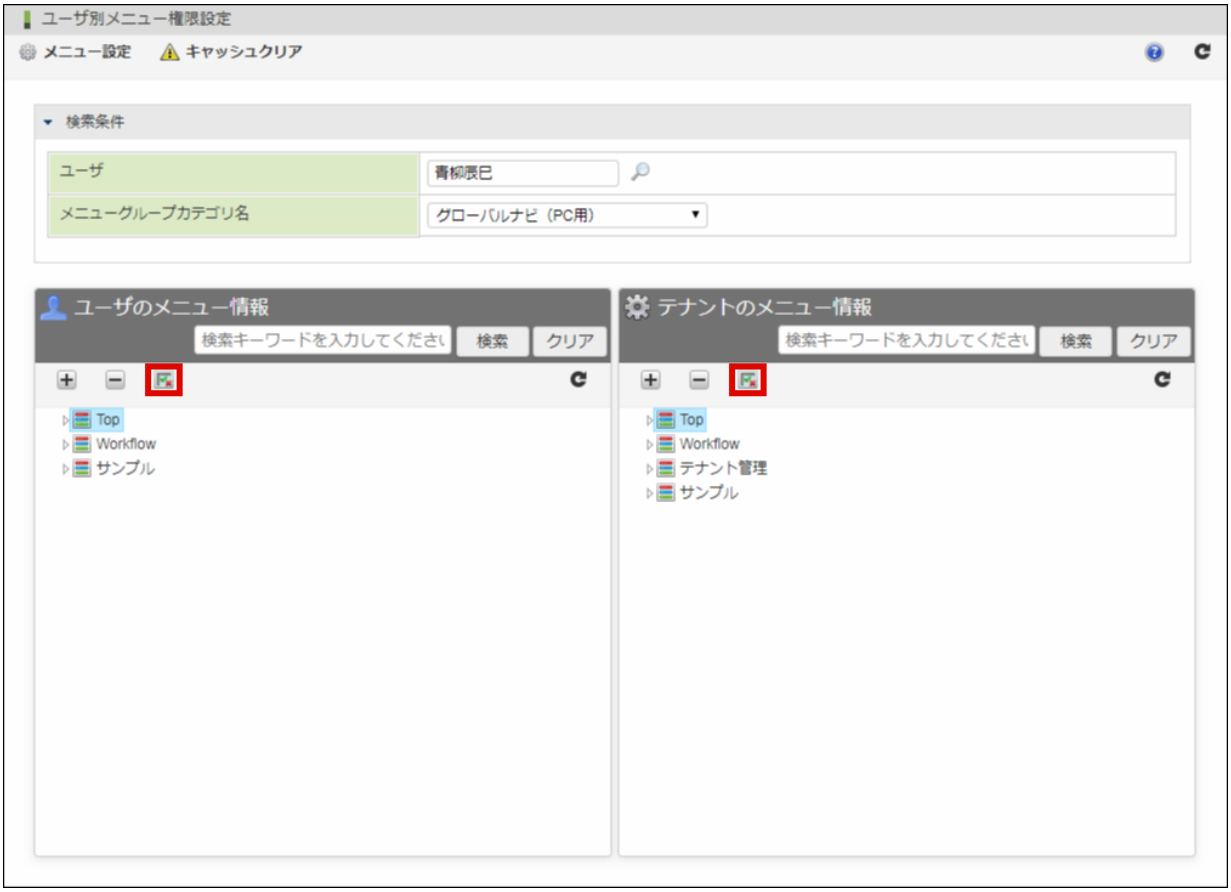
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ユーザ別メニュー権限」をクリックします。
2. ユーザと、メニューグループカテゴリ名を指定します。



3. 設定されている認可設定に基づいて、ユーザが参照できるメニューと管理者が管理できるメニューが表示されます。



4. ツールバーの「権限設定」アイコンをクリックして、認可設定画面を開きます。

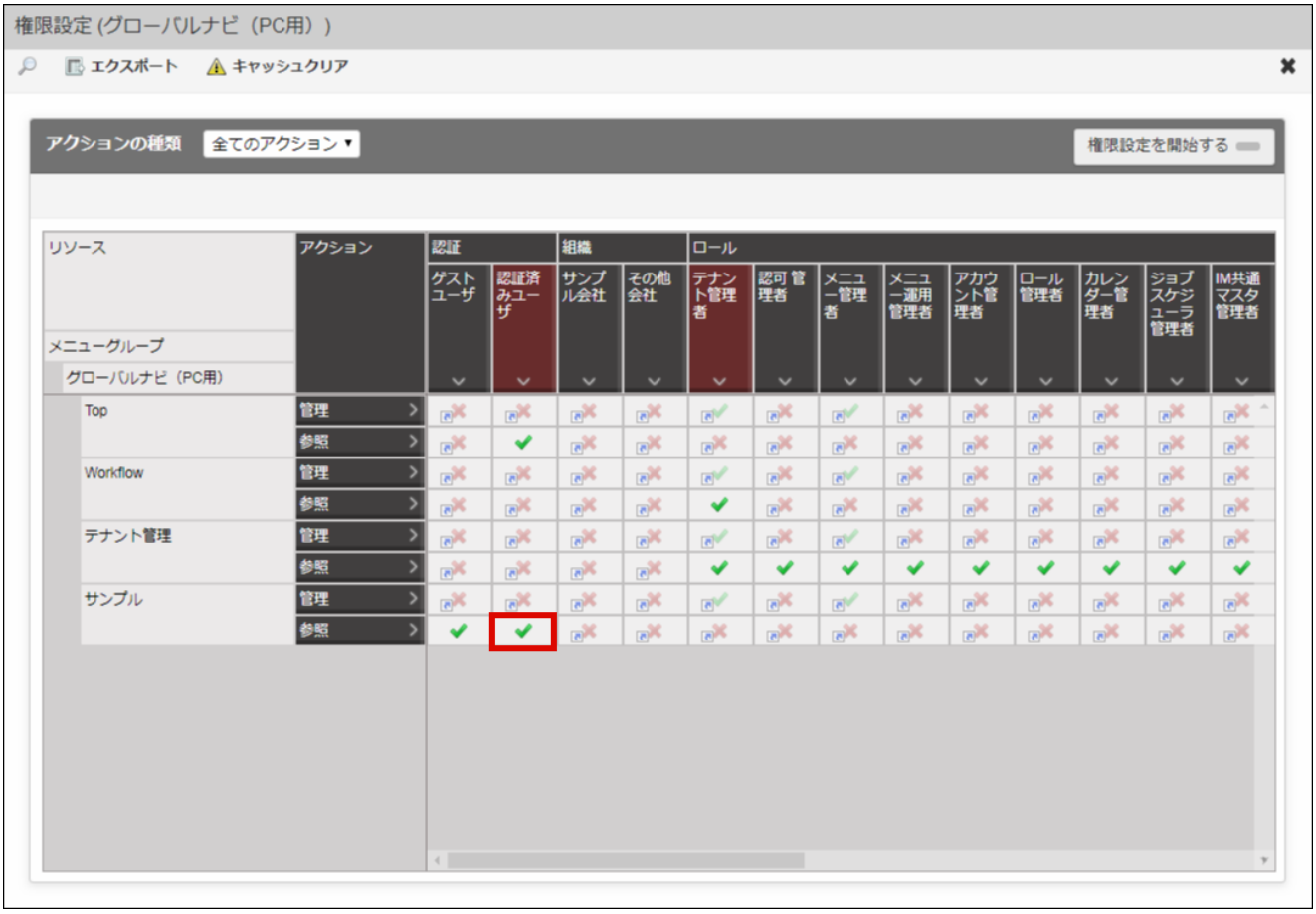


コラム

認可設定画面に表示されるリソースは、以下のメニューグループです。

- 「ユーザのメニュー情報」のツールバーにある「権限設定」アイコンをクリックした場合。
  - 「ユーザのメニュー情報」に表示されているメニューグループが表示されます。
- 「テナントのメニュー情報」のツールバーにある「権限設定」アイコンをクリックした場合。
  - 「テナントのメニュー情報」に表示されているメニューグループが表示されます。

5. メニューグループの認可を設定します。
   設定方法については「*認可を設定する*」を参照してください。

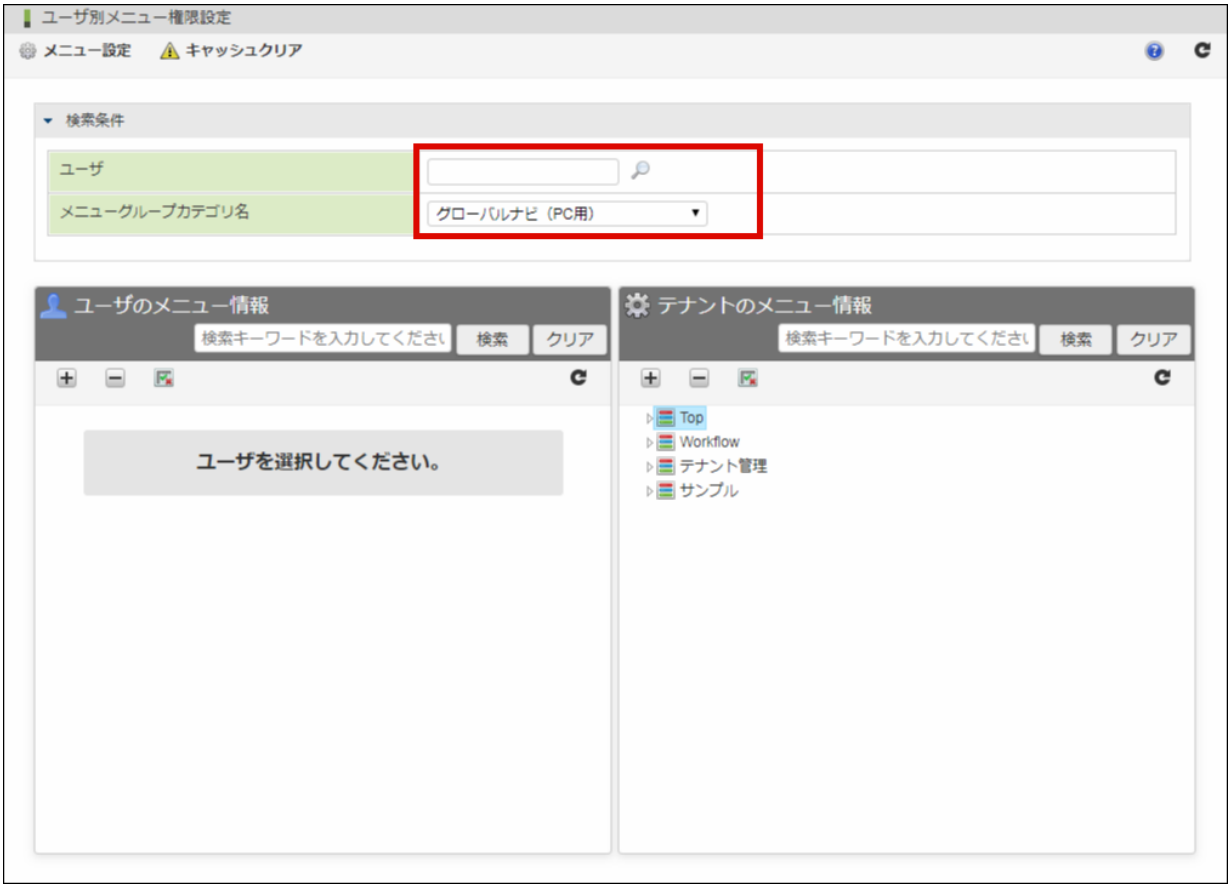


各メニューグループにおいて、認可では 2 つのアクションを持ちます。
各アクションの詳細については、「*メニューを設定する*」 - 「*メニューグループの認可設定をする*」を参照してください。

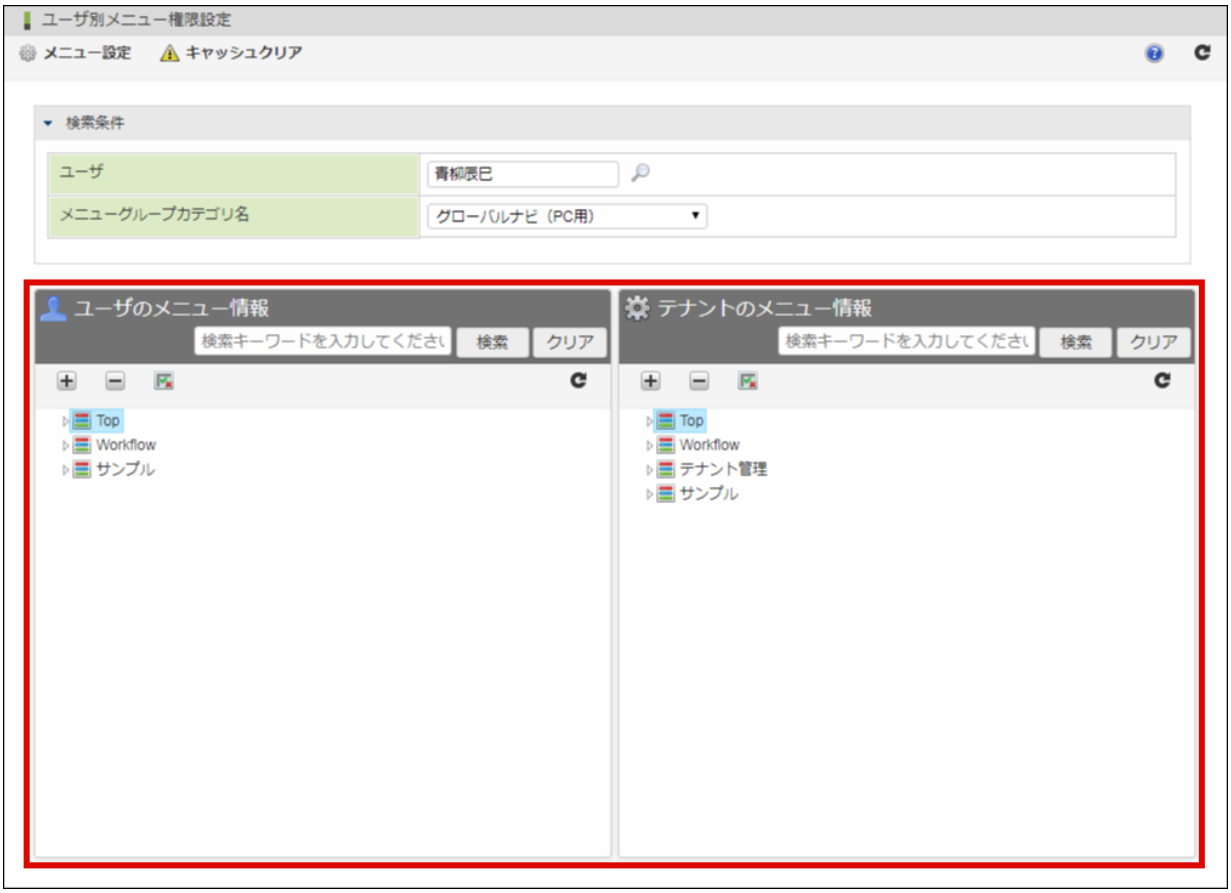
URL の認可設定をする

ユーザ毎にメニューアイテムのリンク先の URL の認可設定を行います。

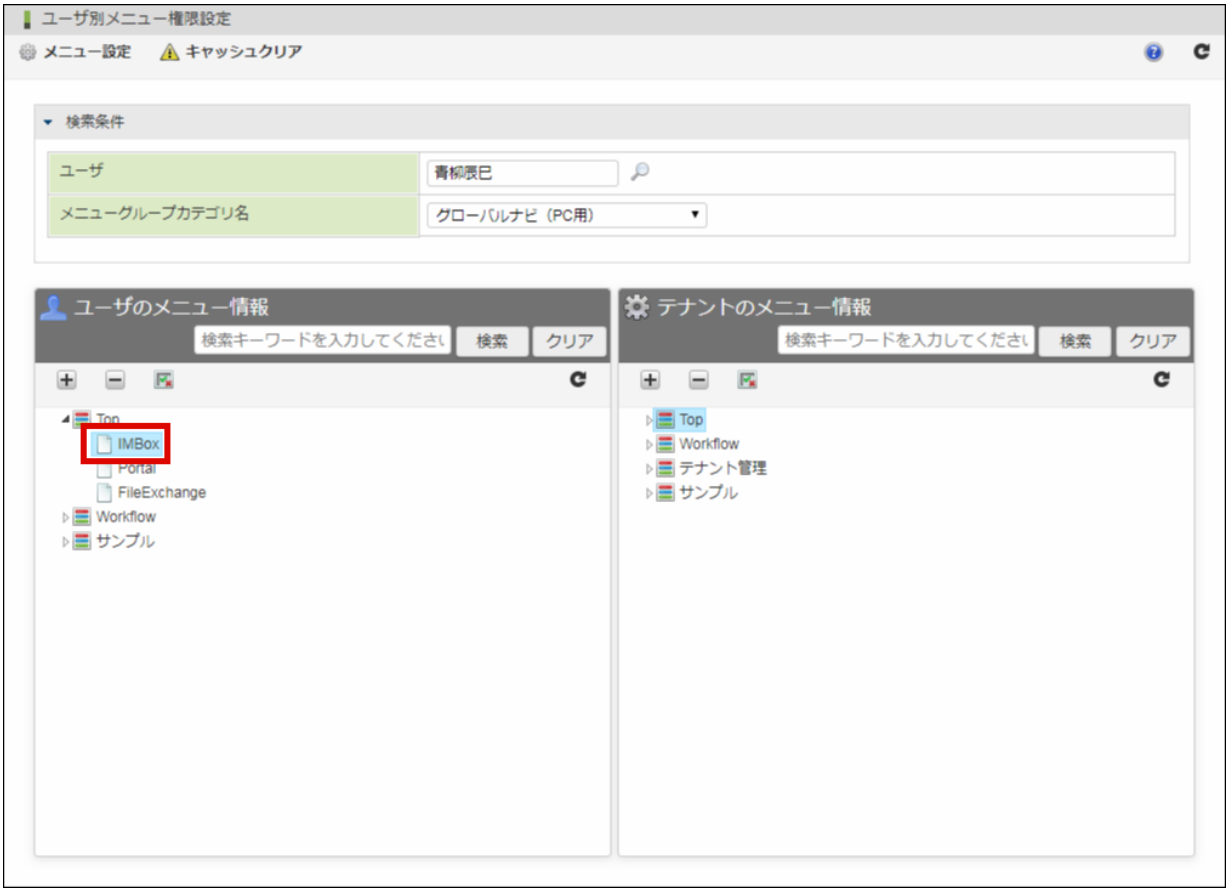
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ユーザ別メニュー権限」をクリックします。
2. ユーザと、メニューグループカテゴリ名を指定します。



3. 設定されている認可設定に基づいて、ユーザが参照できるメニューと管理者が管理できるメニューが表示されます。

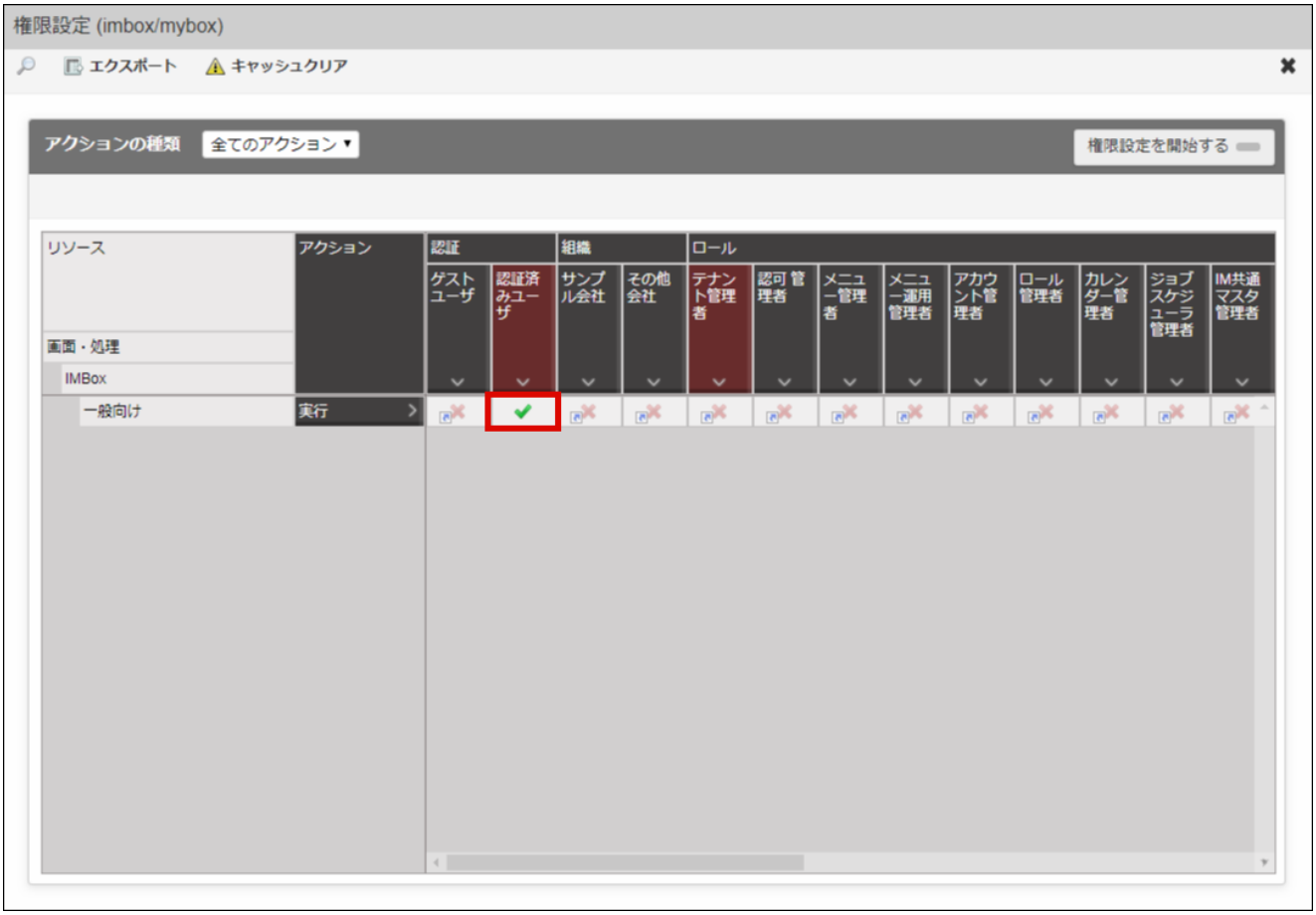


4. ツリー上に表示されている「メニューアイテム」を**ダブルクリック**して、認可設定画面を開きます。



> **コラム**
>
> **メニューアイテムのリンク先の URL の認可設定**ではなく、**メニューグループの認可設定**を行いたい場合、ツールバー上の「権限設定」アイコンをクリックしてください。

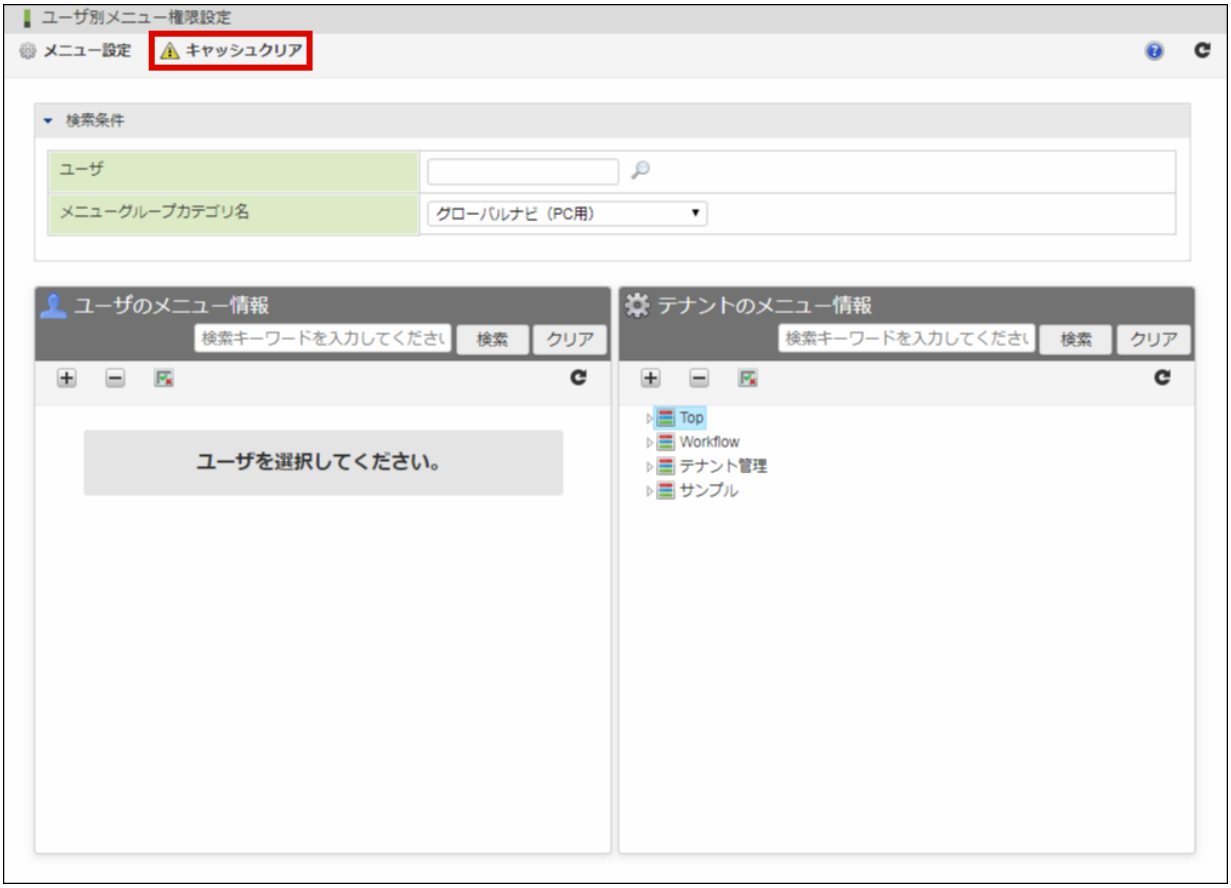
5. メニューアイテムに設定されている URL の認可を設定します。
   設定方法については「*認可を設定する*」を参照してください。



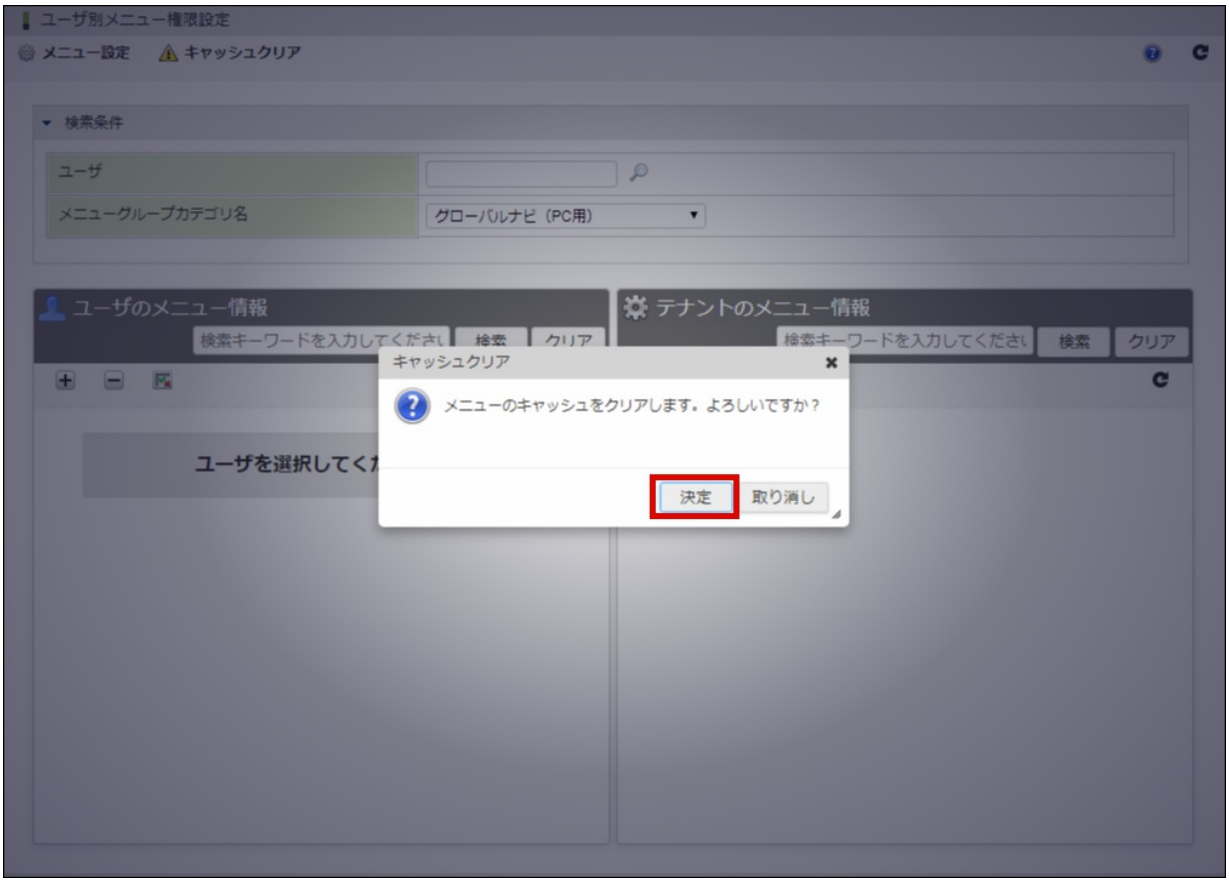
メニューのキャッシュ情報を削除する

一部のメニューは表示を高速化するために情報をキャッシュしています。
「外部メニュー連携」機能利用時は運用中に連携先サーバのメニューを変更した際にキャッシュによって最新のメニューが表示されない可能性があります。
連携先サーバのメニューに変更があった場合、メニューのキャッシュ情報を削除してください。

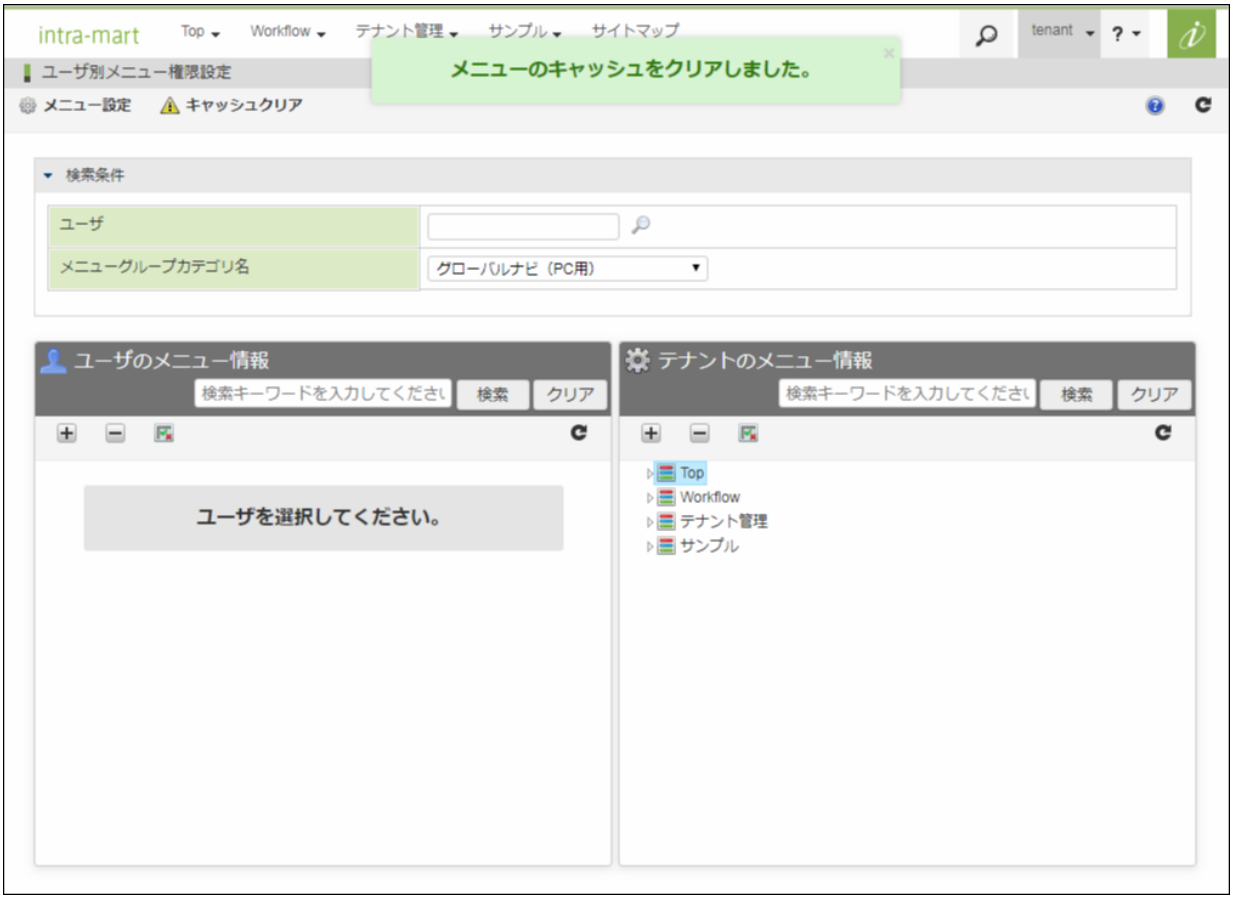
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ユーザ別メニュー権限」をクリックします。
2. 「キャッシュクリア」をクリックします。



3. 「決定」をクリックします。



4. メニューのキャッシュが削除されました。



ロールを設定する

認可設定等で権限設定内容をまとめる単位としてロールを設定します。

目次

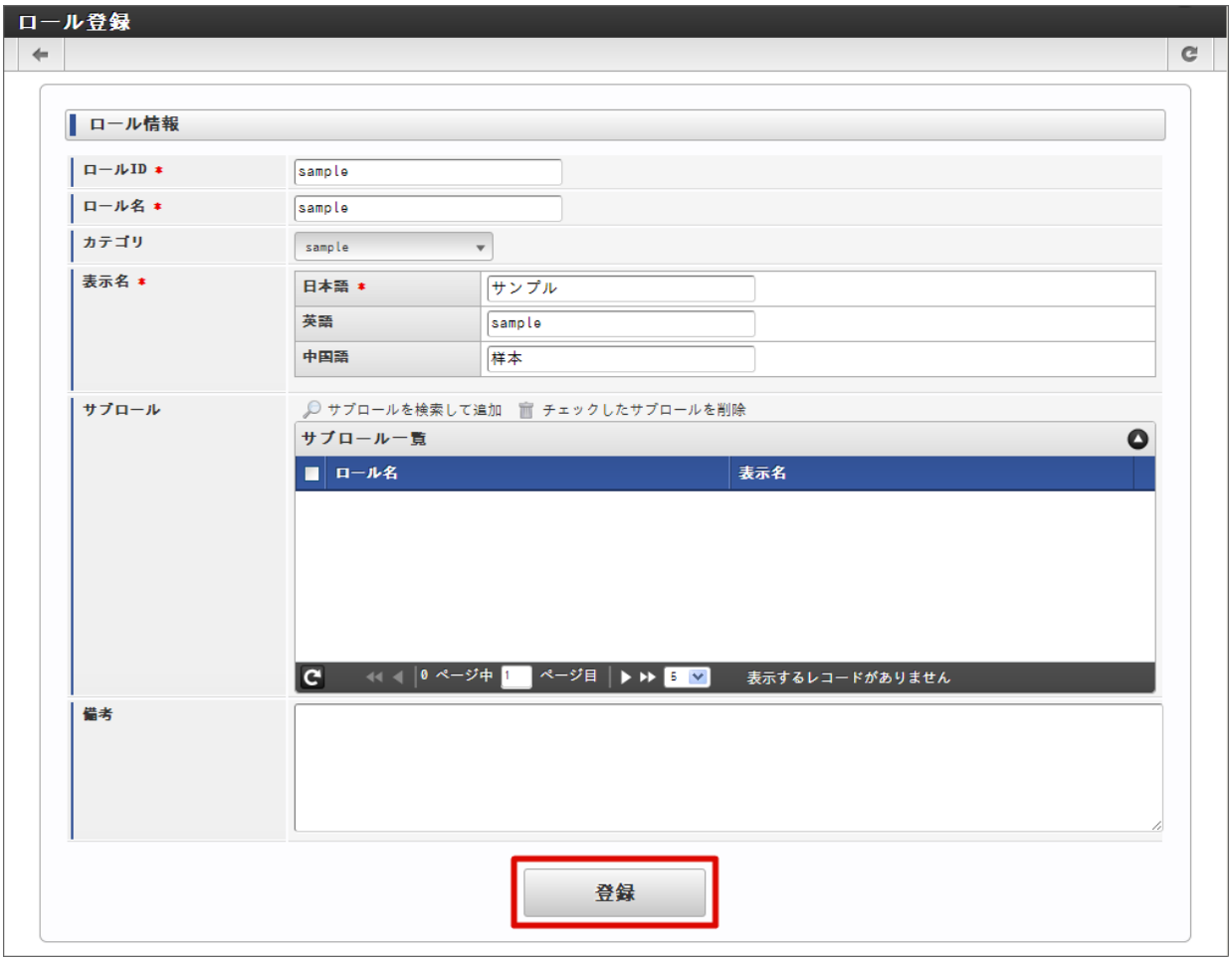
- ロールを登録する
- 複数のユーザに対してロールを一括付与・剥奪する

ロールを登録する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ロール」をクリックします。
2. 「新規登録」をクリックします。

3. 内容を入力します。
   - カテゴリ
     ロールがどの機能で利用されているかなどをまとめて管理するための分類を選択または入力します。
   - サブロール
     ロールにサブロールを追加したい場合は「サブロールを検索して追加」をクリックします。
     設定したサブロールを削除する場合は「チェックしたサブロールを削除」をクリックします。

4. 「登録」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



5. ロールが登録できました。

コラム

編集する場合

1. アイコンをクリックします。
2. 編集画面が表示されるので、内容を編集します。

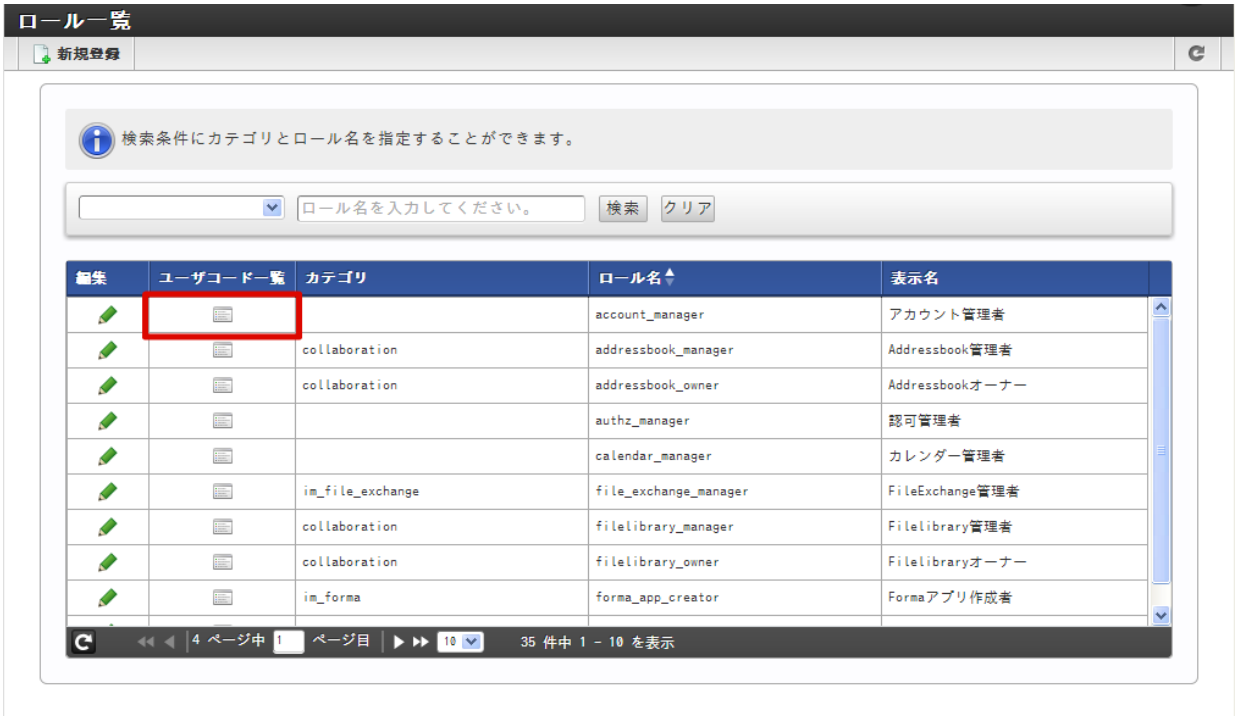
コラム

削除する場合

1. アイコンをクリックします。「ロール編集」画面が表示されます。
2. 「削除」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

複数のユーザに対してロールを一括付与・剥奪する

1. ユーザに対して付与したいロールの「ユーザコード一覧」をクリックします。



2. 「ユーザ追加」をクリックします。

3. ユーザ検索画面でロールを付与したいユーザを選択し、「選択」をクリックします。
   ユーザを選択し終わった後「決定」をクリックします。

4. ユーザに対してロールが付与できました。
   初期状態では、有効期間が登録日～システム終了日の前日に設定されます。
   有効期間を変更する場合は、変更したいユーザのチェックボックスをオンにして、「選択済みユーザの有効期間を変更」をクリックします。

5. 有効期間の変更ダイアログが表示されたら、有効期間を入力し、「決定」をクリックします。

6. 確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

> コラム
> **ロールを剥奪する場合**
>
> 1. ロールを剥奪したいユーザのチェックボックスをオンにして、「選択済みのユーザを削除」をクリックします。
> 2. 確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

カレンダーをメンテナンスする

ユーザが利用するカレンダーを設定します。
カレンダーごとに休日やイベントを分けて設定できます。

- 複数のカレンダー（日本、米国のカレンダー）をまとめて表示する（日本の休日も米国の休日もカレンダーに表示するなど）
- 個別の休日・記念日等の設定する

カレンダー設定では以下の単位でカレンダー構成を管理します。

- カレンダー
  ユーザがアプリケーションで使用するカレンダーです。

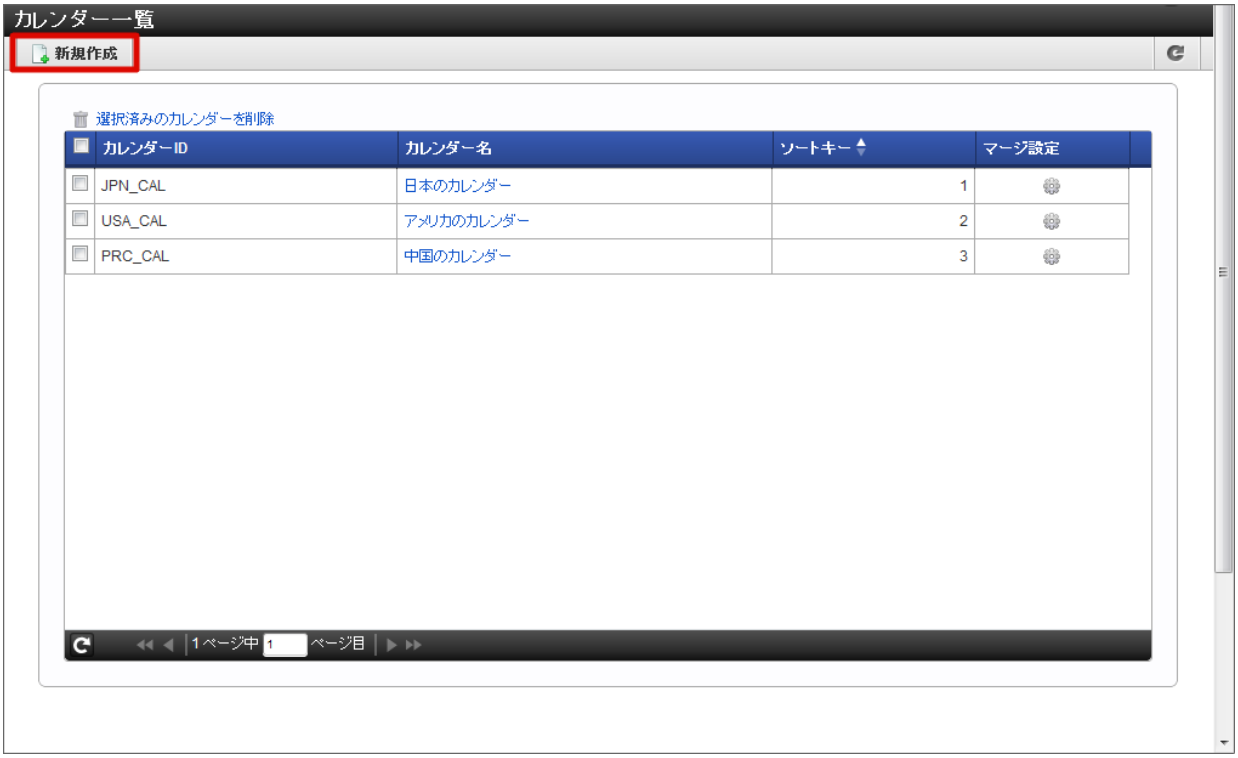
  いくつかの日付情報セットをマージし、曜日設定を加えたものです。
  カレンダーはユーザ毎に設定できます。
- 日付情報セット
  日付情報を意味のある単位でまとめたグループです。
  例）会社や日本の祝日など
- 日付情報
  特定の日付におけるイベント（記念日、休日等）についての情報です。

目次

- カレンダーを設定する
- 日付情報セットを設定する
- 日付情報を設定する
- カレンダーをマージする

カレンダーを設定する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「カレンダーメンテナンス」をクリックします。
2. 「新規作成」をクリックします。

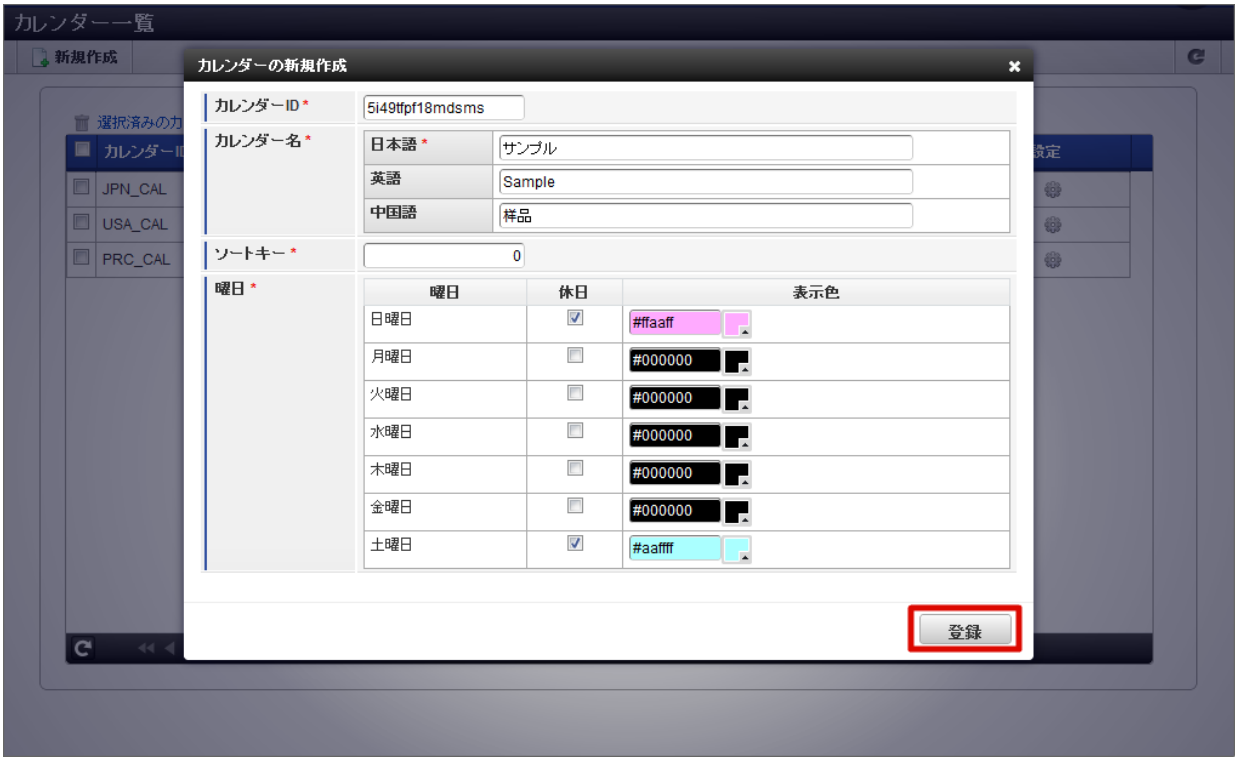


3. 内容を入力します。
   - 曜日

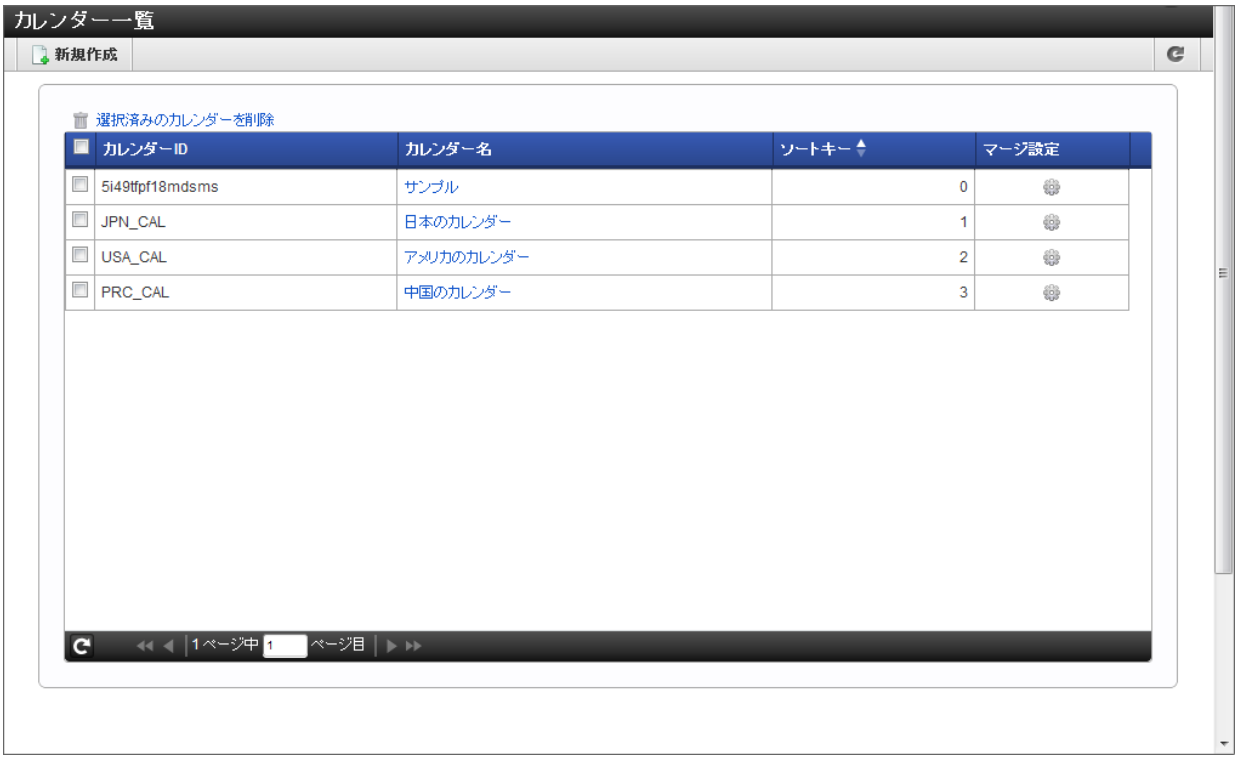
対象の曜日を休日扱いとしたい場合、休日欄のチェックボックスをオンにします。

日付の文字色を指定したい場合、 アイコンをクリックすると色を選択する画面が表示されます。

4. 「登録」をクリックします。



5. カレンダーを登録することができました。



コラム

編集する場合

1. カレンダー名のリンクをクリックします。
2. 編集画面が表示されるので、内容を編集します。

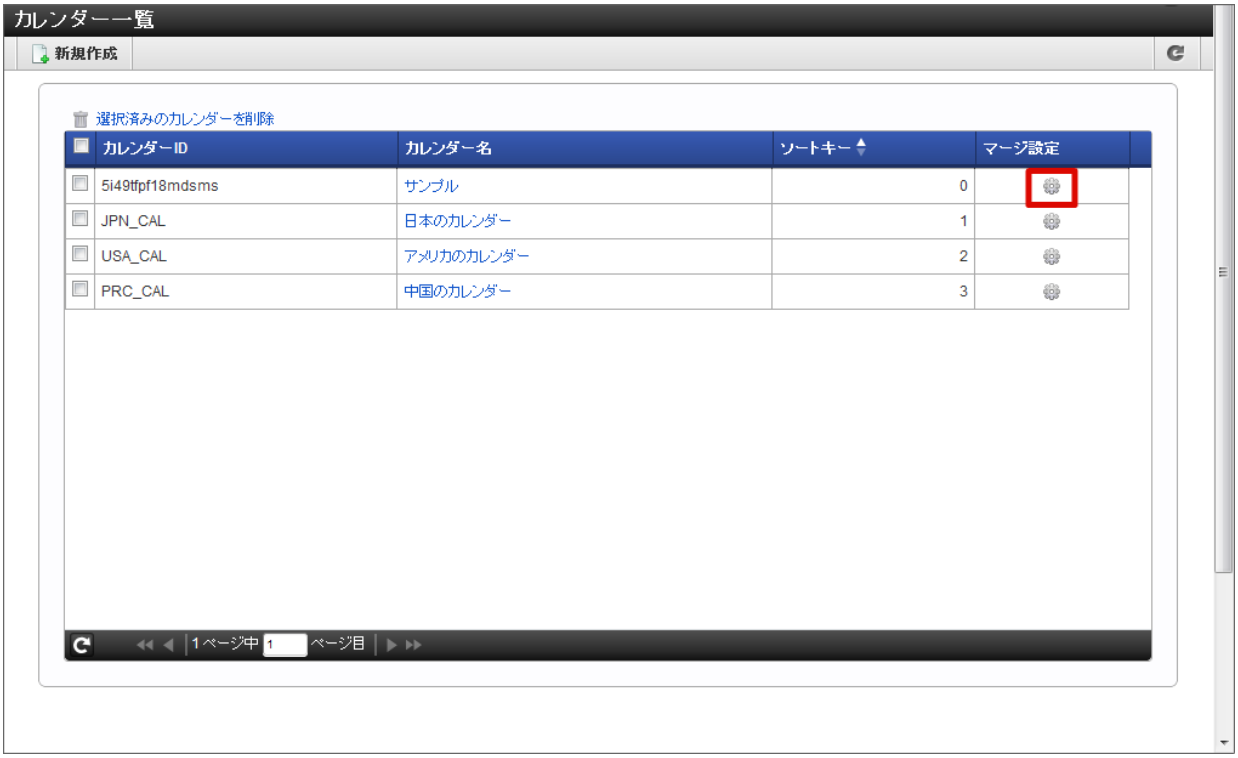
コラム

削除する場合

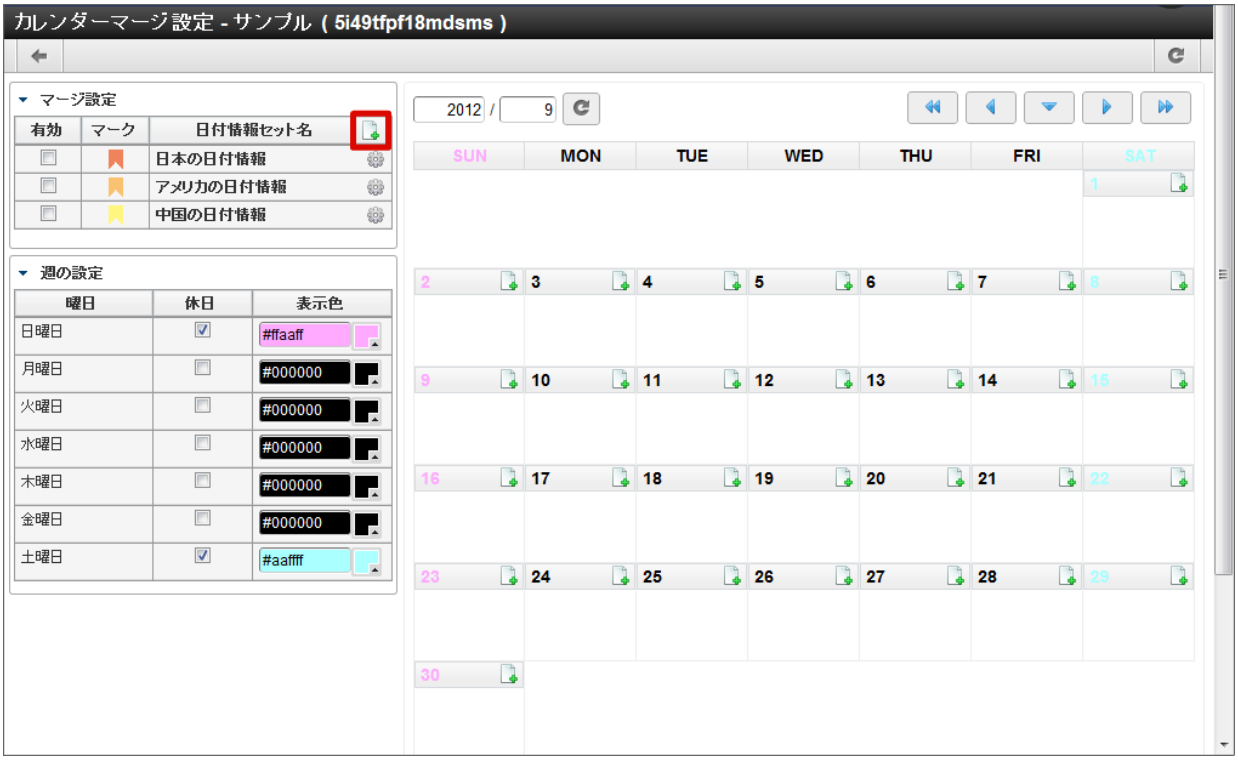
1. 削除したいカレンダーにチェックをつけます。
2. 「選択済みのカレンダーを削除」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

日付情報セットを設定する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「カレンダーメンテナンス」をクリックします。
2. アイコンをクリックします。



3. マージ設定の アイコンをクリックします。

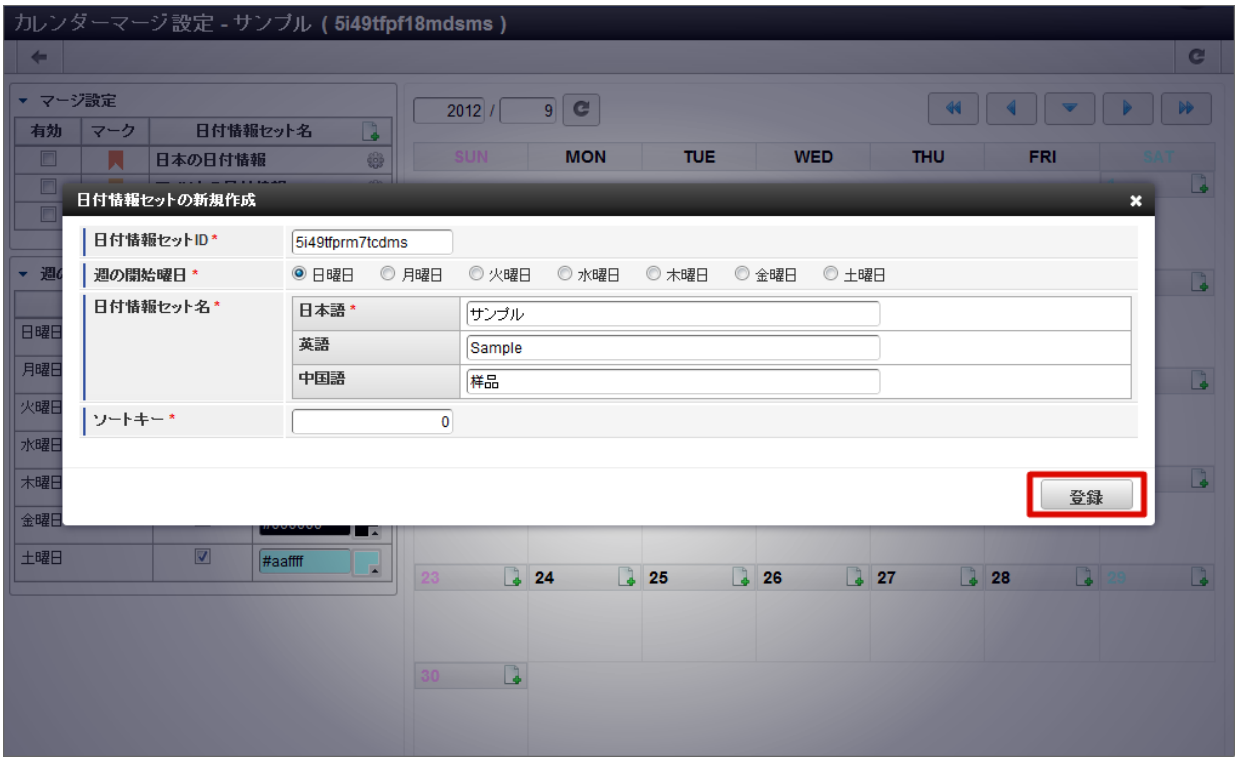


4. 内容を入力します。
    - 週の開始曜日

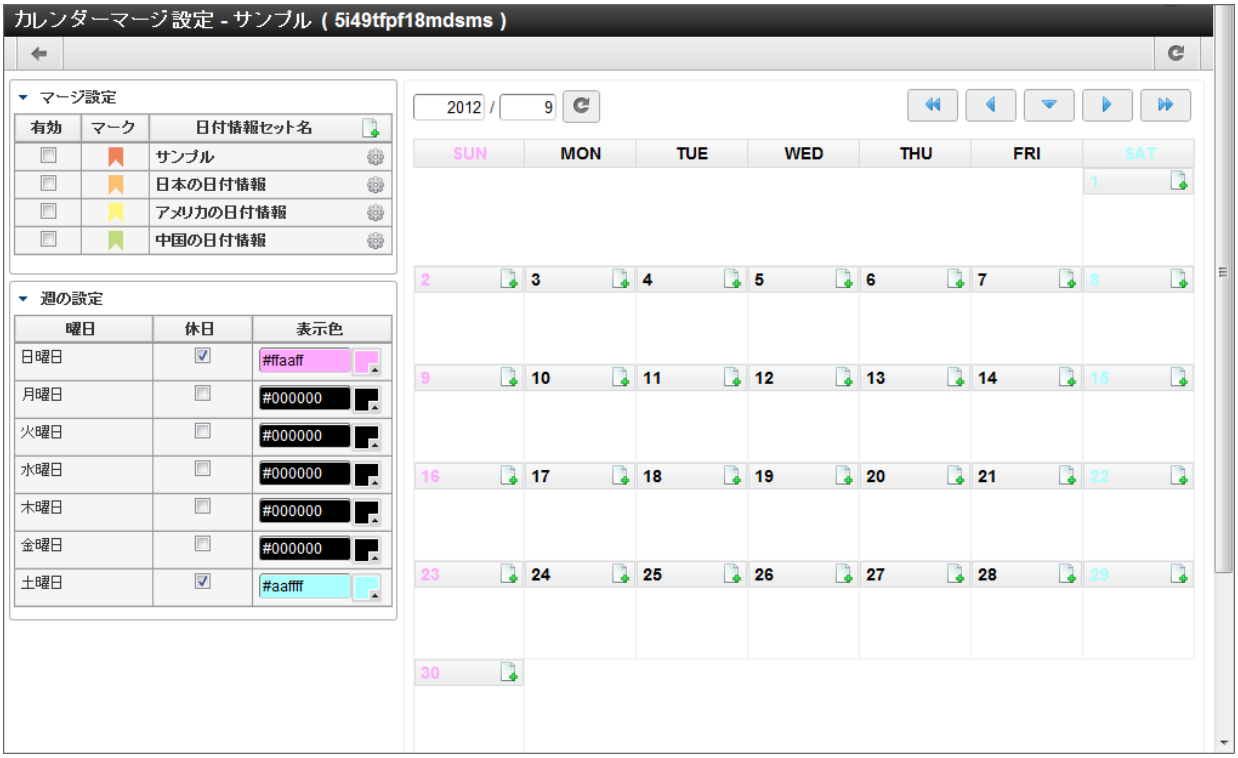
      日付情報に第何週かを指定した時に使用する、内部判定用の設定です。

      週の開始曜日が違う日付情報セットをマージしても、各日付情報セットごとに週番号の計算がされます。

5. 「登録」をクリックします。



6. 日付情報セットを設定することができました。



コラム

編集する場合

1. マージ設定の アイコンをクリックします。
2. 編集画面が表示されるので、内容を編集します。

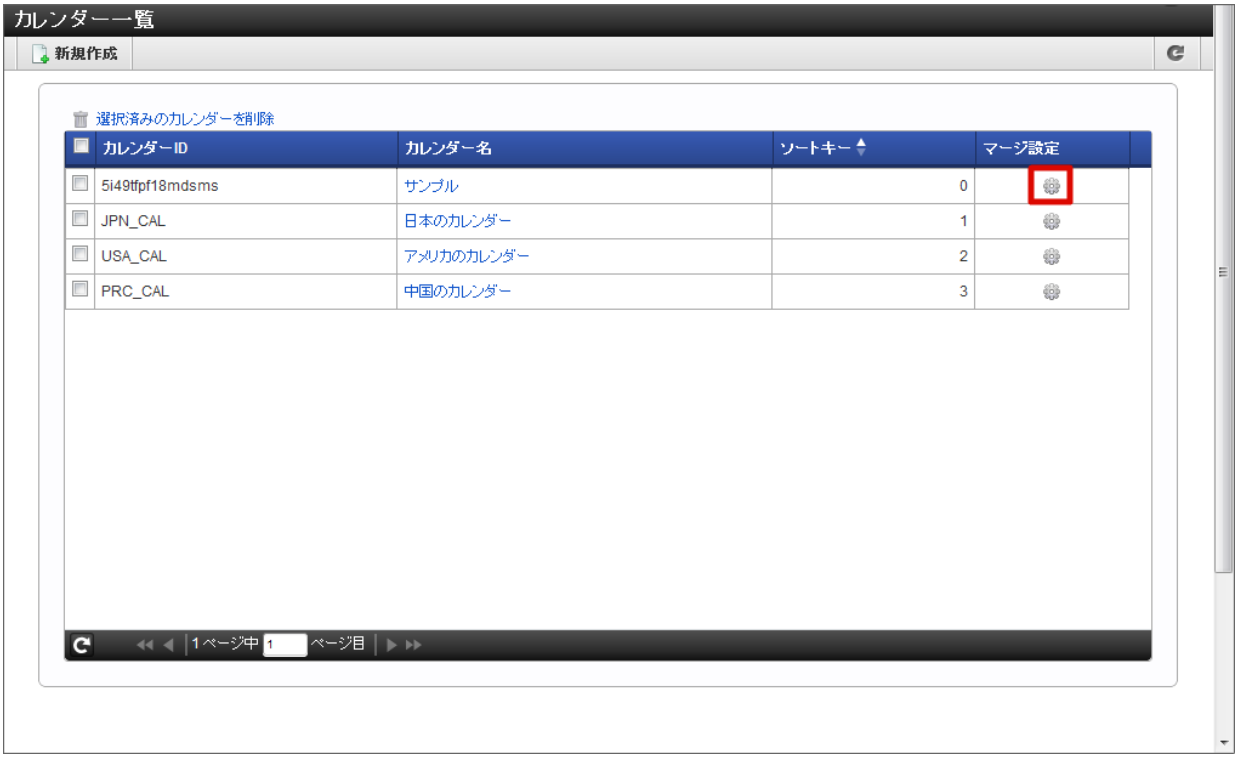
コラム

削除する場合

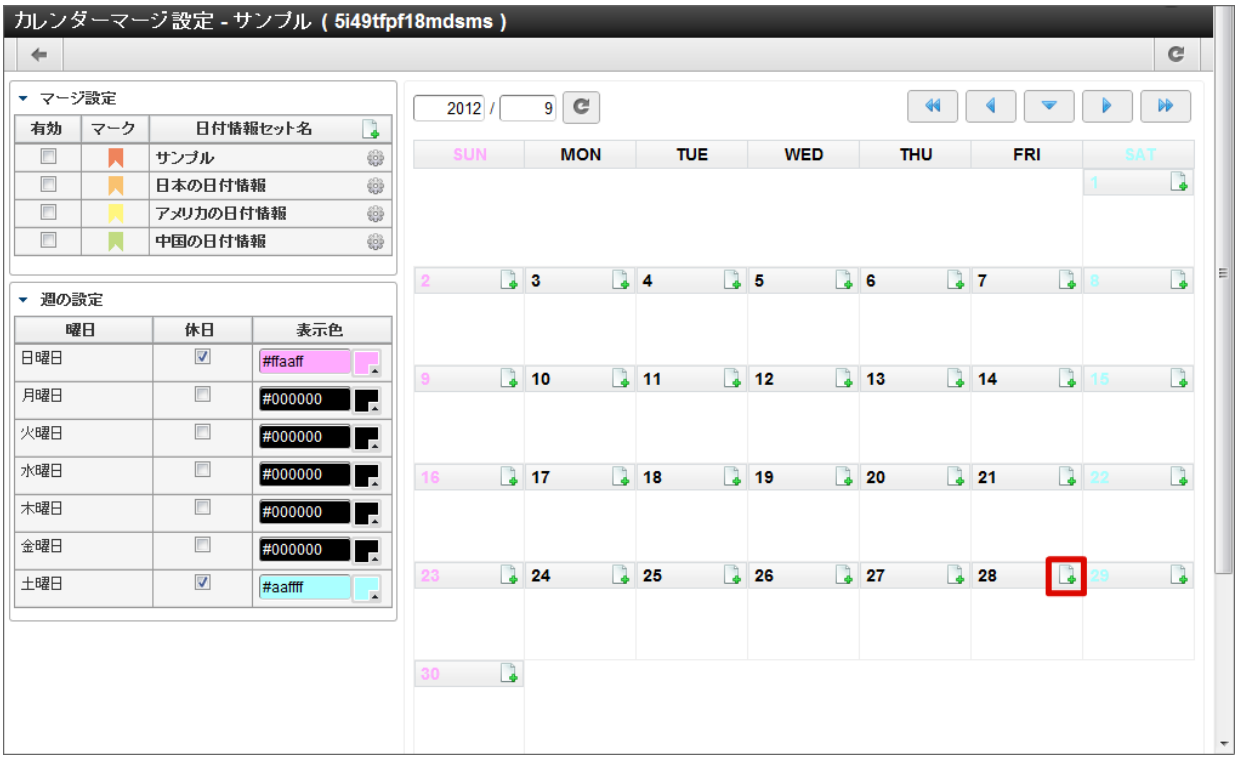
1. マージ設定の アイコンをクリックします。
2. 「削除」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

日付情報を設定する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「カレンダーメンテナンス」をクリックします。
2. アイコンをクリックします。



3. カレンダー上の アイコンをクリックします。



4. 内容を入力します。
   - 表示色

     アイコンをクリックすると色を選択する画面が表示されます。

   - データタイプ

     設定した日付の分類を設定します。

     平日

     平日にする日に登録するデータタイプです。休日より優先されます。

     通常は使用しません。休日が登録されている日を営業日に変更したい場合に使用します。

     【例】6月24日 日曜日（休日） + 出勤日（平日）

この場合、平日が最優先されるため、6月24日は平日として扱われます。

休日

休日にする日に登録するデータタイプです。

【例】6月24日 日曜日（休日）

この場合、6月24日は休日として扱われます。

名称

平日でも休日でもないイベント用のデータタイプです。

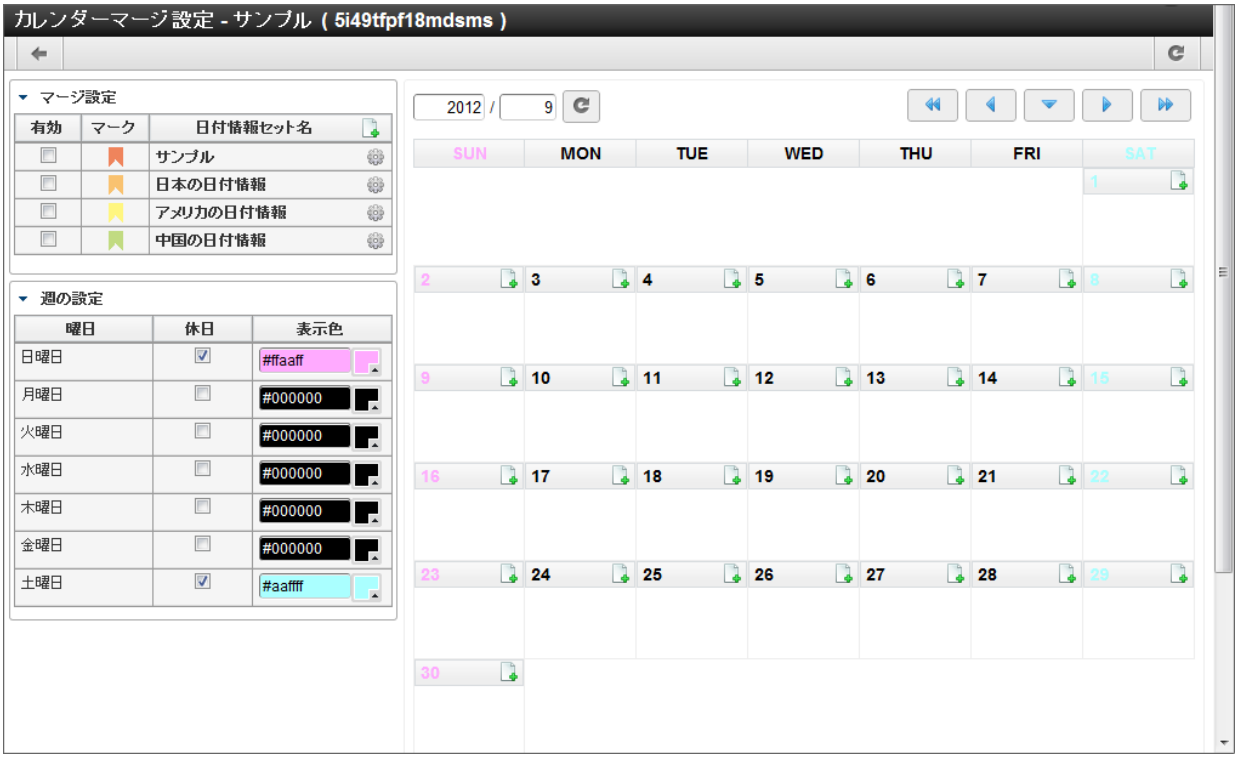
- 有効開始年、有効終了年

  日付情報の有効期間を年単位で設定します。

  有効期間には、指定した年（開始年、終了年）を含みます。

5. 「登録」をクリックします。

6. 日付情報を設定することができました。



コラム

編集する場合

1. マージ設定の アイコンをクリックします。
2. 「日付情報一覧」をクリックします。
3. 対象の日付情報名リンクをクリックします。
4. 編集画面が表示されるので、内容を編集します。

「日付情報一覧画面」では、日付情報セットに登録されている日付情報を表示します。
「平日」「休日」「名称」別に確認できます。

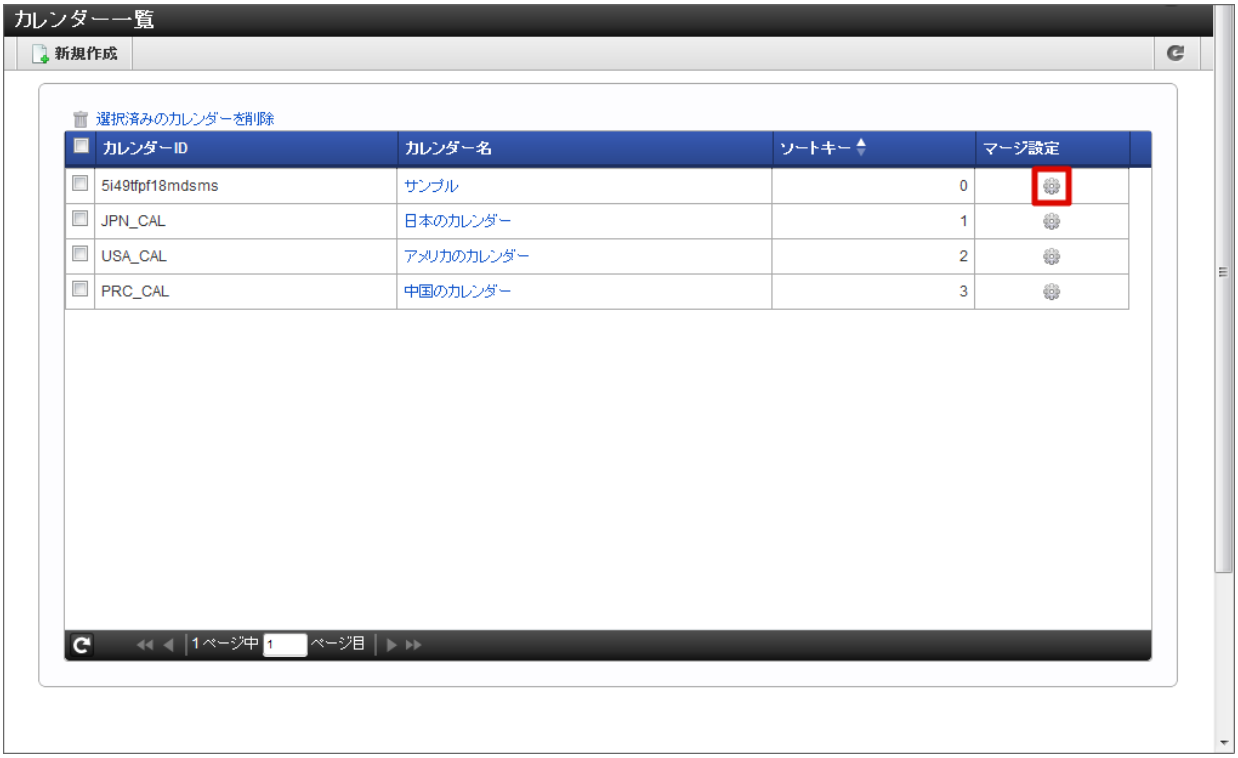
コラム

削除する場合

1. マージ設定の アイコンをクリックします。
2. 「日付情報一覧」をクリックします。
3. 対象の日付情報のチェックボックスをオンにします。
4. 「選択済みの日付情報を削除」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

カレンダーをマージする

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「カレンダーメンテナンス」をクリックします。
2. アイコンをクリックします。



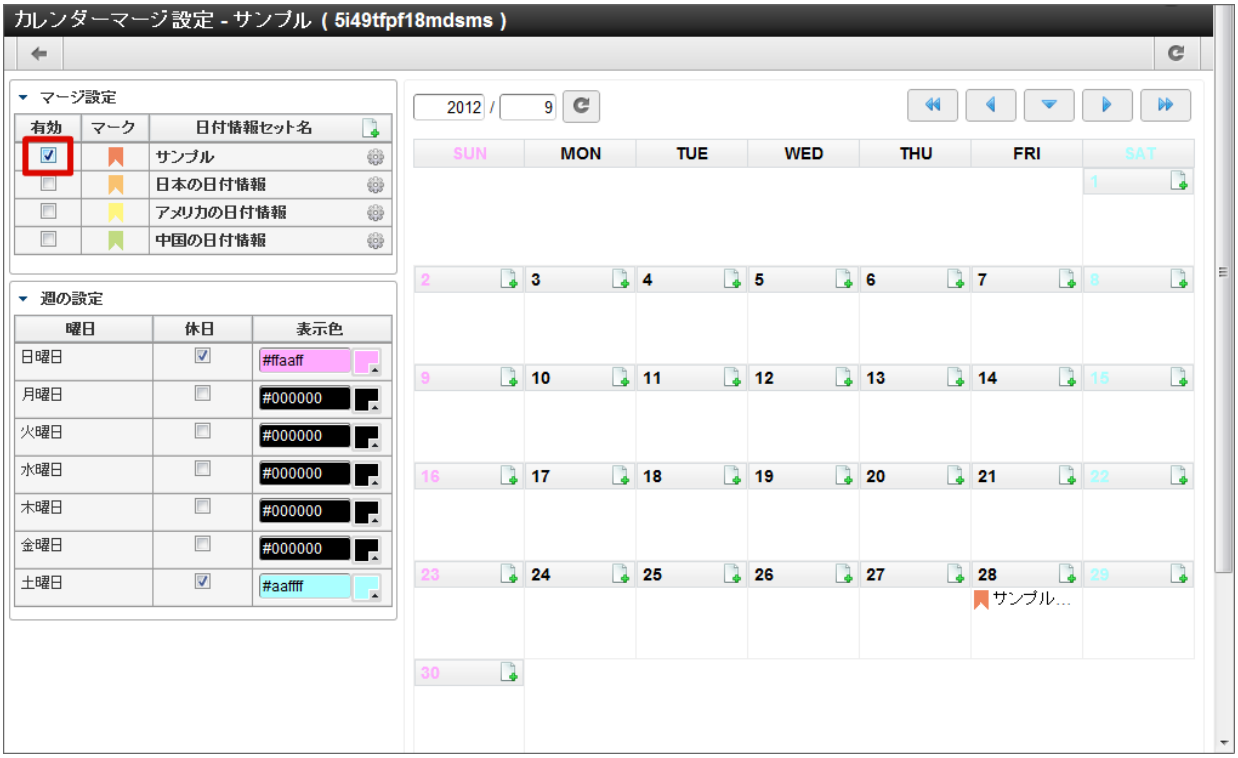
3. 「マージ設定」よりマージする日付情報セットにチェックをいれます。
   - 有効

     登録済みの日付情報セットで、マージ対象とするものをチェックボックスのON/OFFで切り替えます。
     チェックボックスにチェックを入れると、マージした日付情報セットをこのカレンダーに表示するよう設定されます。

   - マーク

     右のカレンダープレビューで使用する目印アイコンです。
     このアイコンの色は一時的に使用するものであり、永続化されません。
     設定変更後、画面再読込で色が変わる場合があります。
     上限24色まで設定されています。上限を超えるとグレーで表示されます。
     色は、マージ対象の日付情報セットに優先的に割り当てられます。
     マークをドラッグすることで、日付情報セットの優先順位を並び替えることができます。（マージ対象の日付情報セットのみ）

4. カレンダーに日付情報セットをマージできました。



カレンダー情報を設定する

ユーザが利用するカレンダーを設定します。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「カレンダー」をクリックします。
2. 設定したい値を選択します。
   - 週の開始日
     表示するカレンダーの週の開始曜日を選択できます。
   - カレンダー
     登録されているカレンダーから選択できます。
3. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

4. 利用するカレンダーを設定できました。

コラム
週の開始曜日を変更すると、表示するカレンダーで曜日の並び順序が変わります。

タイムゾーンを設定する

ユーザが利用するタイムゾーンを設定します。
タイムゾーンを適切に設定することで、国外などの利用において、その国・地域の時刻でシステムを利用できます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「タイムゾーン」をクリックします。
2. タイムゾーンを選択します。

3. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

4. 利用するタイムゾーンを設定できました。

日付と時刻の形式を設定する

ユーザが画面に表示する「日付」と「時刻」の形式を初期設定します。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「日付と時刻の形式」をクリックします。
2. 形式の切り替えから利用する形式を選択します。
3. 日付と時刻の各フォーマットに対してパターンを選択します。

4. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

5. 利用する日付と時刻の形式を設定できました。

注意

システム管理者によって日時の入力形式に対しての変更が許可されている場合のみ「入力」のフォーマットを変更することができます。

テーマを変更する

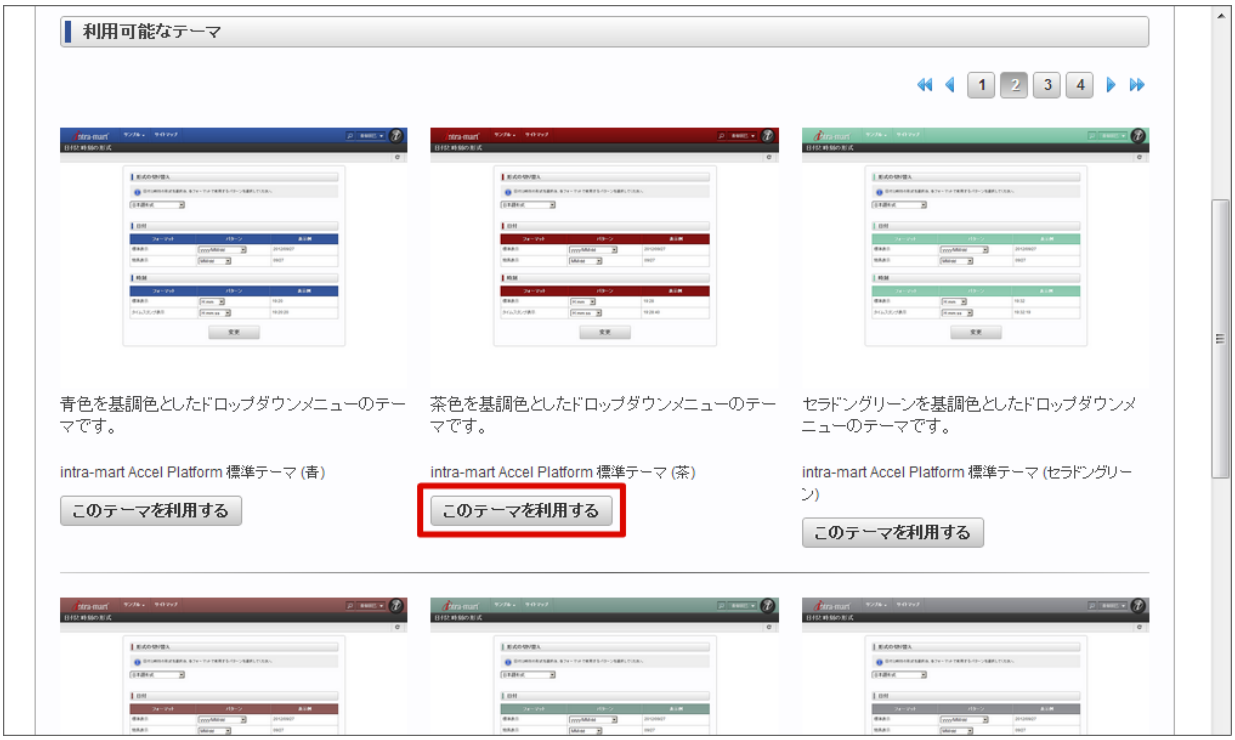
ユーザが利用する画面のテーマを設定します。
テーマには様々な種類があり、それぞれのテーマによって画面の構成・色合いなどが変わります。

目次

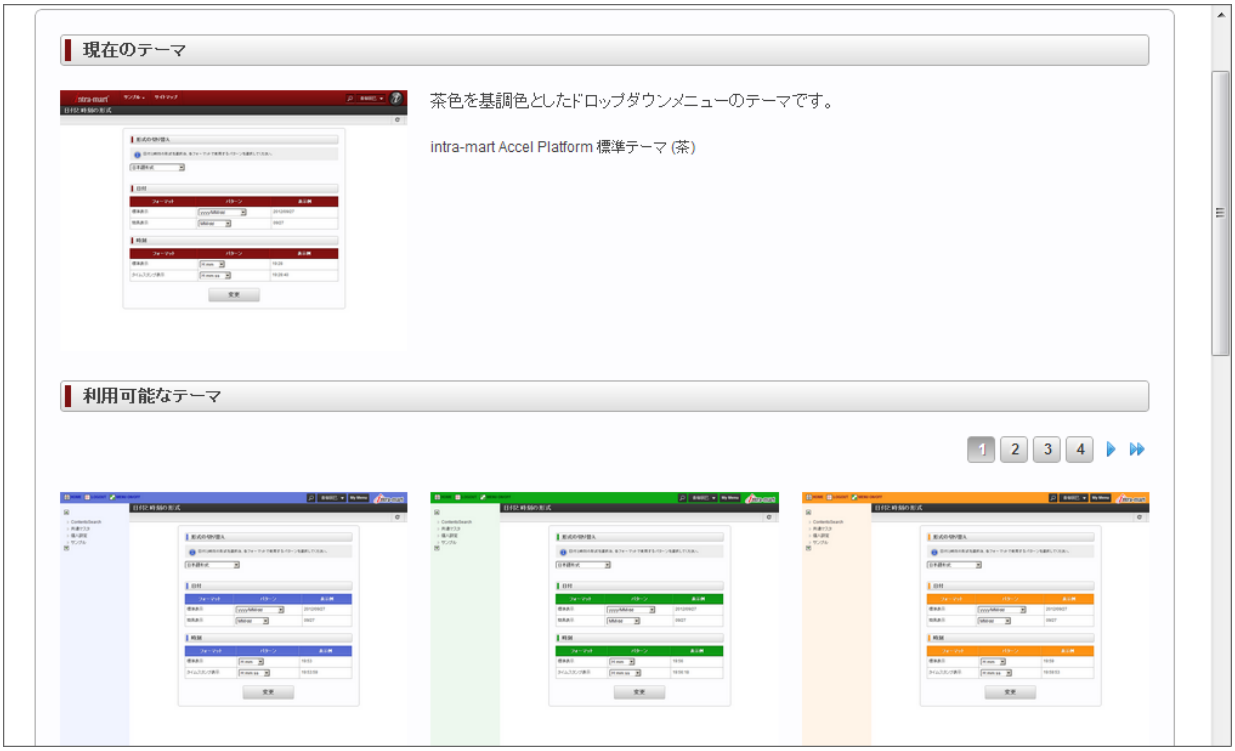
- PC版テーマの変更
- スマートフォン版テーマの変更

PC版テーマの変更

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「テーマ」をクリックします。
2. 変更したいテーマの「このテーマを利用する」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



3. 利用するテーマを設定できました。

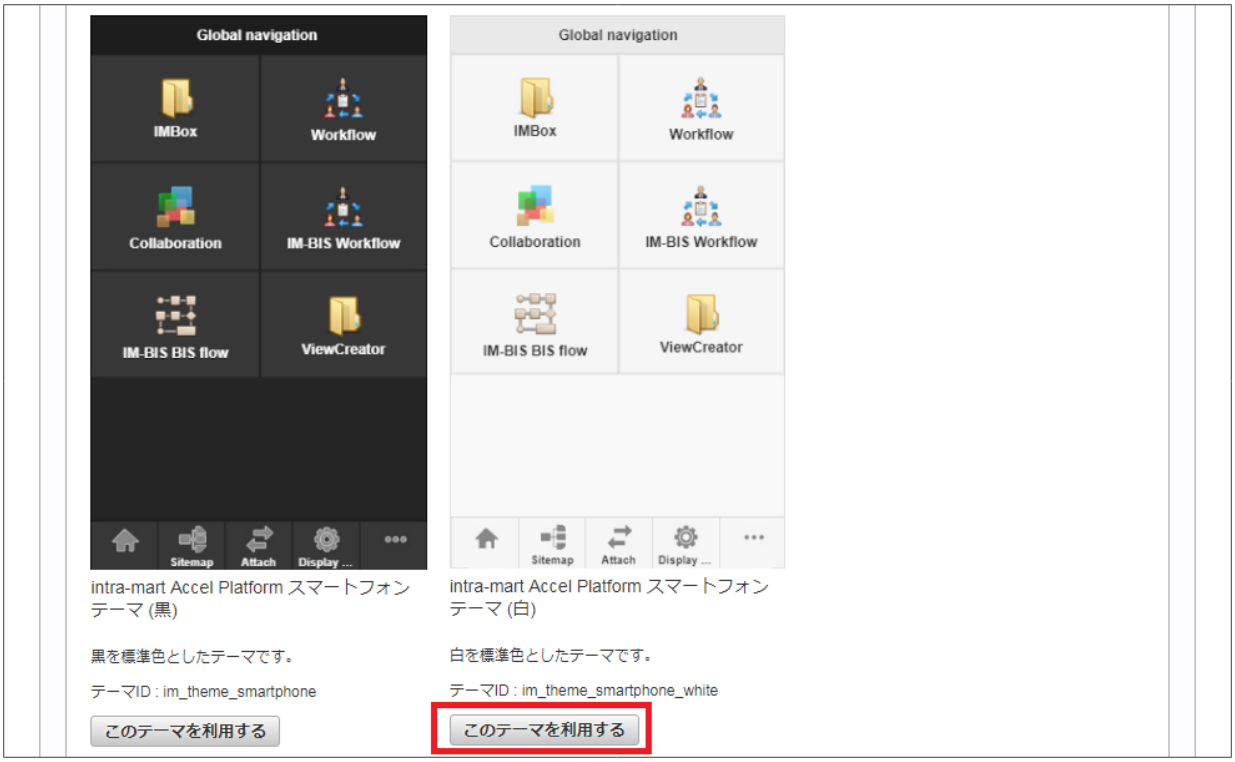


スマートフォン版テーマの変更

> **コラム**
>
> スマートフォン版テーマの変更は2018 Summer(Tiffany)より利用可能です。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「テーマ」をクリックします。
2. タブの「スマートフォン」をクリックします。

3. 変更したいテーマの「このテーマを利用する」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



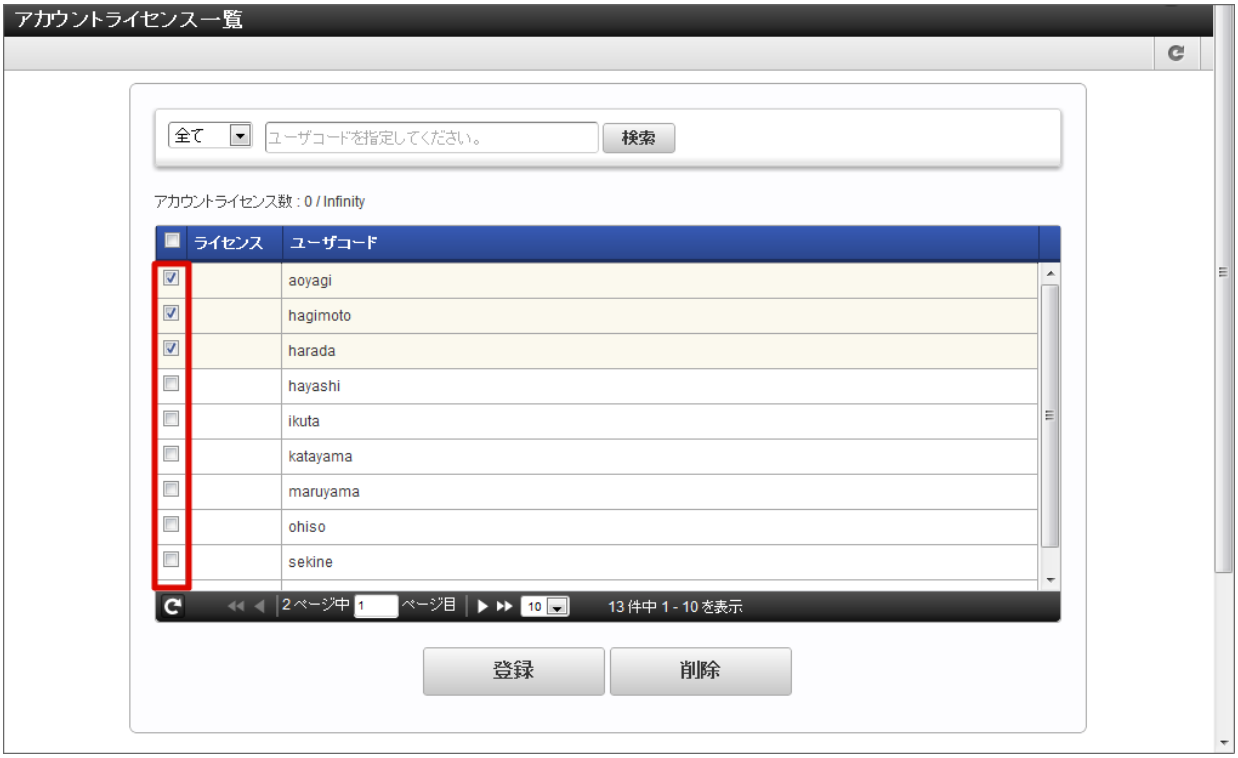
4. 利用するテーマを設定できました。

アカウントライセンス一覧を使用する

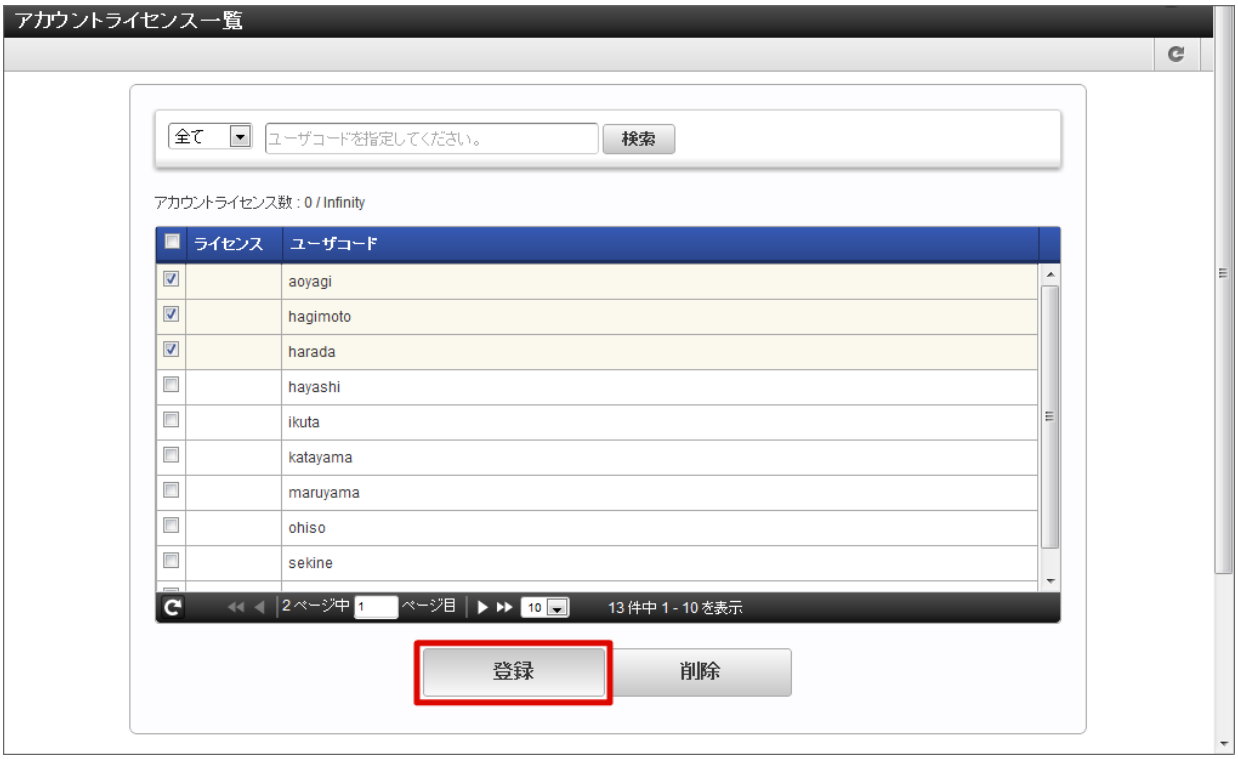
ユーザに付与されているアカウントライセンスを一覧で確認、設定します。

アカウントライセンスの登録

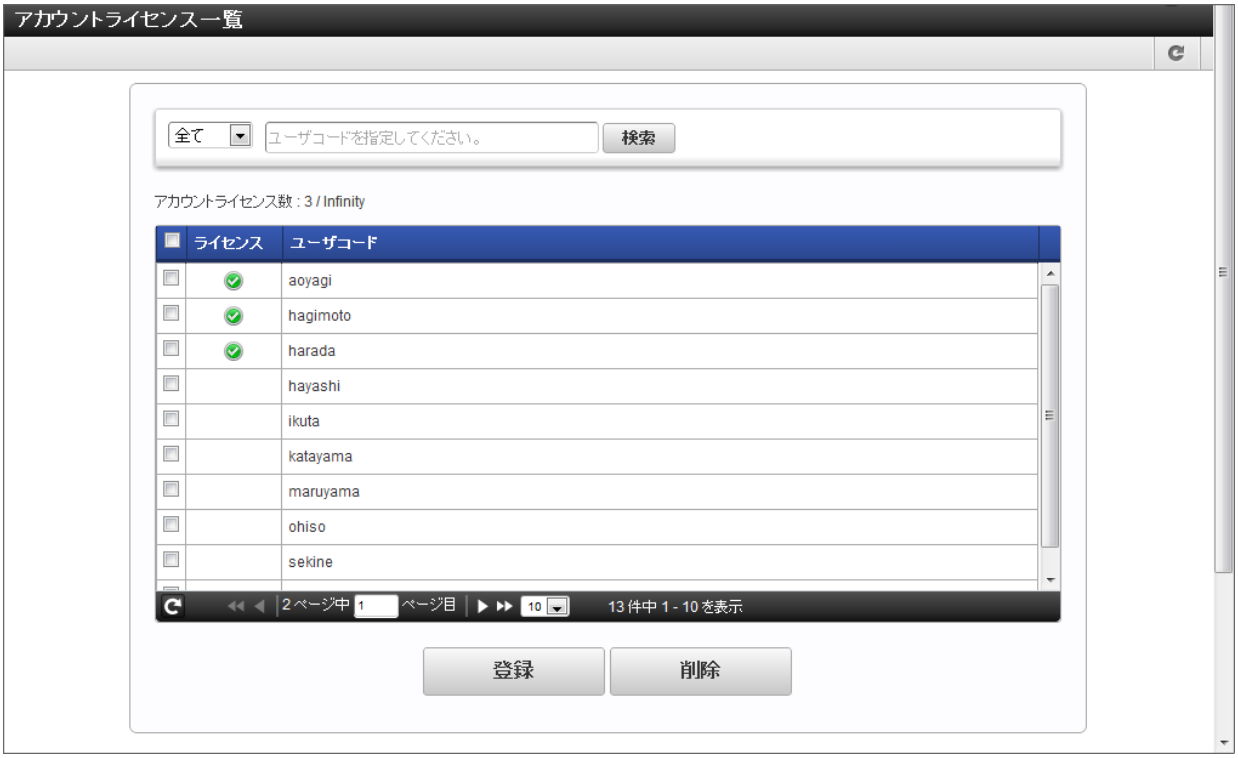
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「アカウントライセンス」をクリックします。
2. ライセンスを登録したいユーザのチェックボックスをオンにします。



3. 「登録」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

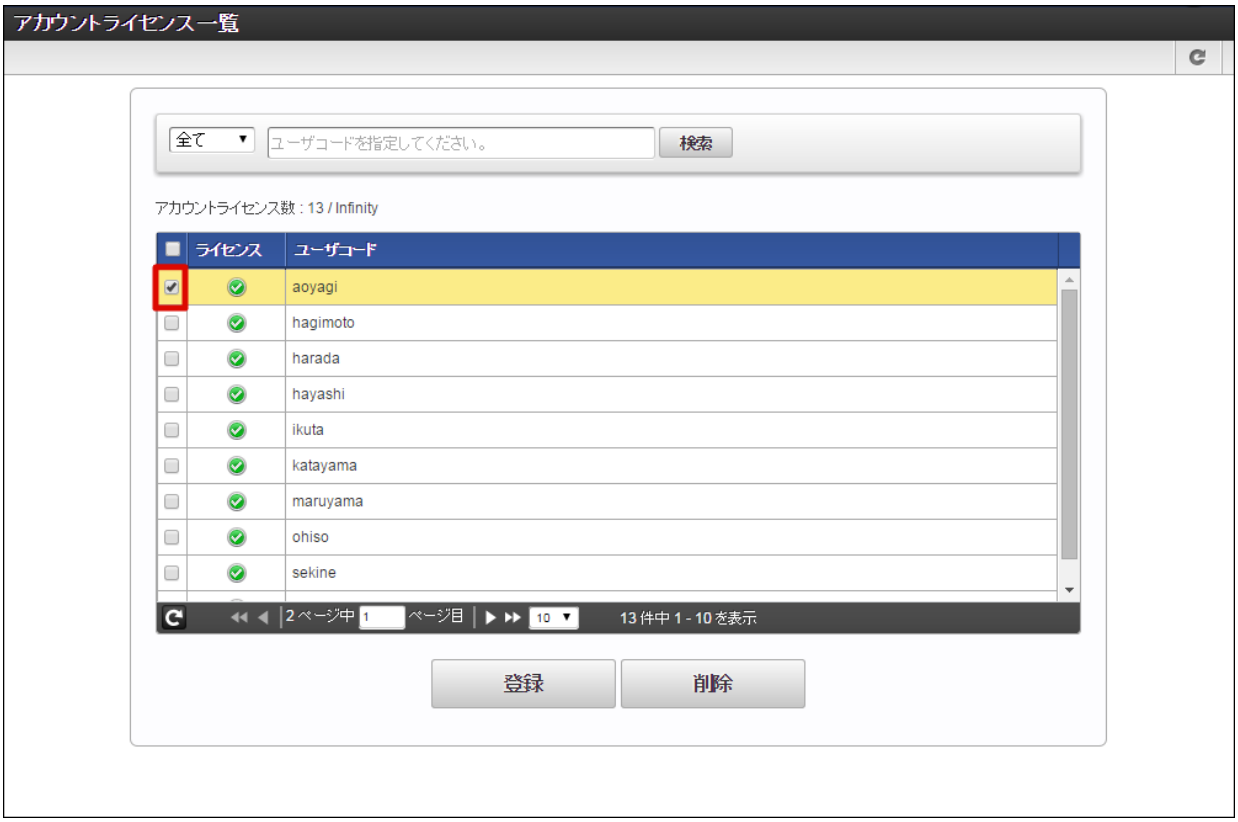


4. アカウントライセンスを登録できました。

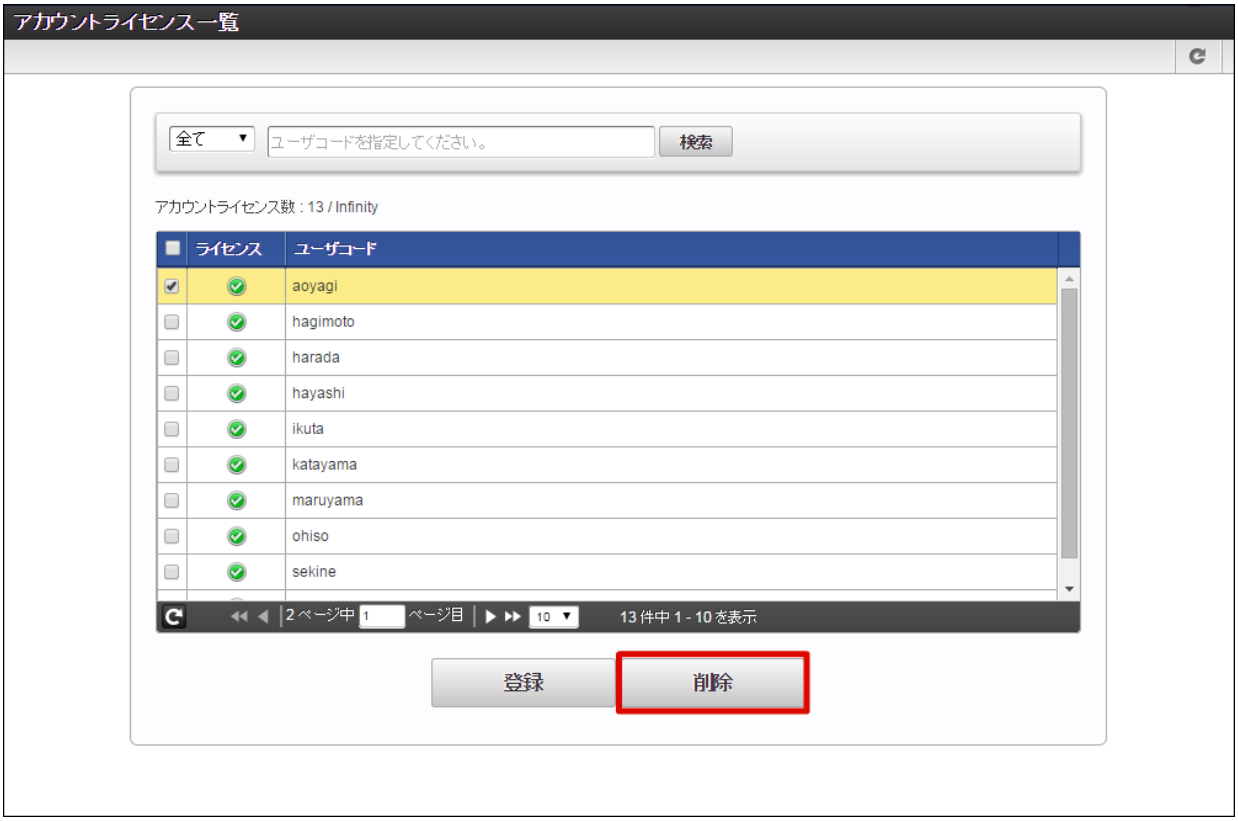


アカウントライセンスの削除

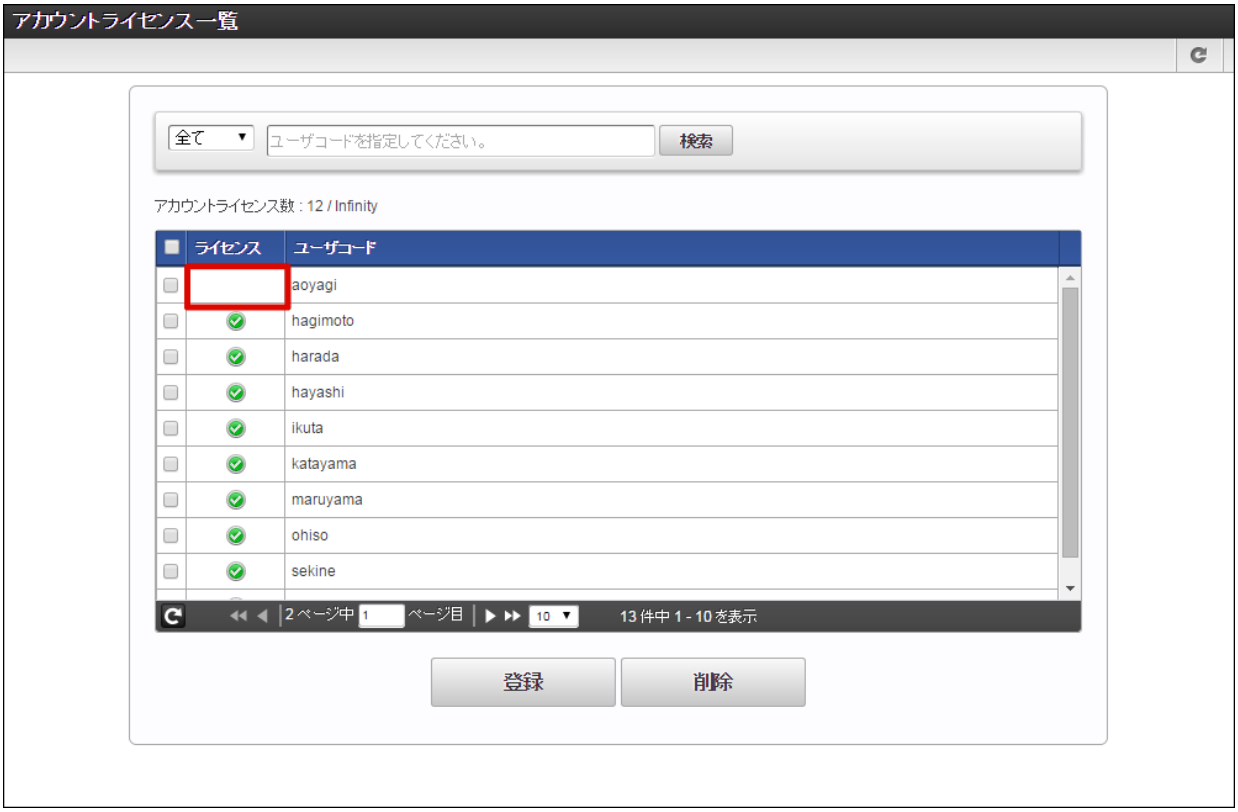
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「アカウントライセンス」をクリックします。
2. ライセンスを削除したいユーザのチェックボックスをオンにします。



3. 「削除」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



4. アカウントライセンスを削除できました。



アカウントロックを設定する

何度もログインに失敗するユーザがいる場合に、不正アクセス防止のため、アカウントをロックすることができます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「アカウントロック」をクリックします。
2. 内容を入力します。
   - アカウントロック回数

ロックされるまでの回数を設定します。 例）5を設定した場合、5回連続ログインに失敗するとアカウントがロックされます。

- アカウントロック期間（分）
  ロック後、自動でロックが解除されるまでの期間を設定します。

3. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

4. アカウントロック情報を設定できました。

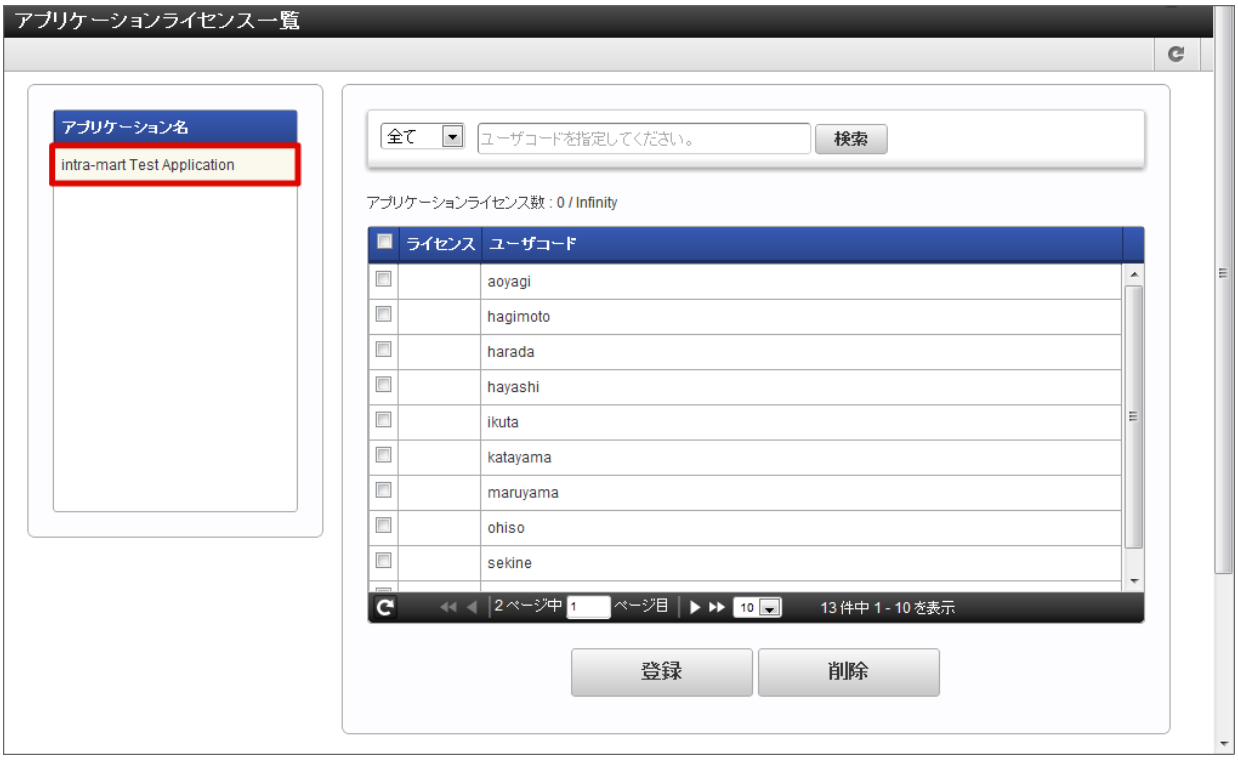
> **注意**
>
> アカウントロック回数を 0 に設定した場合、何度失敗してもアカウントはロックされません。
> アカウントロック期間（分）を 0 に設定した場合、管理者が手動で解除するまでアカウントはロックされ続けます。

アプリケーションライセンス一覧を使用する

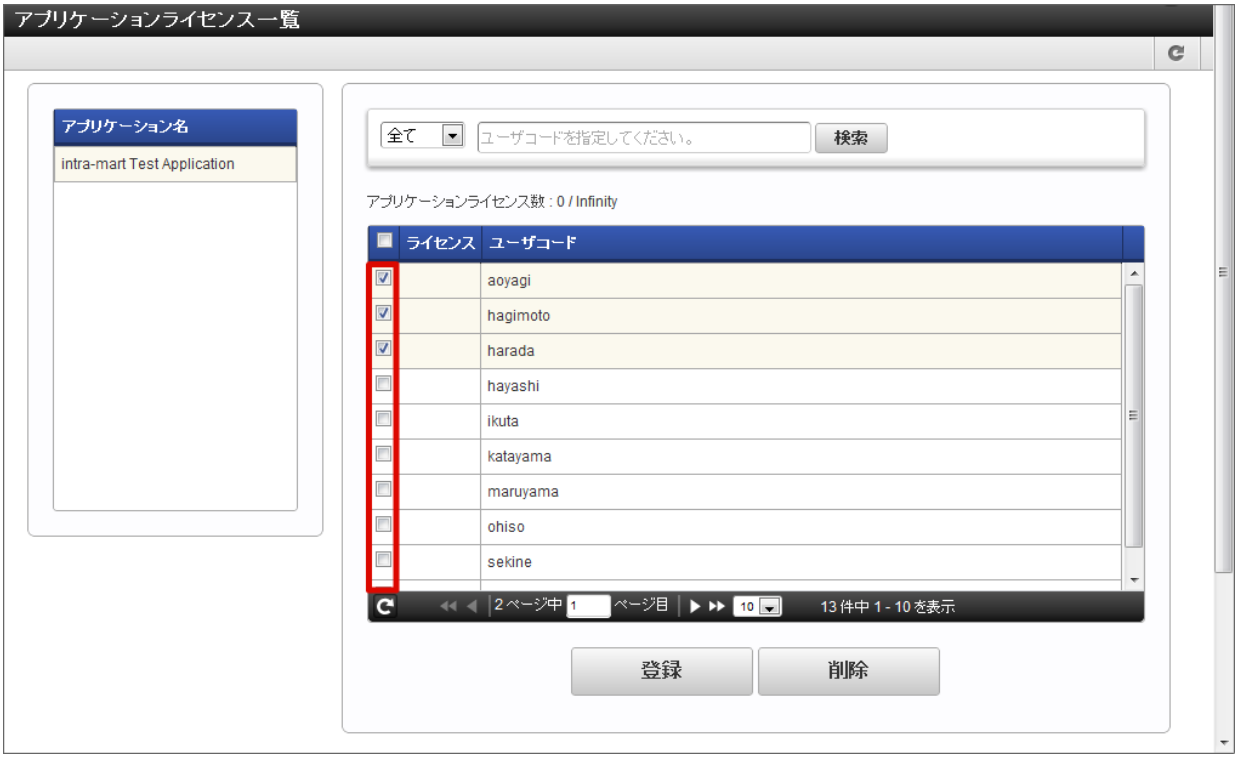
ユーザに付与されているアプリケーションライセンスを一覧で確認、設定します。

アプリケーションライセンスの登録

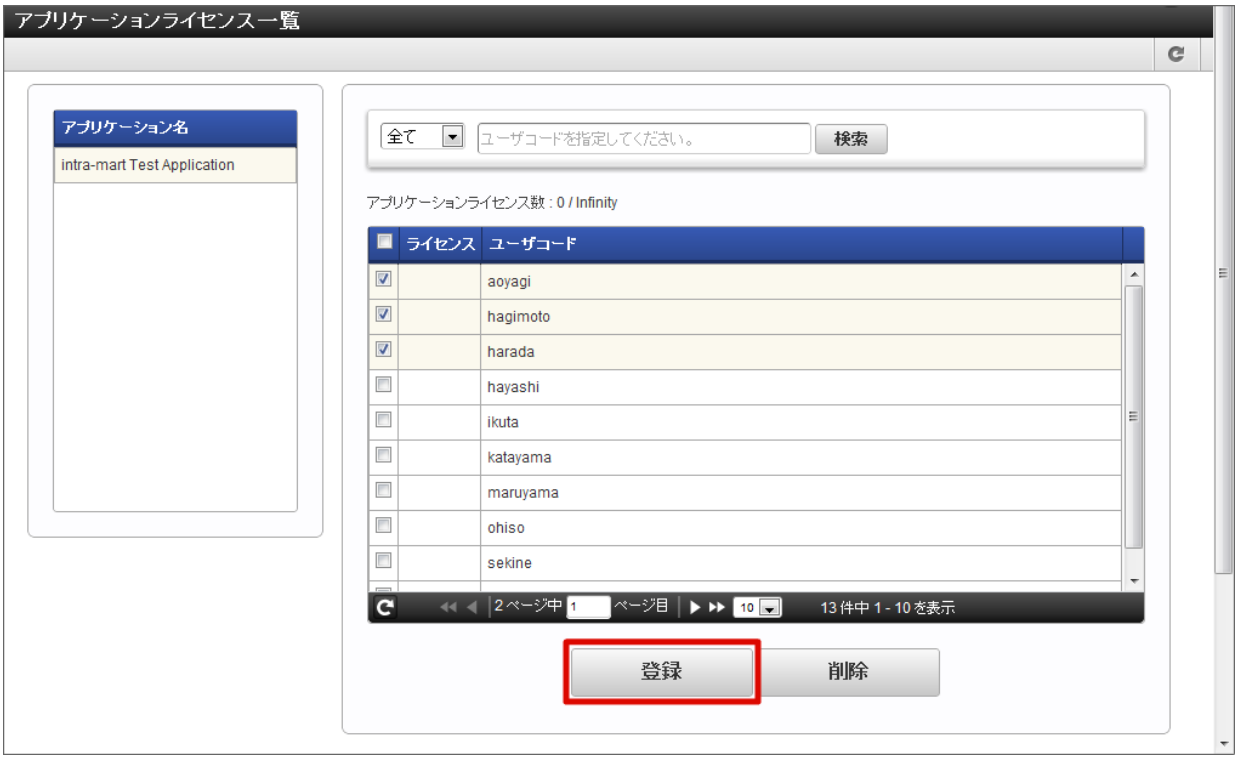
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「アプリケーションライセンス」をクリックします。
2. 左のアプリケーション名一覧から、変更するアプリケーション名をクリックします。



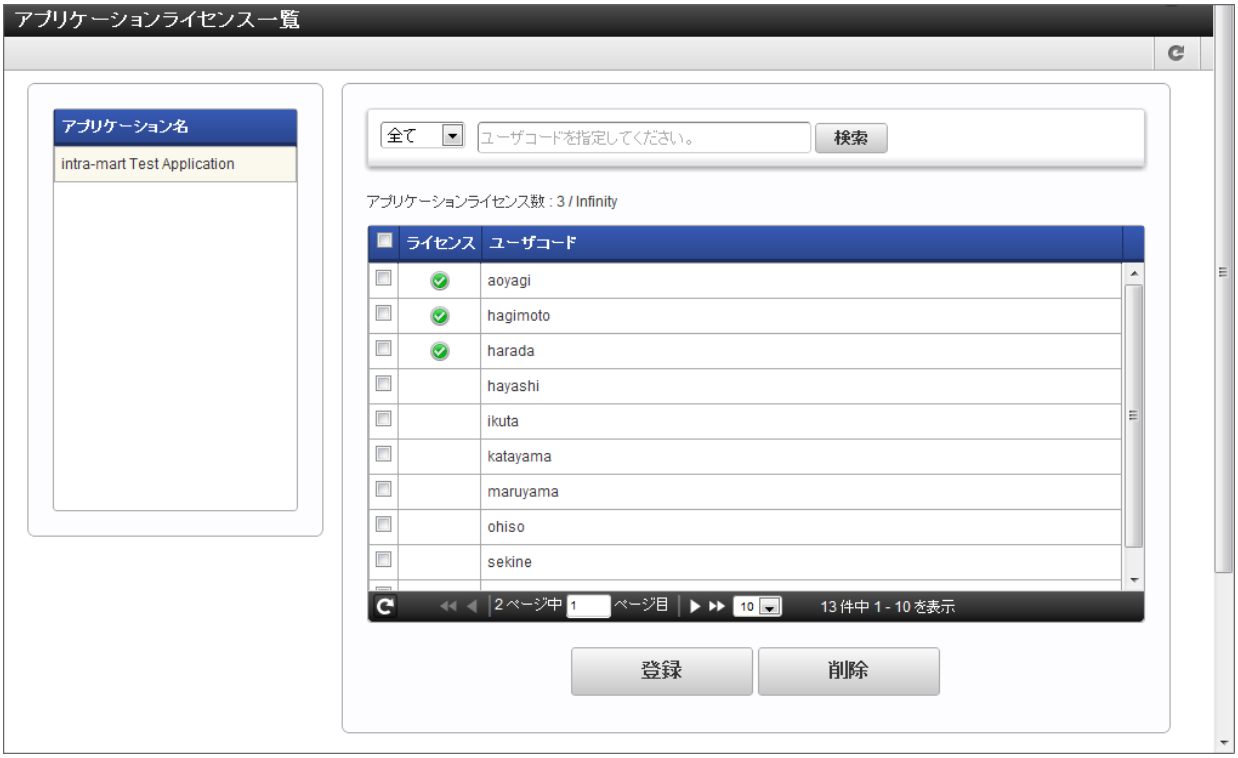
3. ライセンスを登録したいユーザのチェックボックスをオンにします。



4. 「登録」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



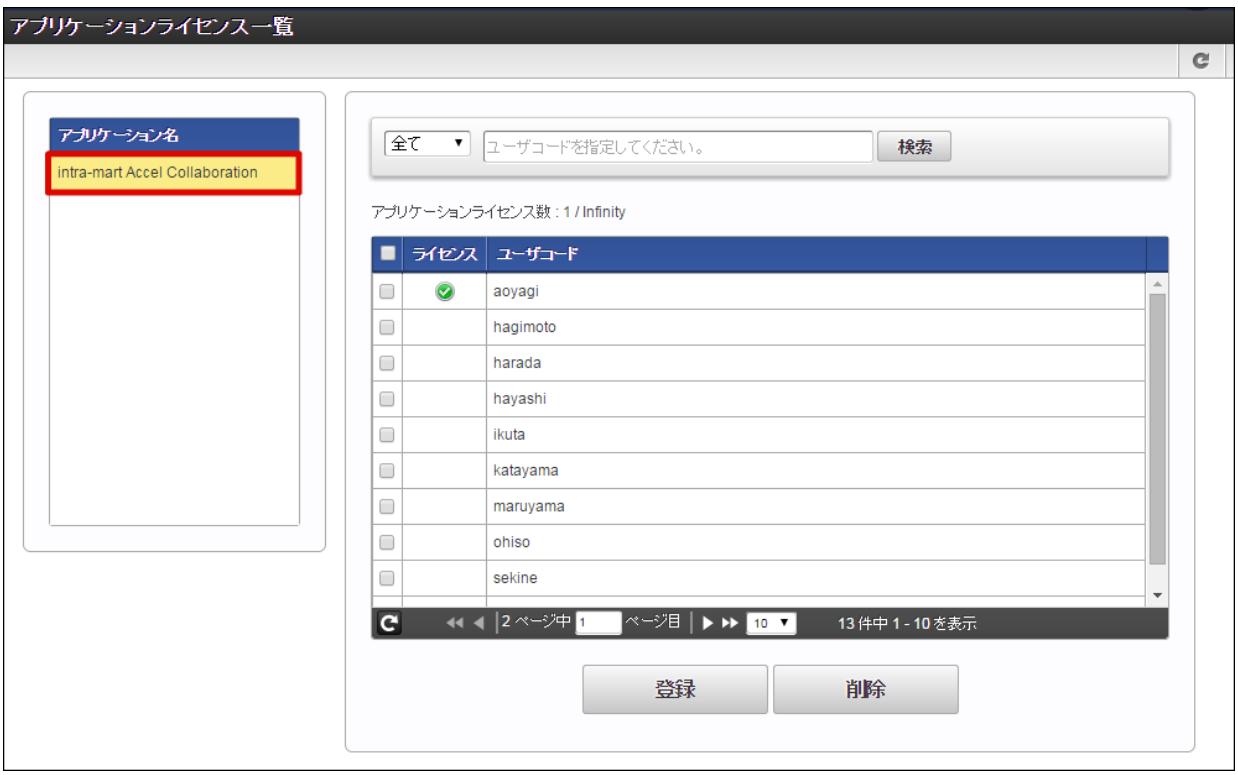
5. ユーザに対してアプリケーションライセンスを登録できました。



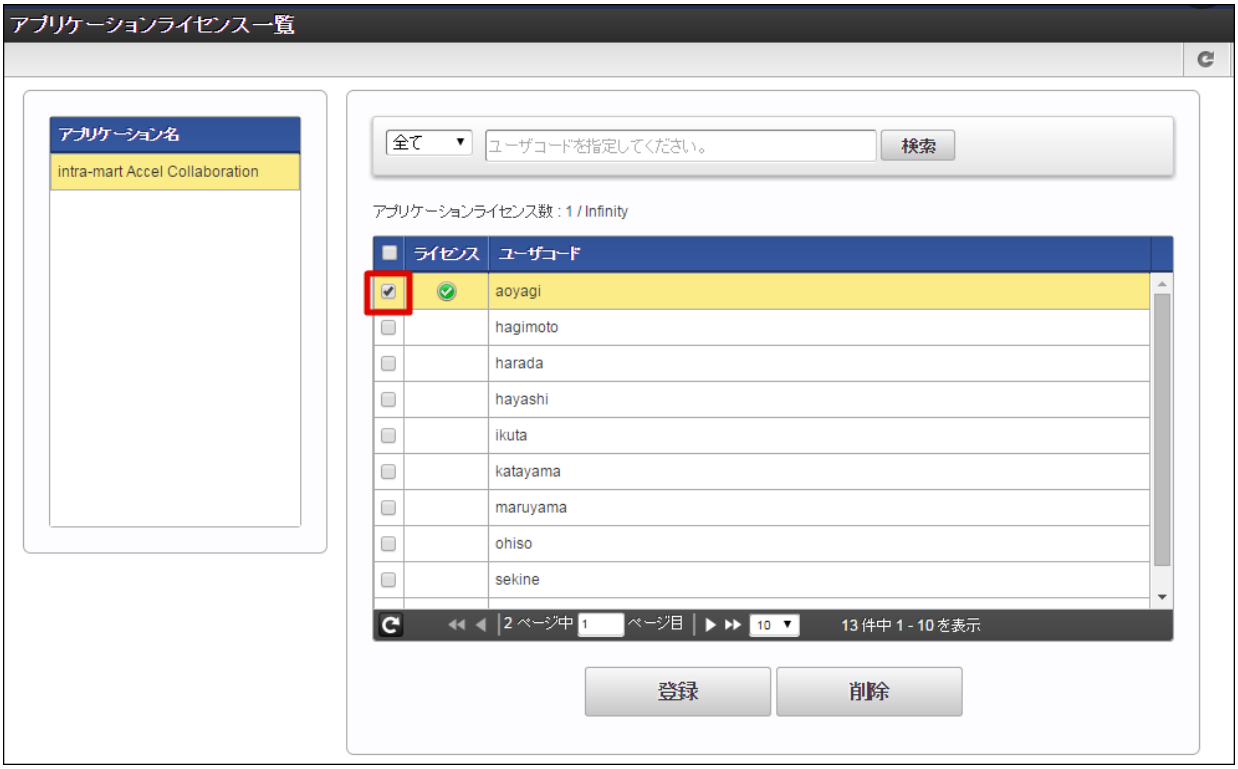
> **注意**
>
> アプリケーションライセンス数の上限が「0」と表示されている場合、テナントに対する上限数が設定できていない可能性があります。
> 「システム管理者操作ガイド」-「ライセンス設定」を参照してください。

アプリケーションライセンスの削除

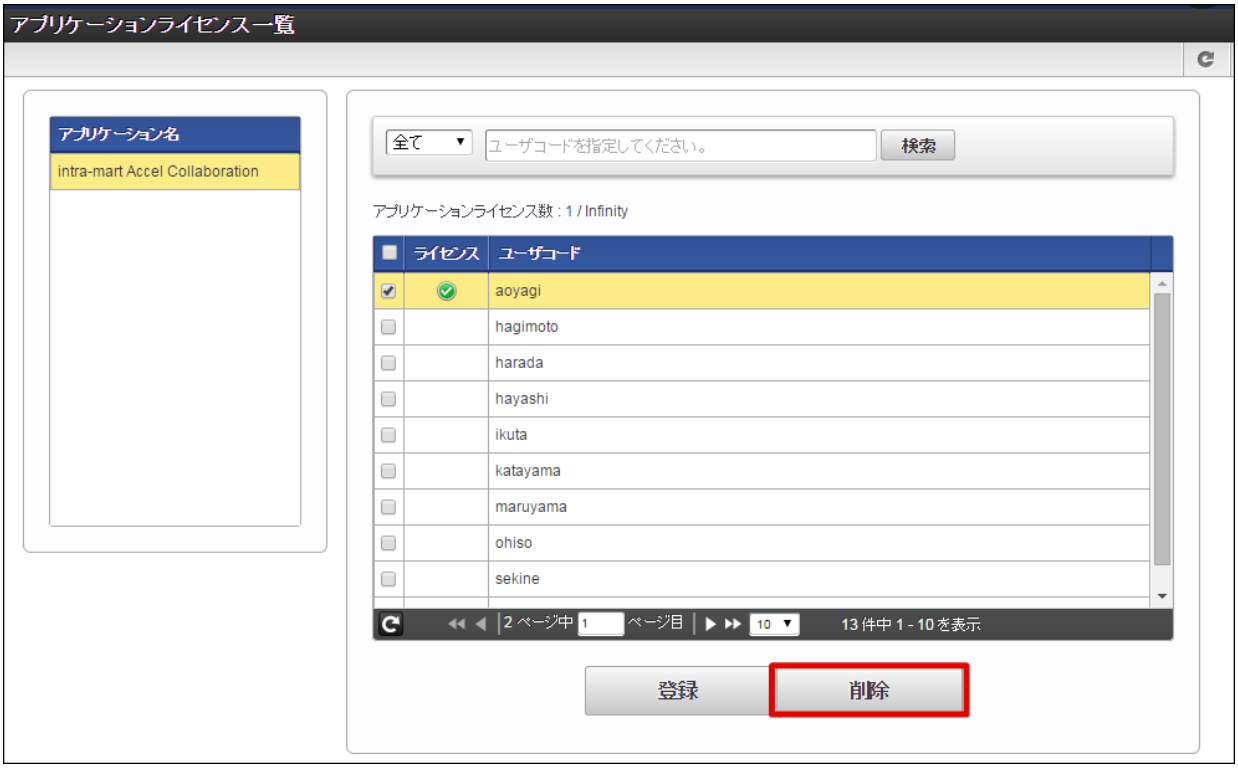
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「アプリケーションライセンス」をクリックします。
2. 左のアプリケーション名一覧から、変更するアプリケーション名をクリックします。



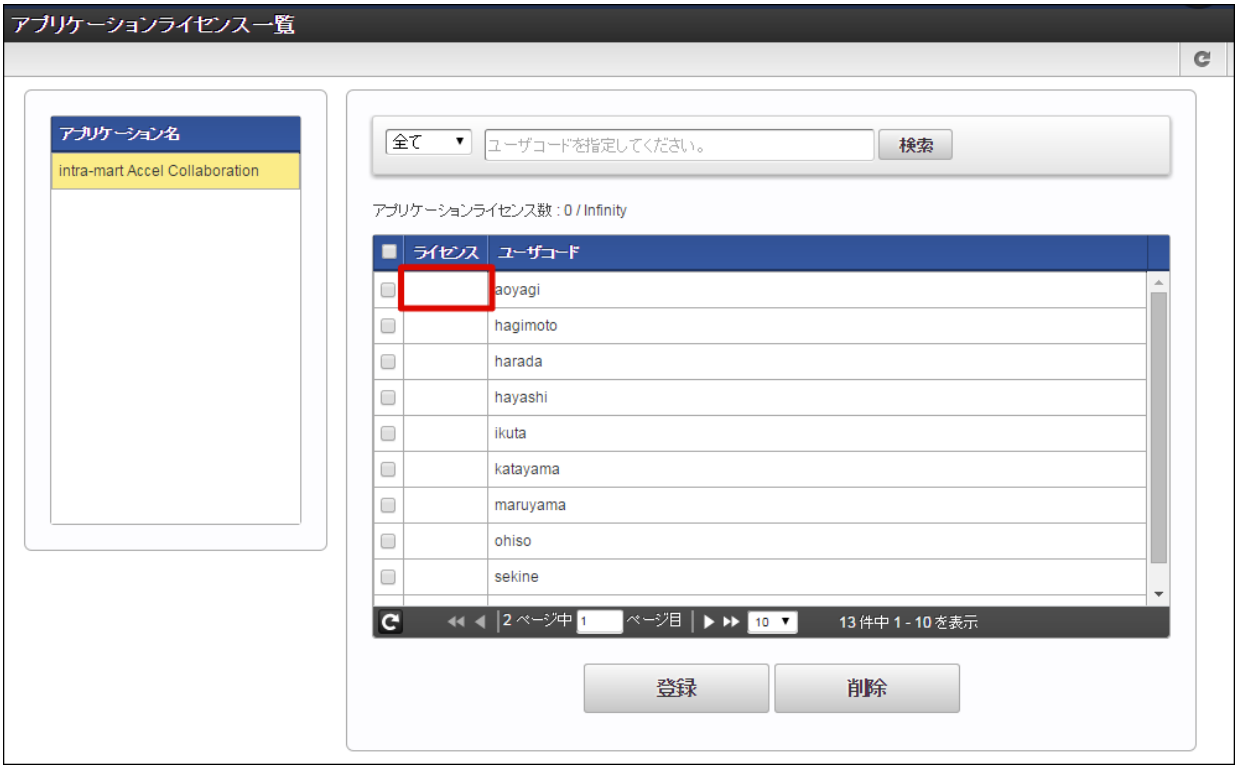
3. ライセンスを削除したいユーザのチェックボックスをオンにします。



4. 「削除」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



5. ユーザに付与されていたアプリケーションライセンスを削除できました。

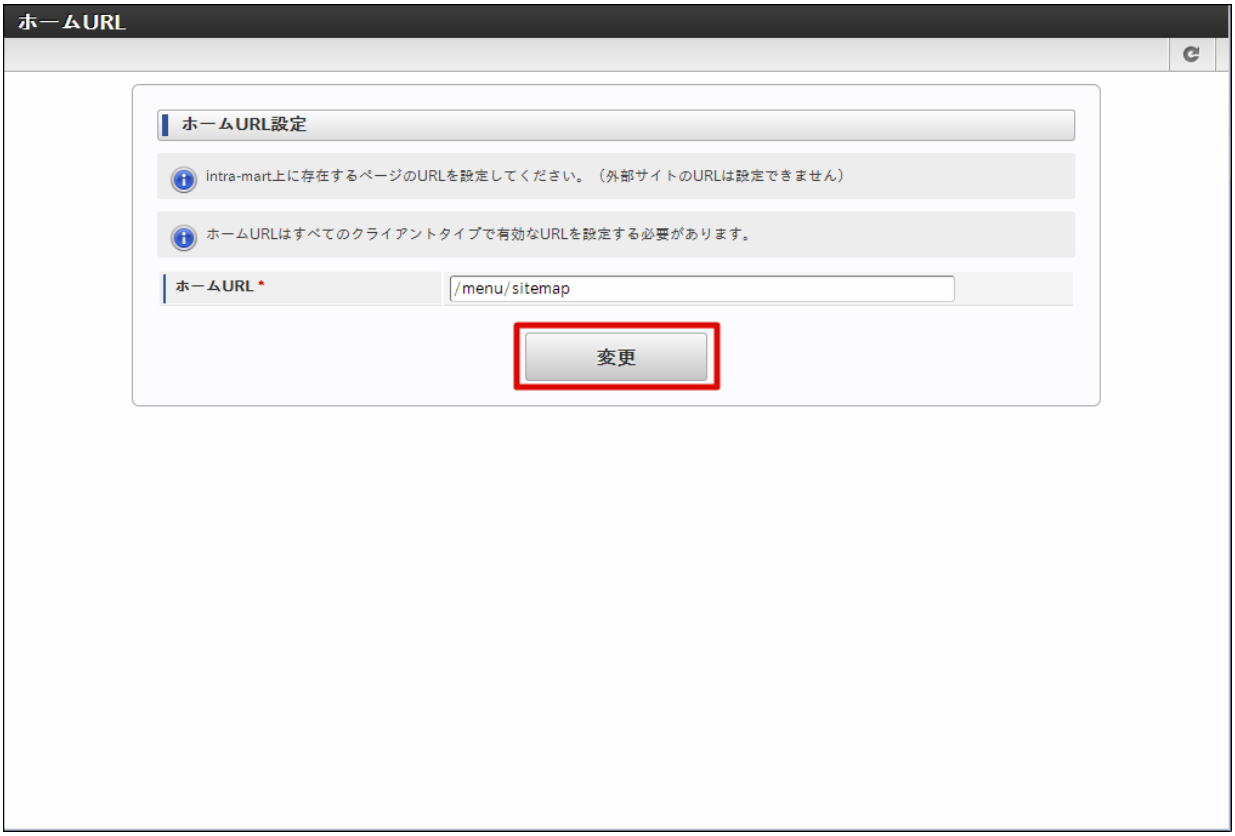


- アプリケーションライセンスを削除されたユーザがアプリケーションページへアクセスした場合、エラーページが表示されます。

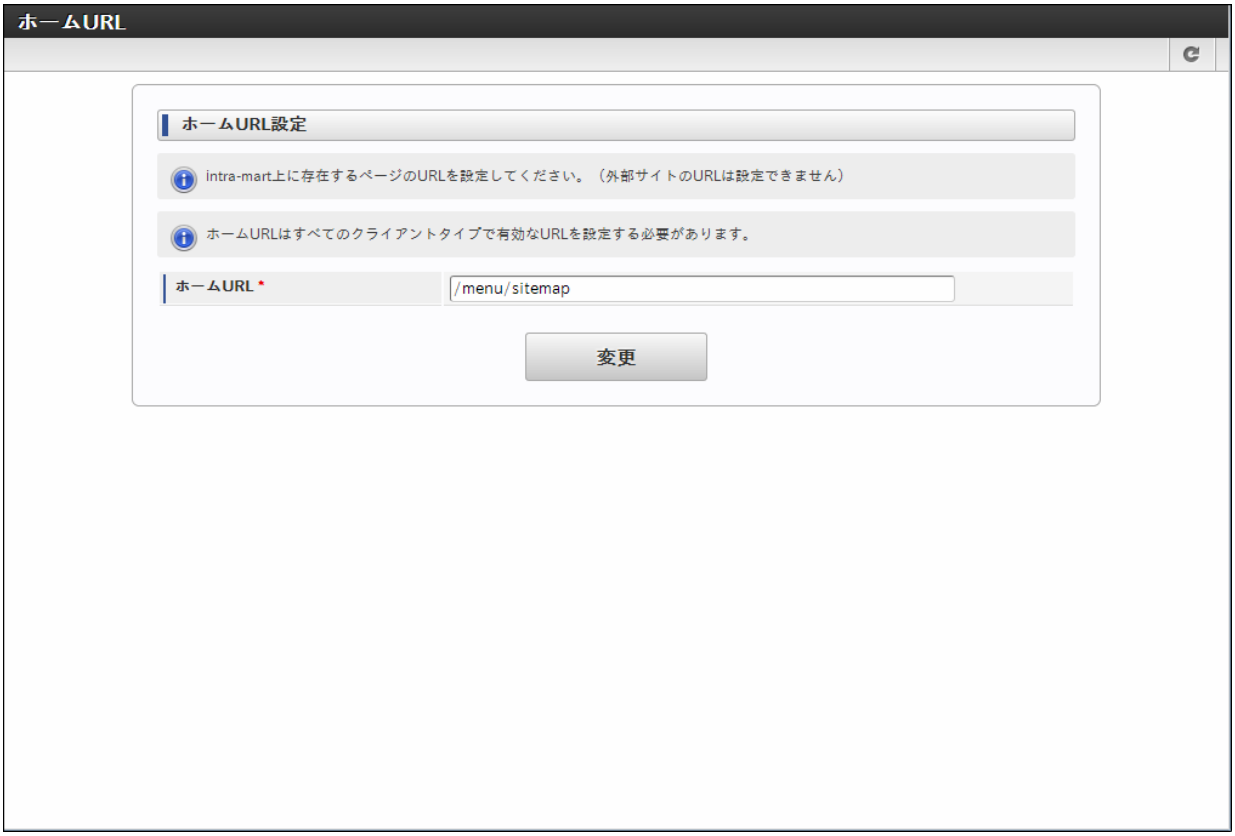
ホームURLを設定する

ユーザがログイン直後に表示するホーム画面を設定します。
このURLを変更することで、ログイン直後の画面を任意の画面に設定できます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「ホームURL」をクリックします。
2. 任意の画面のURLを入力します。
   URLはコンテキストパス以降のURLを指定してください。
   例）「*http://localhost:8080/imart/menu/sitemap*」に遷移させたい場合は「*/menu/sitemap*」
3. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



4. テナントで使用するホームURLを設定することができました。



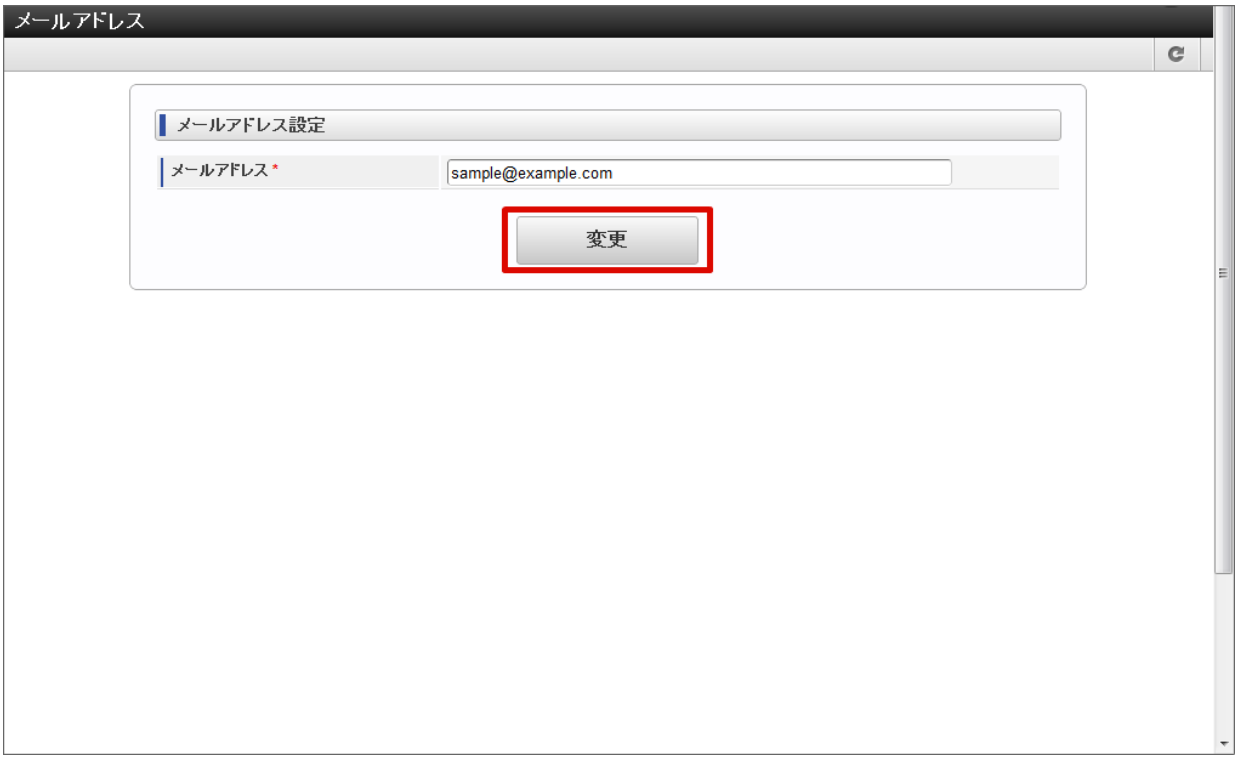
注意
ログインユーザに権限が無い画面をホームURLに設定した場合、権限が無いユーザはログイン後、「権限エラー」画面が表示されます。

> **注意**
>
> ホームURLはすべてのクライアントタイプで有効なURLを設定してください。
> たとえば、PCとスマートフォンで運用を行っている環境の場合どちらでも有効なURLを設定する必要があります。

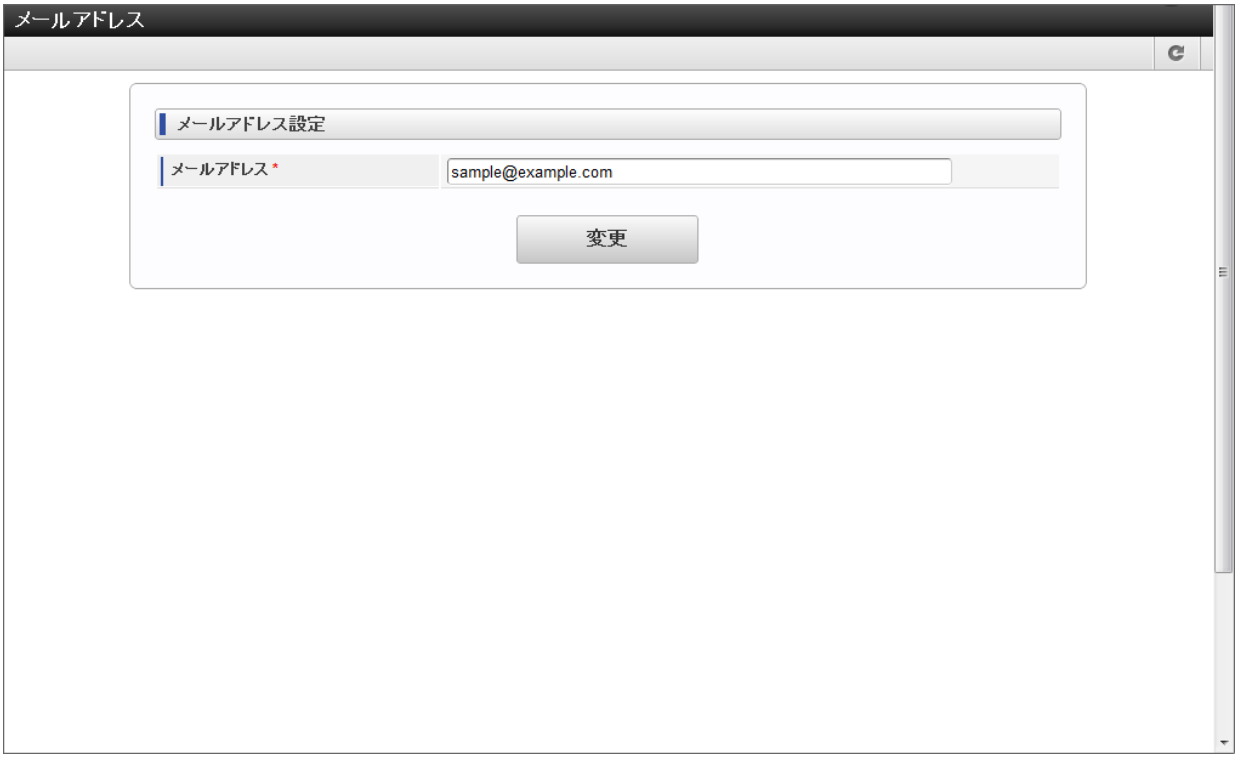
メールアドレスを設定する

テナント用のメールアドレスを設定します。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「メールアドレス」をクリックします。
2. メールアドレスを入力します。
3. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



4. テナントで使用するメールアドレスを設定することができました。



アナウンスを設定する

ユーザがシステムにアクセスした際に表示するアナウンスを設定します。
アナウンスを設定することで、ほとんどのページの上部に入力した内容を表示することができ、緊急・臨時のお知らせを行うことができます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「アナウンス設定」をクリックします。

2. 任意のアナウンスの内容を入力します。
   「標準表示」の部分に入力してください。ログインユーザが設定しているロケールによって表示内容を切り替えたい場合は、切り替える言語の部分にも入力してください。

   > **コラム**
   > **「表示開始日時」「表示終了日時」**
   > 「表示開始日時」「表示終了日時」を入力することで、アナウンスを表示する時間帯を設定することができます。
   > この日時はテナントタイムゾーンを基準とします。
   >
   > **「表示対象ユーザ」**
   > 「表示対象ユーザ」は「全ユーザ」「ログイン済みのみ」のどちらかを選択することができます。
   > 「全ユーザ」を選択した場合は、ログインしていない状態でホームなどの画面を表示した際にもアナウンスが表示されます。

3. 「登録」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

4. 表示するアナウンスを設定することができました。

コラム

入力済みのアナウンスを削除する場合

「削除」をクリックします。

コラム

キャッシュをクリアする場合

設定したアナウンスの表示内容がユーザによって異なる場合、「キャッシュクリア」をクリックしてキャッシュをクリアしてください。

注意

キャッシュクリアが行えない場合、サーバで障害が発生している可能性があります。システム管理者にお問い合わせください。

メニュー表示を設定する

グローバルナビやユーザ名表示エリア（ユーティリティメニュー）等の、メニューに対する表示設定を行うことができます。

グローバルナビ最大表示件数を設定する

グローバルナビの最大表示件数を設定します。

コラム

この画面で設定した最大表示数は、個人設定のメニュー表示設定にてデフォルトが指定されている場合に有効です。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「メニュー表示」をクリックします。
2. グローバルナビ最大表示数を入力します。
3. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

4. グローバルナビの最大表示件数を設定することができました。

ユーザ名表示エリアの最大幅を設定する

ユーザ名表示エリア（ユーティリティメニュー）の最大幅を設定することができます。
ここでは、最大幅の設定をせず、ユーザ名をすべて表示する例を紹介します。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「メニュー表示」をクリックします。
2. 「固定しない」を選択します。
3. 「変更」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

4. ユーザ名表示エリアの最大幅を設定することができました。

> **コラム**
>
> ユーザ名が長い場合、グローバルナビと重なって表示される場合があります。その場合は、グローバルナビの最大表示数を調整したりユーザ名表示エリアの最大幅を設定したりして回避してください。

ジョブを設定する

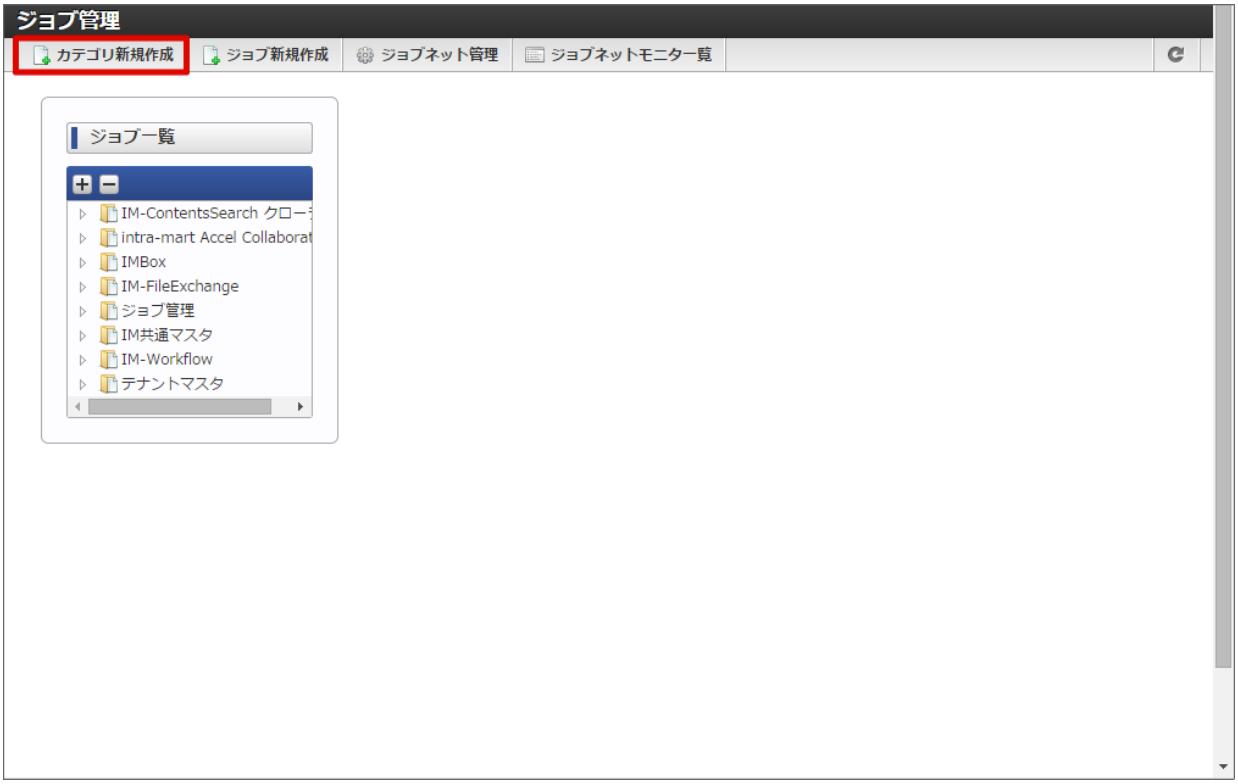
ジョブを設定することで、システムに自動でプログラムを実行させることができます。

実行するプログラムの単位を「ジョブ」と呼びます。
また、ジョブをまとめた単位を「ジョブネット」と呼びます。

プログラムを実行するにはジョブネットを設定します。
ジョブネットに対して、トリガ（実行する日時や、繰り返し実行の間隔など）を指定できます。

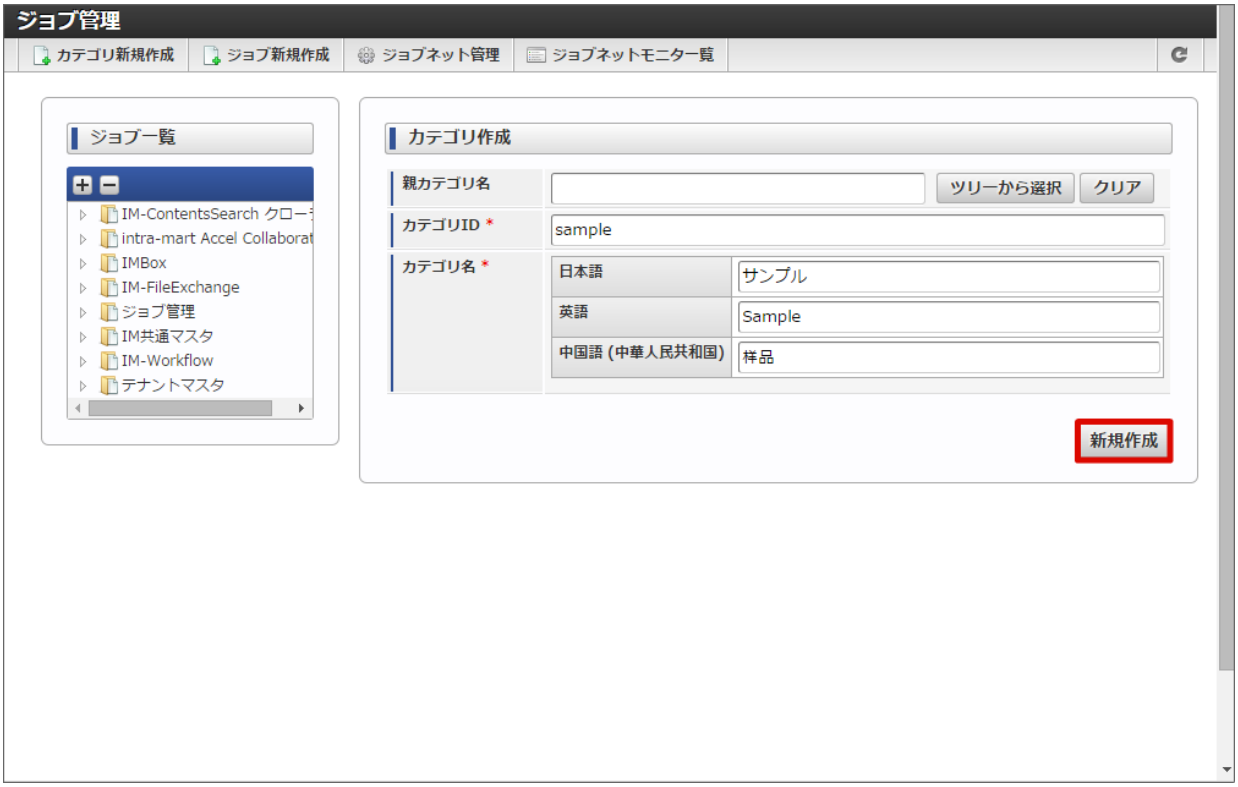
> **コラム**
>
> 各種インポート・エクスポートはジョブから実行する事ができます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブ設定」をクリックします。
2. 「カテゴリ新規作成」をクリックします。



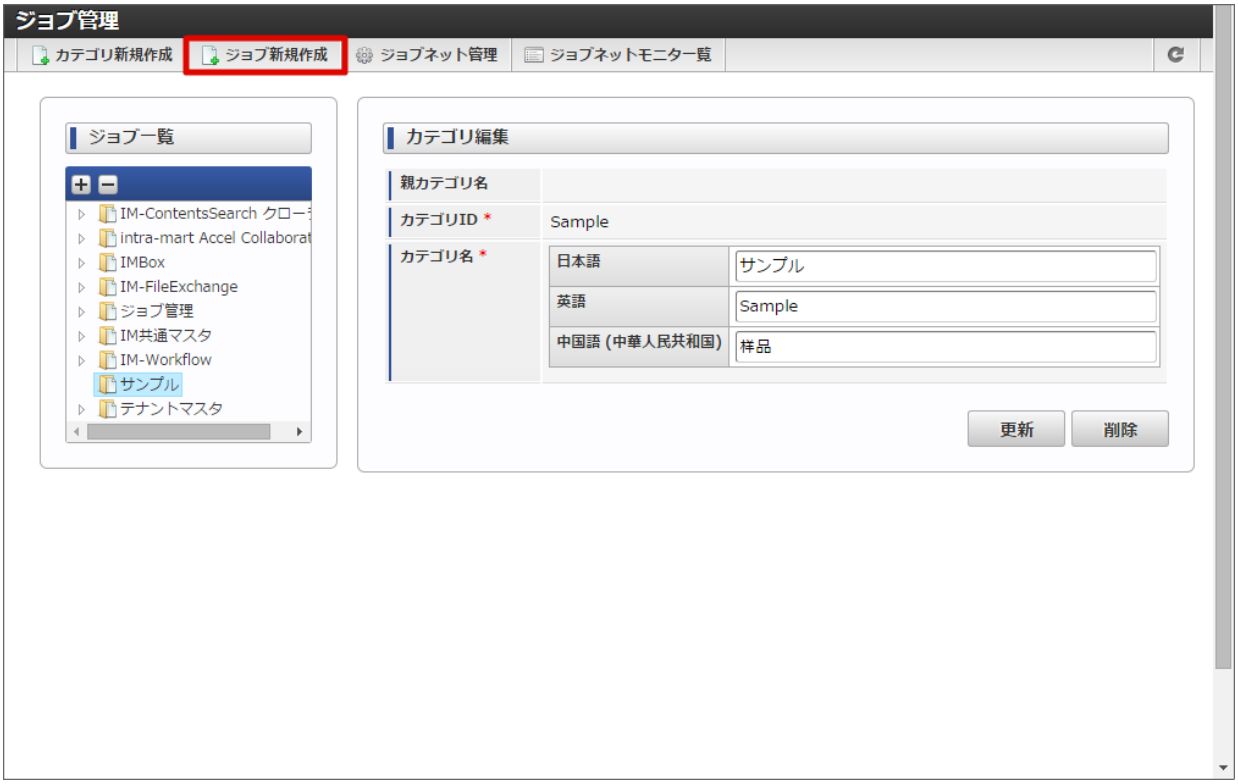
3. カテゴリ情報を入力します。

4. 「新規作成」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

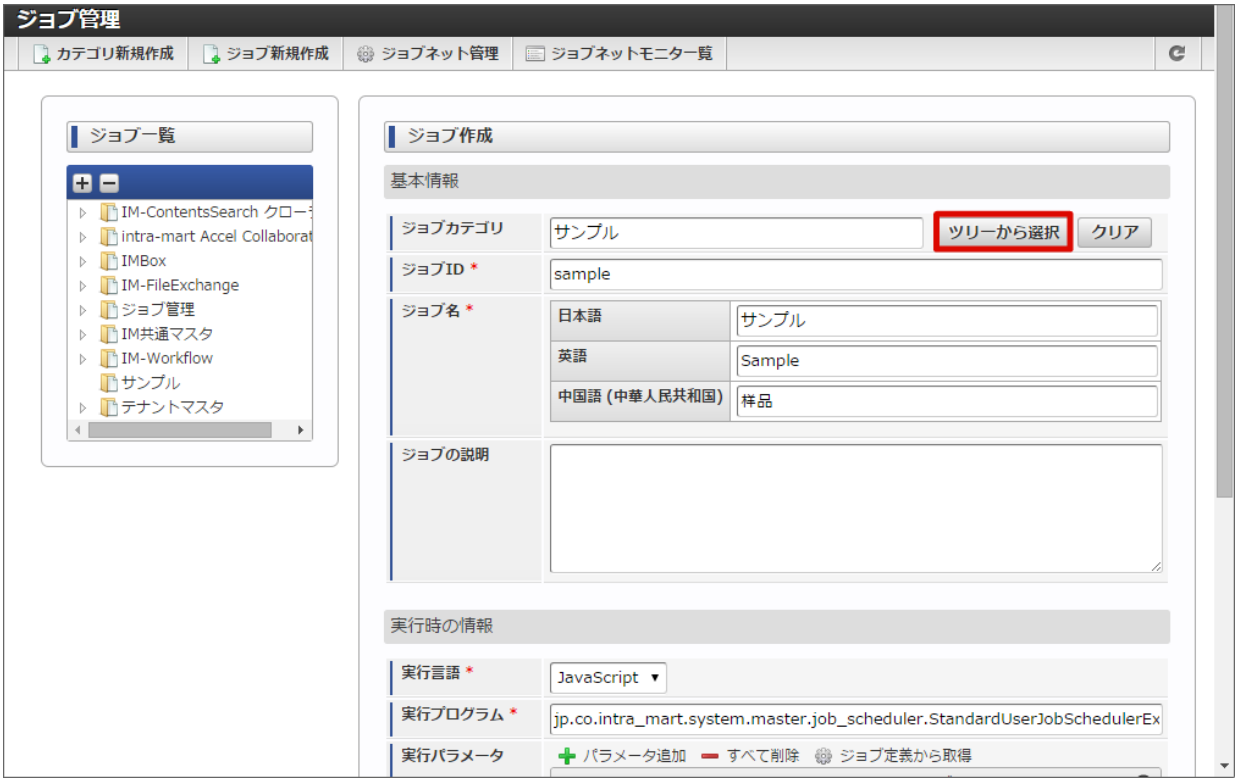


5. ジョブのカテゴリが登録できました。

6. 作成したカテゴリにジョブを登録します。
   「ジョブ新規作成」をクリックします。

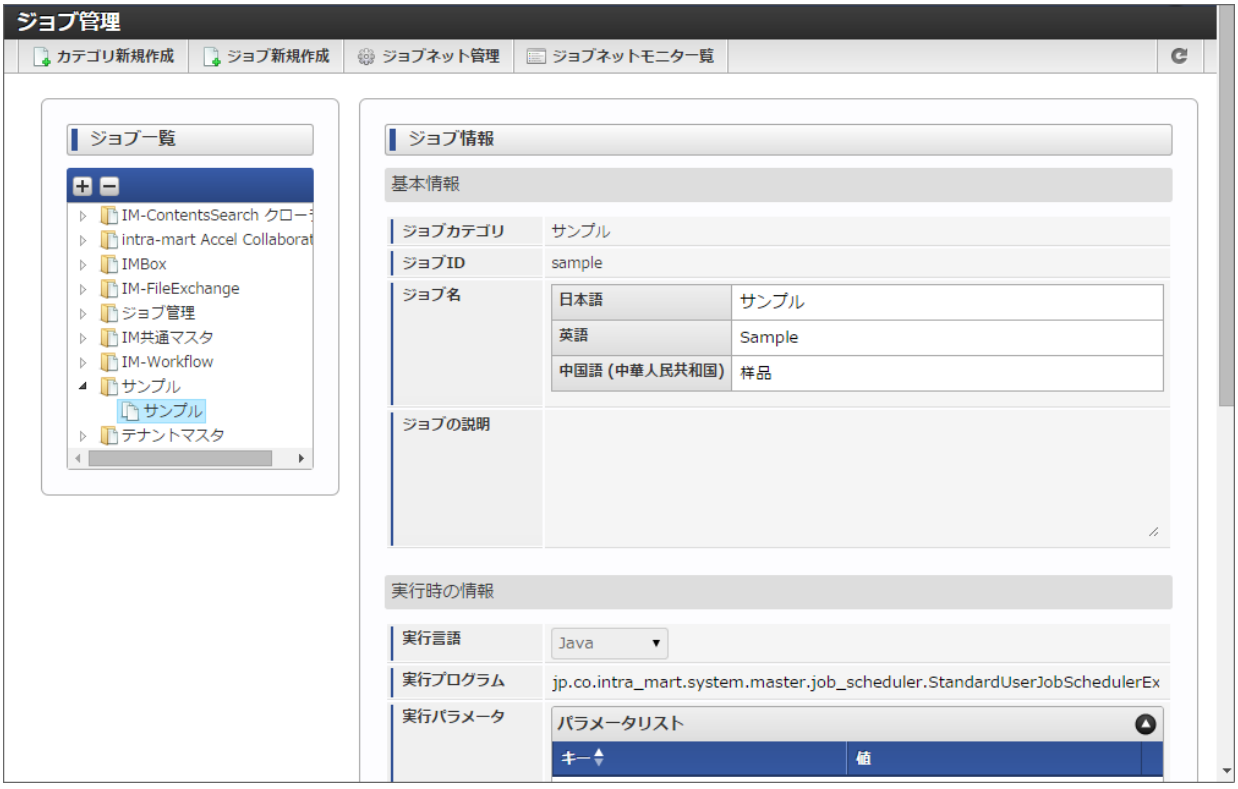


7. ジョブ情報を入力します。
   ジョブカテゴリは、「ツリーから選択」をクリックし、作成したカテゴリを選択します。



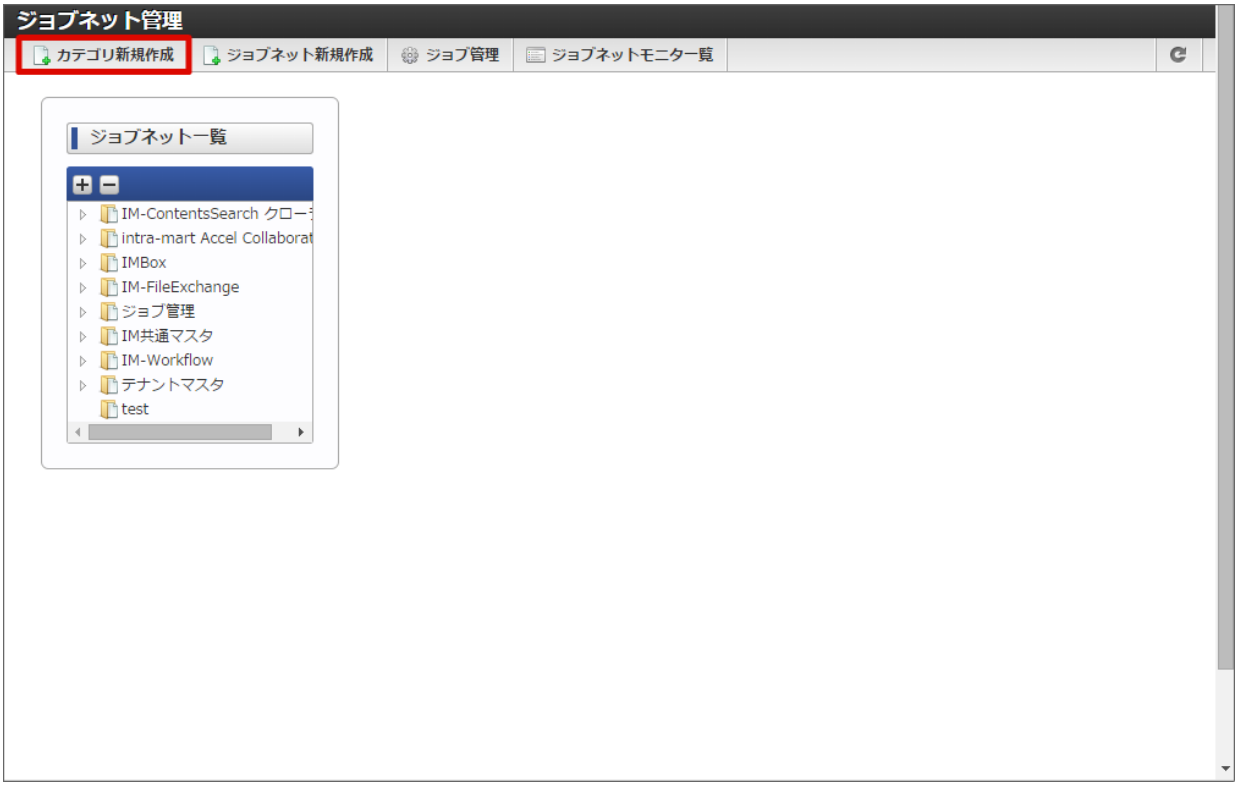
8. 「新規作成」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

9. ジョブの登録ができました。



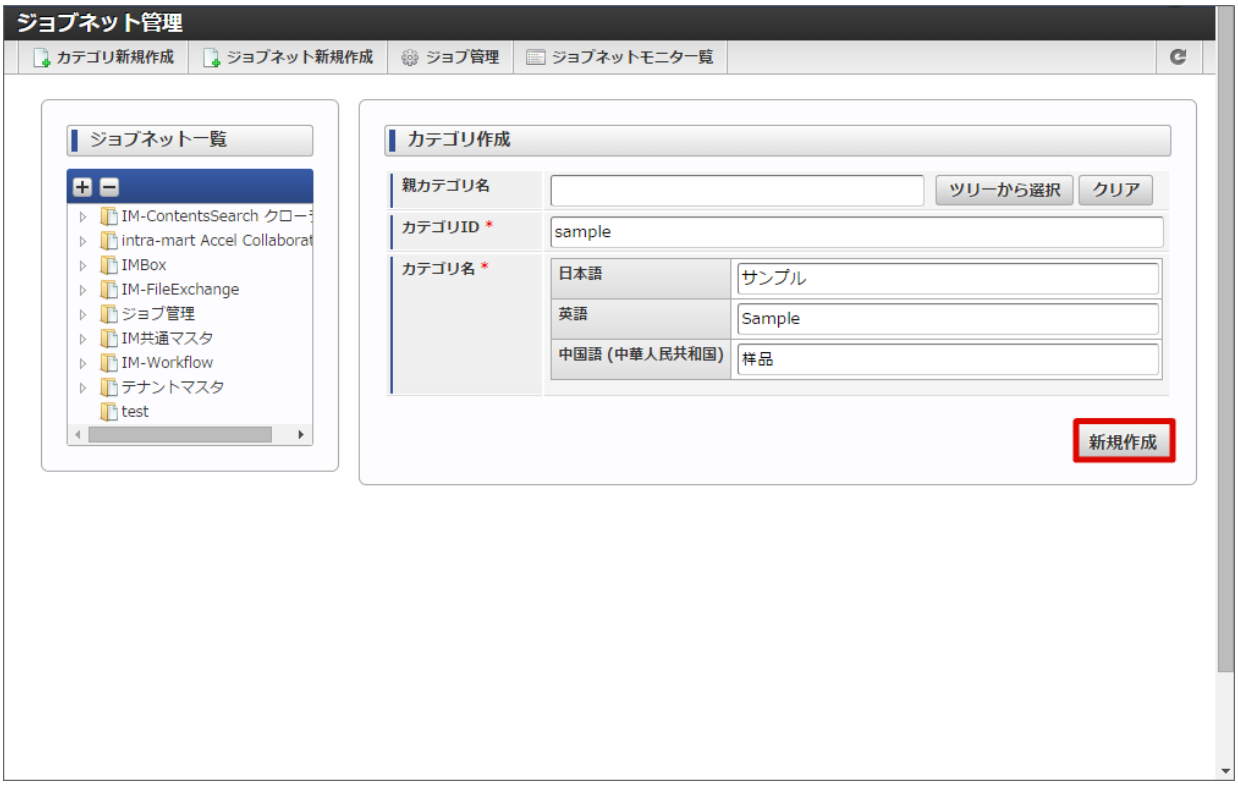
ジョブネットを設定する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネット設定」をクリックします。
2. 「カテゴリ新規作成」をクリックします。



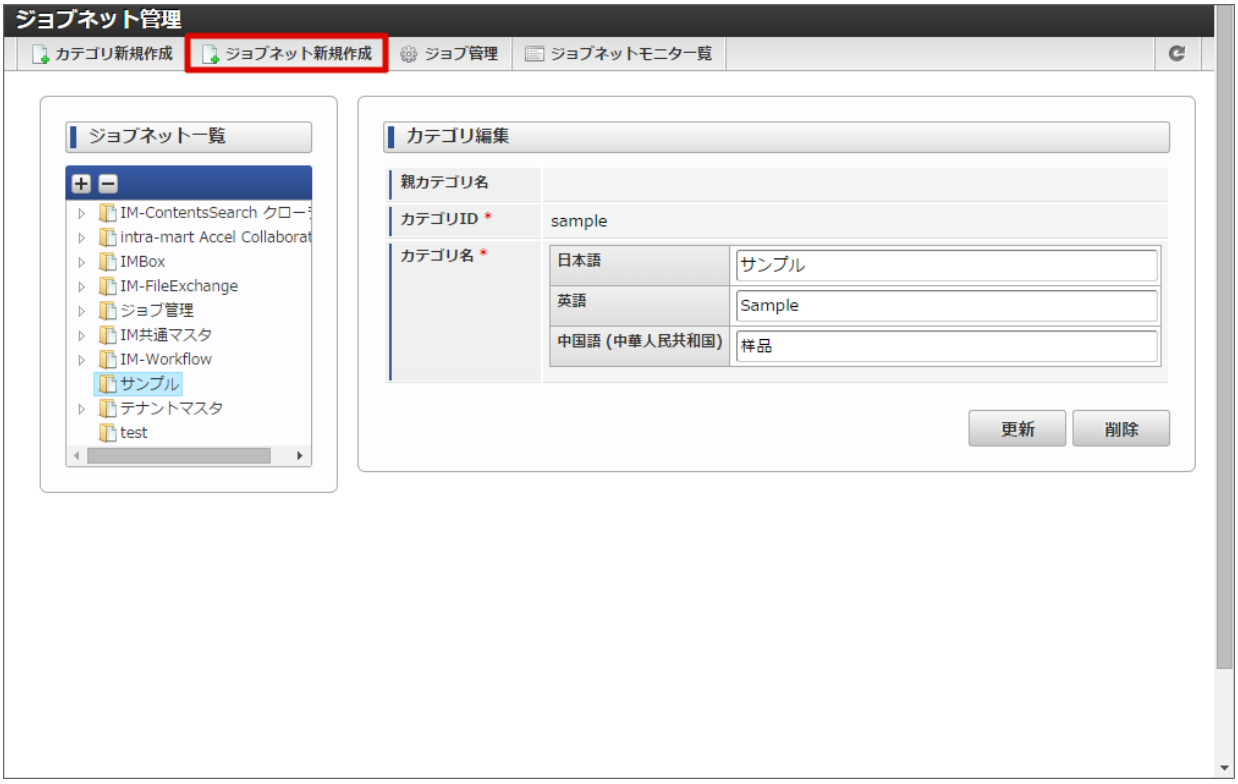
3. カテゴリ情報を入力します。

4. 「新規作成」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

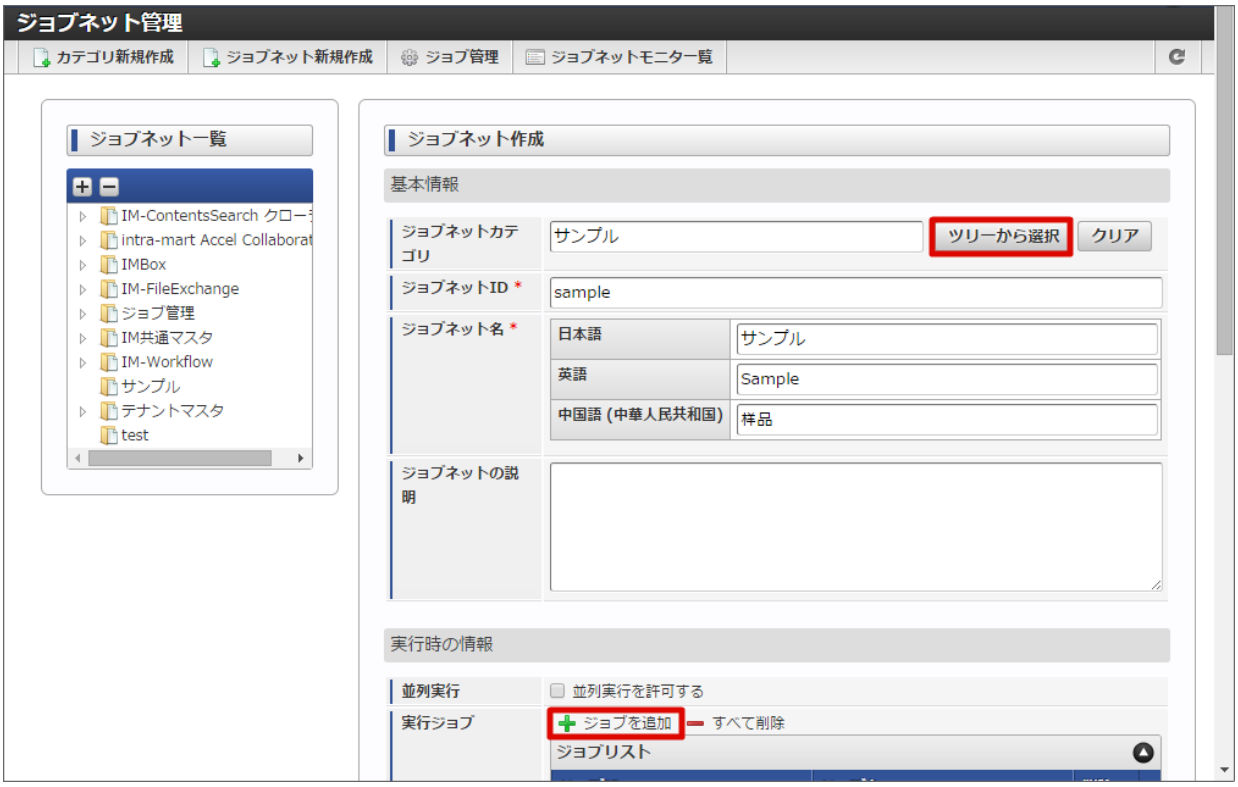


5. ジョブネットのカテゴリが登録できました。

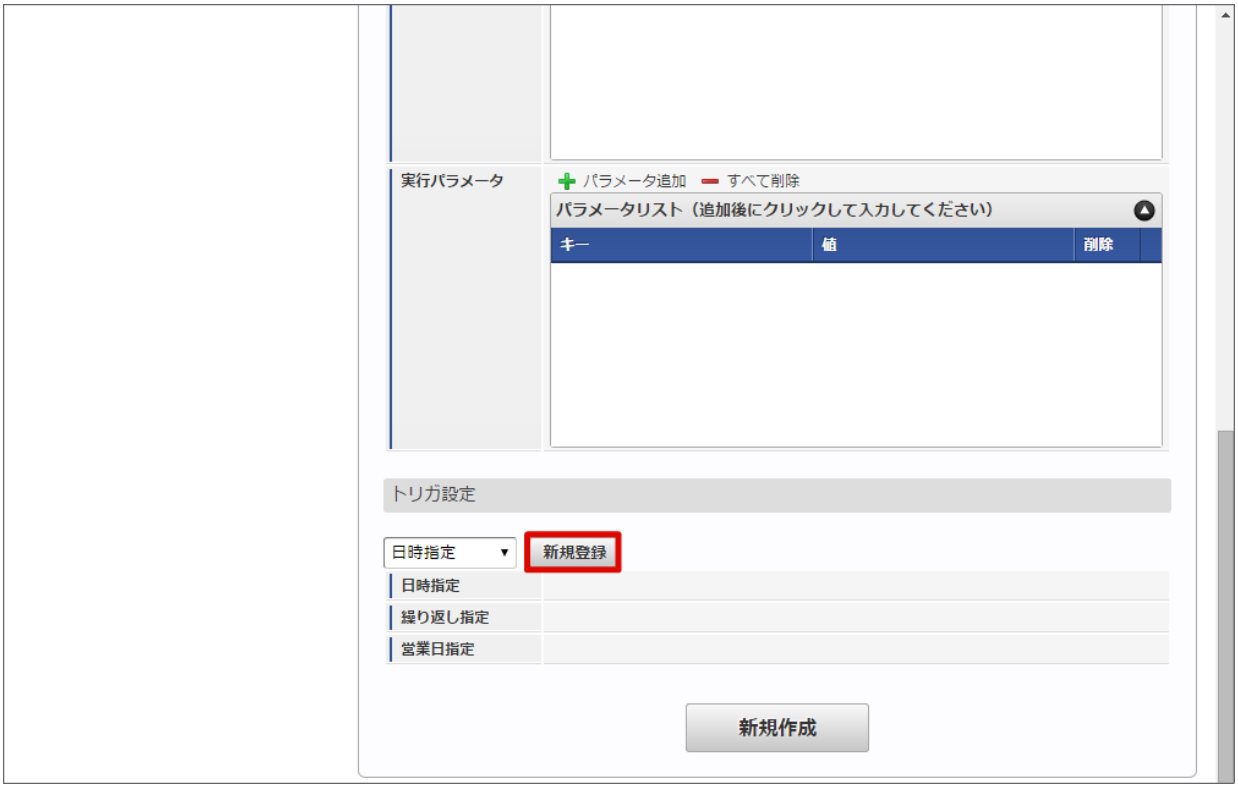
6. 作成したカテゴリにジョブネットを登録します。
   「ジョブネット新規作成」をクリックします。



7. ジョブネット情報を入力します。
   ジョブネットカテゴリは、作成したカテゴリを「ツリーから選択」から選択します。
   実行ジョブは、登録したジョブを「ジョブを追加」から選択します。

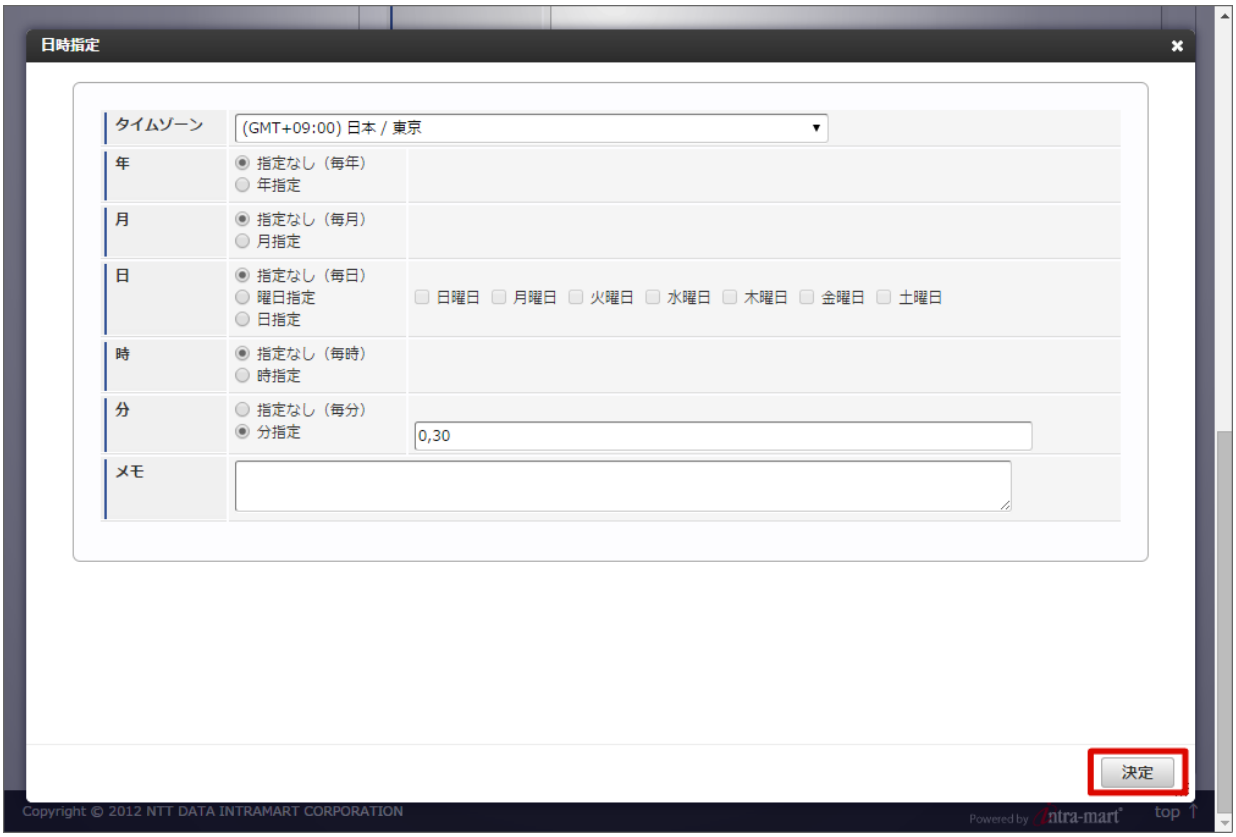


8. トリガ設定を設定します。
   トリガの種類を選択し、「新規登録」をクリックします。

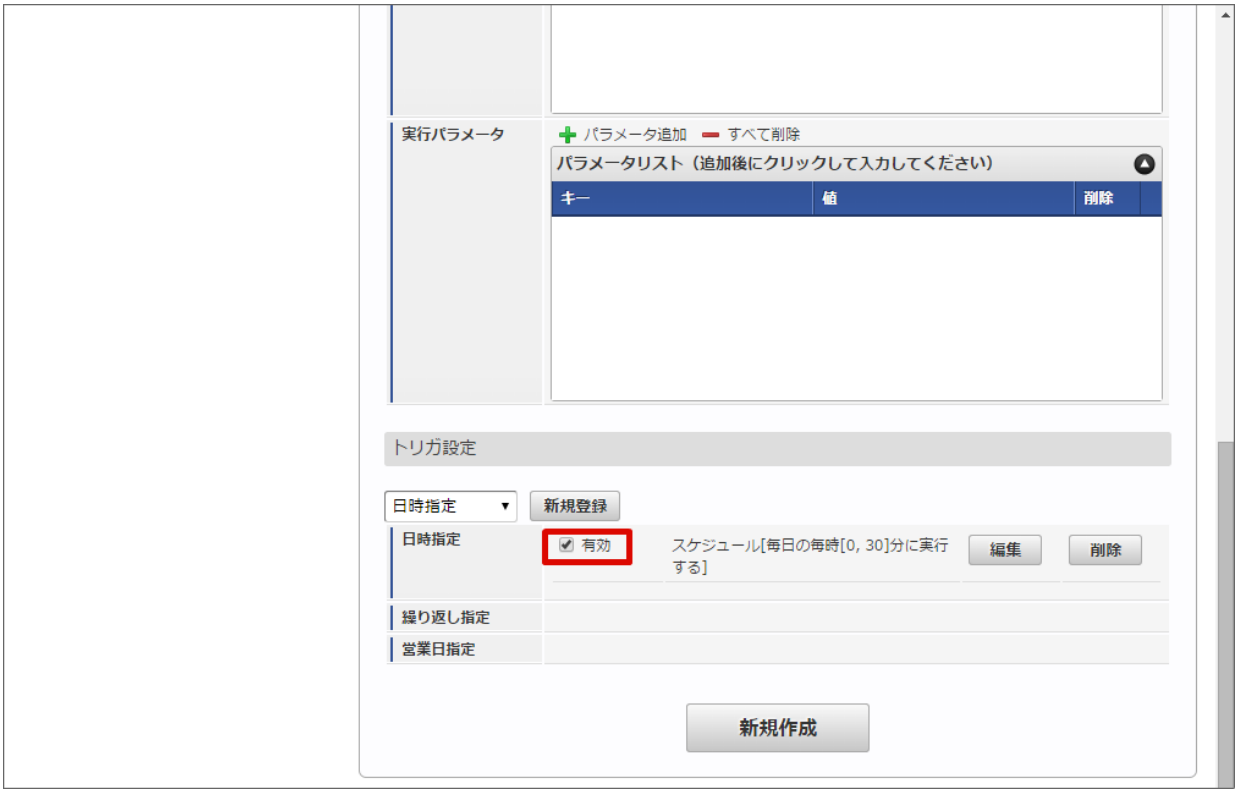


9. トリガの内容を設定します。
   トリガの種類によって設定内容が変わります。

10. 「決定」をクリックします。

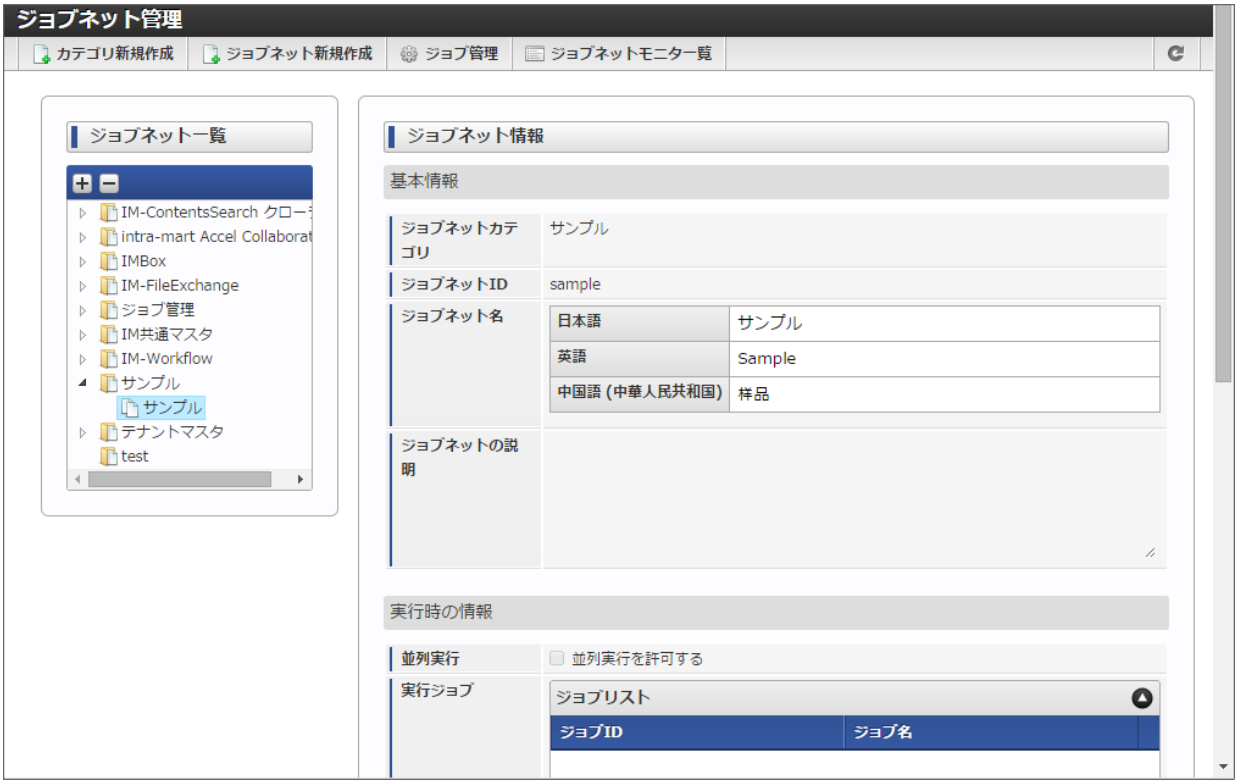


11. 設定したトリガの「有効」のチェックボックスをオンにします。



12. 「新規作成」をクリックします。
    確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

13. ジョブネットの登録ができました。
    設定した内容で自動的にプログラムが実行されます。



コラム

「並列実行を許可する」にチェックをされた場合は、同じジョブネットが同時に実行されます。

例えば、トリガ設定で

1.日時指定「毎日1時に実行する」

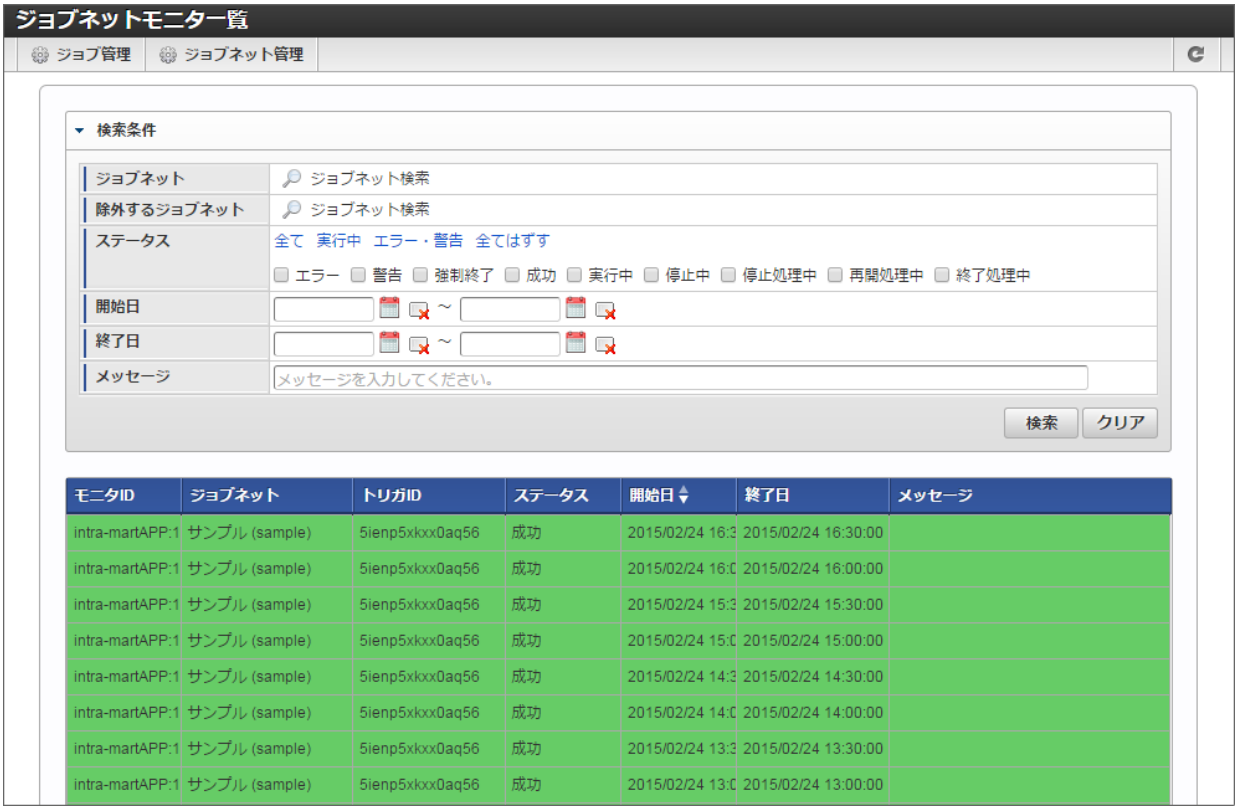
2.営業日指定「営業日の1時に実行する」

とした場合、２つのトリガが1時に実行されます。

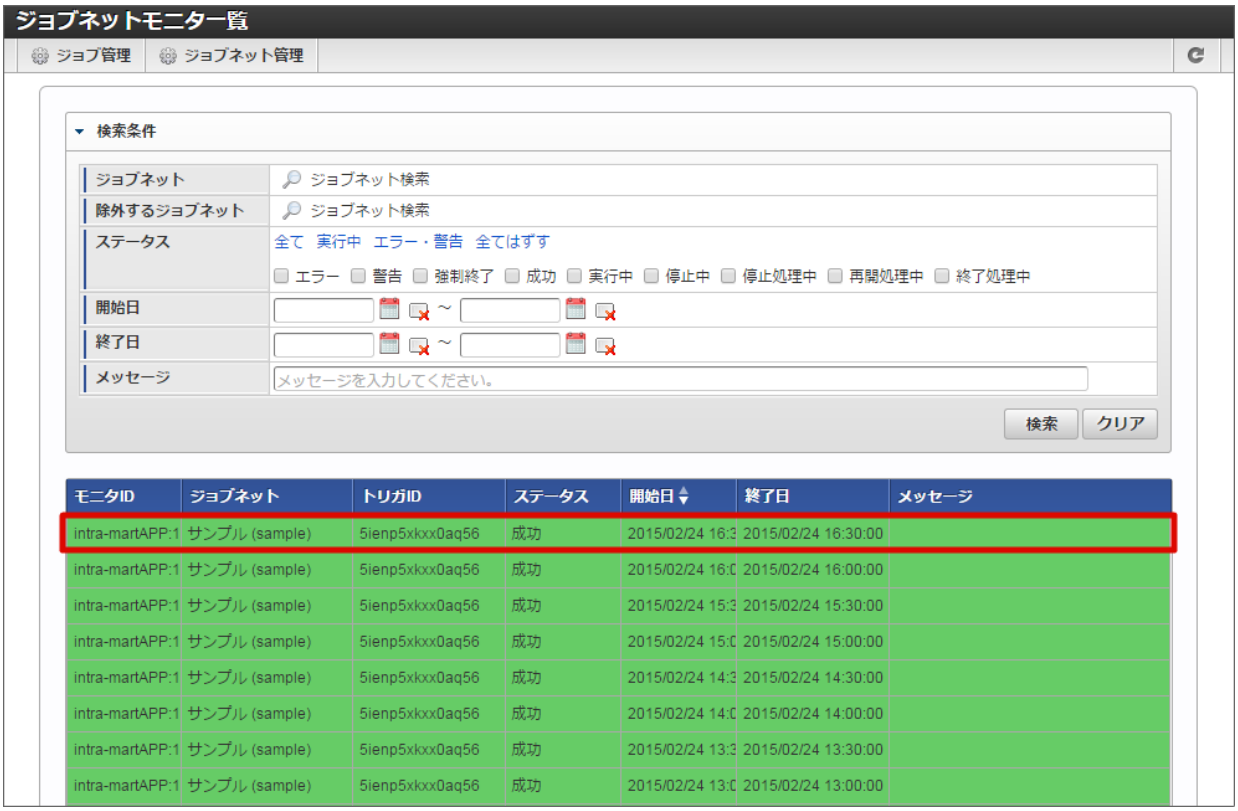
この時、「並列実行を許可する」にチェックされていると２つとも実行され、チェックされていないと片方しか実行されません。

ジョブネットの実行結果を確認する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネットモニタ」をクリックします。
2. ジョブネットの実行結果を一覧で確認できます。

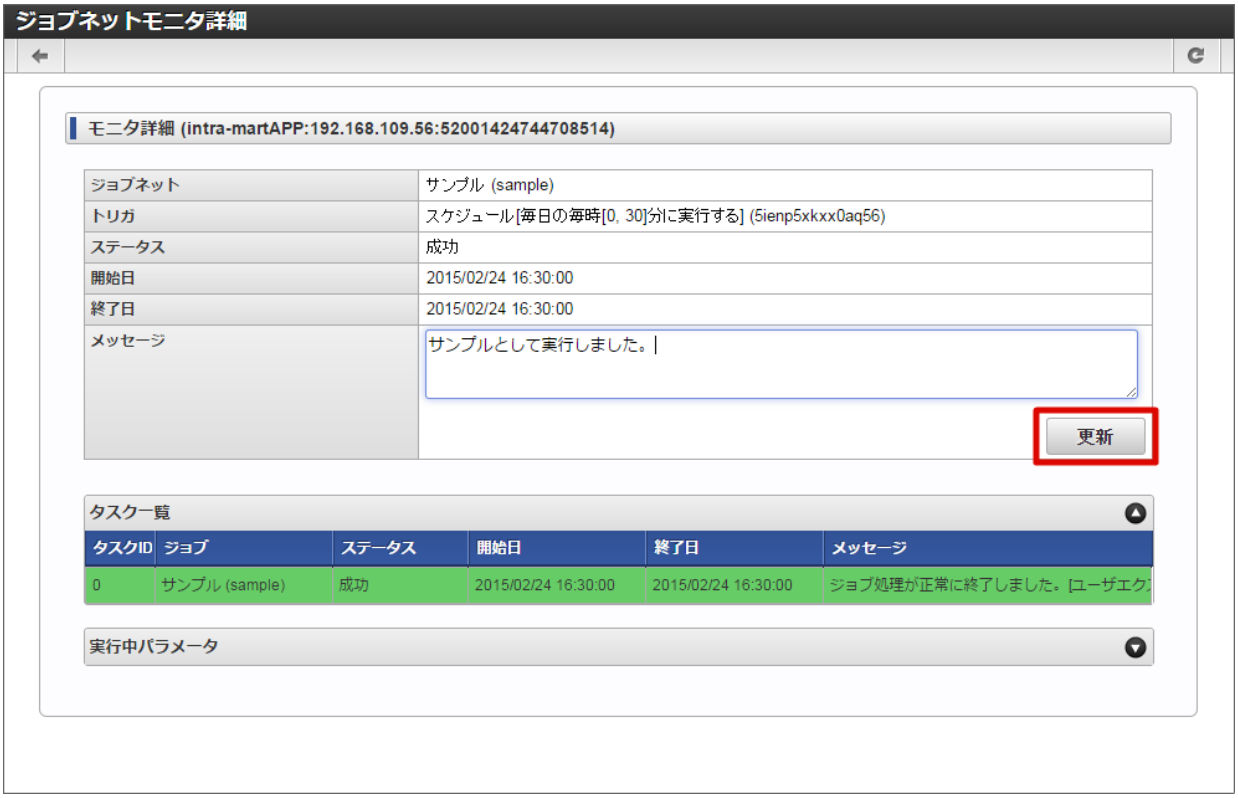


3. 実行されたジョブにメッセージを登録します。
   メッセージを登録したいジョブの行をクリックします。

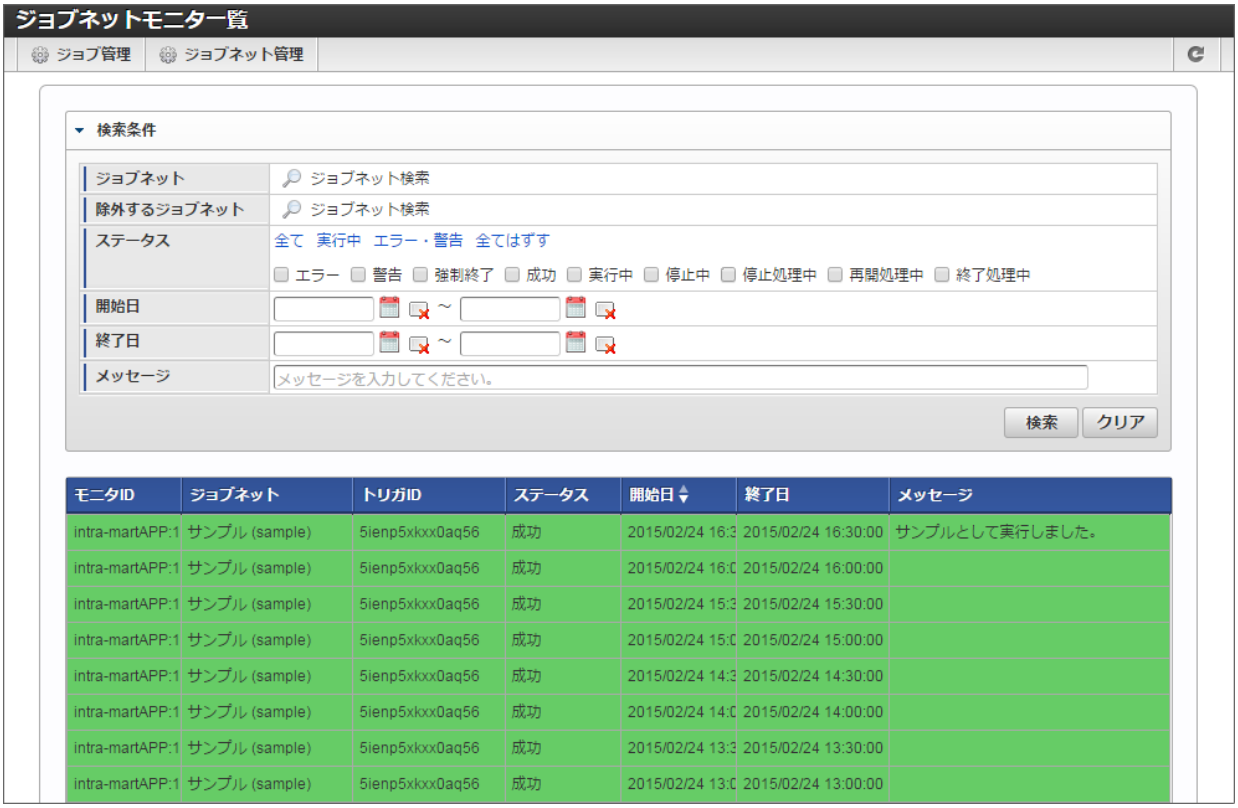


4. メッセージを入力します。

5. 「更新」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



6. メッセージを登録できました。
   登録したメッセージはジョブネットモニター一覧で確認できます。

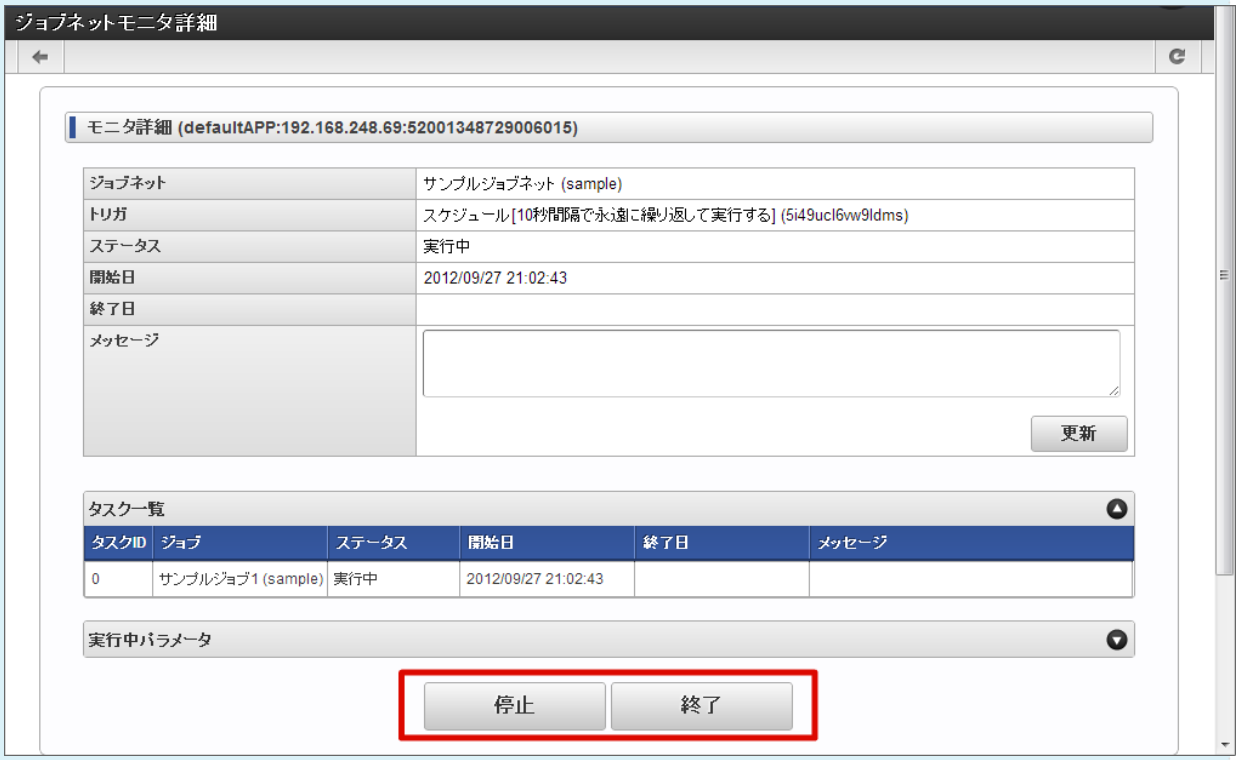


コラム

ジョブネットモニタ詳細画面では、実行中のジョブネットを停止・強制終了することができます。
ジョブネットに登録されているジョブ単位に停止・強制終了します。

例）ジョブネットにジョブA、ジョブBが登録されている場合
ジョブAを実行中に停止した場合、ジョブAが終了したタイミングで停止され、ジョブBは再開待ちの状態に変わります。

停止中のジョブネットを再開する場合もこの画面で操作します。



パスワードリマインダを設定する

パスワードリマインダ機能を設定することで一般ユーザがパスワードを忘れた場合に、パスワードを再設定させることができます。

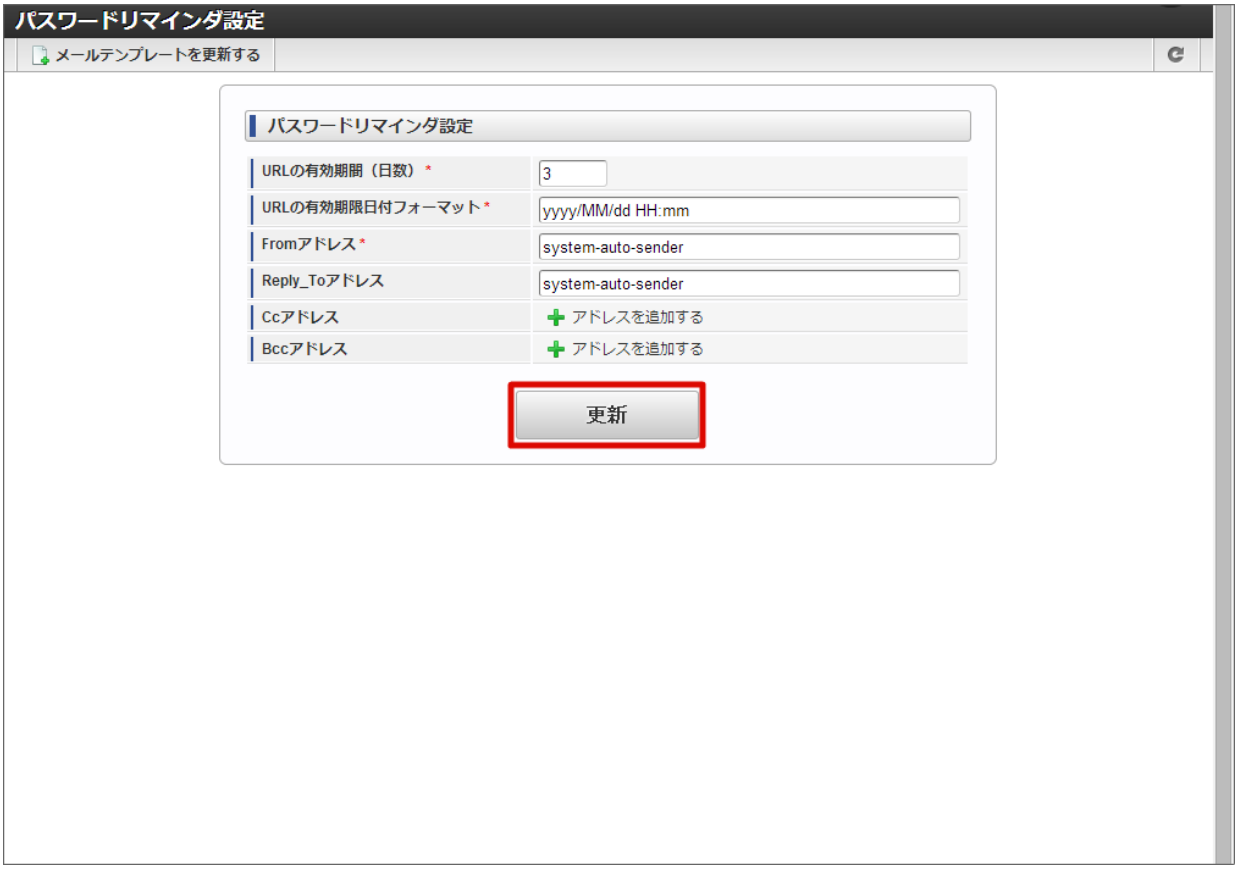
パスワードリマインダ機能の設定には、基本設定とメールテンプレート設定があります。
基本設定では、パスワード再設定画面URLの有効期間等を設定します。
メールテンプレート設定では、ロケール毎のリマインダメールテンプレートを設定します。

注意

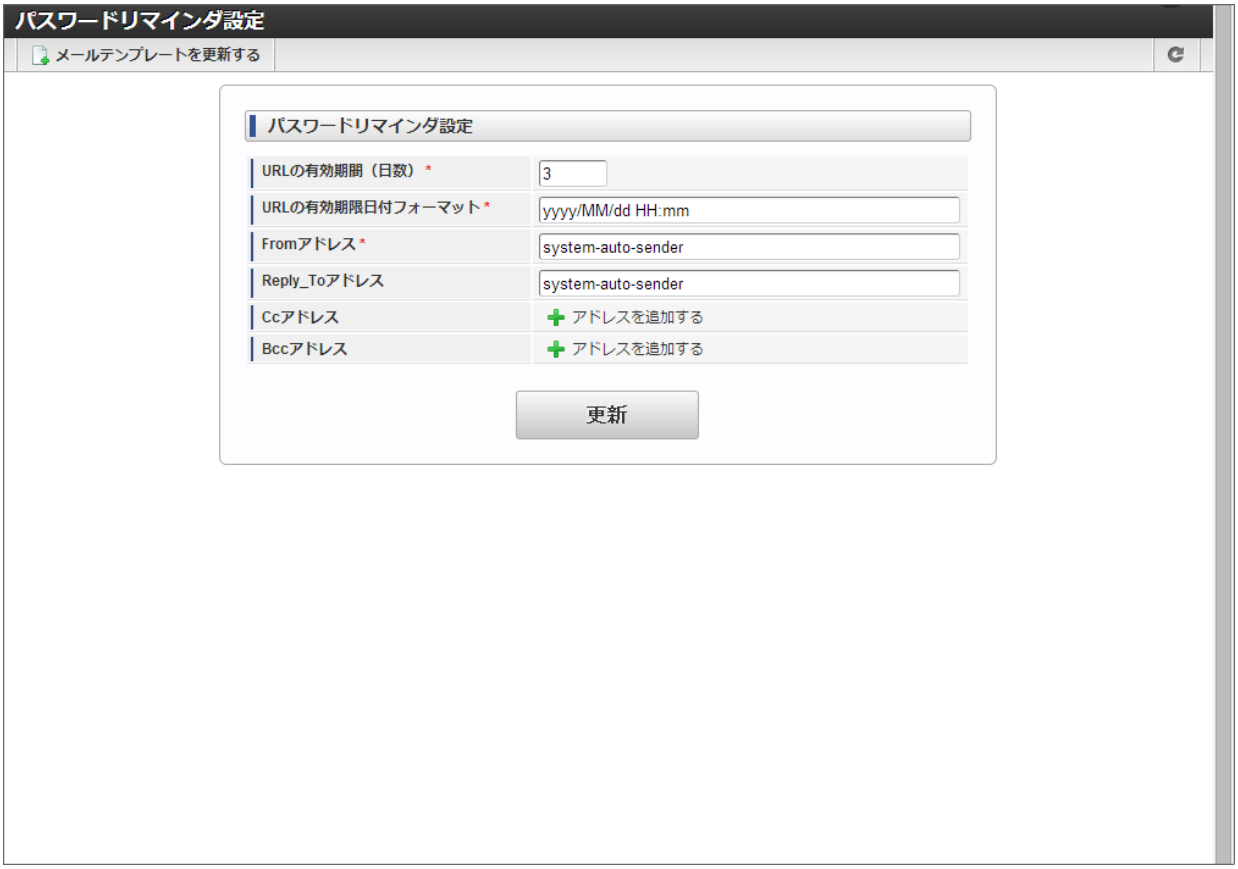
パスワードリマインダ機能を利用する場合には、システムからメールの送信が可能な環境である必要があります。
あらかじめSMTPサーバの設定等を行ってください。

基本設定を設定する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「パスワードリマインダ設定」をクリックします。
2. パスワードリマインダ基本情報を入力します。
3. 「更新」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

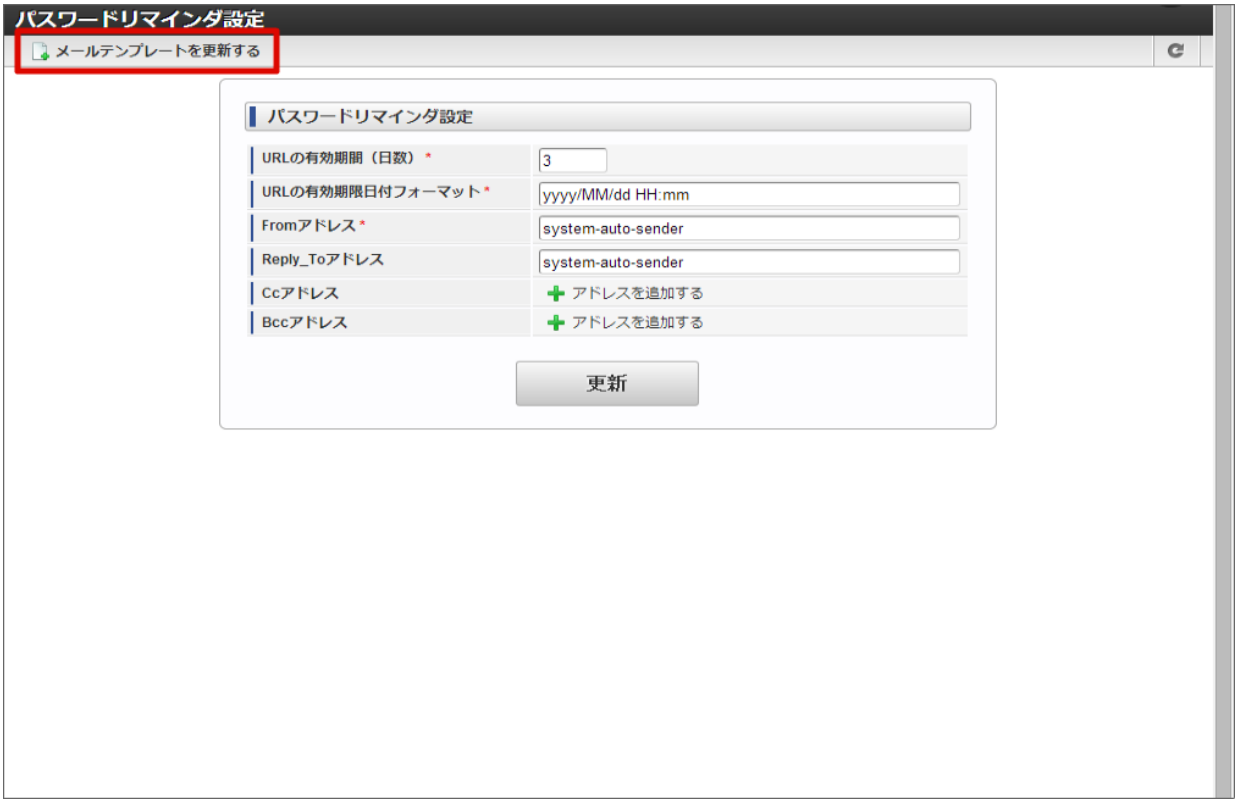


4. パスワードリマインダ基本情報が設定できました。

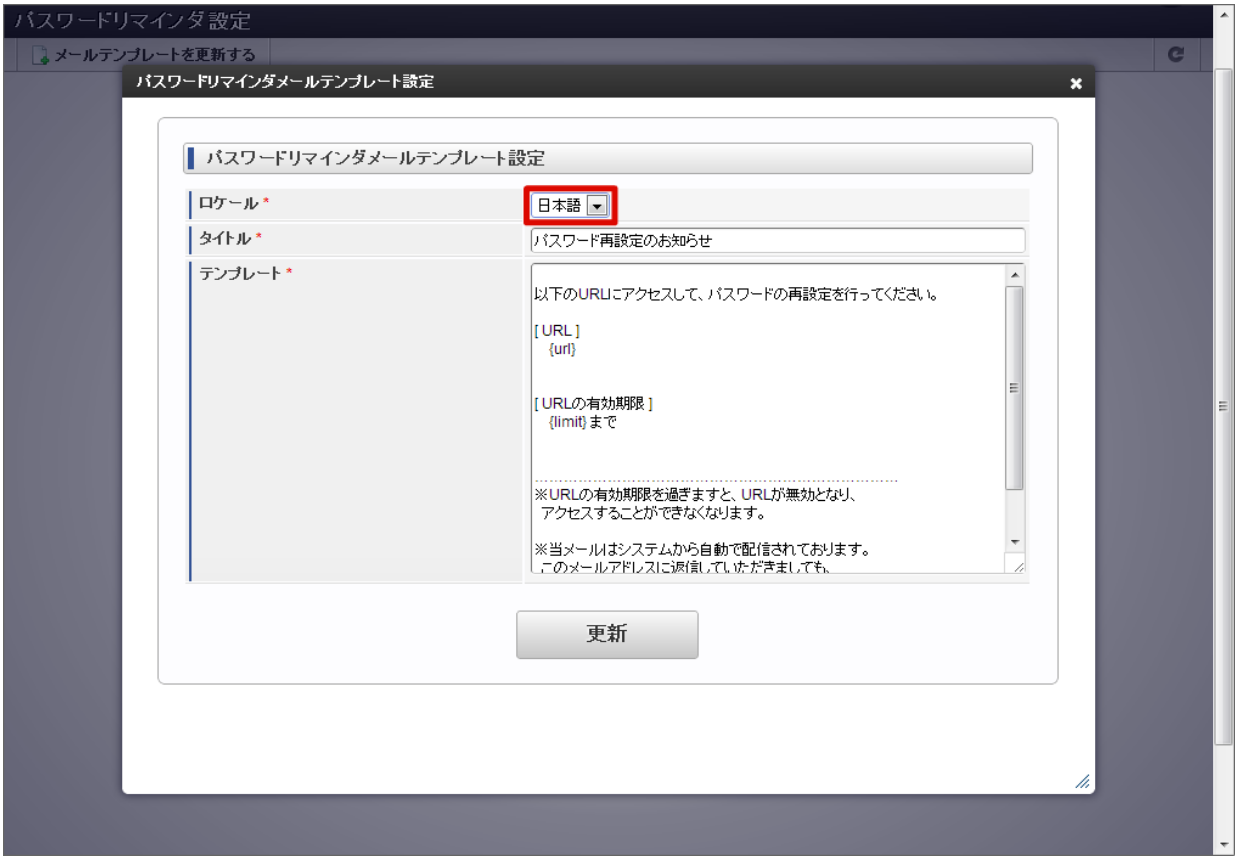


メールテンプレートを設定する

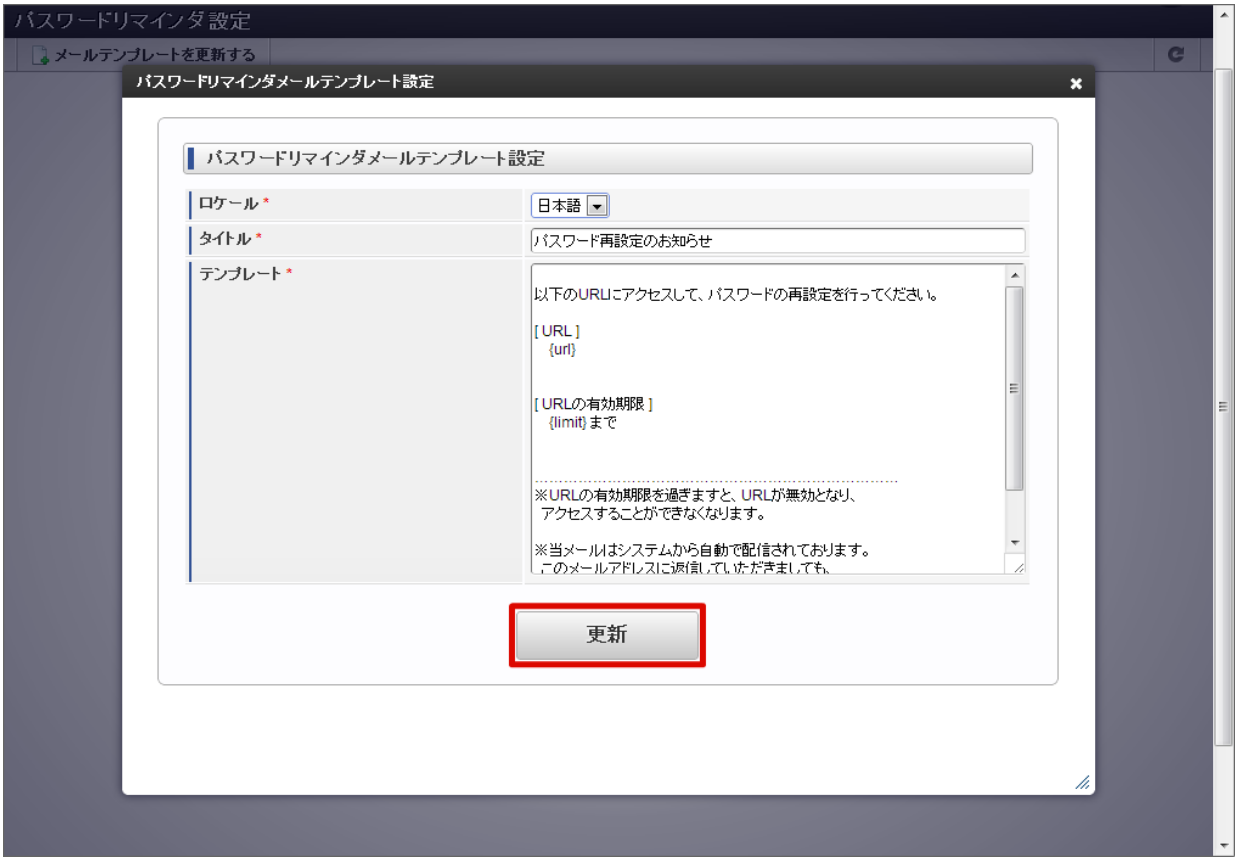
1. パスワードリマインダメールテンプレートを設定します。
   「メールテンプレートを更新する」をクリックします。



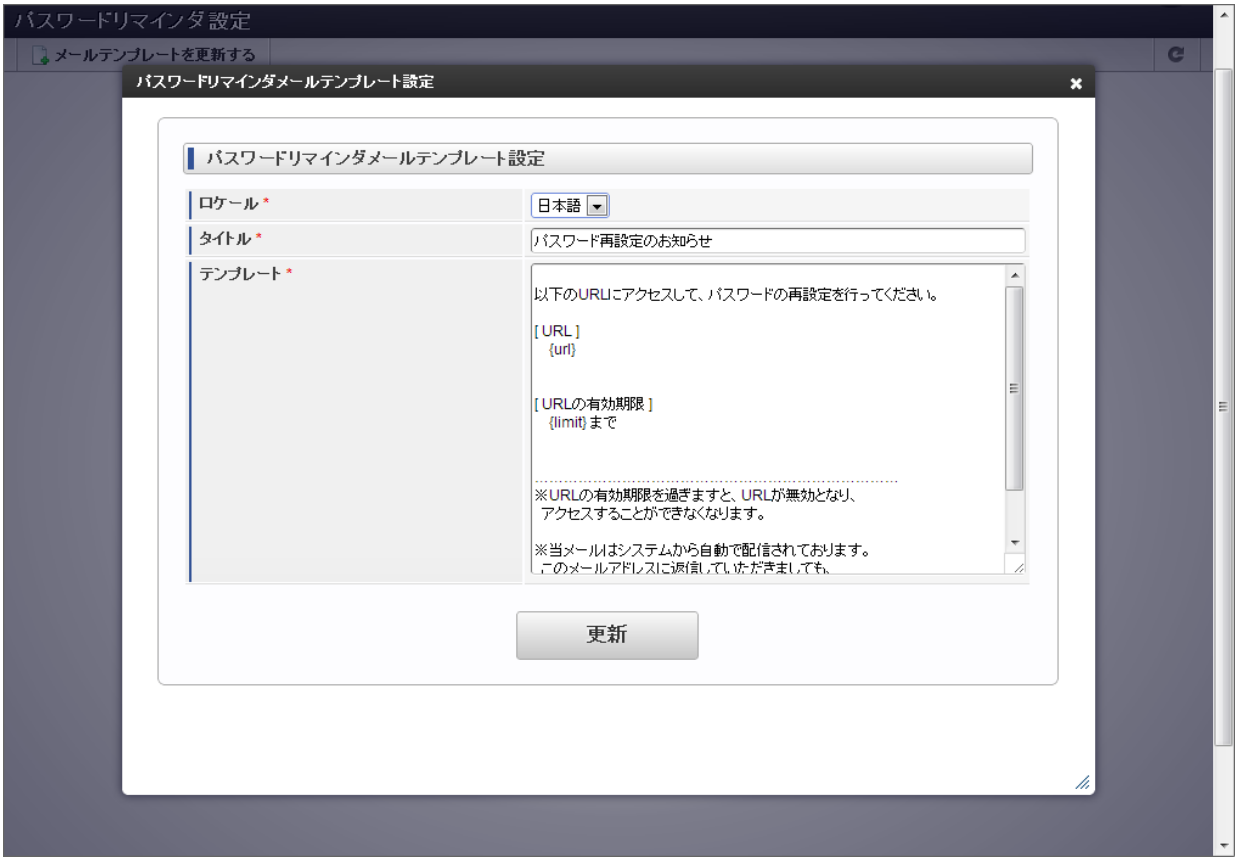
2. メールテンプレート情報を入力します。
   別のロケールのメールテンプレート情報を設定する場合はロケールのセレクトボックスより設定を行うロケールを選択します。
   ロケールを切り替えると選択したロケールのメールテンプレート情報が表示されます。



3. 「更新」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。



4. メールテンプレート情報が設定できました。



コラム

パスワードリマインダメールで利用可能な置換文字列は以下の通りです。

- {url}

  パスワード再設定画面へのURLに置換します。

- {url_no_baseurl}

  ベースURLを含まないパスワード再設定画面へのURLに置換します。

- {limit}

  基本設定の「URLの有効期限日付フォーマット」に指定したフォーマットでパスワード再設定画面へのURLの有効期限日に置換されます。
  有効期限日はユーザが指定しているタイムゾーンの時刻に変換されます。

ファイル操作を使用する

Storage領域に対してディレクトリやファイルの新規作成、ファイルの削除やアップロードなどが行えます。
アップロードされたファイルはStorage領域に保存されます。

テナント管理者によるファイル操作 は intra-mart Accel Platform 2014 Spring より利用可能です。
テナント管理者は管理しているテナントのStorage領域に対して操作を行うことができます。

具体的な手順は「システム管理者ガイド 」-「ファイル操作 」を参照してください。

データベース操作を使用する

データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。
実行方法には、テキストエリアにSQL文を記入して実行する「SQL実行」と、ファイルに定義したSQL文を実行する「SQLファイルインポート」の方法があります。

テナント管理者によるデータベース操作 は intra-mart Accel Platform 2014 Spring より利用可能です。
テナント管理者は管理しているテナントデータベースに対して操作を行うことができます。

具体的な手順は「システム管理者ガイド 」-「データベース操作 」を参照してください。

ログインセッションを無効化する

一般ユーザのログイン状況を一覧で参照・無効化します。
ログインセッション情報は二重ログインの防止や一般ユーザを強制的にログアウトさせる際に利用されます。

二重ログイン防止機能

二重ログイン防止機能とは、既にログイン中のユーザと同じユーザで別の環境（ブラウザ）からログインできないようにするための機能です。

一般ユーザのログイン時にログインセッション情報がデータベースに登録されます。ログイン中、その情報は保持されています。
別の環境より同じユーザでログインしようとした際に、ログインセッション情報が存在する場合はログインできません。

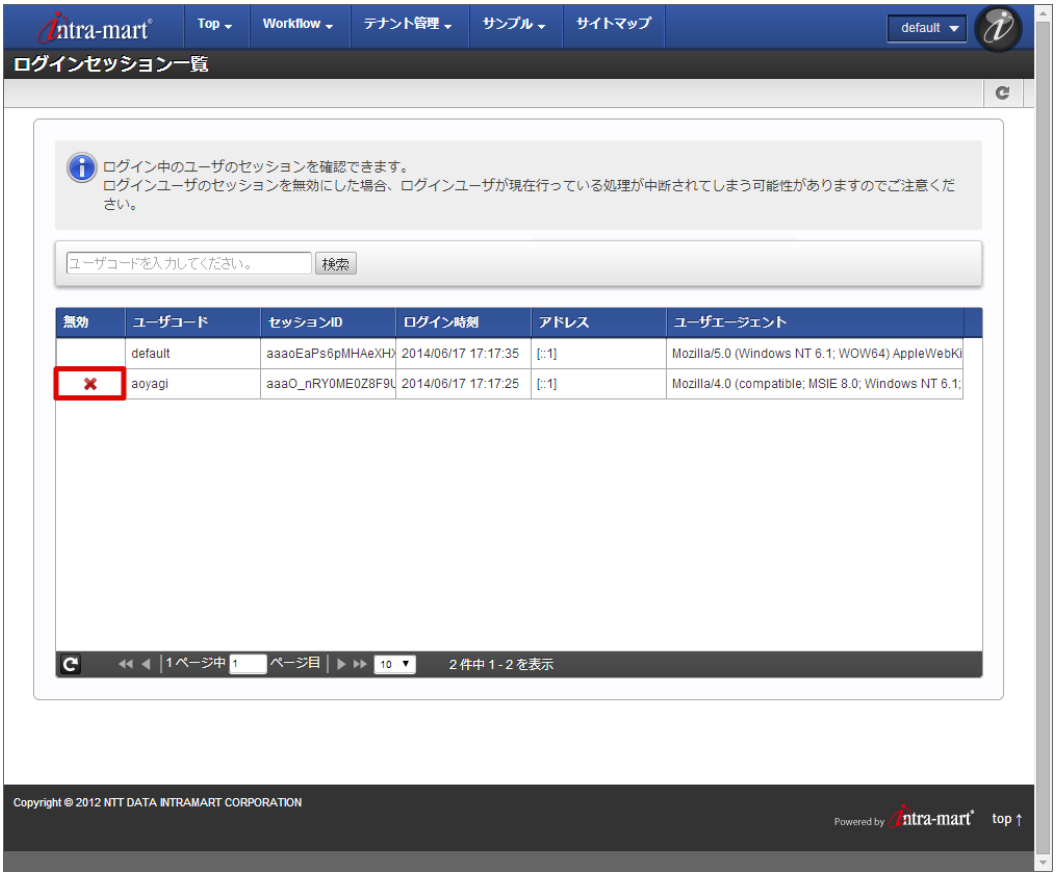
二重ログインが検出されると認証失敗となり、以下のような「認証エラー」画面が表示されます。

セッションの無効化の操作

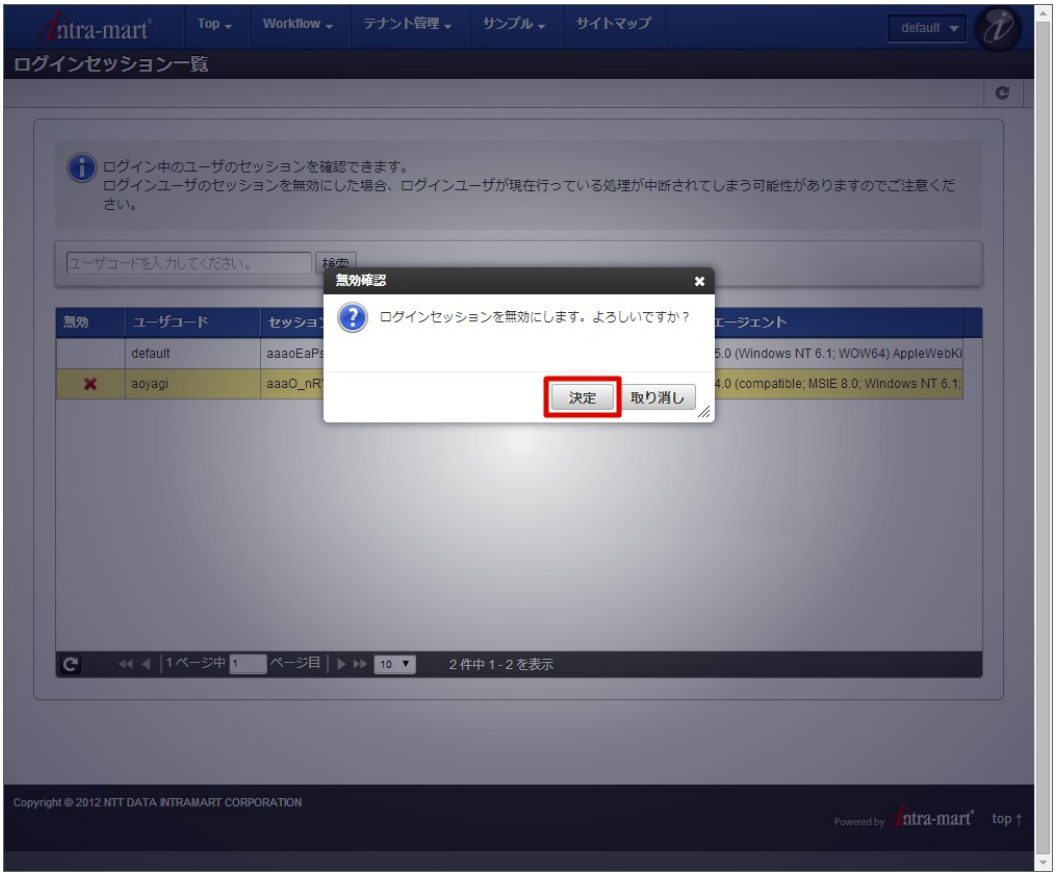
テナント管理者は、ログイン中のユーザのセッションを無効化することができます。
ログインセッションを無効化すると、ログイン中のユーザは強制的にログアウトされます。このため、行っていた処理も中断されてセッションタイムアウトの画面が表示されます。

> **コラム**
>
> ログインしているユーザ自身のセッションを無効化することはできません。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「ログインセッション一覧」をクリックします。
2. 一覧よりログインセッションを無効化したいユーザの無効アイコン「×」をクリックします。



3. 確認ダイアログの「決定」をクリックします。



4. ログインセッションを無効化できました。

> **注意**
>
> サーバの強制終了等、まれに無効化されたログインセッション情報がゴミデータとして残ってしまう場合があります。
> 無効化されたログインセッション情報がゴミデータとして残ってしまった場合は、以下のジョブを実行すると削除することができます。
>
> http://www.intra-mart.jp/document/library/iap/public/job-jobnet_reference/texts/job/tenant-job-category/delete-login-session/index.html

ヘルプドロップダウンを表示する

「ヘルプドロップダウンを表示する」は、別ドキュメントの サイトツアー仕様書 へ移行しました。

セーフURLを設定する

オープンリダイレクト脆弱性への対応として、リダイレクト先を確認するためのセーフURLリストを設定します。

目次
- セーフURLを登録する

セーフURLを登録する

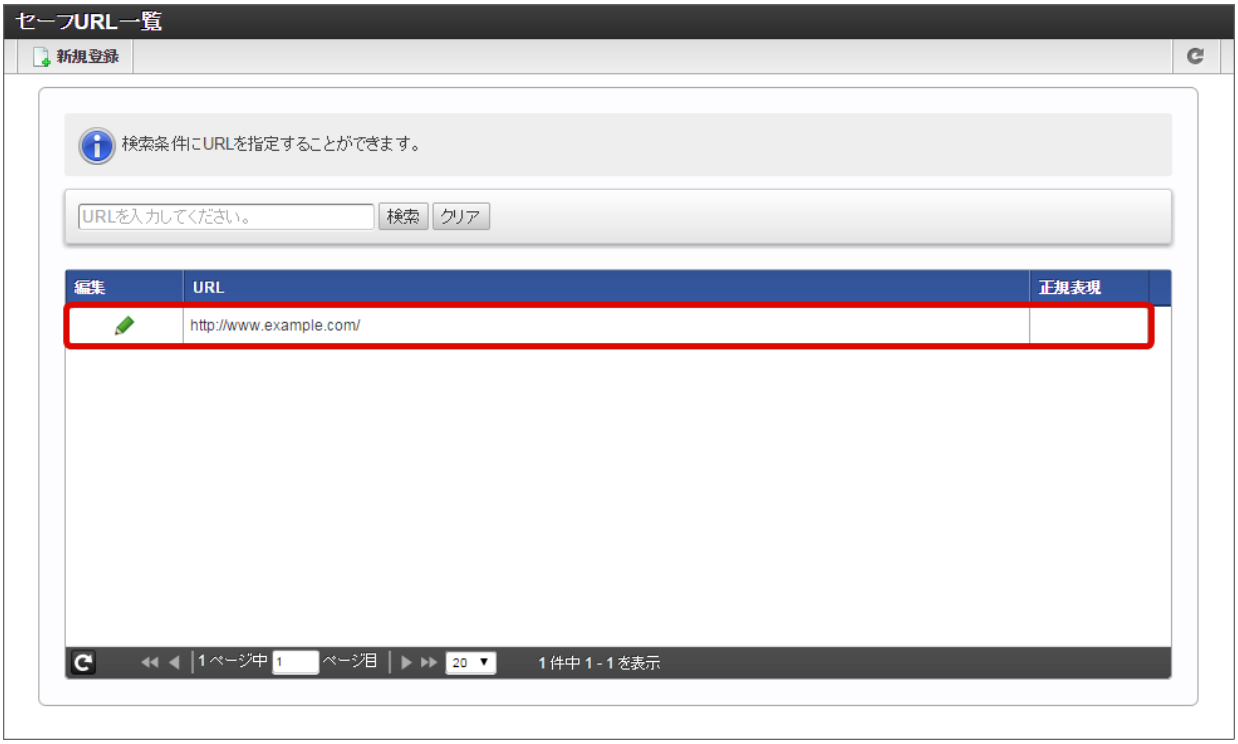
1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「セーフURL」をクリックします。
2. 「新規登録」をクリックします。

3. 内容を入力します。
   - URL
     セーフURLとして登録するURLを入力します。
   - 正規表現
     ここで設定するURLを正規表現として扱うかどうかを設定します。
     チェックボックスをオンにした場合、URLは正規表現として扱われます。

> **コラム**
> **正規表現のフォーマットは以下を参照してください。**
> - Oracle Java Pattern (日本語)
> - Oracle Java Pattern (英語)

4. 「登録」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

5. セーフURLが登録できました。



コラム

編集する場合

1. アイコンをクリックします。
2. 編集画面が表示されるので、内容を編集します。

コラム

削除する場合

1. アイコンをクリックします。「セーフURL編集」画面が表示されます。
2. 「削除」をクリックします。
   確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

数値形式を設定する

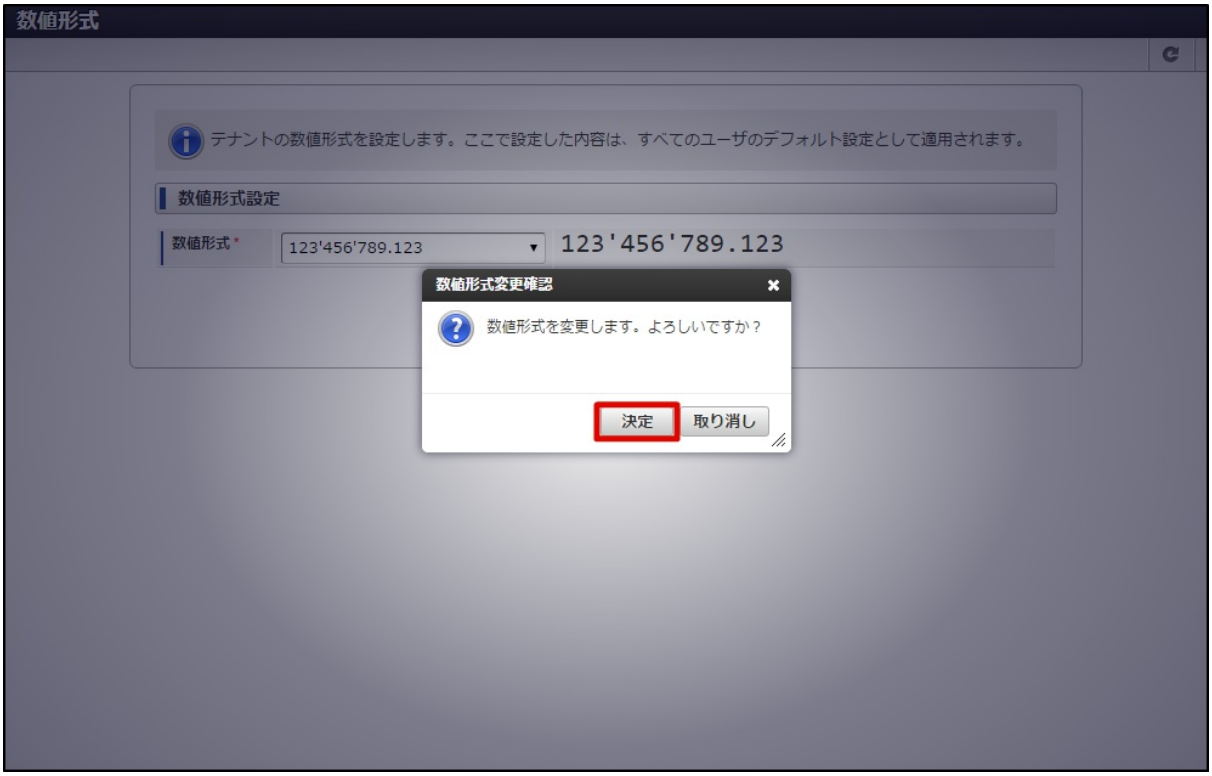
テナントでデフォルトとして使用する「数値」の形式を設定します。
各ユーザが個々に「数値」の形式を設定しない場合は、この形式が利用されます。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「テナント情報」→「数値形式」をクリックします。
2. 「数値形式」画面が表示されます。

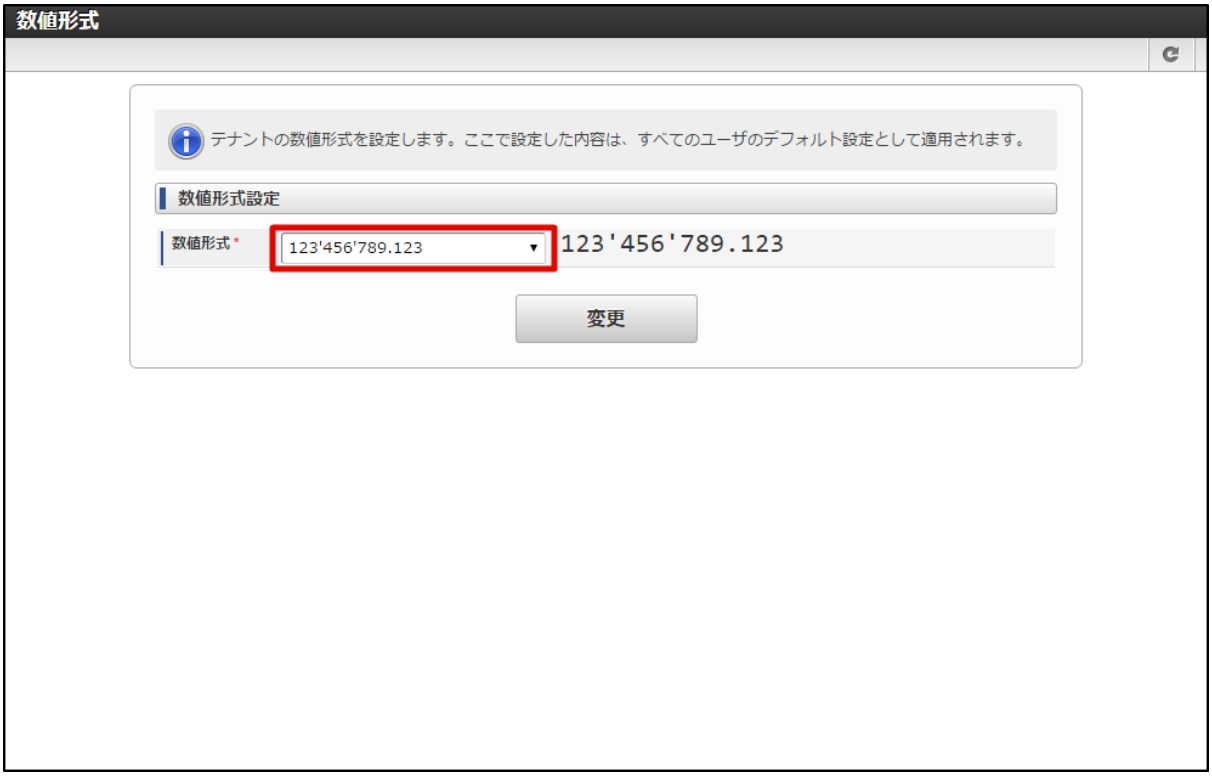
- 数値形式
  数値の形式を選択します。

3. 「変更」をクリックします。

4. 「決定」をクリックします。



5. 数値形式を変更することができました。



ログイン画面の表示を切り替える

> **コラム**
>
> 本設定は2017 Winter(Rebecca)より使用可能となりました。

注意

本設定を利用する場合は、以下のモジュールが必要です。

- モジュール名：「ポータル」
  モジュールID：jp.co.intra_mart.im_portal
- モジュール名：「ログインポートレット」
  モジュールID：jp.co.intra_mart.im_login_portlet

「ログイン」画面を表示した際に、ポータル表示を行うかを設定します。

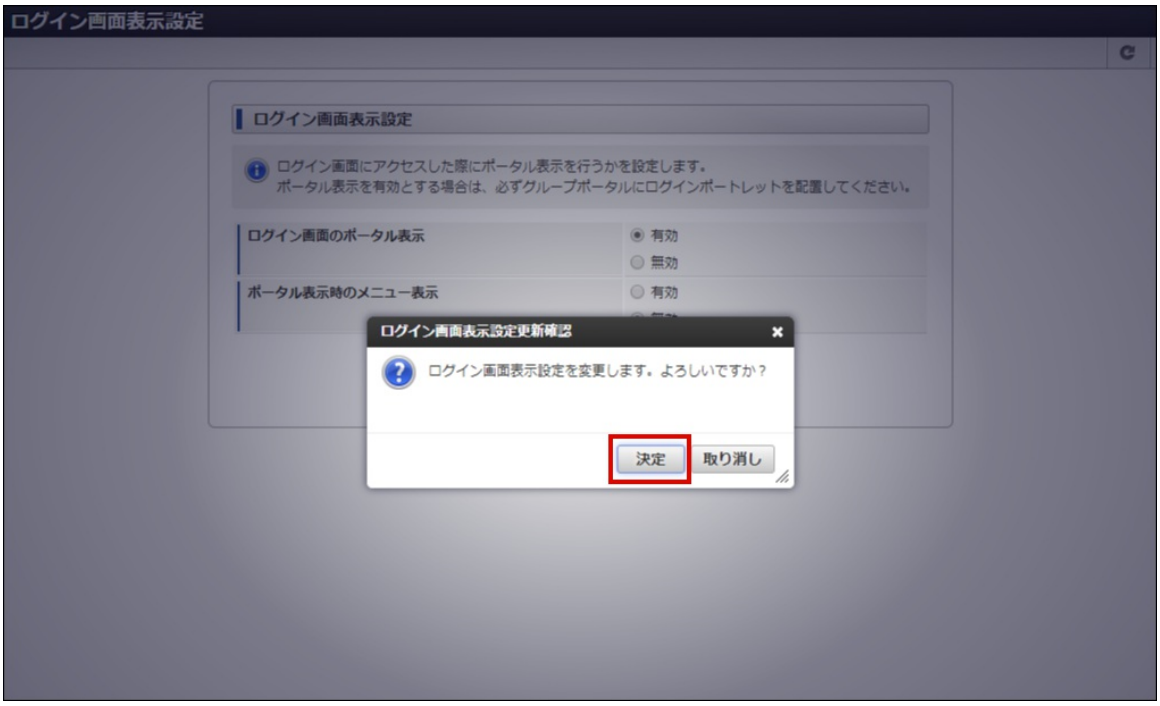
1. 「サイトマップ」→「ポータル管理」→「ログイン画面表示設定」をクリックします。
2. 「ログイン画面表示設定」画面が表示されます。

- 「ログイン画面のポータル表示」項目
  「ログイン」画面を表示した際に、ポータルを表示するかを設定します。
- 「ポータル表示時のメニュー表示」項目
  「ログイン」画面がポータル表示の場合に、メニュー（グローバルナビ）を表示するかを設定します。

3. 「ログイン画面のポータル表示」項目の「有効」をクリックします。

4. 「変更」をクリックします。

5. 「決定」をクリックします。



6. 「ログイン」画面がポータル表示に切り替わりました。

7. ポータル表示時のメニュー表示が「有効」の場合は以下のようにメニュー（グローバルナビ）が表示されます。

注意

ポータル表示を有効にする場合は、必ずグループポータルにログインポートレットを配置してください。
ログインポートレットの設定方法は、「ポータル 管理者操作ガイド」-「ログインポートレットを設定する」を参照してください。
ログインポートレットを配置せずに、ポータル表示を有効にした場合はログイン処理が行えなくなる可能性があります。
その場合は、リクエストパラメータ「im_portal_disabled」を付与した以下のURLへアクセスし、通常の「ログイン」画面を表示してください。
http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/login?im_portal_disabled

多要素認証を設定する

テナント管理者は、すべてのユーザに多要素認証を強制したり、多要素認証機能を無効化することができます。
また、多要素認証を有効化しているユーザが携帯端末を紛失した場合、または携帯端末が故障した場合等、確認コードが入力できなくなった際に、そのユーザの多要素認証を無効化、または初期化することができます。

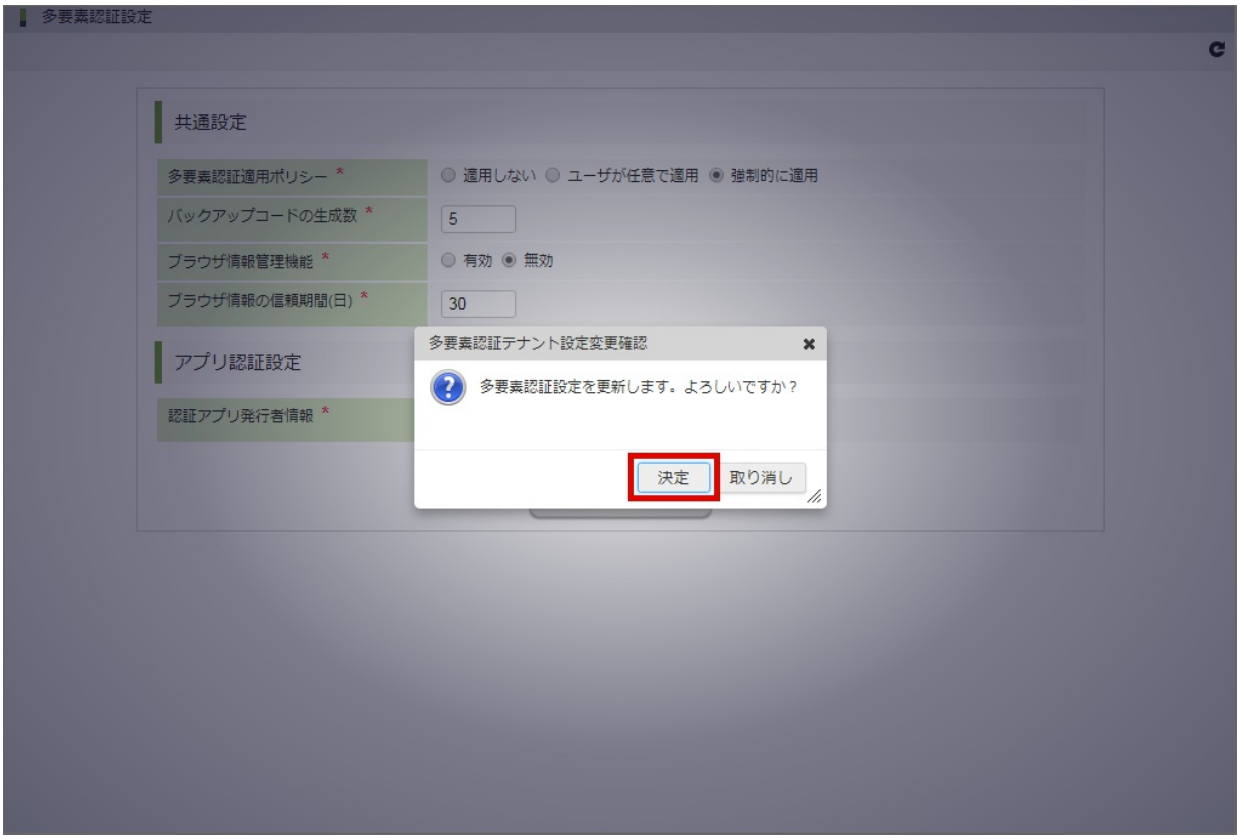
目次

- すべてのユーザに多要素認証を強制する
- 一般ユーザが多要素認証を任意に有効化できるようにする
- 多要素認証機能を無効化する
- 特定のユーザを一時的に多要素認証の対象外にする
- ユーザの多要素認証を初期化する

すべてのユーザに多要素認証を強制する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「多要素認証設定」をクリックします。
2. 「多要素認証適用ポリシー」として「強制的に適用」を選択して「変更」をクリックします。

3. 「決定」をクリックします。

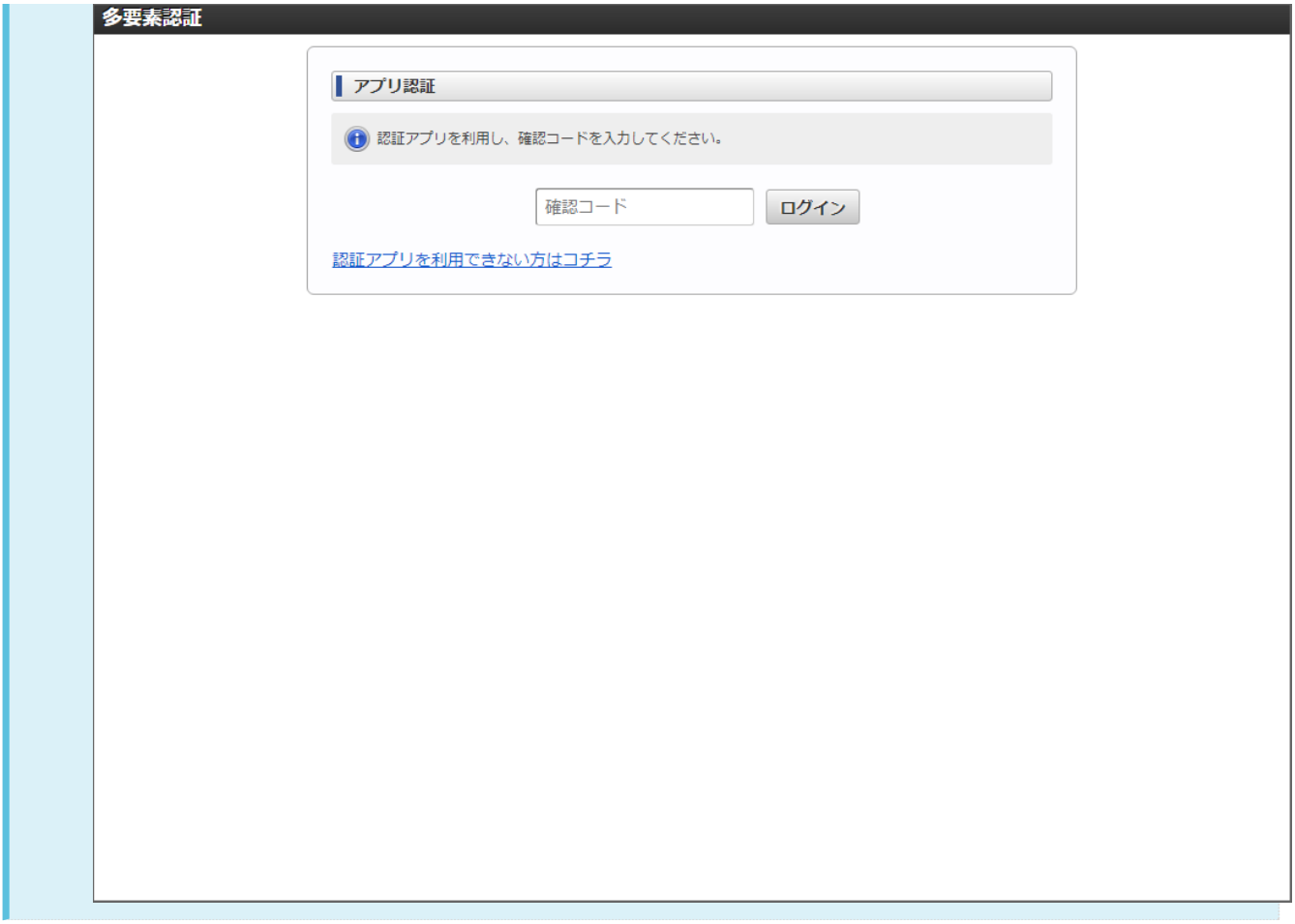


4. 変更できました。

コラム

すべてのユーザに多要素認証を強制することで、ユーザは次回ログイン時に多要素認証の設定が求められ、設定が完了するまでログインができません。

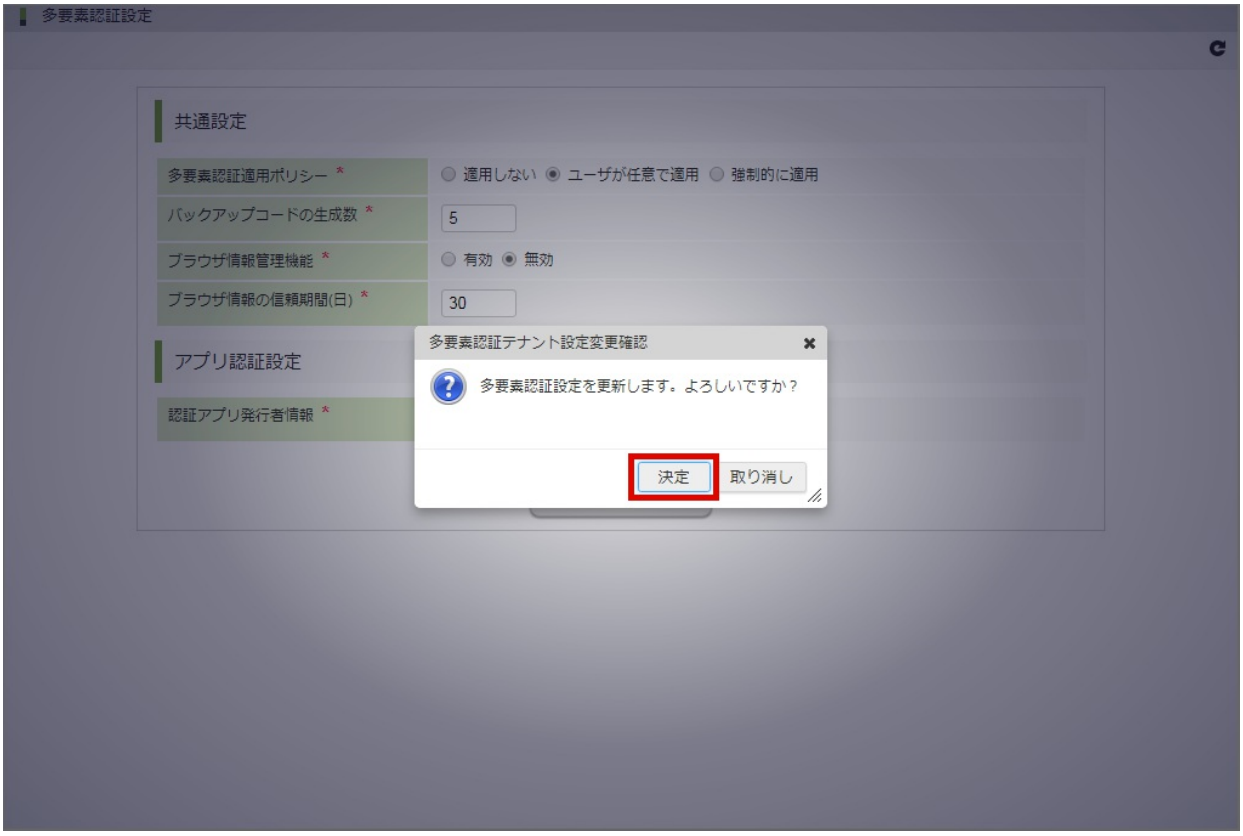
すでに多要素認証を有効化しているユーザには、通常通りログイン時に確認コードの入力が求められます。



一般ユーザが多要素認証を任意に有効化できるようにする

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「多要素認証設定」をクリックします。
2. 「多要素認証適用ポリシー」として「ユーザが任意で適用」を選択して「変更」をクリックします。

3. 「決定」をクリックします。



4. 変更できました。

コラム

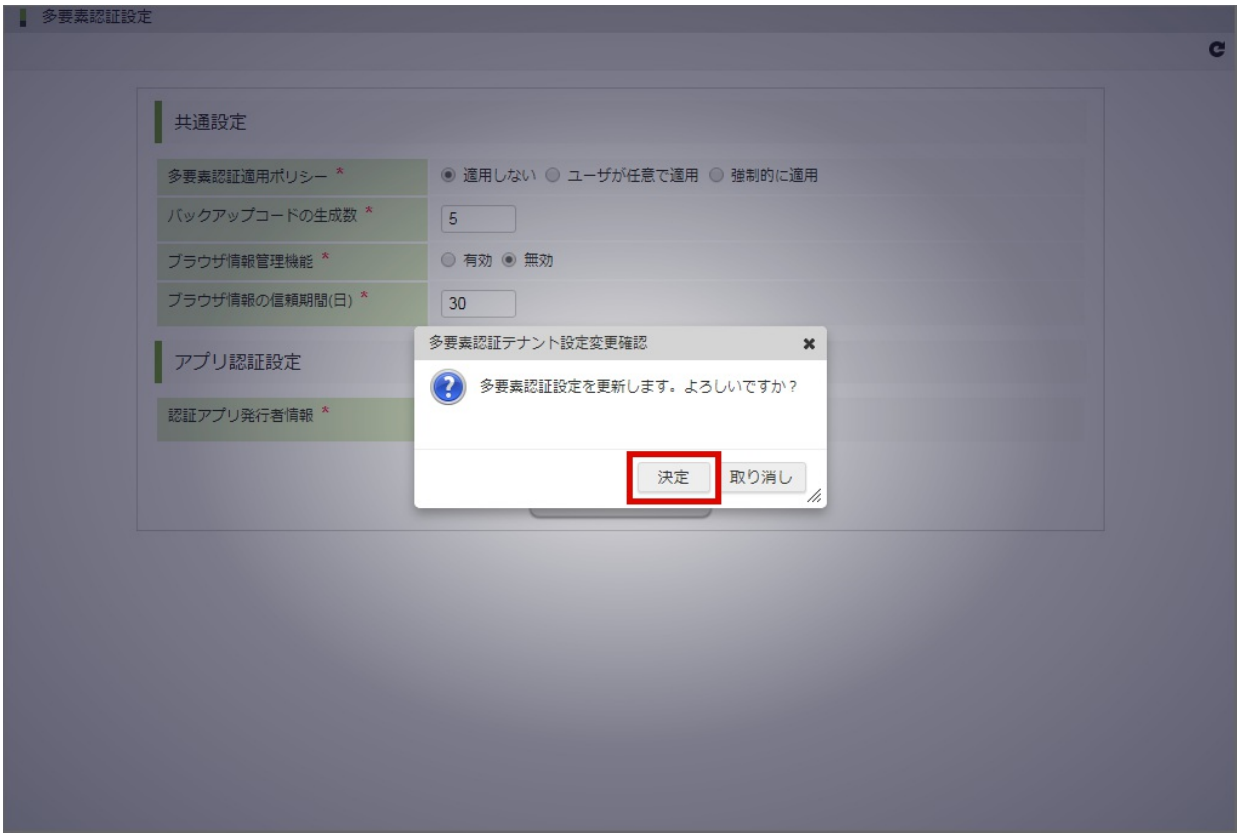
多要素認証を利用したい場合、「サイトマップ」→「個人設定」→「多要素認証設定」から有効化できます。

すでに多要素認証を有効化しているユーザには、通常通りログイン時に確認コードの入力が求められます。

多要素認証機能を無効化する

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「多要素認証設定」をクリックします。
2. 「多要素認証適用ポリシー」として「適用しない」を選択して「変更」をクリックします。

3. 「決定」をクリックします。



4. 変更できました。

コラム

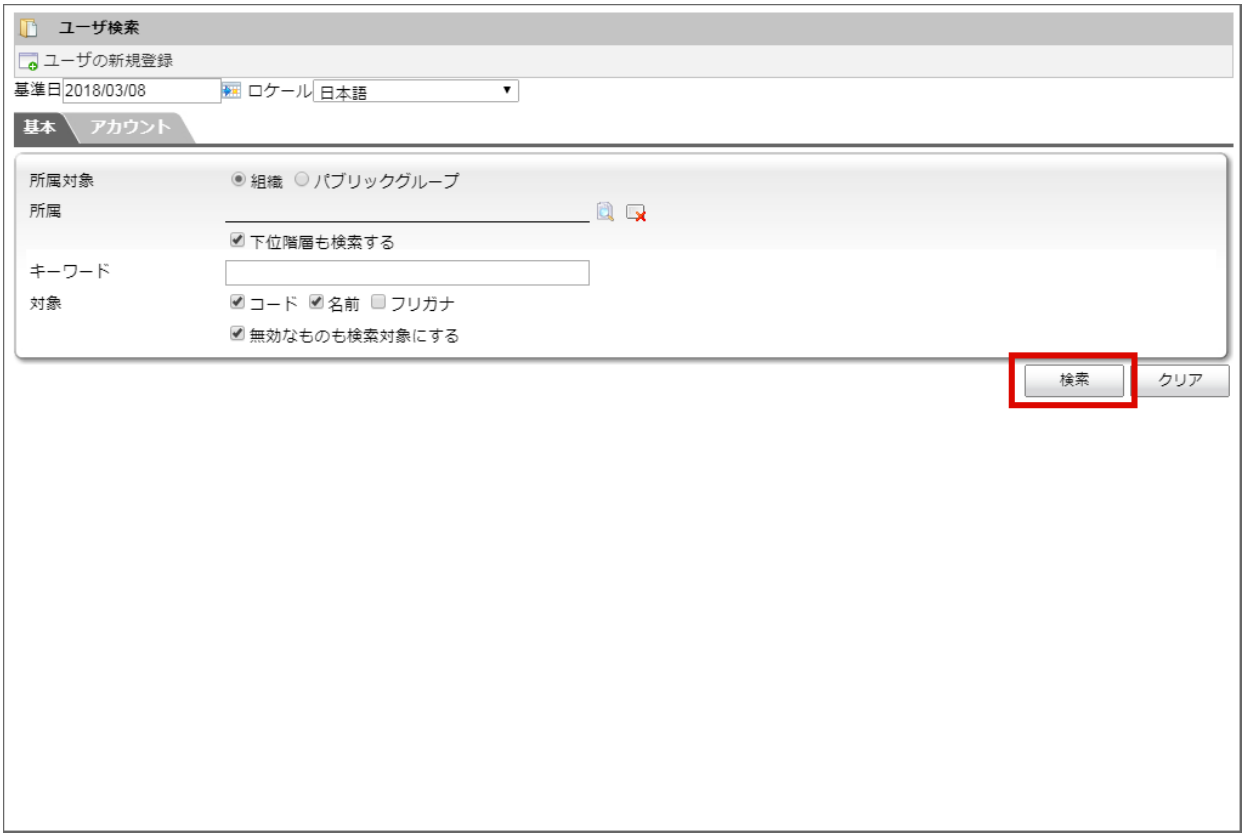
本設定により、多要素認証機能が無効化されます。これに伴い、「サイトマップ」→「個人設定」→「多要素認証設定」から、多要素認証を有効化できなくなります。

すでに多要素認証を有効化しているユーザは、ログイン時に確認コードの入力が求められなくなります。

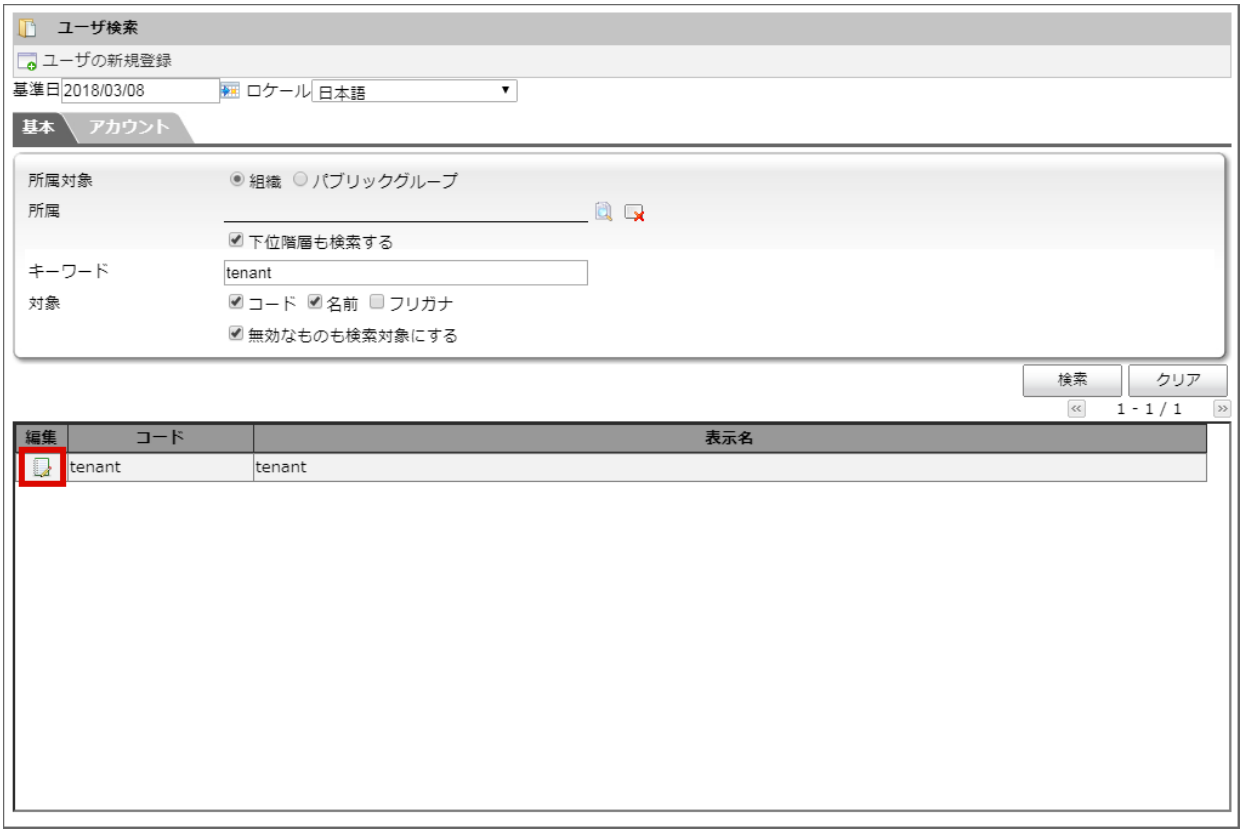
> **注意**
>
> 無効化に伴い、ユーザが既に多要素認証を有効化していた場合、以下の情報が削除されます。
>
> 1. 既に発行しているバックアップコード
> 2. 信頼済みブラウザ情報

特定のユーザを一時的に多要素認証の対象外にする

1. 「サイトマップ」→「共通マスタ」→「マスタメンテナンス」→「ユーザ」をクリックします。
2. 対象外としたいユーザを絞り込む条件を入力して「検索」をクリックします。

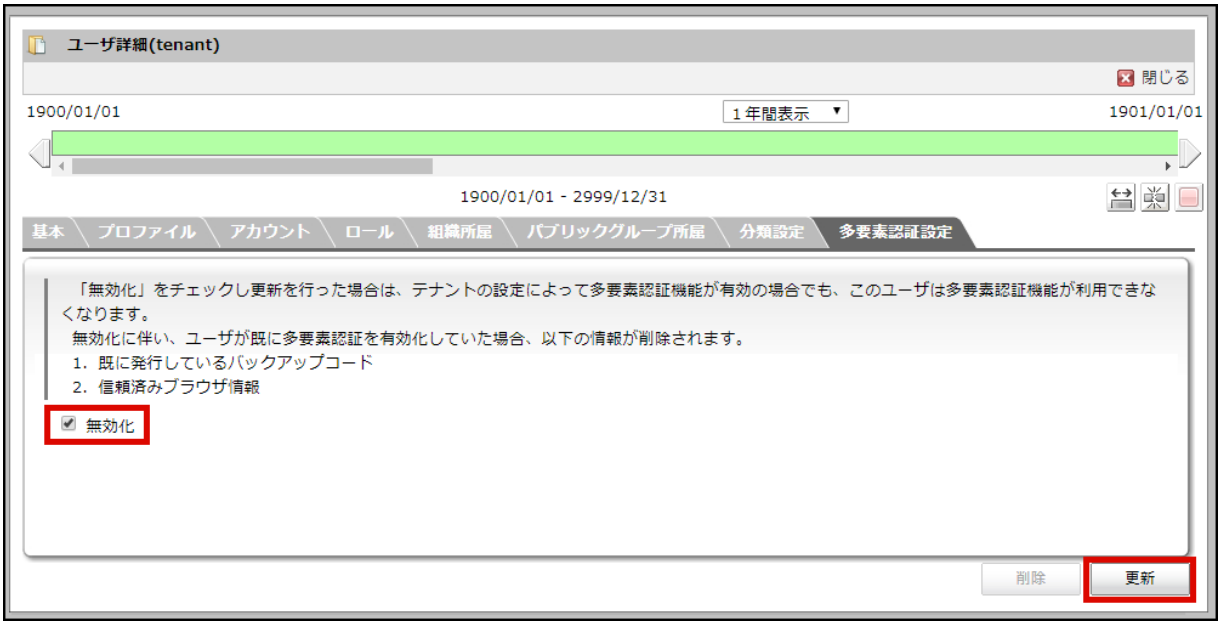


3. 対象外としたいユーザの「編集」をクリックします。

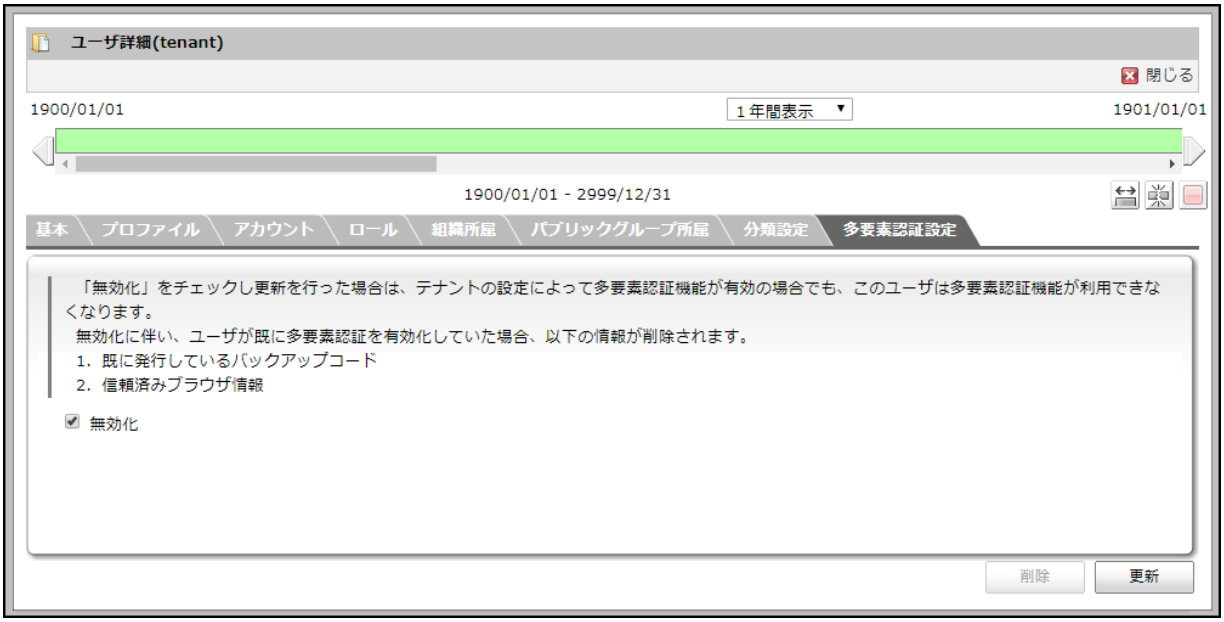


4. 「多要素認証設定」をクリックします。

5. 「無効化」を ON にして「更新」をクリックします。

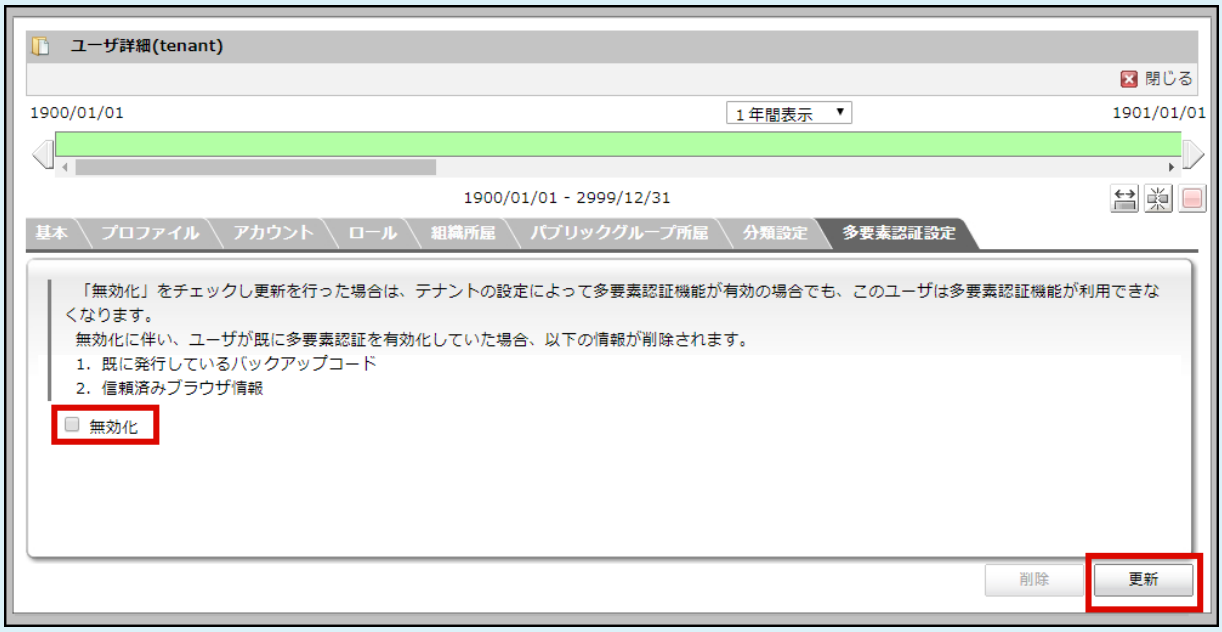


6. 多要素認証対象外にできました。



コラム

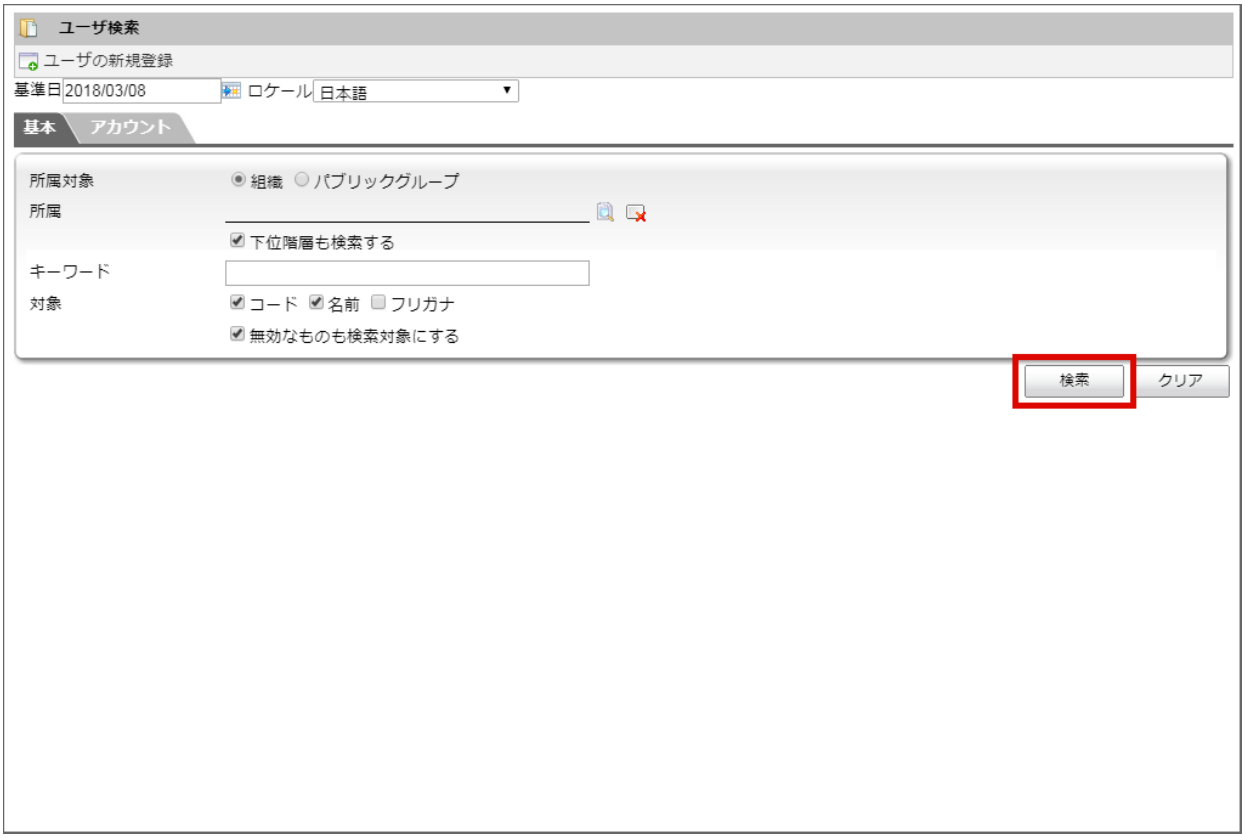
多要素認証対象外とされたユーザは、「多要素認証適用ポリシー」として「強制的に適用」が設定されていたとしても、多要素認証の有効化を求められずにログインできます。
多要素認証対象外とされたユーザは、「無効化」を OFF にして更新することで多要素認証の対象に変更できます。



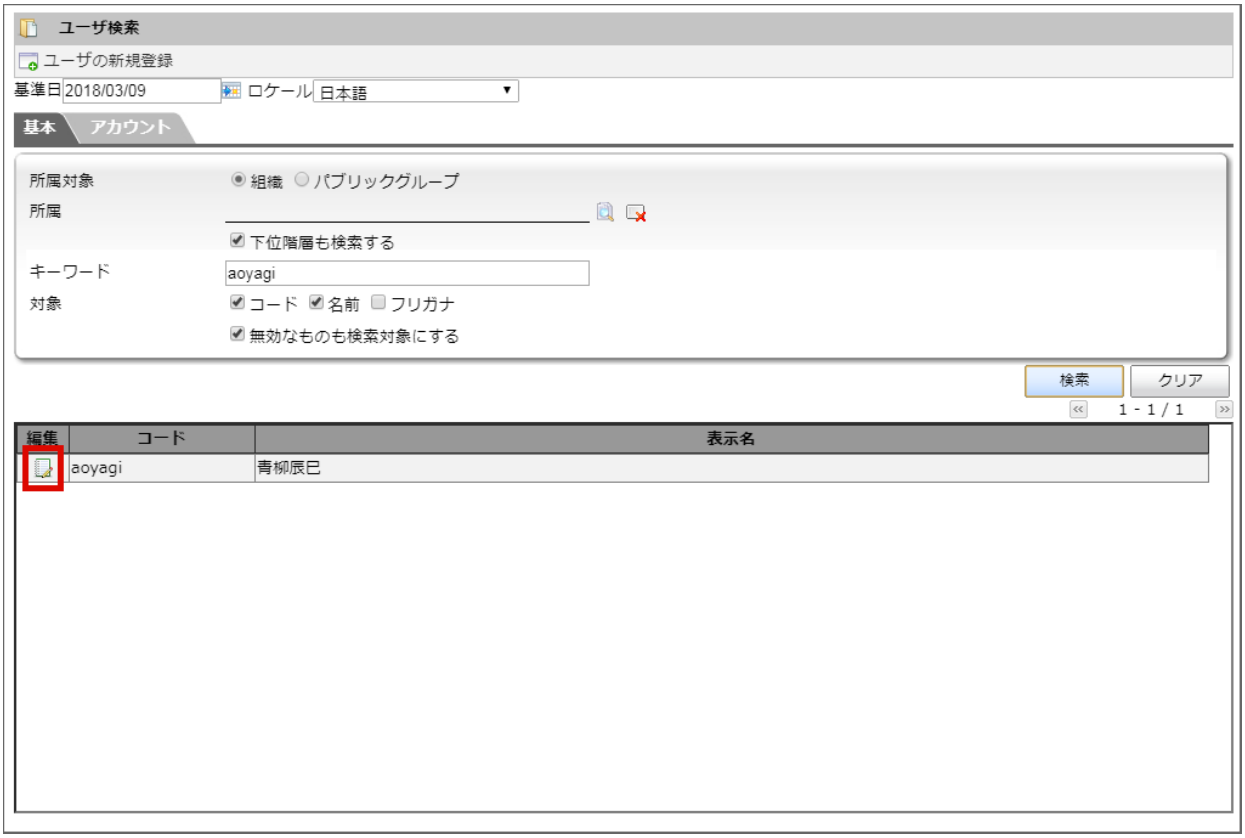
また、ユーザ自身が「サイトマップ」→「個人設定」→「多要素認証設定」から、多要素認証を有効化することで多要素認証の無効化が解除されます。

ユーザの多要素認証を初期化する

1. 「サイトマップ」→「共通マスタ」→「マスタメンテナンス」→「ユーザ」をクリックします。
2. 対象外としたいユーザを絞り込む条件を入力して「検索」をクリックします。



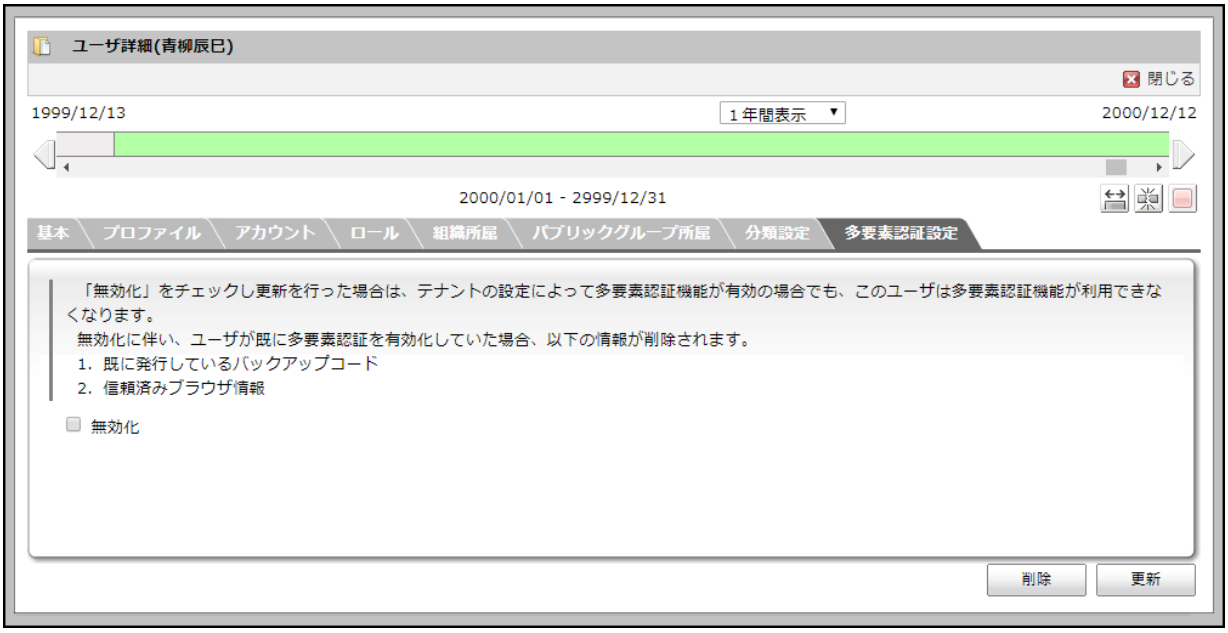
3. 対象外としたいユーザの「編集」をクリックします。



4. 「多要素認証設定」をクリックします。

5. 「初期化」を ON にして「更新」をクリックします。

6. 多要素認証を初期化できました。



コラム

「初期化」チェックボックスは、多要素認証を有効化しているユーザの場合にのみ表示されます。
多要素認証を有効化しているユーザに対して初期化を行うと、多要素認証を有効化していない状態に戻すことができます。
初期化されたユーザは、「サイトマップ」→「個人設定」→「多要素認証設定」から自身で多要素認証を有効化することができます。

注意

初期化を行うと、以下の情報が削除されます。

1. 既に発行しているバックアップコード
2. 信頼済みブラウザ情報